

平成30年度 シラバス

～ 目 次 ～

リハビリテーション学科

教養基礎科目

【人間社会の理解】	心の理解	1
	現代社会の理解	2
	情報処理	3
【コミュニケーション】	外国語1(英会話)	4
	外国語2(韓国語会話)	5
	外国語3(中国語会話)	6
	英文講読	7
	現代語コミュニケーション	8
	人間関係論	9
【心と体の健康】	レクリエーション	10
	健康運動とスポーツ	11
	生物と環境	12
	生命の科学	13
	エネルギーのしくみ	14
【複合教養】	教養演習(PT)	15
	教養演習(OT)	17

専門基礎科目

【人体の仕組み】

解剖学	19
解剖学実習	21
人体触察法実習(PT)	22
人体触察法実習(OT)	24
生理学	25
生理学実習	27
運動学総論	29
運動学Ⅰ(頭頸部・上肢)	30
運動学Ⅱ(体幹・下肢)	31
運動学実習(PT)	32
運動学実習(OT)	33
人間発達学	34

【疾病と障害の構造と管理】

一般臨床医学	35
公衆衛生学	36
臨床心理学	37
内科学	38
整形外科学	39
神経学	41
精神医学	43
小児科学	44
医療安全学・救急医学	45

【リハビリテーションの基本的理念】

リハビリテーション概論	46
リハビリテーション倫理	47
社会福祉学	48
障害支援とアシスタンスドッグ	49
障がい者スポーツ演習	50

専門科目

【基礎理学療法学】

理学療法概論	51
理学療法研究法	53
臨床運動学(PT)	54
運動療法総論	55

【理学療法評価学】

検査測定法	56
検査測定法実習	57
理学療法評価法	58
理学療法評価法実習	59

【理学療法治療学】

中枢神経系障害理学療法治療学	61
中枢神経系障害理学療法治療学実習	63
整形外科系障害理学療法治療学	65
整形外科系障害理学療法治療学実習	67
内部疾患系障害理学療法治療学	69
内部疾患系障害理学療法治療学実習	70
小児疾患系障害理学療法治療学	72
小児疾患系障害理学療法治療学実習	73

老年期障害理学療法学	74
日常生活活動学	75
日常生活活動学実習	76
義肢装具学	77
義肢装具学実習	78
物理療法学	79
物理療法学実習	80
理学療法特論Ⅰ(神経生理学的アプローチ)	81
理学療法特論Ⅱ(関節運動学的アプローチ)	82
理学療法特論Ⅲ(筋生理学的アプローチ)	83
理学療法特論Ⅳ(スポーツ障害理学療法)	84
理学療法特論Ⅴ(吸引・喀痰法)	85

【地域理学療法学】

生活環境論	86
地域理学療法学	87
地域理学療法学実習	88

【基礎作業療法学】

作業療法概論	90
作業療法研究法	91
臨床運動学(OT)	92
基礎作業学	93
基礎作業学実習	94

【作業療法評価学】

作業療法評価法	96
作業療法評価法実習	97
身体障害作業評価学	98
精神障害作業評価学	99
発達障害作業評価学	100

【作業療法治療学】

作業治療学理論	101
作業療法治療学実習	102
身体障害作業治療学Ⅰ	103
身体障害作業治療学Ⅱ	104
身体障害作業治療学実習	105
精神障害作業治療学	106
精神障害作業治療学実習	107

発達障害作業療法学	108
発達障害作業療法学実習	109
老年期作業療法学	110
日常生活作業学Ⅰ	111
日常生活作業学Ⅱ	112
日常生活作業学実習	113
高次脳障害作業治療学	114
義肢装具作業療法学	115
義肢装具作業療法学実習	116
作業科学	117
人間作業モデル論	118

【地域作業療法学】

リハビリテーション関連機器	119
地域作業療法学	120
地域作業療法学実習	121
就労支援学	122

【総合理学療法学・総合作業療法学】

臨床実習Ⅰ(基礎)	123
臨床実習Ⅱ(評価)PT	124
臨床実習Ⅱ(評価)OT	125
臨床実習Ⅲ・Ⅳ(総合1・2)	126
卒業研究	127
総合演習	128

専攻科リハビリテーション科学専攻

【教養科目系】

文学	129
日本文化学	130
経営学	131
教育学概論	132
生涯学習概論	133
法学入門	134
文章力を磨く	135
植物学概論	136
哺乳類の進化概論	137

【基礎科目系】

臨床体表解剖学	138
病態運動・生理学	139
臨床発達障害学	140

【運動機能障害系】

運動器系障害リハビリテーション論	141
内部疾患系障害リハビリテーション論	142
スポーツ障害リハビリテーション論	143

【生活機能障害系】

中枢神経系障害リハビリテーション論	144
地域・老年期リハビリテーション論	145
精神機能系障害リハビリテーション論	146
生活環境リハビリテーション論	147

【リハビリテーション管理】

応用臨床心理学	148
医療福祉行政学	149
医療情報学	150

【リハビリテーション科学研究】

研究法演習	151
リハビリテーション科学研究Ⅰ	152
リハビリテーション科学研究Ⅱ	153

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
心の理解	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 後期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
山田 ゆかり					
授業概要					
人間のこころの働きについて、心理学の立場から講義する。この授業では、人間が環境とのかかわりにおいて営んでいる生活行動の全体、すなわち環境からの刺激を知覚する過程、知覚した情報を処理する過程、それをもとに環境に働きかける過程という一連の過程を視野にいれて、こころの働きについて解説していく。					
授業到達目標					
人間の行動の理解を通して、こころの働きを全体的・力動的に理解できる。また、自分自身のこころの働きについて洞察し、自己理解を深めることができる。					
授業形態					
講義	講義形式で行い、一部演習を取り入れる				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	心をどうとらえるか 知覚成立の基礎	心理学の目的、方法、役割について学修する：配付資料No. 1 人間の知覚の基本的な特徴について学修する：教科書 1章1、2 配付資料No. 1		
2	山田	知覚の体制化とさまざまな特徴	人間の知覚の特徴である体制化と奥行知覚、運動知覚などのさまざまな特徴について学修する：教科書 1章3 配付資料No. 2		
3	山田	知覚の個人差 学習の過程	知覚の個人差に関わる要因について学修する：テキスト1章3 配付資料No. 2 行動の変容過程である学修について理解する：教科書 2章1 配付資料No. 3		
4	山田	学習理論 条件づけ モデリング	学修の基本的なメカニズムとしての条件づけ、モデリングについて学修する ：教科書 2章1 配付資料No. 3		
5	山田	記憶の過程と構造	記憶の3つの過程と、長期記憶に至るまでの構造について学修する ：教科書 2章2 配付資料No. 4		
6	山田	記憶の量的変化・質的变化	時間の経過に伴う記憶の量的変化、質的变化の特徴について学修する ：教科書 2章2、3 配付資料No. 4		
7	山田	感情の分類と機能	基本的感情の分類と行動に働きかける機能について学修する ：教科書 4章1 配付資料No. 5		
8	山田	複雑な感情 ：フラストレーション ストレス	より複雑な感情過程である、フラストレーションやコンフリクト、またこれらと関係の深いストレスの影響過程について学修する：教科書 4章2 配付資料No. 5		
9	山田	行動の個人差 パーソナリティの類型論	行動の個人差の概念としてのパーソナリティを理解し、その特徴をどのように把握するのか学修する：教科書 5章1 配付資料No. 6		
10	山田	パーソナリティの特性論・力動論	パーソナリティの特徴を記述する枠組みについてさらに学修する ：教科書 5章1 配付資料No. 6		
11	山田	パーソナリティの査定	パーソナリティを客観的に査定するための方法について学修する ：教科書 5章2 配付資料No. 7		
12	山田	パーソナリティの異常と障がい	パーソナリティの機能が円滑にいかなくなった状態について学修する ：教科書 5章3 配付資料No. 7		
13	山田	知能の働き 査定	知能についての考え方、査定について学修する：教科書 6章 配付資料No. 8		
14	山田	人間関係の心理 ：対人認知と印象形成	他者についてパーソナリティをはじめとする特性をどのように認知し、印象を形成するのか学修する：教科書 10章1 配付資料No. 9		
15	山田	人間関係の心理 ：対人魅力 まとめ	対人魅力の主な要因について学修する：教科書 10章3 配付資料No. 9 第1週から第15週の学修のまとめとふりかえりを行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
筆記試験 (80%)、小レポート (20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
事前に講義計画に記載されたテキストの該当部分を読んでおく。その上で、毎回の内容に関連して、自分自身どのような心理的体験があるのかを考えてみる。準備学習に必要な時間は、1回あたり30分～60分程度。授業後は、理解できなかったことをしっかり把握し、小レポートの提出時に質問するか、自分で調べて理解するよう心掛ける。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
毎回の小レポートや課題については、次回の授業で評価のコメントをする。試験については、正答率の低かった課題を中心に解説する。					
教科書					
「ベーシック心理学」第2版 二宮克美 (編) 医歯薬出版					
参考図書					
授業のなかで適宜示す					
備考：履修者への要望					
毎回の授業で、講義ノートを兼ねた資料 (プリント) を配布します。授業を聴いて必要事項についてはしっかりノートを作成してください。また、授業にはできるだけ実験等の体験的内容を取り入れます。経験を通して内容の理解を深めるようにして下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
現代社会の理解	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
王 昊凡					
授業概要					
<p>私たち誰もが「社会」のなかに生きており、私たちの日常生活はすべて「社会」のなかで営まれています。しかし「社会」は複雑なうえに目に見えにくく、しかも常に変わるので、その実態をとらえることは簡単ではありません。本講義では、家の中やコンビニ、スーパーマーケットや飲食店で出会いそうな「食べもの」や「食べること」を出発点に、「社会」を理解するための様々なツールとしてのキーワードを習得します。さらに、時事問題を積極的に取り上げ、同時代的な「社会」の変化についてともに考えていきます。</p>					
授業到達目標					
<p>①「社会」を理解するためのツールとして、社会学の基礎知識を理解する。 ②「社会」で起こっているさまざまなできごとに対し、社会学の視点から説明できる。 ③「社会」で起こっているさまざまなできごとに対し、自分なりの考えをもつことができる。</p>					
授業形態					
講義	毎回、講義の内容と関連したコメントシートを、受講生のみなさんに書いていただきます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	王	イントロダクション：「食」で学ぶ社会学入門	「社会」のさまざまな姿を示しつつ、社会学の学問的特徴について学ぶ。		
2	王	都市の社会学	「なぜ大都市にはフードジュエリックな飲食店がたくさんあるのか？」という疑問を契機に、都市化や都市問題の解決、現代的な都市のありかたの一例としてのクリエイティブシティについて考える。		
3	王	家族の社会学	「なぜお母さんはよく〈何食べたいの？〉と聞くのか？」という疑問を契機に、近代家族の成立と変容、家事労働やワークライフバランスについて考える。		
4	王	消費の社会学	「なぜビックリマンチョコのシールが昔のニュースを賑わせたのか？」という疑問を契機に、消費社会がどのような特徴をもっているかについて学ぶ。		
5	王	労働の社会学	「牛丼チェーン店でバイトをすること」の例を出発点に、日本や海外での多様な働き方について学び、これからの「はたらく」について考える。		
6	王	ジェンダーの社会学	「なぜわたしたちは、かわいいケーキ屋さんに男性がひとりで居ると、気になってしまうのか？」という疑問を出発点に、社会の中の「性」について議論する。		
7	王	移民の社会学	「なぜ日本で〈中国にはない中華料理〉が売られているのか？」を出発点に、国境を超えて移動し暮らしていく可能性を考えつつ、現代社会のなかで生きることについて思索する。		
8	王	まとめ・試験	前半に講義全体のまとめを行い、後半に試験を実施。		
成績評価の方法・基準（100％）					
筆記試験	参加貢献度				
70	30				
筆記試験(70%)、コメントシートおよび授業への参加貢献度(30%)をもって判断します。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>①毎日10分程度、テレビやインターネット、新聞などでニュースに触れてください。そのさい、社会で起こっている出来事について、講義で学んだキーワードで分析を試みてください。 ②講義では毎回、コメントシートで記述問題に答えていただきます。講義終了後、まわりの受講生と記述問題について話し合ったり、インターネットや新聞・雑誌・書籍等で関連する事柄について調査を行い、自らの答えを振り返ってください。（30分程度）</p>					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の授業では、復習も兼ねて前回のコメントシートについて取り上げます。					
教科書					
特にありません。					
参考図書					
参考文献は講義中に紹介します。					
備考：履修者への要望					
講義資料は教員の個人ウェブサイトでダウンロードできますので、必要に応じて活用してください。 https://sites.google.com/site/wanghaofansushi/					

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
情報処理		理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
斎藤 末広						
授業概要						
<p>現代人として身に付けておくべき情報リテラシー、および、医療に携わる者として知っておくべきデータに関する事柄を、PCを用いた演習を中心に習得する。</p> <p>具体的には、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPoint を扱う実習を行う。情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、医療に携わる者としてのネットワーク社会でのルールやモラルを理解する。</p>						
授業到達目標						
PCを道具として使える用意するため、タッチタイピングを身につける。学習等で、ワープロ、表計算、のソフトが有効に利用できるようにする。						
授業形態						
講義	教科書に沿って、PCを利用する演習形式の授業。					
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
	2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心をもつる。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	斎藤	オリエンテーション	パソコン室の教示システムを説明する ネットワーク、SNS利用時の注意点、および、タッチタイプでの文字入力方法を学ぶ ：教科書 序章			
2	斎藤	ワープロ文書作成	MS-Wordにて、行や段落指定、フォントの変更等の基本機能を演習する ：教科書 2章			
3	斎藤	オブジェクトの利用	画像や図形等のオブジェクトが入った文書を作成し、画像や図形をMS-Word上で加工する ：教科書 2章			
4	斎藤	表計算ソフトの利用	表計算ソフトMS-Excelで基本的な表を作成する ：教科書 3章			
5	斎藤	表の作成	MS-Excelを用い、関数を利用して計算する表を作成するとともに、表の体裁を整える ：教科書 3章			
6	斎藤	表計算の各機能	表計算ソフトのさらに高度な関数や計算式を使う 絶対参照、相対参照を用いた表を作成する ：教科書 3章			
7	斎藤	プレゼンテーションの利用	表のデータに基づきグラフを作成する ：教科書 4章 MS-PowerPoint 用いて、スライド作成を行う			
8	斎藤	講義と試験	筆記試験、医療現場における IT 化に対する自分の考えを論述する。			
成績評価の方法・基準 (100%)						
実技試験	筆記試験					
80	20					
2回のPCを使った実技試験の得点で成績を評価する(80%)。レポートおよびタッチタイプ練習記録の提出状況に応じて加点する(20%)。						
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業の空き時間や自宅にて、タッチタイプの習得に取り組んでください。10日間、15分キーボード練習、正しい方法で訓練すること。習った技術を積極的に日々の学習等に利用すること。						
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法						
課題には、教科書のとおりによれば十分。手で操作を覚えることを意識してください。疑問点のみ個別対応。						
教科書						
「30時間アカデミック情報リテラシー Office2010」 実教出版						
参考図書						
必要に応じて授業内で紹介する。						
備考：履修者への要望						
これまで利用してきた物で構わないので、USBメモリを毎時間持参してください。大学生活や私生活の中で、ぜひとも情報機器を有効に活用してください。						

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語1 (英会話)	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
ジェームス・比嘉					
授業概要					
This is a speaking course designed to help the students feel comfortable using the English that they know and have learned in various health-related and communicative situations. The students will be required to demonstrate their ability to ask and answer questions, and to interact naturally with their classmates, as well as their teacher. In addition to, participating in all the class activities, the students will be expected to work on improving their English skills.					
授業到達目標					
Upon successful completion of this course, students will able to: ① ask and answer basic questions in English. ② use and understand the vocabulary that they have learned in class. ③ engage themselves in short conversations.					
授業形態					
講義	Group work				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="checkbox"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="checkbox"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	ジェームス	orientation / self-introduction	review course outline: expectations and homework / talk about self		
2	ジェームス	friends / classmates / doctor: hospital	introduce classmates / use expressions		
3	ジェームス	family / illness: headache, cough, cold, virus	label family members / use expressions		
4	ジェームス	body parts / body: muscle	identify body parts by name/ use expressions		
5	ジェームス	hobbies / sports / medicine: pills	things you like to do / play / use expressions		
6	ジェームス	time / schedule / blood	making appointments / planning / use expressions		
7	ジェームス	group presentation	final 3 minute group presentation		
8	ジェームス	FINAL ASSESSMENT	written assessment		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	課題	参加貢献度		
30	50	10	10		
Course grading will be based on class participation (10%) weekly quiz (50%) final test (30%) and group presentation (10%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
Students will need to collect pictures or make drawings of various topics to be put into their A4 size notebooks. Students will use the pictures or drawings in class, as part of their weekly assignment. *If the student does not complete the homework assignment, he/she will not be able to participate in class.					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
Students will need to prepare for one group presentation and prepare for the weekly vocabulary quiz. Students can expect to spend 60 minutes a week preparing for these assignments.					
教科書					
Printed material will be provided by the instructor.					
参考図書					
none					
備考: 履修者への要望					
Please come to class with a positive attitude and be willing to participate using only English. All class instructions will be done in English. Please have an A4 size notebook for assignments and homework.					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語2 (韓国語会話)	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 前期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
金 春子					
授業概要					
韓国語を表記する文字ハングル (偉大な文字) は、1443年朝鮮王朝4代目の世宗大王が、庶民のために学者を集めて創らせた文字である。ハングル文字は子音と母音を組み合わせることができる文字である。韓国語の語順は日本語とほぼ同じで、日本人が学びやすい言語である。					
授業到達目標					
ハングルを読む。基本文型を学ぶ、簡単な挨拶ややさしい会話ができる。					
授業形態					
講義	講義形式、会話は二人ずつです。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として行動できる。				
	2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 新の知識や医療技術を得るための努力を怠らない。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金	基礎第1課、2課、3課	ハングル：母音、子音を学ぶ、 会話：あいさつ		
2	金	基礎第4課、5課	ハングル：複合母音、パッチムを学ぶ		
3	金	基礎第6課	ハングル：発音の変化		
4	金	第1課 私は浅井ゆかりです。 第2課 出身はソウルですか？	ハングルを読む練習と会話		
5	金	第3課 図書館ではありません。 第4課 時間がありますか。	ハングルを読む練習と会話		
6	金	第5課 何をしますか。 第6課 貿易会社で働いています。	ハングルを読む練習と会話		
7	金	第7課 服を買います。	ハングルを読む練習と会話		
8	金	講義と試験	習ったことを復習、試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	課題			
70	20	10			
筆記試験 (70%)、授業中の参加貢献度 (30%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
学んだところを復習し、ハングルを覚える。(1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テスト終了後、解説します。筆記試験は、回答を後日掲示します。					
教科書					
基礎から学ぶ「韓国語講座」初級 改訂版、 著者：木内明					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
休まず講義に出席する、休むと授業についていけなくなる。講義中は私語を慎む。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
外国語3 (中国語会話)	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 前期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
侯 英梅					
授業概要					
まずは中国語の発音練習に取り組みます。その後、テキストの会話文を通じて、基礎文法と基礎語彙を習得します。授業では、発音練習、文法解説、作文練習、会話練習を行います。 発音を終え文法学習と日常会話に入ってから、原則として毎回授業内で口頭試験を実施します。					
授業到達目標					
ピンイン (中国語発音を表記する記号のこと) が読め、挨拶言葉、基礎的な日常会話を習得し、基礎的な文法を理解し、簡単な意思疎通ができることを目標とします。					
授業形態					
講義	ロールプレイング				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	侯	発音	母音、子音、声調		
2	侯	你好	肯定文、否定文、疑問文		
3	侯	我是日本人	「是」の使い方		
4	侯	厕所在哪里	「在」と「有」の使い分け		
5	侯	多少钱	形容詞述語文、数の数え方		
6	侯	现在几点	年、月、日、曜日、時間の表現		
7	侯	我想去中国	動詞述語文、助動詞の使い方		
8	侯	まとめと試験	1～7課の内容復習、試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	口頭試験				
70	30				
筆記試験 (70%)、授業内での口頭試験 (30%) (2回目の授業から毎回あります)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
週に30分の復習をしっかりと行ってください。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストなどをやった場合は講義の中で、後日返却します。					
教科書					
特になし					
参考図書					
講義の中で示します。					
備考：履修者への要望					
発音が難しいので、授業の中で大きな声を出して積極的に練習してください。分かりやすく授業を行うので、楽しく覚えていただくことを期待しています。					

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
英文講読		理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 前期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
丹羽 重信						
授業概要						
専門的な研究や臨床場面では、医学論文を読む機会が多くなるが、そのための基本となる文法・語法の知識を応用し、一般的な英文の読解能力を身につけることを目的としている。英字新聞、学術雑誌などを題材にして幅広く英文読解への関心を高める。						
授業到達目標						
①英文の特徴を知り、正しい理解ができるように訓練する。 ②医療分野で用いられる英語の基礎的な部分を学習し、将来に備える。 ③時事英語を通して世界と日本の関わりを考える。						
授業形態						
講義	毎回小テストを行い、解説講義を行う。英字新聞・論文を読み、話し合う。					
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。						
2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。						
3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。						
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	丹羽	オリエンテーション	グローバル化の時代における英語の重要性と学習法について考える。			
2	丹羽	基本6文型	述語動詞を中心とする英文の基本構造と品詞との関係について確認する。			
3	丹羽	時制と法および相	英語話者がいつも意識している時間軸と述語動詞の形との対応について整理する。			
4	丹羽	準動詞	動詞を、述語動詞としてではなく、準動詞として他の品詞で用いる意味を考える。			
5	丹羽	接続詞	文と文をつなぎ、重文や複文を作るいろいろな接続詞の働きについて整理する。			
6	丹羽	関係詞	接続詞と代名詞・副詞の働きを兼ねる関係代名詞・関係副詞を使い分ける。			
7	丹羽	比較と否定	形容詞や副詞の原級・比較級・最上級と、否定表現とのいろいろな組合せを見てみる。			
8	丹羽	まとめと試験	全分野の復習テストとその解説を通し、自分の弱点分野を見つけ出す。			
成績評価の方法・基準 (100%)						
筆記試験	小テスト	参加貢献度				
20	40	40				
毎回行う小テスト・授業中の参加貢献度・最終講義の試験結果を上記の割合で評価する。						
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
上記の授業計画を参考に、これまで使ってきた英文法の参考書を取り出し、該当事項を30分ぐらいかけて今一度読み直してみよう。また、授業後は文法事項のどこが身につけていなかったかを、同じく30分ぐらいで復習しよう。						
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法						
最終試験および小テストについては各回の講義中に解答解説する。小テストは自己採点とするが、最終試験は講師が採点し、結果を報告する。						
教科書						
毎回プリントを使用する。						
参考図書						
手持ちの英文法の参考書、および英和辞典・和英辞典 (電子辞書も可)						
備考: 履修者への要望						
英語の学習に王道はない。焦らず、あきらめず、コツコツと続ける以外に方法はない。時間はかかるが、誰でも上達できるものである。このことを頭に入れて、日頃から読む・聞く・話す・書くことに努めたい。						

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
現代語コミュニケーション	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 前期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
丹羽 重信					
授業概要					
現代社会におけるコミュニケーションの有り様は実に多彩であり、コンピューターやスマホの普及によって従来にはなかったネットワーク構築が加速しつつある。この講座では「現代語」を広く捉え、日本人の使うコミュニケーション手段の中核としての現代日本語のみならず、それに強い影響を及ぼしている英語表現、さらには唯一の世界共通言語とも言える数学表現をも視野に入れて、将来の研究活動や医療業務に活かせる表現能力を考える。					
授業到達目標					
①日本語の常識を今一度確認し、高齢者と意思疎通できるようにする。 ②情報を整理し、文章化する手順を研究する。 ③代表的な科学論文に触れ、その研究者について知る。					
授業形態					
講義	プリントを使用してすすめる講義				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	丹羽	オリエンテーション	先ずこの講義での「現代語」とは何かを理解する。次に自己紹介文を書いてみる。		
2	丹羽	インタビュー	インタビューを通して情報を聞き出し、他者紹介文を書いてみる。		
3	丹羽	日本語と敬語	日本語の敬語の仕組みが持つ複雑さを知り、その役割について考える。		
4	丹羽	メンデルの生涯	エンドウ豆の実験を行い「遺伝学の父」と呼ばれることになるメンデルの生涯について知る。		
5	丹羽	メンデルの論文	『雑種植物の研究』を読み、150年前に書かれた論文の革新性を理解する。		
6	丹羽	マリー・キュリーの生涯	ポーランドに生まれ、女性科学者をめざすことが当時のヨーロッパでどのような意味を持っていたかを学ぶ。		
7	丹羽	アインシュタインの生涯	『相対性理論』を生んだ自由な精神はどのように育まれたのかを考える。		
8	丹羽	講義と試験	講義全体の復習		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
20	40	40			
毎回の小レポートと授業への参加貢献度、および筆記試験の結果を総合的に評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
ウィキペディアなどで上記の科学者について調べてみる。テレビや新聞のニュースで、世の中の動きをフォローする。人々の話し言葉にも注意を払う。30分ぐらい復習しよう。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小レポートの中で特に注意を引いたものについて講義中に随時コメントする。試験については最終結果を報告する。					
教科書					
毎回プリントを用意する。					
参考図書					
「メンデル 雑種植物の研究」 岩槻邦男・須原準平 訳 岩波文庫 「アインシュタイン 相対性理論」 内山龍雄 訳・解説 岩波文庫					
備考：履修者への要望					
英字新聞を読むので、英和辞典を持参する。電子辞書でも紙の辞書でもよい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間関係論	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
金子 幾之輔					
授業概要					
本授業では、対象者との良好な人間関係を形成したり、職場（施設・病院等）における人間関係を円滑化したりするために、社会人として、医療に携わる者として、或いは個人として、どのように行動すればよいのかについて客観的、科学的に考察する。具体的には、日常生活上の事例を検討するなどして人間関係に関する基礎的な理論を把握するとともに、体験学習やグループワーク等を通じ援助的人間関係において必要な基本的態度やコミュニケーション技法に関する知識・技能について学修する。					
授業到達目標					
①人間関係に関する基礎的な理論を理解する。 ②援助的人間関係において必要な基本的態度について説明することができる。 ③援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法について説明することができる。					
授業形態					
講義	自作の資料に基づいて平易に解説するとともに、体験学習やグループワークも導入する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	金子	オリエンテーション	本授業の目的、到達目標、授業計画等について学修する。		
2	金子	1. 人間関係の基礎的な理論	(1) 人間関係の定義、人間関係に関する問題の社会的背景、好ましい人間関係について学修する。		
3	金子		(2) 人間関係の要因、(3) 人間関係の場面について学修する。		
4	金子	2. 援助的人間関係において必要な基本的態度	態度の定義、個人的態度の捉え方（心理検査の体験学習）、援助的態度等について学修する。		
5	金子		援助者に望まれる6つの態度（無防衛、共感、受容、熱意、間、距離）についてグループワーク等を通じ学修する。		
6	金子	3. 援助的人間関係において必要なコミュニケーション技法	前述の6つの態度を実現するためのコミュニケーション技法の基礎である(1) 促しの技法、(2) 繰り返しの技法についてグループワーク等を通じ学修する。		
7	金子		同様に(3) 要約の技法、(4) 解釈の技法、(5) 共感の技法、(6) 保証の技法、(7) 沈黙の技法、(8) 明確化の技法、(9) 質問の技法、(10) 対決の技法について学修する。		
8	金子	まとめと試験	これまでの授業のリフレクション（振り返り）と科目試験（筆記）を行う。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	参加貢献度				
80	20				
体験学習やグループワークへの取り組み姿勢(20%)と筆記試験(80%)を総合して評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
「人間関係学に関する専門用語や理論を理解するために心理学辞典および社会心理学の参考文献を読む（2時間程度）」。「援助的人間関係において必要な基本的態度やコミュニケーション技法を身につけるために実習場面等の大学生活の中でも積極的にその技法を実践したりするように努める（2時間程度）」。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
定期試験終了後に、解答のポイントを記述したプリントを配布する。					
教科書					
授業に必要な自作の資料を配布する。					
参考図書					
講義の中で適宜紹介する。					
備考：履修者への要望					
体験学習やグループワークを行う際には、単独およびグループで発表する機会をできる限り多く設けるので、積極的なプレゼンテーションを期待する。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
レクリエーション	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	選択	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
<p>心の健康に必要な要素として、「あそび」の知識や体験が重要になってくる。レクリエーションの概念は、この「あそび」が重要な一要素であり、その基本的な知識や実践方法を体験することによってその有効性を学ぶ。レクリエーション治療・援助を実践する際の基本的な考え方に従い、治療・援助に必要な技術やレクリエーション固有の治療・援助技術の実践を踏まえて、その理論を展開させる。</p> <p>基本的なレクリエーション概論を知り、体験を通して、医療・福祉の場におけるレクリエーション治療（援助）のあり方、治療的レクリエーションの計画・作成法、治療的レクリエーション活動の実践治療（援助）技術を習得する。</p>					
授業到達目標					
<p>①レクリエーション指導者として、自らレクリエーションプログラムを作成し、実践することができる。</p> <p>②レクリエーションを受ける立場の気持ちを体験し、レクリエーションを受ける人の気持ちがわかるようにする。</p> <p>③グループで協力して計画を立てられるようにする。</p>					
授業形態					
実習	グループワークによるアクティブ・ラーニングにて講義を進める。ただし、一部講義形式をとる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション 紹介ゲーム	授業の内容および進行について説明する。グループで自己紹介ゲームを行う。		
2	加藤	レクリエーションの概論	レクリエーションの考え方やリハビリテーションとの関連性について学ぶ。		
3	加藤	レクリエーションの計画の立案	レクリエーションの計画の立て方について学ぶ。		
4	加藤	レクリエーションの計画立案 (屋内)	集団レクリエーション（屋内）を計画し、計画書を作成する。		
5	加藤	集団レクリエーション実践 (屋内)	40分間の集団レクリエーションを実践し、報告書を作成する。		
6	加藤				
7	加藤				
8	加藤	レクリエーションの計画立案 (屋外)	グループでのレクリエーションを計画し、計画書を作成する。		
9	加藤	レクリエーションの実践 (屋外)	グループ毎に半日単位でレクリエーションを実践する。		
10	加藤				
11	加藤	レクリエーション（屋外） 実践報告まとめ	レクリエーション（屋外）報告のためにパワーポイントでスライドを作成する。		
12	加藤				
13	加藤	レクリエーション（屋外） 実践報告会	グループごとに屋外レクリエーションの報告を行う。		
14	加藤				
15	加藤				
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	発表				
60	40				
提出物（レポート60%）、発表（40%）の割合で、ルーブリックを用いて評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
レクリエーション実施に当たっての準備や練習（1時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポート（計画書・報告書）は、グループごとに口頭でフィードバックする。また、ルーブリックで採点する。発表内容は、授業内に受講生同士でルーブリック評価を行う。					
教科書					
「レクリエーション—社会参加を促す治療的レクリエーション」 寺山 久美子、中村 春基、宮崎 明美、三輪書店					
参考図書					
必要に応じて授業内で紹介する。					
備考：履修者への要望					
実習を行うため定員は50名とする。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
健康運動とスポーツ	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	選択	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
理学療法士や作業療法士の主たる任務の一つとして疾病や障害の予防（健康増進）があるが、その手段の一つとして様々な運動やスポーツが用いられている。いわゆる生活習慣病やスポーツ外傷の予防のためには、運動をすることによる生理的効果を理解し、適切な運動を選択、実践できる能力が大切である。この講義を通して、健康増進のための運動やスポーツについての理解を深め、実践できる能力を身に付ける。					
授業到達目標					
①以下の事項について理解し、説明することができる ・健康、体力についての概念 ・生活習慣病とその影響 ・運動（スポーツ）の生理的な効果 ・運動（スポーツ）と栄養 ・運動（スポーツ）とメンタルヘルス ・運動（スポーツ）の安全管理 ・運動（スポーツ）と発育、発達、老化 ②以下の事項について実践、検証することができる ・体力テスト ・健康、体力づくりのための運動 ・運動（スポーツ）の安全管理、基本的応急処置					
授業形態					
実習	教科書、資料を用いた講義と実習を行う。また、グループ毎に目標を設定した、アクティブ・ラーニングを用いた健康運動の実技を開講期間を通して実施する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	健康とスポーツ	・導入（この講義で何を学ぶか？） ・健康の定義、体力、生活習慣病、介護予防、肥満と痩せなど健康に関する事項について（講義）		
2	鳥居	健康とスポーツ	・グループ分けとグループワークについてガイダンス		
3	鳥居	体力テスト 身体測定 簡易姿勢分析	・体力測定、身体計測、簡易姿勢分析（実技）		
4	鳥居	体力テスト 身体測定 簡易姿勢分析			
5	鳥居	スポーツ生理	・運動（スポーツ）が体にもたらす影響を解剖生理学的、運動学的に学ぶ		
6	鳥居	スポーツ生理			
7	鳥居	健康運動の実際	・ストレッチングに理論と実際（実技）		
8	鳥居	健康運動の実際	・筋力強化の理論と実際（実技）		
9	鳥居	健康運動の実際	・有酸素運動の実際（実技）		
10	鳥居	健康運動の実際	・歩き方の検証と実践（実技）		
11	鳥居	スポーツと栄養	・運動（スポーツ）とメンタルヘルスの関連を学ぶ		
12	鳥居	スポーツと栄養	・運動（スポーツ）と栄養の関連を学ぶ		
13	鳥居	健康にかかわる諸問題	・スポーツに伴う怪我と応急処置について学ぶ		
14	鳥居	健康にかかわる諸問題	・健康にかかわる社会的問題について学ぶ		
15	鳥居	まとめ	・まとめとふりかえりを行う		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート				
80	20				
筆記試験（80%）、グループおよび個人レポート課題（20%）、受講態度不良の場合は減点する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自らの健康状態を把握し、講義で学んだ事項を実践する。グループワークとして、講義時間外での健康運動の実践を行い、その結果を検証する。かかる事項について不明なものについて調査、自己学習する。なお、1回の講義について1時間程度予習復習を行うこと。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
授業時に説明する。					
教科書					
「健康とスポーツを科学する」第2版 長尾光城監修 中央法規					
参考図書					
講義内で提示する。					
備考：履修者への要望					
単に知識の習得に留まることなく、実際に健康づくりのための運動（スポーツを指導説明できるように）、積極的な参加を期待しています。実技を行いますので、運動可能な服装、上履きを用意して下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生物と環境	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
石黒 茂					
授業概要					
地球上に誕生した生物は、環境との相互作用で多様な生物に進化し、それらは互いに関連し合って生態系を構築している。私たちヒトがどのように環境に適応し生活しているかを学ぶとともに、私たちの生活が生態系のバランスと生物の多様性によって支えられていることに気付き、その恵みを持続させることの重要性を学ぶ。また、生物の多様性や生態系のバランスを保全し、地球の環境を維持するといった視点をもって環境問題を考える。					
授業到達目標					
①地球上には多様な生物が生存し、生態系内で生物群集として互いに関連し合い、共存して生きている。その成り立ちと仕組みについて説明することができる。 ②ヒトがどのように環境からの刺激を受け取り、応答し、環境に適応して生活しているかについて説明することができる。 ③生態系のバランスと生物多様性の保持の重要性を認識し、持続可能な社会の実現に向かって主体的に考え、判断し、行動しようとするすることができる。					
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用いた講義に、グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングを交えたアクティブ・ラーニング型講義を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	地球上の生命	生命の起源とその歴史、生物と環境のかかわりについて学修する。		
2	石黒	地球の環境を知る－生態系－	生態系とニッチなどについて学修する。		
3	石黒	地球の環境を知る－食物連鎖－	食物連鎖による物質とエネルギーの流れなどについて学修する。		
4	石黒	人体の環境応答	人体の外界からの刺激への応答、環境への適応などについて学修する。		
5	石黒	講義のまとめ	今までの講義内容を用い、身近なトピックについて科学的・総合的に考える。		
6	石黒	地球環境問題について知る、考える	オゾン層の破壊、大気汚染、酸性雨、地球温暖化、水質汚染、森林破壊、乾燥化・砂漠化、都市化、エネルギーの大量消費、再生可能エネルギーなど地球環境問題の今日的課題について資料を読み、グループ・ディスカッションを行い、意見を発表する。		
7	石黒	地球環境問題について考えを広める			
8	石黒	地球環境を守る試験	地球環境を守るという視点で、自分たちにできることとは何かを考える。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度			
50	30	20			
講義への参加・貢献(学習意欲・講義への参加・発表態度) (20%)、ポートフォリオ (30%)、筆記試験 (50%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。(約30分～1時間) (復習) 授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。(約30分～1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。全体に対して話すべきことは次の授業でフィードバックする。					
教科書					
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。					
参考図書					
参考文献は講義の中で紹介する。					
備考：履修者への要望					
今までに学んだ生物の知識を深め、新たな見方・考え方を身に付け、身近な自然や新聞等の記事にも関心をもってもらいたい。そして、間違った情報に流されず、正しく科学的に考え判断し、持続可能な社会の実現のため、主体的に行動できるようになってもらいたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生命の科学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
石黒 茂					
授業概要					
<p>私たち生物はDNAを遺伝子の本体とし、40億年近く前に誕生した生命体から延々とそれを受け継いできている。近年の急速に進歩した生命科学は生命・生物に対して新しい知見や見方を示し、生命に対する考え方を変えています。本講義では、高等学校で学んだ生物学の知識に基づき、主にヒトに関わることを中心に生命現象について学修を進めます。学んだことが専門科目への橋渡しとなり、将来に役立つ科学的なものの見方ができるようになってくれることを期待します。</p>					
授業到達目標					
<p>①生物や生命現象について、生命科学の基本的な概念や原理・法則を使って説明することができる。 ②身の回りの生物や生命現象に関わる事項について、興味・関心を持ち、自ら課題をもって学ぶことができる。 ③身の回りの生物や生命現象に関する事柄・トピックに、科学的な思考や判断で対処できる。</p>					
授業形態					
講義	配布資料とスライドを用いた講義に、グループワークによるアクティブ・ラーニングを交えたアクティブ・ラーニング型講義を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	生命とは何かについて考える	資料を読み、自分の考えを明確にした上で、生命とは何かについてグループ・ディスカッションを行う。		
2	石黒	生命とは何かについて学ぶ	生命の特徴、起源、生命の基本単位・細胞について学修する。		
3	石黒	生命をつくる物質（物質の化学的基礎、水、タンパク質）	生命をつくる物質の化学的基礎、その性質と役割について学修する。		
4	石黒	生命をつくる物質（核酸、ATP、糖、脂質など）	生命をつくる物質の性質と役割について学修する。		
5	石黒	細胞	生命の基本単位である細胞の大きさ、構造、機能について学修する。		
6	石黒	細胞内の物質移動、細胞の膜輸送	細胞内での物質の移動、細胞の膜の構造とその機能、能動輸送と受動輸送について学修する。		
7	石黒	細胞の増殖と分化	細胞分裂、細胞の分化、組織、器官について学修する。		
8	石黒	代謝	物質交代とエネルギー交代、酵素の働きについて学修する。		
9	石黒	生命活動とエネルギー	エネルギーと運動、生命活動に必要なエネルギーについて学修する。		
10	石黒	筋肉と運動 前半のまとめ	筋肉運動の仕組みについて学修する。 今までの授業の振り返り活動を行う。		
11	石黒	消化系と呼吸系	生命活動に必要な物質の吸収とガス交換について学修する。		
12	石黒	循環系	動物における体内輸送、排泄と体内の浸透圧調節について学修する。		
13	石黒	神経系と内分泌系	中枢神経と末梢神経、ホルモンのはたらきについて学修する。		
14	石黒	ホメオスタシス	神経系とホルモンによる内部環境の調節について学修する。		
15	石黒	現代の生命科学・まとめ	生命科学の今日的话题について学修するとともに、講義全体をとおして自らの学びを振り返る。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度			
50	30	20			
授業への参加・貢献（学習意欲・授業への参加・発表態度）（20%）、ポートフォリオ（30%）、筆記試験（50%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間） （復習）授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）</p>					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。全体に対して話すべきことは次の授業でフィードバックする。					
教科書					
使用しない。授業用のプリント（資料）を使用する。					
参考図書					
高等学校で使っていた生物図説（図録）等、他は講義の中で紹介する。					
備考：履修者への要望					
高等学校までに学んだ生物の知識を深め、新たな見方・考え方を身に付け、間違った情報に流されず、正しく科学的な判断ができるようになってもらいたい。そのためには、身近な自然や新聞等の記事にも関心をもち、生命の科学のおもしろさを実感してもらいたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
エネルギーのしくみ	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
後藤 理夫					
授業概要					
最近のハイテク機器の進歩は、急速かつ高度化しており、医療分野の機器も例外ではない。医療現場に導入された各種のハイテク機器は、使いこなされてこそ、その能力・真価が発揮される。そのためには、物理の基礎・基本原理を理解した上での専門的な学修が技能の向上と作業の熟練に、より一層の効果をあげるものとする。					
授業到達目標					
各専攻において専門科目を学修するにあたり、その学修成果が十分達成されるための基礎知識の理解修得を目標とする。 物理学の中でも特に力学・熱学・電磁気学を中心にエネルギーに関する理論・法則性の理解だけでなく、量的処理も演習問題をくり返し解き、学修することで専攻課程での実技演習にも対処できるように学ぶ。					
授業形態					
講義	講義を中心とした理論と演習問題の解説で展開する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	後藤	速度と等速直線運動	物質と単位について 変位、速度(平均・瞬間速度)、速度-時間グラフ		
2	後藤	直線運動の加速度	変位、速度と加速度の関係 負の加速度 加速度-時間のグラフ		
3	後藤	力とつりあい (I)	力の表し方、つり合う2力(重力・張力・抗力・弾性力等) 力の合成・分解 作用反作用の法則		
4	後藤	力とつりあい (II)	剛体のつり合い 剛体と回転、モーメント(トルク) てこの原理		
5	後藤	力とつりあい (III)	平行力、平行力の合成と重心 圧力・浮力		
6	後藤	運動の法則 (I)	運動の法則(第1慣性の法則・第2運動の法則) 落下運動 斜面上の運動		
7	後藤	運動の法則 (II)	摩擦力が働く運動(最大静止摩擦力・動摩擦力) 回転運動と角速度		
8	後藤	力学的エネルギー (I)	仕事、力と仕事 仕事の原理 仕事率		
9	後藤	力学的エネルギー (II)	運動エネルギー、位置エネルギー、弾性位置エネルギー エネルギー保存の法則 運動量と力積		
10	後藤	熱 (I)	熱と温度、熱運動、温度と内部エネルギー 熱と仕事		
11	後藤	熱 (II)	物質の三態と状態変化(融点・沸点) 比熱、熱容量、熱平衡		
12	後藤	波動 (I)	波の発生、伝わり方、波を表す量 波の性質(独立性・反射・屈折・回折・干渉)		
13	後藤	波動 (II)	縦波・横波 音波(音速・三要素・超音波) 光波、電磁波のなかま		
14	後藤	電磁気 (I)	静電気 電流と電圧、電気抵抗 電気とエネルギー(消費電力)		
15	後藤	電磁気 (II)	磁石と磁力線、電流がつくる磁界、電流が磁界から受ける力電磁誘導、交流と直流 電波		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	課題				
80	20				
筆記試験(講義プリントの練習問題及び課題演習問題より出題)(80%)、平常点(課題提出)(20%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
教科の性質上、予習より復習に力点を置くため、講義終了時に課題の演習問題プリントを配布しますので、解答を答えるだけでなく理論についても理解に努める。(約1時間程度)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
課題演習は、全問解答をした上で答え合わせをする(不正解はやり直すこと、解説付きの解答も同時配布します)。これを次回講義時に提出する。(次々回の講義日に返却された演習問題プリントは各自でファイリング保管して筆記試験に備える)					
教科書					
講義用のプリント学習冊子を初回に配布します。					
参考図書					
特になし(高等学校教科書「物理基礎」「物理」および「問題集」などを残している学生は利用できる)					
備考:履修者への要望					
受講生全員が高等学校における履修は「物理基礎」のみで「物理」を選択履修していない前提での講義内容とします。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
教養演習 (PT)	理学療法学専攻	1年 前期 3年 後期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓 ・ 宮津 真寿美 ・ 木村 菜穂子 ・ 松村 仁実 ・ 清島 大資 ・ 白井 晴信 ・ 山田 南欧美 ・ 齊藤 誠					
授業概要					
理学療法士は、リハビリテーションチームの一員として様々な社会的背景の患者を対象とするため、患者一人一人の背景についての理解を含めた全人的な対応が求められている。そのため、教養を持った感性豊かな人間性、社会ルールについての理解、コミュニケーション力、問題発見能力、問題解決能力等が必要である。そして、これらの力が専門的な知識・技術を支える。本科目では、理学療法士に求められる力の基礎的事項を学修する。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・本学での学びを理解し、また社会人、医療人として必要な力を考え、実践することができる。 ・基礎的な接遇・マナーを理解し、実践できる。 ・教養の基礎となる、聴く、書く、読む、伝えるなどの力が必要となることを理解し、それらの能力向上に努める。 ・他者と協力し課題解決をすることができる。 ・教養を高めることができる。 					
授業形態					
演習	グループディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニングや演習が中心です。一部、資料を用いた講義を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	「大学で何を学ぶか」を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・愛知医療学院短期大学での学びを考える。 		
2	加藤	医療人に必要な「教養」を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人に必要な「教養」を考える。 ・大学で学ぶ、教養を身につけるための基礎的事項を学修する 		
3	加藤	接遇・マナー	接遇の基礎 態度 言葉遣いなど		
4	加藤	接遇・マナー	コミュニケーションスキル		
5	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 白井・山田 齊藤	学外にて教養を深める (学外研修)	詳細は別途連絡します		
6					
7					
8					
9					
10	加藤	接遇・マナー	メール、手紙、SNSなどのマナーを考える。		
11	加藤	授業を受け、ノートをとる	ノートの取り方を考える。		
12	加藤	情報収集	資料を探して集める		
13	加藤				
14	加藤	読む、理解する	本、資料を読む(批判的思考)		
15	加藤				
16	加藤	議論する	人と議論して考える		
17	加藤	書いて伝える	レポートを書く		
18	加藤 (ゲスト講師)	協働する	理学療法士と協働する他職種をゲストとして招き講話いただく。他職種の理解と理学療法士の役割を認識する。		
19	加藤	社会人、医療人に求められる力	社会人、医療人に求められる力を考える。		
20	加藤				

21			
22			
23			
24			
25	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 白井・齊藤		3年次に実施します。別途連絡します
26			
27			
28			
29			
30			
成績評価の方法・基準 (100%)			
参加貢献度	発表	レポート	
30	20	50	
<1年次> 授業への参加貢献度 (30%)、発表 (20%)、レポート (50%)			
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
第2回目から授業冒頭に①時事、②ことわざや四字熟語、名言、③自身に関連した内容など3分間スピーチしていただきます。詳細は第1回目の授業で説明します。各回の担当者は準備してください。その他、事前・事後学習が必要な場合がありますが、その都度お知らせします。各授業後に振り返りシートにて何を学んだかの振り返りを行います。 各回で学んだことを実践できるよう心掛け、医療人また社会人としての素養を身につけて下さい。加えて、本学のアドミッションポリシーとディプロマポリシーをよく理解し、自身の成長に繋がる行動を実践してください。			
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法			
授業内の発表、全体の共通事項については授業内でフィードバックします。レポート等について、提出用紙にコメントします。			
教科書			
なし			
参考図書			
随時提示します			
備考：履修者への要望			
医療人を目指す学生として、より良い医療人になれるよう、考え、行動してください。 教養を身につける為には広い視点で世の中の情勢を知ろうとする必要があります。講義時間以外の生活でも、アンテナを張って、様々な情報を得られるように取り組みましょう。			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
教養演習 (0T)	作業療法学専攻	1・3 通年	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
高田 政夫 ・ 山下 英美 ・ 加藤 真夕美 ・ 横山 剛 ・ 草川 裕也 ・ 清水 一輝					
授業概要					
病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、作業療法士の役割と責任を全体的に理解するため、また、1～3年次における専門的な学習を統合し、臨床実習Ⅰ～Ⅳに向けての準備を行う。					
授業到達目標					
<p>①作業療法士の役割や専門的な内容を体系的に理解できる。</p> <p>②症例を把握し、その問題解決のために作業療法士として可能なことを概念的に把握できる。</p> <p>③見学した病院・施設の目的・役割・治療方針・施設組織、および作業療法部門の役割を把握し、その中でリハビリテーションとしての作業療法の意義を把握できる。</p> <p>④学内で学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備できる。</p> <p>⑤先輩作業療法士、他の医療スタッフと交流し、将来、作業療法士(専門職)としての資質向上のために役立てることができる。</p> <p>⑥作業療法の対象者や、スタッフおよび診療現場全体に対して必要な配慮、心配りなどができ、医療従事者として相応しい態度を身につけられる。</p>					
授業形態					
演習	学外での実習形態とする。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/> 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
<input type="radio"/> 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
<input type="radio"/> 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田 山下 加藤 横山 草川 清水	1年次の2/18-3/8の期間内に1週間の日程で行う。 施設見学実習①	<p>1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。</p> <p>2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 左記規定期間施設において、実習目標が達成できるよう実習を行う。</p> <p>3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)</p>		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
24	高田 山下 加藤 横山 草川 清水	3年次の4/9-10/5の期間内に行われる臨床実習ⅢⅣのうち、それぞれ初日(計2日間)を本講義として取り扱う。 施設見学実習②	<p>1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。</p> <p>2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 左記規定期間施設において、実習目標が達成できるよう実習を行う。</p> <p>3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)</p>		
25					
26					
27					
28					
29					
30					

成績評価の方法・基準（100％）
<p>①各施設の実習指導者による実習目標に基づいた具体的項目についての評価、 ②実習中に作成したレポートなど課題の内容、 ③実習後の報告会（セミナー）での報告および質疑応答内容、 以上3点を総合的にみて、学内の専攻内実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とします。実習前ガイダンス、および実習後の報告会（セミナー）には必ず出席してください。欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。</p>
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>（予習） 実習前までに、それまでに学んだ知識について整理しておいてください。 実習を通して、医療従事者として、また社会人として身につけておくべき資質について考え、まとめておいてください。 （復習） 実習での経験やセミナー発表で得た視点などをまとめ、今後に向けた課題を抽出し取り組んでください。</p>
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめます。その内容は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。デイリーノートは、実習後に学内教員に提出します。 ・実習で学んだことを「実習レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。実習指導者により認可されたレポートを、実習後に学内教員に提出します。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジュメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。
教科書
<p>必要に応じ資料を配布します。</p>
参考図書
<p>関係成書すべて</p>
備考：履修者への要望
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士になるための総合的な学習の場として、知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組んでください。 ・受け身的な態度ではなく積極的に指導者や職員に働きかけ、疑問を解決しましょう。 ・学内での学習内容を統合するような実習をしましょう。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	3単位 (30時間)	90時間
担当教員名					
清島 大資 ・ 草川 裕也					
授業概要					
医療を目指す者にとっては、人体の構造と機能に関して高度かつ正確な知識が必要とされる。すべての学習の前提となる人体構造の基本的概念・事項を習得し、人体の構造と機能を理解することで人の全体像をつかむ。					
授業到達目標					
人体を構成する運動器、内臓諸器官、神経系の肉眼的ならびに組織学的な正常構造をそれぞれの働きと関連させて系統的に理解し、説明できる。					
授業形態					
講義	補足資料、スライドを使用した講義を中心に行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清島	解剖学序論、組織学総論	解剖学の目的		
2	清島	解剖学序論、組織学総論	細胞、上皮組織		
3	清島	組織学総論	結合組織、骨組織、軟骨組織、血液		
4	清島	組織学総論	筋組織、筋の収縮の仕組み、神経組織		
5	清島	骨格総論	骨の構造と発生		
6	清島	骨の連結	不動性連結、関節		
7	清島	頭、体幹の骨格	頭蓋、脊柱、胸郭		
8	清島	下肢の骨格	下肢帯と骨盤、大腿の骨		
9	清島	下肢の骨格	下腿と足の骨		
10	清島	筋学総論	筋肉の種類		
11	清島	筋学総論	筋肉の構造		
12	清島	頭頸部の筋	表情筋、頸の筋		
13	清島	体幹の筋	固有背筋、背中の筋		
14	清島	体幹の筋	胸の筋、腹部の筋、骨盤底の筋		
15	清島	下肢の筋	下肢帯の筋		
16	清島	下肢の筋	自由下肢の筋		
17	清島	下肢の筋	自由下肢の筋		
18	清島	循環器	心臓の構造と働き		
19	清島	循環器	肺循環の血管		
20	清島	循環器	体循環の動脈		
21	清島	循環器	体循環の静脈		
22	清島	循環器	胎児の血液循環		
23	清島	呼吸器	気道		
24	草川	頭部の骨格	頭蓋骨		

25	清島	呼吸器	肺
26	清島	消化器	消化管
27	草川	頭部の筋	表情筋
28	清島	消化器	消化腺
29	清島	泌尿器	腎臓と尿路
30	草川	上肢の骨格	上肢帯・自由上肢の骨
31	清島	生殖器	男性生殖器
32	清島	生殖器	女性生殖器
33	草川	上肢の筋	上肢帯・上腕部の筋
34	清島	内分泌器	ホルモンと内分泌腺
35	清島	感覚器	視覚器、聴覚器、平衡覚器
36	草川	上肢の筋	前腕部・手の筋
37	清島	神経系総論、末梢神経系	神経系の区分、脳神経
38	清島	末梢神経系	脳神経、脊髄神経
39	草川	上肢・頭部のまとめ	まとめと確認小テスト
40	清島	末梢神経系	脊髄神経、自律神経
41	清島	中枢神経系	終脳、間脳、中脳
42	清島	中枢神経系	橋、延髄
43	清島	中枢神経系	小脳、脊髄
44	清島	中枢神経系	髄膜、髄液、脳室 上行性伝導路/下行性伝導路
45	清島	全体のまとめ	まとめとテスト
成績評価の方法・基準 (100%)			
筆記試験	レポート		
90	10		
筆記試験(90%)、レポート(10%)			
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
シラバスに沿って講義を進めるので、その日の講義項目について教科書を読み、予習をして講義に臨むこと(30分程度)。予習で理解しにくかったことを講義で解決するように意識して受講する。講義後は必ずその日の内容をまとめ、知識の整理、復習に努めること(30分程度)。			
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法			
レポートにコメントを記載し、返却することでフィードバックを行う。			
教科書			
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」(医学書院)			
参考図書			
「トータル人体解剖生理学」(丸善)・「解剖学アトラス」(文光堂)・「骨学実習の手引き」(南山堂)			
備考:履修者への要望			
解剖学は器官系に分けて講義されるが、これらの器官系は互いに関連し合って機能し、生命活動に働いている。したがって学生は学習した事柄をばらばらに覚えるのではなく、自らがつなぎ合わせ、有機的に関連させて理解する努力を怠ってはならない。解剖学の学習では解剖学名を暗記しなくてはならないが、大切なことは人体の構造をその機能と関連させて理解することであり、解剖学名の暗記は必要最小限にとどめながら講義をする。			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
解剖学実習	理学療法専攻 作業療法専攻	1・2 前期・後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
藤森 修 ・ 鳥居 昭久 ・ 木村 菜穂子 ・ 清島 大資 ・ 草川 裕也 ・ 山下 英美 ・ 加藤 真夕美					
授業概要					
人体の構造の理解は、解剖学成書による知識だけでは不十分で、構造を実際に3次的に理解し、その触感、重さ、硬さなどを体験することによって知識として身に付くものである。本講義では、骨格の形態、筋肉の形態、その他人体の構造を実際に見学することによって解剖学的知識を深め、確実な知識とすることを目的とする。基本的には1年次前期には、骨格標本を使って骨学を中心に学び、1年生後期、2年次に集中講義形式で、解剖遺体の見学を行う予定である(後日、別途ガイダンスなどで連絡します)。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・骨格構造を3次的に理解できる。 ・筋の構造や走行、働きを3次的に理解できる。 ・人体の臓器、神経、血管系その他の構造、配置などを3次的に理解できる。 ・解剖学実習を通して命の尊さを実感できる。 					
授業形態					
実習	骨格標本を使って実際の骨格の構造を3次的に学ぶ。また、骨格デッサンを行いながら構造のイメージ化を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	解剖学を学ぶ意味と命の尊厳	医療者として解剖学を学ぶ上での心構えを学ぶ		
2	鳥居	骨格の基本構造と役割	骨格の基本構造と役割を学ぶ		
3	鳥居	頭部の骨格	頭部骨格の構造と役割を学ぶ		
4	鳥居	上肢帯、上肢の骨格	上肢帯、上肢の骨格の構造と役割を学ぶ		
5	鳥居	下肢の骨格	下肢骨格の構造と役割を学ぶ		
6	鳥居	脊柱・骨盤	脊柱、骨盤の構造と役割を学ぶ		
7	藤森・鳥居・木村 清島・山下・加藤・草川	骨格名称の確認	これまで習った骨格の役割や名称についての確認を行う		
8	鳥居	骨デッサン	指定骨格のデッサンを行う		
9	鳥居	骨デッサン	指定骨格のデッサンを行う		
10	鳥居	骨デッサン	指定骨格のデッサンを行う		
11	鳥居	骨デッサン	指定骨格のデッサンを行う		
12	鳥居	骨デッサン	指定骨格のデッサンを行う		
13	藤森・鳥居・木村 清島・山下・加藤・草川	骨格構造や部位名称の確認	口頭試問(これまで習った骨格の役割や名称についての確認を行う)		
14	藤森・鳥居・木村 清島・山下・加藤・草川	骨格構造や部位名称の確認	口頭試問(これまで習った骨格の役割や名称についての確認を行う)		
15	藤森・鳥居・木村 清島・山下・加藤・草川	まとめ	骨格の構造や部位について確実に覚える		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	骨デッサン	レポート	口頭試問		
50	10	30	10		
確認テスト(口頭試問・骨デッサン20%)、筆記試験(50%)、1年後期及び2年次の解剖学実習参加レポート(30%)で評価を行う。講義の中で実施する口頭試問および、骨デッサンに合格しないと、最終の記述試験を受験することはできない。尚、受講態度が悪い場合や欠席などがある場合には、確認テストおよび記述試験の合計点数から減点する。受講態度が極めて悪いと担当教員が判断した場合には、受講そのものを認めない場合もある。 1年後期および2年次の解剖遺体見学は、1年次の確認テストおよび記述試験の合計点が合格に達していない場合および別途開講される解剖学講義の成績が悪い者は参加はできないものとする。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
骨デッサンの完成のための部位名称などの書き込みは、時間外学習とする。また、通常から積極的に関係成書を読むなどして、骨格および解剖学的知識を高めることを求める。1時間程度は復習をして下さい。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
口頭もしくはレポートにて実施する。					
教科書					
解剖学講義に使用しているテキスト、スケッチブック					
参考図書					
解剖学関係成書全般					
備考:履修者への要望					
解剖学を含めて医学を学ぶ者は、その知識や技術が歴史的に多くの命の上に成り立っていることを自覚しなくてはならない。その一つとして、骨格標本とそれを提供してくれた故人に対して感謝の気持ちと、命に対する尊敬の意を持って受講することを義務とします。将来、人の命を預かる職域に就く者としての当然の心構えと態度を求めます。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人体触察法実習 (PT)	理学療法専攻	1 後期	必修	1単位 (45時間)	45時間
担当教員名					
松村 仁実・木村 菜穂子・清島 大資・山田 南欧美					
授業概要					
理学療法士は、患者を直接触察して評価し、治療を行う能力が必要である。解剖学や運動学で学んだヒトの立体的（三次元的）構造の位置や動きを知り、触察できなければ、評価や治療はできない。そこで、本実習は、皮膚を通して内部組織を視察・触察する技術を身につけることを目的とする。 また、骨・関節・筋肉・神経を確実に触察することにより、その位置、形、固さ、大きさなどを体表から確認し、解剖学や運動学で学んだ人体の構造を三次元的視点から確実なものとし、徒手筋力テストや神経学検査法などの評価法等の基礎を構築する。また、触察体験をすることにより、被治療者の気持ちを理解し、実際の臨床場面で対象者に不快感を与えない対応の方法を学ぶ。					
授業到達目標					
身体各部の筋、骨、神経、血管を皮膚を通して視察・触察し、皮膚に投影できる。					
授業形態					
実習	学生が二人一組になり、パートナーの体表面上に指定項目を描くことを中心とした実習を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村・木村 清島・山田	オリエンテーション	基礎事項、骨格（肩甲骨、鎖骨）の触察法を学修する		
2	松村・木村 清島・山田	肩の筋①	三角筋、僧帽筋、肩甲挙筋の触察法を学修する		
3	松村・木村 清島・山田	上腕後面の筋	上腕三頭筋の触察法を学修する		
4	松村・木村 清島・山田	上腕前面の筋	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、神経の触察法を学修する		
5	松村・木村 清島・山田	肩の筋②	棘上・棘下筋、小円筋、菱形筋、大円筋の触察法を学修する		
6	松村・木村 清島・山田	背部の筋①	広背筋、肩甲下筋の触察法を学修する		
7	松村・木村 清島・山田	腹部の筋、血管	胸郭、前鋸筋、腹直筋、腹斜筋、動脈の触察法を学修する		
8	松村・木村 清島・山田	胸部の筋	大胸筋、小胸筋の触察法を学修する		
9	松村・木村 清島・山田	頸部の筋、血管、神経	胸鎖乳突筋、前・中・後斜角筋、神経、動脈の触察法を学修する		
10	松村・木村 清島・山田	頸部の筋、血管、神経	板状筋、半棘筋の触察法を学修する		
11	松村・木村 清島・山田	骨盤・腰部の筋	骨盤、腸腰筋の触察法を学修する		
12	松村・木村 清島・山田	臀部の筋	大・中殿筋、深層外旋6筋の触察法を学修する		
13	松村・木村 清島・山田	背部の筋②	腸肋筋、最長筋、腰方形筋、多裂筋の触察法を学修する		
14	松村・木村 清島・山田	大腿の筋①、血管、神経	大腿二頭筋、半腱半膜様筋、神経、動脈の触察法を学修する		
15	松村・木村 清島・山田	大腿の②、血管、神経	薄筋、縫工筋、大腿筋膜張筋、神経、動脈の触察法を学修する		
16	松村・木村 清島・山田	大腿の筋③	大腿四頭筋の触察法を学修する		
17	松村・木村 清島・山田	下腿の筋①、血管、神経	下腿三頭筋、膝窩筋、後脛骨筋、趾屈筋、神経、動脈の触察法を学修する		
18	松村・木村 清島・山田	下腿の筋②、血管、神経	前脛骨筋、腓骨筋、趾伸筋、神経、動脈の触察法を学修する		
19	松村・木村 清島・山田	前腕前面の筋、血管、神経	円回内筋、長掌筋、手根屈筋、神経、動脈の触察法を学修する		
20	松村・木村 清島・山田	指の筋	指の屈筋の触察法を学修する		
21	松村・木村 清島・山田	前腕後面の筋	肘筋、尺側手根伸筋、指伸筋、指外転筋の触察法を学修する		
22	松村・木村 清島・山田	指、前腕の筋	腕橈骨筋、橈側手根伸筋の触察法を学修する		
23	松村・木村 清島・山田	全身の筋	全回分の触察法の復習と確認をする		

成績評価の方法・基準 (100%)									
筆記試験	小テスト	口頭試問							
32	36	32							
<p>毎回の授業時に、視察、触察および投影の達成を確認するデイリー達成を確認する口頭試問と、筋の基礎知識の小テスト（筆記）を行う。また、授業終了後に総合口頭試問と筆記試験を行い総合的に評価する。デイリー口頭試問は、各回で学んだ範囲の実習達成度を確認し、到達できていない場合は減点対象とする。12回の合計で最大48点減とする。</p> <p>評価配分：筆記試験（50点満点）＋ 総合口頭試問（50点満点）＋ 毎回の小テスト（55点満点）の計155点満点からデイリー口頭試問減点分を引いた総合点が93点以上（60%以上）を合格とする。ただし、筆記試験、総合口頭試問はそれぞれ30点以上必要。なお、受講態度が悪い場合も減点対象とする。原則的に全出席を求める。</p>									
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間									
<p>（予習）教科書にある触察方法をよく読みポイントを確認する。また、筋の基礎知識を覚える。（約1～2時間） 授業開始時に基礎事項の理解を確認するための小テストを実施する。</p> <p>（復習）授業を振り返り、触察の仕方を復習する。（約1～2時間） 学修結果を確認するために、授業の始めに先回授業範囲の触察した筋の描画小テストする。</p>									
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法									
小テスト、試験は研究室に保管しています。事前に連絡の上、内容を確認することができます。									
教科書									
<p>「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」河上敬介・磯貝香 大峰閣 全員 「図解 四肢と脊柱の診かた」野島元雄 監訳 医歯薬出版</p>									
参考図書									
<p>「分担解剖学 第一巻」森於菟・小川鼎三 他 金原出版 「日本人体解剖学 上巻」金子丑之介 南山堂 「頭・頸部の筋の形と位置」河上敬介 他 大峰閣 他 解剖学成書</p>									
備考：履修者への要望									
<p>学生が二人一組になり、パートナーの体表面上に指定項目を描くことを中心に行います。また、授業内容は多く、時間に余裕がありません。無断欠席や無断遅刻および予習不足により、パートナーに迷惑をかけないように心がけてください。</p> <p>お互いの皮膚に直接触れることとなります。相手に対する思いやりのある態度で接しなくてはなりません。特に、手指は清潔な状態を保つようにすること。例えば、爪が長い場合などは、減点の対象となります。また、前髪が長いなども実習に相応しくありませんから、縛る、ピンなどで留めるなどの準備をしておくこと。</p> <p>尚、皮膚のトラブル（アトピー性皮膚炎など）や、外傷痕、手術痕その他の理由で、皮膚の接触や露出についての問題がある場合には、必ず事前に教科担当教員もしくは学習アドバイザー教員に相談して下さい。（装飾品などを身につけたままの状態などを含め、医療職としてふさわしくないとされる容姿・皮膚状態などが見られる場合には受講は認められません。）</p>									

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人体触療法実習 (OT)	作業療法学専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
作業療法は対象者の重要な作業ができるよう支援する専門職である。その評価や治療の手段として触察技術を用いることがある。本講義では、骨・関節・筋等の器官をそれぞれの位置・形・固さ・大きさに留意しながら体表から触察し、触察技術を学ぶ。また触察技術が作業療法場面でのように用いられるのかについて理解を深めることを目的とする。					
授業到達目標					
①身体各部の筋や骨を、皮膚を通して視察・触察することができる。 ②視察・触察した筋や骨を皮膚に投影することができる。					
授業形態					
実習	二人一組になり、体表面上に指定項目を描くことを中心とした実習を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	作業療法における触察とは/触察技術の基本用語	基本的な用語を理解する。以下の部位の触察を行う。 指(基節骨・中節骨・末節骨) リスター結節 橈骨茎状突起 上腕骨大/小結節 肩峰 上腕骨内側/外側上顆 肘頭 大腿骨大転子 腓骨頭 内果 外果		
2	鳥居				
3	鳥居	骨格構造と骨指標	骨格構造と指標について理解する。以下の部位の触察を行う。 肩甲骨 鎖骨 脊柱(棘突起) 上前腸骨棘 腸骨稜 坐骨結節		
4	鳥居				
5	鳥居	上腕部の筋	上腕部の筋の触察 三角筋 上腕二頭筋 上腕筋 烏口腕筋 上腕三頭筋		
6	鳥居				
7	鳥居	肩甲骨周囲の筋	肩甲骨周囲の筋の触察 棘上筋 棘下筋 大円筋 小円筋 菱形筋 広背筋 僧帽筋		
8	鳥居				
9	鳥居	前腕の筋①	前腕部の筋(手関節屈筋)の触察 長掌筋 機側手根屈筋 尺側手根屈筋 円回内筋 腕機骨筋		
10	鳥居				
11	鳥居	前腕の筋②	前腕部の筋(手関節伸筋)の触察 総指伸筋 長短機側手根伸筋 尺側手根伸筋 示指伸筋 長母指伸筋 短母指伸筋 長母指外転筋		
12	鳥居				
13	鳥居	手の筋 体幹の筋	手の筋/体幹の筋の触察 手内在筋(母指球筋 小指球筋 背側骨間筋 虫様筋) 胸鎖乳突筋 大胸筋 内外腹斜筋 肋間筋 腹直筋 脊柱起立筋		
14	鳥居				
15	鳥居	下肢の筋	下肢の筋の触察 腸骨筋 大腰筋 臀筋 大腿二頭筋 大腿四頭筋 半腱/半膜様筋 下腿三頭筋 前脛骨筋		
16	鳥居				
17	鳥居	試験	実技試験を行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
実技試験	小テスト				
80	20				
予習小テスト(筆記試験) (20%)、実技試験(80%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
骨や筋を視察・観察して皮膚に投影するためには、イメージをつけることが大切です。そのため、講義時間以外の準備学修として以下について取り組んでください。 ・解剖学実習の時間に描いた骨スケッチを見直して骨の突起部の名称や位置を再確認する。 ・筋の形や大きさを解剖学書で確認する。 ・起始や停止部を覚える。 また、講義後も繰り返し練習を行うようにしてください。(1程度時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
毎回の講義時間にコメントします					
教科書					
「骨格筋の形と触察法」河上敬介・磯貝香/大峰閣					
参考図書					
「図解 四肢と脊柱の診かた」STANLEY HOPPFELD(野島元雄 監訳)/医歯薬出版株式会社					
備考：履修者への要望					
学生が二人一組になり、パートナーの体表面上に指定項目を描くことを中心に行います。無断欠席や無断遅刻および予習不足によりパートナーに迷惑をかけないように心がけてください。 お互いの皮膚に直接触れることになります。そのため、手指は清潔な状態を保つよう心掛けて下さい。また、前髪が長いなども、縛る・ピンなどで留めるなど相手への配慮を心掛けて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
宮津 真寿美					
授業概要					
生理学とはどのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求する学問である。神経、筋肉、心臓、肺、肝臓、腎臓を始めとして人体のさまざまな器官は、たくみに機能しており、それらの働きは驚くほど精妙に調節されている。この正常な仕組みが破たんすると、疾病になる。医療専門職を目指すにあたって、体の正常な仕組みを学ぶことは非常に大事である。この授業では、様々な器官において、我々の体がどのように機能しているのかを学ぶ。					
授業到達目標					
①各器官における特徴と機能が説明できる。 ②調節機能が説明できる。					
授業形態					
講義	アクティブラーニング（グループ学習、予習シート、復習小テスト）を中心に、スライドによる講義を組み合わせる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	生理学とは	授業オリエンテーション、生理学とは、細胞・組織・器官、生体の機能、生体の特性（ホメオスタシス、刺激-興奮、刺激-適応） ：教科書 第1章		
2	宮津	体のしくみ	各器官の連携		
3	宮津	筋収縮	骨格筋、骨格筋の構造、収縮の仕組み ：教科書 第11章		
4	宮津	筋収縮	収縮の仕組み ：教科書 第11章		
5	宮津	筋収縮	心筋と平滑筋 ：教科書 第11章		
6	宮津	神経系	神経系の分類、ニューロンの興奮 ：教科書 第12章		
7	宮津	神経系	シナプス、グリア細胞とその機能 ：教科書 第12章		
8	宮津	自律神経	末梢自律神経系の構成、自律神経系の特徴、自律神経系の伝達物質と受容体 ：教科書 第13章		
9	宮津	自律神経	自律神経系による内臓支配、自律反射、脳幹・視床下部、概日リズム ：教科書 第13章		
10	宮津	脳	ヒトの脳の全体像、大脳、記憶、言語、睡眠と覚醒、情動 ：教科書 第14章		
11	宮津	感覚	感覚とは、視覚、聴覚、平衡感覚 ：教科書 第15章		
12	宮津	感覚	体性感覚、内臓感覚、味覚、臭覚 ：教科書 第15章		
13	宮津	運動の調節	運動に関する脳部位、運動神経と運動単位、脊髄、脳幹 ：教科書 第16章		
14	宮津	運動の調節、骨	大脳皮質、運動学習と自動運動（大脳基底核と小脳）、運動関連部位の接続 ：教科書 第16章 骨の構造、骨の成長とモデリング、骨のカルシウム代謝とリモデリング、関節 ：教科書 第17章		
15	宮津	まとめ	前半授業のまとめ		
16	宮津		ここまでの学修成果の中間試験		
17	宮津	血液と体液	体液の区分と組成、血液の成分と血液量、血液細胞とその機能、骨髄、止血機構、血液型 ：教科書 第2章		
18	宮津	循環	循環の概念、心臓の役割 ：教科書 第3章		
19	宮津	循環	心電図、心臓の血液拍出の仕組み ：教科書第3章		
20	宮津	循環	血管系の役割、動脈圧の調節 ：教科書 第3章		
21	宮津	呼吸	呼吸器の構成、呼吸と吸息、肺容量 ：教科書 第4章		
22	宮津	呼吸	肺胞換気と肺胞内ガス組成、血液によるガス運搬、血液のpH緩衝作用 ：教科書 第4章		

23	宮津	呼吸	呼吸中枢、呼吸の化学的調節、低酸素症 ：教科書 第4章
24	宮津	消化と吸収	消化器系の構成、消化と吸収、消化管の微細構造、消化管壁の筋肉の働き、消化液分泌、神経とホルモンによる消化管機能の調節、消化器系の血液循環の特徴 ：教科書 第5章
25	宮津	消化と吸収	食物の流れの時間経過、口腔内消化、胃内消化、小腸内消化と吸収、大腸内消化と吸収、食欲の調節 ：教科書 第5章
26	宮津	尿の生成と排泄	腎の構造と機能、糸球体における濾過、尿細管における再吸収と分泌、尿の濃縮と希釈 ：教科書 第6章
27	宮津	尿の生成と排泄	腎血流量とその調節、クリアランスによる腎機能の測定、腎における酸と塩基の調節、体液の調節、尿の組成と排尿 ：教科書 第6章
28	宮津	代謝	エネルギーのバランス、代謝量、代謝量の測定 ：教科書 第7章
29	宮津	体温	体温調節の基礎、内因性に体温レベルを決定する因子、運動時の体温調節 ：教科書 第8章
30	宮津	内分泌	内分泌一般、内分泌器官とホルモンの作用 ：教科書 第9章

成績評価の方法・基準（100%）

筆記試験	小テスト	予習シート							
70	20	10							

筆記試験（中間試験+最終試験70%）、小テスト（20%）、予習シート（10%）
 科目試験（中間試験+最終試験）合わせて6割に達しなかった場合、再試験を行う。再試験受験者は、再試験の点数（最大60点）で評定する。
 予習シート（10%）は、【すごく良い5点、良い4点、普通3点、悪い2点、すごく悪い1点、未提出0点】で、毎回評価する。
 無断欠席、授業態度不良は、10%ダウンする。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習）教科書を読み、内容を理解し、予習シートにまとめる。約2～5時間
 （復習）授業を振り返り、理解する。学修結果を確認するため、授業の初めには先回授業に関する小テストを実施する。約30分～1時間

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

予習シート評価点と小テスト点数は、毎回、掲示する。
 課題（試験、小テスト、予習）に対する疑問点や質問は、随時受け付ける。

教科書

「やさしい生理学」南江堂

参考図書

「シンプル生理学」（南江堂）、「生理学テキスト」文光堂、「コスタンゾ明解生理学」エルゼビア・ジャパン
 「標準理学療法学・作業療法学 生理学」医学書院、「トートラ人体解剖生理学」丸善株式会社、「初めの一步のイラスト生理学」他、多数の生理学の成書が参考になる。

備考：履修者への要望

生理学の知識を基に、次の段階として、疾患学、治療学と進んでいく。生理学的知識は、理学療法・作業療法を学ぶ上での土台となる。その土台を堅固なものにするため、各自で予習復習を行い、確実な知識となるように努めてほしい。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生理学実習	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 後期	必修	1単位 (45時間)	45時間
担当教員名					
清島 大資 ・ 宮津 真寿美 ・ 齊藤 誠 ・ 清水 一輝					
授業概要					
生理学で学習した基本的な事項を応用して、実験結果を解釈・考察する。さらに、実験項目に関する基礎的事項、結果、考察をまとめる。実験動物を利用して、筋の活動や生化学的反応を考察する内容と基本的な人体の反応を生理学的法則に則り考察する。					
授業到達目標					
生理学で学習した知識を実験によって再確認し、正常な人体の構造と機能について理解し、説明できるようになることを目的とする。					
授業形態					
実習	主として実習を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清島	オリエンテーション	実習に対する心構え		
2	清島		実習内容の説明		
3	清島	レポートの書き方	①レポートの構成		
4	清島		②データ処理、図表の書き方		
5	清島・宮津 齊藤・清水	実習 各班ごとに、1課題ずつ実施。 (8項目をローテーション)	実習課題①～⑧		*テーマは講義初日にお知らせします
6	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
7	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
8	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
9	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
10	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
11	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
12	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
13	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
14	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
15	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
16	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
17	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
18	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
19	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
20	清島・宮津 齊藤・清水		実習課題①～⑧		
21	清島・宮津 齊藤・清水		まとめ	実習結果発表と討論の準備	
22	清島・宮津 齊藤・清水	実習結果発表と討論			
23	清島・宮津 齊藤・清水	実習結果発表と討論	実習結果発表と討論		
成績評価の方法・基準 (100%)					
発表	レポート	参加貢献度			
20	40	40			
実習結果発表 (20%)、レポート (40%)、授業への参加貢献度 (40%) を総合して評価する。					

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
毎回の授業の内容を復習し、不明な点を教科書、参考書などで調べまとめておくこと（事後学習；30分程度）。次回の講義内容について把握し、前回の授業からの展開を明らかにしておくこと（事前学習；30分程度）。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
レポートにコメントを記載し、返却することでフィードバックを行う。
教科書
特になし
参考図書
「トートラ 人体解剖生理学」 Gerard J. Tortora 丸善株式会社
備考：履修者への要望
あらかじめ実験内容に関する課題を出題するので、終了後に結果の説明と課題の回答が得られるように、各班でよくまとめておくこと。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学総論	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
齊藤 誠					
授業概要					
運動学は、解剖学や生理学、物理学、心理学など複数の学問を応用して身体運動を研究する学問であり、身体運動を理解することは理学療法士、作業療法士にとって必要不可欠なことです。本科目では解剖学および生理学と関連しながら、人間の基本的な身体運動について正しく理解することを目的とします。					
授業到達目標					
身体運動のしくみが説明できる。 骨、神経、筋、関節に関する基礎的な専門用語を正しく理解し、使用できる。					
授業形態					
講義	主としてスライドを使用した講義形式で授業を進めます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	齊藤	オリエンテーション 運動にかかわる用語の理解	講義に関するオリエンテーションを行う。 運動にかかわる専門用語（運動方向）を理解し、使用する。		
2	齊藤	骨と関節の役割	骨と関節の役割を説明し、関節の構造や関節の種類を理解する。 教科書 P60-72		
3	齊藤	骨格筋の役割	骨格筋の役割について説明し、筋収縮、弛緩の基本的性質を理解する。 教科書 P72-88		
4	齊藤	骨格筋の役割	筋繊維の種類、二関節筋、運動単位など筋の構造と機能について説明し、運動の種類によって筋の構造が異なることを理解する。 教科書 P72-88		
5	齊藤	神経の役割	神経の役割、筋紡錘やゴルジ腱器官、反射などについて説明し、運動の中樞神経機構について理解する。 教科書 P117-125		
6	齊藤	生体力学の基礎	力、モーメント、身体でのこなどについて説明し、生体力学の基礎を理解する。 教科書 P19-46		
7	齊藤	姿勢と歩行	支持基底面や重心、歩行周期、歩行時の筋活動や重心移動について説明し、姿勢、歩行に関する専門用語などの基礎を理解する。 教科書 P347-395		
8	齊藤	試験とまとめ	全体の総括、リアクションペーパーなどから抽出した質問から特に重要な事象を説明する。 また学習到達度の確認試験を行う。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト				
82	18				
筆記試験（82%）、小テスト（計6回 18%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
前の講義に関する小テストを講義前に行います（第1回、8回は実施しない）。復習に1~2時間程度の時間を割り、重要な用語は確実に習得して下さい。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
テスト結果や小テスト、講義内容に関する質問は随時受け付ける。小テストは次回講義時に返却する。					
教科書					
「基礎運動学 第6版補訂」 中村隆一 他著 医歯薬出版					
参考図書					
必要に応じて資料を配布します。					
備考：履修者への要望					
解剖学や生理学と運動学は互いに関連する領域であり、これから専門知識を積み上げていく上での基礎となる分野です。疑問が生じた場合は積極的に質問してください。また本講義では各講義終了後にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問点や意見を記載できるように主体的な気持ちで講義に臨んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学Ⅰ(頭頸部・上肢)	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
草川 裕也					
授業概要					
<p>身体運動の仕組みを理解することは、理学療法士・作業療法士にとっては必須である。本科目では顔面・頭部と上肢の運動について、生体力学・解剖学及び生理学と関連させ、自身の体を動かしながら体験的に理解する。</p> <p>顔面・頭部及び上肢に関して、部位ごとに分け「関節と靭帯の構造」、「筋と関節運動」の順に学び、臨床で必要となる「運動学的な特徴」に関しても併せて学修する。学修した内容を専門用語を用いて他者に説明できるようにし、専門科目の基礎を構築する。</p>					
授業到達目標					
<p>①顔面・頭部及び上肢に関して、関節と靭帯の構造を理解し、専門用語を用いて説明することができる。</p> <p>②顔面・頭部及び上肢に関して、筋と関節運動の関連について理解し専門用語を用いて説明することができる。</p> <p>③顔面・頭部及び上肢に関して、運動学的な特徴について理解し、専門用語を用いて説明することができる。</p>					
授業形態					
講義	教科書とパワーポイント・模型等を用いた講義形式で進めるが、自身の体を動かしたり、グループワークで理解の確認を行いながら進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	草川	オリエンテーション 顔面・頭部の運動	科目のオリエンテーション 顔面・頭部について、関節と靭帯、筋と運動について学修する：教科書 4-5		
2	草川	上肢総論	上肢の構造、各部の名称再確認し、これから学修する内容とその目的を確認する 上肢を走行する神経・血管について学修する：教科書 4-2		
3	草川	上肢帯の運動(1) (上肢帯の関節と靭帯)	上肢帯の関節と靭帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1)(2)		
4	草川	上肢帯の運動(2) (上肢帯の筋と運動)	上肢帯の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(3)		
5	草川	肩関節の運動(1) (肩の関節と靭帯)	肩関節の関節と靭帯の構造について学修する ：教科書 4-2-1)-(1)(2)		
6	草川	肩関節の運動(2) (肩の筋と運動)	肩関節の筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-1)-(4)		
7	草川	肘関節の運動 (肘の関節と靭帯、筋と運動)	肘関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1)(2)		
8	草川	前腕の運動 (前腕の関節と靭帯、筋と運動)	前腕の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-2)-(1)(2)		
9	草川	手関節の運動 (手の関節と靭帯、筋と運動)	手関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(1)(2)(3)(6)		
10	草川	CM関節の運動 (CM関節の靭帯、筋と運動)	CM関節の関節と靭帯の構造及び筋と関節運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(1)(2)(3)(6)		
11	草川	手指の運動(1) (手指の関節と靭帯、筋と運動)	手指の関節と靭帯の構造及び筋と運動の関連や特徴について学修する ：教科書 4-2-3)-(4)(5)(6)		
12	草川	手指の運動(2) (手指の伸展機構)	手指の伸展機構について、その構造と機能を学修する ：教科書 4-2-3)-(5)		
13	草川	手指の運動(3) (手の機能と肢位)	手の機能(アーチ・把持動作パターン等)について自身の手を動かしながら、体験的に学修する ：教科書 4-2-3)-(7)(8)(9)		
14	草川	手指の運動(4) (手の変形)	手の変形について、その機序を、指背腱膜の構造・筋の神経支配と関連づけて学修する ：教科書 4-2-3)-(10)		
15	草川	まとめ (上肢各関節の関連と上肢機能)	これまで学修した上肢の各関節の関連と上肢の機能や役割について再確認する。 必要に応じて補足説明等を行う。		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	小テスト	課題			
70	20	10			
筆記試験(70%)、小テスト(20%)、準備課題(10%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>講義に臨む前に、教科書の該当ページをよく読んで、新しい語句に触れ、疑問点を明らかにした上で講義に臨んでください(準備課題：30分程度)。</p> <p>講義後は、配布されたプリントを用いて、講義内容を自ら説明してみたり復習し、不十分な点があれば次回までに質問してください。</p> <p>授業ははじめに行う小テストは前回の授業内容の復習テストです。毎回1時間程度しっかり復習し、疑問点を残さないよう学修を進めてください。</p>					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
小テスト、筆記試験とともに研究室に保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
「基礎運動学」中村隆一 他著 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」島田智明 監修 医歯薬出版					
参考図書					
「カバンディ・関節の生理学」荻島秀夫 監訳 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
解剖学・生理学等の科目と関連付けながら理解を深めてください。本科目は理学療法士・作業療法士にとって、最も専門性の高い科目の一つであり、他の科目の基礎となる科目ですので、十分に理解に努めてください。疑問点は先延ばしにせず、その日のうちに解決するよう、授業内で積極的に質問するよう心がけてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学Ⅱ (下肢・体幹)	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山田 南欧美 ・ 白井 晴信 ・ 宮津 真寿美					
授業概要					
運動は全ての動作や行為の基礎であり、その仕組みを理解することは理学療法士・作業療法士にとって必須事項である。本講義では下肢・体幹の構造や基本的な運動について学ぶ。生体力学・解剖学および生理学と関連させながら、下肢・体幹の運動に関与する骨・筋・靭帯のそれぞれの役割について学修する。そして、下肢・体幹の基本的な運動について他者に説明することができるよう、骨標本でのグループワークを実施する。					
授業到達目標					
①下肢・体幹における骨格・血管・神経・筋・靭帯を挙げることができる。 ②下肢・体幹における基本的な運動に関与する関節や筋・靭帯およびその役割について説明することができる。 ③下肢・体幹における各筋の走行・作用について説明することができる。 ④骨標本を用いて、下肢・体幹の構造および基本的な運動を説明することができる。					
授業形態					
講義	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。骨標本を用いたグループワークも実施する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	下肢の骨格、血管、神経 下肢帯と股関節の運動 (1) 関節と靭帯	下肢帯と下肢の骨格、血管、神経を学修する。骨盤と股関節および関与する靭帯について学修する。 (教科書①：pp. 246-250、教科書②：第12章)		
2	山田	下肢帯と股関節の運動 (2) 股関節の動き	股関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 250-253、教科書②：第12章)		
3	山田	下肢帯と股関節の運動 (3) 股関節の筋	股関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 252-256、教科書②：第12章)		
4	山田	膝関節の運動 (1) 関節と靭帯	膝関節および関与する靭帯について学修する。 (教科書①：pp. 256-258、教科書②：第13章)		
5	山田	膝関節の運動 (2) 膝関節の動き	膝関節の基本的な運動について学修する。 (教科書①：pp. 258-260、教科書②：第13章)		
6	山田	膝関節の運動 (3) 膝関節の筋	膝関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 258-260、教科書②：第13章)		
7	山田	足関節の運動 (1) 関節と靭帯 (2) 足の筋	足関節および関与する靭帯について学修する。足関節の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 260-266、教科書②：第14章)		
8	山田	足関節の運動 (3) 足のアーチ (4) 足の変形	足のアーチおよび足の変形について学修する。 (教科書①：pp. 266-271、教科書②：第14章)		
9	宮津	脊柱の骨格	脊柱を構成する骨と関節、靭帯、神経、血管について学修する。 (教科書①：pp. 271-275、教科書②：第9、10章)		
10	宮津	頭部・頸椎の構造	頭部、頸椎の構造と運動、関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 275-283、293-296、教科書②：第9、10章)		
11	宮津	腰椎の運動	腰椎の構造と運動、関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 289-292、教科書②：第9、10章)		
12	白井	胸郭と胸椎の運動・呼吸に関与する運動	胸郭と胸椎の構造及び呼吸の運動に関与する筋について学修する。 (教科書①：pp. 283-289、教科書②pp. 286-294)		
13	白井	運動生理学	運動中の生体の変化について学修する。 (教科書①：pp. 327-332、教科書②pp. 286-294)		
14	山田・白井・宮津	骨標本観察 (下肢)	グループに分かれ、骨標本を用いて股・膝・足関節の基本的な構造および運動を確認・実演する。 (教科書①：pp. 246-271、教科書②：第12、13、14章)		
15	山田・白井・宮津	骨標本観察 (体幹)	グループに分かれ、骨標本を用いて体幹の基本的な構造および運動を確認・実演する。 (教科書①：pp. 271-292、教科書②：第9、10、11章)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	提出課題			
70	10	20			
筆記試験 (70%)、小テスト (10%)、提出課題 (20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義前に、講義計画に記載された教科書の該当範囲に目を通し、理解できなかったキーワードや興味を持ったキーワードを挙げてきてください (必要な時間: 約30分)。そして、挙げたキーワードについて講義中に学んだことを、講義後レポートにまとめてください (必要な時間: 約60分)。提出課題として準備学修でまとめたレポート等の提出を求めます。具体的な提出課題内容については、各授業にて提示します。講義中の配布資料や準備学修でまとめたレポート、提出物等を合わせて、ポートフォリオを作成してください。第2回以降の講義の始めには、前講義の内容を範囲とした小テストを実施します。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題 (筆記試験、小テスト、提出課題、ポートフォリオ) に対する疑問点や質問は、随時受け付けます。					
教科書					
①「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一 他著 医歯薬出版 ②「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」島田智明 監修 医歯薬出版					
参考図書					
「カバンディ・関節の生理学 原著第6版」萩島秀夫 監訳 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
本講義の内容は、今後リハビリテーションについて学ぶ中で全ての基礎になります。各部位の名称やその役割は必ず覚え、わからないことはその場で確認するようにしてください。また、グループワークでは積極的に骨標本に触れ、基本的な運動について他者にしっかり説明できるよう知識を整理してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学実習 (PT)	理学療法学専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
松村 仁実 ・ 白井 晴信 ・ 山田 南欧美					
授業概要					
運動学で学修した内容の理解を深めるために、体験実習を介して生理学、解剖学、生体力学、動作分析学的に考察しながら再学習する。この科目は、観察や測定を行い、データを解析し、実習目的に沿って考察を加え、最終的にそれらをレポートとして文書化する。また、実習内容をまとめて発表し、質疑応答を行う。					
授業到達目標					
①実習の目的、方法を、吟味、理解、納得して実践できる。 ②実習課題に関する基礎知識を説明することができる。 ③実習で得られた体験や事実に対して、資料や文献を調査し、内容や結果を理解して考察し、簡潔に要約して他人に説明できる。 ④得られたデータを集計、加工、整理して、意見を主張でき、期限内にレポートを提出できる。 ⑤実習の内容をまとめ、わかりやすく発表し、質疑応答ができる。					
授業形態					
実習	グループに分かれ実習、データの解析をし、発表を行う。スライドによる講義も含む。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村・白井・山田	オリエンテーション	オリエンテーション レポートの書き方を学修する		
2	松村・白井・山田	歩行の基礎知識	歩行の基礎知識を学修する		
3	松村・白井・山田	実習準備①機器操作	実習準備、機器操作の確認、データ収集雛形の作成をする		
4	松村・白井・山田	実習準備②データ収集			
5	松村・白井・山田	実習 各班ごとに、1課題ずつ実施。 6課題をローテーションする。	実習課題①	*テーマは講義初日にお知らせします	
6	松村・白井・山田		実習課題②		
7	松村・白井・山田		実習課題③		
8	松村・白井・山田		実習課題④		
9	松村・白井・山田		実習課題⑤		
10	松村・白井・山田		実習課題⑥		
11	松村・白井・山田	発表スライド作成	発表用スライドを作成し、発表原稿の作成と発表の練習を学修する		
12	松村・白井・山田	発表原稿作成			
13	松村・白井・山田	発表・まとめ	各課題ごとの結果発表と質疑応答		
14	松村・白井・山田				
15	松村・白井・山田	総まとめ	実習全体の課題の復習		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート	発表			
50	20	30			
レポート (20%)、発表 (30%)、筆記試験 (50%) を総合して判定する。授業態度が悪ければ、10%ずつダウンする。 (注) この科目は、試験だけ受けることはできない。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 有意義な実習を行うために、実習課題の基礎知識、方法を理解し、実習を行う前に、根拠ある仮説をたてる (約1~2時間)。 (復習) 実習を振り返りデータの整理やレポート作成をする。また、学生同士・教員がディスカッションし考察を深める。他人に伝わるレポート作成・発表準備をする (約1~2時間)。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
レポートは講義の中で、後日返却します。必要に応じてレポート内容に関して教員とディスカッションします。 質疑は連絡の上、講義時間外でも受け付けます。					
教科書					
プリントを配布する					
参考図書					
「基礎運動学」医歯薬出版 第6版					
備考：履修者への要望					
正当な理由なき欠席、遅刻は厳禁 (要証明書) レポートは期限内に提出を厳守のこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動学実習 (0T)	作業療法学専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
草川 裕也					
授業概要					
運動学で学習した肢体の構造、人間の動きを理解するための体験実習である。その応用として、日常生活活動の一部を運動学的に分析し、日常生活活動学に備える。また、レポートを作成することで、論理的思考や文章力を養い、作業療法士にとって必要な表現力を向上させることも本実習の目的である。					
授業到達目標					
①実習の目的、方法を述べることができる。 ②実習で得られた体験や事実とそれまで学習した内容や文献を関連づけることができる。 ③実習において観察した動作を文章として記載できる。 ④期限内にレポートを提出し、必要に応じて担当教員にフィードバックを受けたり質問することができる。					
授業形態					
実習	グループにて毎回実習を行う。実習後には、毎回個人レポート提出を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	草川	オリエンテーション レポートの作成方法	レポートの作成方法について学習する ：教科書①pp. 1-12		
2	草川	上肢帯および上肢（肩甲上腕リズム）	肩関節の運動を観察し、肩甲上腕リズムについて学習する ：教科書①pp. 23-32		
3	草川	上肢帯および上肢（肩関節外転の特徴）	肩関節の運動を観察し、外転運動の特徴について学習する ：教科書①pp. 23-32		
4	草川	姿勢（静止立位）	静止立位を観察し、姿勢の分析を体験する ：教科書①pp. 95-104		
5	草川	姿勢（座位姿勢）	座位姿勢を観察し、姿勢の分析を体験する ：教科書①pp. 95-104		
6	草川	立ち直りの観察	立ち直りの観察、分析を体験する ：教科書①pp. 105-114		
7	草川	バランス反応の観察	バランス反応の観察、分析を体験する ：教科書①pp. 105-114		
8	草川	姿勢の変換（寝返り）	寝返り動作の観察、分析を体験する ：教科書①pp. 115-120		
9	草川	姿勢の変換（立ち上がり）	立ち上がり動作の観察、分析を体験する ：教科書①pp. 115-120		
10	草川	歩行分析①（通常歩行）	通常歩行動作の観察、分析を体験する ：教科書②pp. 379-404、配布資料		
11	草川	歩行分析②（応用歩行）	応用歩行動作の観察、分析を体験する ：教科書②pp. 379-404、配布資料		
12	草川	手の動作（把握・非把握の様式）	手における把握・非把握の様式について学習する ：教科書①pp. 133-144		
13	草川	手の動作（母指の使用様式）	母指の使用様式について、模型作りを通して学習する ：教科書①pp. 41-50		
14	草川	上肢の動作（スプーン使用時の動作分析①）	スプーン使用時の動作の観察、分析を体験する ：教科書①pp. 145-150		
15	草川	上肢の動作（スプーン使用時の動作分析②）	スプーン使用時の動作の観察、分析を体験する ：教科書①pp. 145-150		
成績評価の方法・基準（100%）					
参加貢献度	レポート	口頭試問			
10	80	10			
グループでの課題への取り組み・準備（10%）、毎回のレポート（80%）、口頭試問（第12・13回分レポートの代わり）（10%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解するようにし、実習当日の説明の際、不明な点について質問できるようにしておいてください（30分程度）。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかるようにしてください（1時間程度）。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポートは、講義の中で後日返却します。					
教科書					
①「PT・OT学生のための運動学実習」 鎌倉 矩子・田中 繁 編 三輪書店（1994年） ②「基礎運動学」 中村 隆一 他 著 医歯薬出版（2003年）					
参考図書					
講義において紹介します。					
備考：履修者への要望					
グループで実習しますので、各自がグループ内の役割を遂行し、有意義な実習が行えるよう努めてください。レポートは提出期限を守って提出し、提出前に担当教員に質問に行く等、積極的に取り組みましょう。ほとんどの実習において水着を着用します。準備を忘れないで下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間発達学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
授業概要					
人間発達学とは、生まれる前の受胎時から始まり、出生後も生涯を通してどのように成熟し、そして老いて行くかを学ぶ学問である。つまり、人の成育過程を順序正しく理解し、しかもその過程には人それぞれに個性が現れることを加味しなければならない。患者一人一人の特性に根差した医療を行うための、身体・運動・心理を含めた基本的な発達段階とその特性を中心に講義を進める。					
授業到達目標					
①胎児期・新生児期の標準的発達を理解し、その特徴を説明できる。また、この時期の代表的障害について説明できる。 ②幼児期から思春期までの発達段階を理解し、この時期の代表的障害について説明できる。 ③成年期以降から老年期にいたるまでの成熟段階を理解し、説明できる。また、発達学的評価について説明できる。					
授業形態					
講義	プリントとスライドを中心に講義する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2.障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3.臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	総論および発達の診方	生理・運動・感覚機能における人の発達過程と、それに及ぼす遺伝的・環境的要因の役割について学ぶ。		
2	杉山	胎児期の発達	妊娠の各時期における器官形成を習得し、染色体異常や環境因子がおよぼす胎児疾患を学ぶ。		
3	杉山	奇形症候群	奇形症候群の要因を理解し、その予後・対策を学ぶ。		
4	杉山	新生児期の生理学的変化 (1)	出生前後における新生児の生理学的変化を呼吸器系、循環器系について学ぶ。		
5	杉山	新生児期の生理学的変化 (2)	新生児の生理学的変化を、ビリルビン代謝、血液系などについて学ぶ。		
6	杉山	未熟児・新生児の障害とその予後	低酸素性脳症など、未熟児・新生児の特有な疾患、障害について学ぶ。		
7	杉山	乳児期の発達および原始反射	乳児期の成長、運動、認知、言語および社会的発達の特徴とその評価法を学ぶ。また、種々の原始反射の評価法を習得する。		
8	杉山	乳児期の成長発達障害	乳児期に見られる成長、発達障害を習得し、それぞれの評価法、対策を話し合う。		
9	杉山	乳児期における神経、筋の発達とその障害	乳児期の神経系の発達と、この時期の代表的神経疾患、筋疾患について習得し、早期対策を学ぶ。		
10	杉山	言語発達とその障害	自閉症を含めた言語的発達とその障害について学ぶ。		
11	杉山	学童期の発達とその障害	学童期の発達と、発達性障害を含めた学童期の発達障害を学ぶ。		
12	杉山	思春期の発達とその障害	二次性徴を含めた思春期の発達とその障害を学ぶ		
13	杉山	老年期の問題点	老年期の身体的特徴と評価法を学ぶ。		
14	杉山	認知症、廃用症候群	認知症や骨折、廃用症候群など、老年期特有の疾患について学ぶ。		
15	杉山	まとめ	講義1～14のまとめ		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト				
80	20				
期末試験 (80%)、確認小テスト (20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各自、興味のあるところや疑問点などは積極的に参考書、教科書などで調べてる習慣を付けるとよい。自分で学習して少しでも馴染みのあるものが授業にあれば、知識習得は絶対的によくなり、しかも応用が可能となる。講義の予習、復習には1時間ほど当てる。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
各授業の初めに簡単な復習をする。また、小テストにおける問題点を解説する。					
教科書					
特に指定しない。自習等で必要な場合は、下記参考書ならびに関連図書が図書室に所蔵されており、参照のこと。					
参考図書					
奈良 勲、他 (シリーズ監修) . 標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 人間発達学 (第2版) . 医学書院、2017					
備考：履修者への要望					
講義の予習と、特に復習の習慣を付けるよう、努めること。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
一般臨床医学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
舟橋 啓臣					
授業概要					
医療人は様々な臨床医学の知識が求められるものの、理解することは容易ではない。ここでは、病理学・病態学的な見地から、臨床医学の基礎を学ぶ。すなわち、各種臓器疾患の病態を、解剖学・生理学と結びつけて学習することで理解をしやすいとする。					
授業到達目標					
①驚くほど多彩で高度な生体の各種機能を理解できる。 ②各種臓器の疾患における、症候と病態が説明できる。					
講義 パワーポイントによるスライド、講義ごとに配布するプリントを用いる。					
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	舟橋	生体の不思議、細胞傷害・循環傷害	細胞膜の不思議な機能（ホメオスタシス、体液・電解質など）。萎縮・肥大・壊死・アポトーシスなどの細胞傷害と、浮腫・充血・うっ血・梗塞などの循環傷害について学ぶ		
2	舟橋	炎症、免疫・アレルギー、移植	炎症とはおよびその原因、急性炎症と慢性炎症、炎症の終息。免疫系の概要・アレルギーとは、自己免疫疾患・移植免疫などのついて学ぶ		
3	舟橋	腫瘍学	腫瘍とは、腫瘍の形態学的特徴、腫瘍の分類・増殖・発生のメカニズムなどについて学ぶ		
4	舟橋	各種臓器の代表的疾患と病態その①循環器および呼吸器	心臓および呼吸器について解剖と生理を復習し、疾患における症候と病態を学ぶ		
5	舟橋	その②消化管、肝・胆・膵および腎泌尿器	食道・胃・小腸・大腸などの消化管および肝臓・胆嚢・膵臓の解剖と生理を復習し、疾患の症候と病態を学ぶ。腎・泌尿器の解剖と生理を復習し、症候と病態を学ぶ		
6	舟橋	その③内分泌および神経運動器	副腎などの内分泌臓器の解剖と生理を復習し、疾患の症候と病態を学ぶ。神経系や骨などの運動器の解剖と生理を復習し、疾患の症候と病態を学ぶ		
7	舟橋	先天異常・遺伝性疾患	メンデルの法則や遺伝子と染色体についての基礎的知識、および遺伝子病や染色体異常などの先天異常症について学ぶ		
8	舟橋	復習・まとめとテスト			
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト				
80	20				
筆記試験80%、小テスト20%					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 理解は出来なくても良いから教科書をざっと目を通しておくと、興味をもって講義の望むことができる。(約30分) (復習) 復習にはプリントを参考に時間をかけ、暗記するのではなく理解できるよう努力すること。(約1時間)					
試験の後に、正しい回答例を掲示する。					
教科書					
はじめの一步の「イラスト病理学」 羊土社					
参考図書					
「病態・疾患学」 羊土社、「ヒューマンボディ」 エルゼビア・ジャパン社					
備考：履修者への要望					
解剖学、生理学は入学直後からの授業であり、高校では経験していない基礎的学問のため苦手意識を抱き、理解が困難と感じる学生が少なくない。これらは単独の学問ではなく臨床医学に取り組むための必須の基礎的知識であり、習得していないと臨床医学を理解することが困難となる。ここでは、できる限りそれら基礎と臨床を結びつけて説明し、各々の学問の繋がりと重要性を感じてもらいたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
公衆衛生学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
石川 清					
授業概要					
公衆衛生学とは個人の努力や社会の組織的な力を通して、病気を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的健康を増進するための学問である。この授業では医療人として必要となる公衆衛生の基本的な知識を習得するだけでなく、人の健康課題、健康管理、保健福祉活動など、人の健康を取り巻く様々な問題を学習する。					
授業到達目標					
①主たる保健統計（人口、出生、死亡統計など）を説明できる。 ②疾病予防と健康管理について説明できる。 ③主な疾病についてその予防法について説明できる。 ④環境保健（環境汚染、環境問題）について説明できる。 ⑤保健行政（母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健）について説明できる。 ⑥わが国の保健医療福祉制度について説明できる。 ⑦われわれを取り巻く健康課題について説明できる。					
授業形態					
講義	スライドとプリントを用いた講義、およびグループ学習と発表				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石川	はじめに	担当教員の自己紹介、医療人としての心構え、医療人に求められる資質などについて学ぶ。		
2	石川	公衆衛生とは	医療人として必要な公衆衛生の知識、公衆衛生と健康の概念について学ぶ。		
3	石川	保健統計と疫学の基礎	人口、出生、死亡統計など、公衆衛生の基本である疫学（人間集団における疾病の分布とその発生原因を研究する学問）の基礎について学ぶ。		
4	石川	疫病予防と健康管理	予防医学、健康管理、健康増進、健康日本21などについて学ぶ。		
5	石川	主な疾病の予防-感染症	感染症の予防対策一般、予防接種、最近の感染症事情などについて学ぶ。		
6	石川	主な疾病の予防-内部疾患	がん、メタボリック症候群、心疾患などの予防対策について学ぶ。		
7	石川	環境保健	環境汚染、物理的環境因子、化学的環境因子、環境問題などについて学ぶ。		
8	石川	地域保健と保健行政	地域保健活動、保健行政の全般について学ぶ。		
9	石川	保健行政の各論（1）	母子保健、学校保健、産業保健などについて学ぶ。		
10	石川	保健行政の各論（2）	高齢者保健、精神保健などについて学ぶ。		
11	石川	保健医療福祉と関係法規	保健医療福祉制度と関係法規などについて学ぶ。		
12	石川	われわれを取り巻く健康課題	グループ学習：われわれを取り巻く健康課題について考える。		
13	石川	われわれを取り巻く健康課題	グループ学習：われわれを取り巻く健康課題について考える。		
14	石川	われわれを取り巻く健康課題	グループ学習：われわれを取り巻く健康課題について考える。		
15	石川	まとめと試験	これまでの講義内容のまとめを説明し、試験を実施する。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	グループ学習	レポート			
50	30	20			
筆記試験（50）、グループ学習（20）、レポート（20）合わせて60に達しない場合は再試験・再レポートを行う。授業態度良はプラス10、不良はマイナス10とする。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1回の講義について2時間程度の予習・復習を行うこと。重要テーマについてはレポートの提出を行うこと。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
提出したレポートについては授業の中で返却する。					
教科書					
「シンプル衛生公衆衛生学」 鈴木庄亮（監修）（南江堂）					
参考図書					
「シンプル衛生公衆衛生学」 鈴木庄亮（監修）（南江堂）					
備考：履修者への要望					
医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な公衆衛生学についての知識を習得してください。社会人、組織人、医療人としての自覚をもって行動してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床心理学	理学療法専攻 作業療法専攻	2 前期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
山田 ゆかり					
授業概要					
臨床心理学は、心の働きが円滑にいかなくなり、何らかの病的なあるいは不適応な状態に陥った人々に対し、心理学の知識と技術を用いて行う専門的援助の学である。この授業では、臨床心理学の役割、心理学的問題の分類と対応、ストレスとストレスマネジメント、心理的問題のアセスメント、心理療法とカウンセリングなどについて解説する。					
授業到達目標					
理学療法士・作業療法士として日常の業務の中で関わることになる援助の対象者の心理を理解し、心理的適応を促進することが出来るようになることを目標とし、心理臨床的態度の形成を目指す。					
授業形態					
講義	講義方式および演習を行う				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心をもつる。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	臨床心理学の役割と領域	臨床心理学の役割と実践されている領域について知り、適応の概念と心理臨床的態度について学修する ：配付資料No.1 教科書第4章第3節、第5章第1・2節		
2	山田	環境への適応過程	行動の原動力としての欲求とフラストレーション、防衛機制、フラストレーションなどについて説明し、環境への適応過程について学修する ：配付資料No.1 教科書第2章 参考図書12章1、2		
3	山田	心理的問題の分類と対応 (1) 神経症的障がい 統合失調症	神経症的障がいの特徴、分類、対応の留意点及び統合失調症の特徴、予後と対応の留意点について学修する ：配付資料No.2 教科書第2章 参考図書12章2 教科書5章3		
4	山田	心理的問題の分類と対応 (2) 気分障がい 物質関連障がい	うつ病や双極性障がいなど気分障がい、及び物質関連障がいについてそれらの特徴と対応の留意点について学修する ：配付資料No.3 教科書第2章 参考図書12章2		
5	山田	心理的問題の分類と対応 (3) 認知症 発達障がい	認知症自閉症スペクトラム障害/自閉スペクトラム症、パーソナリティ・ディスオーダーなど発達の障がいについて、それらの特徴と対応の留意点について学修する ：配付資料No.4 参考図書12章2、6章3、8章3		
6	山田	現代社会とストレス	日常的にみられるストレスとストレスの理論、ストレス反応への対処について学修する ：配付資料No.5 教科書第2章		
7	山田	ストレスの仕組みと ストレスマネジメント	ライフサイクルにおけるストレスの諸相とそれらに対するストレスマネジメントについて学修する ：配付資料No.6 教科書第3章		
8	山田	心理アセスメント (1) 意義 種類 知能・発達検査	心理アセスメントの意義と方法について学修する。知能検査・発達検査の種類と特徴について学修する ：配付資料No.7 教科書第6章第1節 参考図書6章2		
9	山田	心理アセスメント (2) 質問紙法	質問紙法の特徴と主要検査について学修する YG性格検査を体験し、自己分析を行う ：配付資料No.7 教科書第6章第1節 参考図書6章2、12章2		
10	山田	心理アセスメント (3) 投影法	作業検査法・投影法の特徴と主要検査について学修する 描画法を体験し、自己分析を行う ：配付資料No.7 教科書第6章第1節 参考図書6章2		
11	山田	カウンセリングの基礎	カウンセリングとは何か、基本的な枠組や心構えについて学修する ：配付資料No.7 教科書第6章第2節 参考図書13章		
12	山田	カウンセリングの実践 (1) 問題の理解	カウンセリングにおける問題理解、パーソナリティが変化する要因、傾聴の基本的技法について学修する ：配付資料No.7 教科書第6章第2節 参考図書13章		
13	山田	カウンセリングの実践 (2) 事例検討	さまざまなカウンセリング場面における実際のやりとりの分析について演習を通して学修する ：配付資料No.7		
14	山田	各種心理療法 (1) 精神分析 行動療法	精神分析と行動療法について、その特徴を学修する ：配付資料No.8 教科書第6章		
15	山田	各種心理療法 (2) 遊戯療法 グループセラピーほか	遊戯療法、グループセラピー、認知行動療法について、その特徴を学修する ：配付資料No.8		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
筆記試験 (80%)、心理アセスメント等の小レポート (20%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業計画の各回に提示した内容に従って、事前に自ら下調べをしたり、授業で学習した内容についてまとめ、復習をすることで理解を深める。準備学習に必要な時間は、1回あたり30分～60分程度。また、分からないことについても自ら積極的に調べるとともに、担当教員に質問し確認する。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
毎回の小レポートや課題については、次回の授業で解説のコメントを述べる。試験については、正答率の低い課題を中心に解説を提示する。					
教科書					
「ストレス社会とメンタルヘルス」 片山和男 (他) 樹村房					
参考図書					
「ベーシック心理学 第2版」 二宮克美 (他) 医歯薬出版 (「心の理解」テキスト)					
備考：履修者への要望					
毎回の授業で、講義ノート・ワークブックを兼ねた資料 (プリント) を配布するので、十分活用してください。将来、患者さんや対人援助サービスの利用者として適切なコミュニケーションをもち、心理的問題への援助をするための基礎的な資質、カウンセリングの素養を身につけることができるように、授業に臨んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内科学	理学療法専攻 作業療法専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
授業概要					
高齢化が進む中、在宅・地域リハビリテーションへの社会的ニーズはますます高くなり、それに対して適確な医療知識や技能の習得が求められる。内科学は疾病の成因・病態を考える上で基本骨格をなすものであり、解剖学や生理・生化学などの基礎医学を土台にした臨床内科学への十分な理解を目的とする。					
授業到達目標					
①医療人として患者（と家族）に対する関心と敬意を持つことを身に付ける。 ②基礎的医学知識に根ざした各疾患への診療法、対処法を修得する。 ③高齢化社会における疾病構造の変化を理解し、それに対応するリハビリテーション学を議論できる。					
授業形態					
講義	スライド、プリントを中心とした講義				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	総論	問診、診察法、検査、診断の進め方など（1、2章）		
2	杉山	症候学	主要な症候と疾患病態との関連について（3章）		
3	杉山	循環器系疾患-総論	循環器系疾患の生理と徴候、その総論（4章）		
4	杉山	循環器系疾患-各論	高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など（4章）		
5	杉山	呼吸器系疾患-総論	呼吸器系の解剖・生理機能、その総論（5章）		
6	杉山	呼吸器系疾患-各論	COPDなど閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺炎など（5章）		
7	杉山	消化管疾患	消化管の解剖と機能、代表的消化管疾患（6章）		
8	杉山	肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵の働きと代表的疾患（7章）		
9	杉山	《中間のまとめ》	第1回～8回講義のまとめ		
10	杉山	代謝疾患	メタボリック症候群、糖尿病など（9章）		
11	杉山	内分泌疾患	内分泌腺の種類・機能と代表的ホルモン異常症（10章）		
12	杉山	血液・造血器疾患	血液成分と機能、および代表的血液疾患（8章）		
13	杉山	腎・泌尿器疾患	腎疾患の病態生理とその代表的疾患（11章）		
14	杉山	免疫疾患、アレルギー疾患	免疫系の基礎知識とその代表的疾患（12章）		
15	杉山	感染症	代表的な感染症とその予防対策および日和見感染など（13章）		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	中間のまとめ	参加貢献度			
50	40	10			
筆記試験（中間のまとめ＋期末試験＝90%）、授業への参加貢献度（10%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
日頃からテレビ、ラジオ、新聞などの医学情報に接する機会が多く、直ぐに役立つ実践的内容も少なくない。理学療法士、作業療法士をめざす者は積極的に医学情報に関心を持ち、疑問点はテキストなどで確認してみるなど、自己学習の習慣を身に付ける。 また、各講義の予習、復習を1時間程度行う。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
各講義のはじめに復習コーナーを設ける。講義に対しては、毎回各自予習、復習に1時間ほど当てる。					
教科書					
「標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 内科学」奈良 勲他（監修）（医学書院）					
参考図書					
多数の図書館内蔵書					
備考：履修者への要望					
患者ケアをより充実させるために、内科学にとどまらず、医療に関する社会の動向をも注視し、より親身な診療を目指す気構えを持つ。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
整形外科学	理学療法専攻 作業療法専攻	2 前期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
山田 正人					
授業概要					
整形外科疾患は骨・関節疾患、神経・筋疾患、外傷、腫瘍等、多岐にわたる。又、年齢的な面では先天性、小児、加齢による疾患まで、その対象となる年齢の幅も広い。 臨床実習において患者と接する際に必要となる主な疾患の原因・症状・診断・治療等について学び、専門知識を習得する。					
授業到達目標					
一般病院・整形外科・リハビリテーション専門病院・介護老人保健・福祉施設等の医療機関に理学療法士・作業療法士として従事する際の必要最小限の知識を得ることを目標とする。 基礎医学で学んだ骨・関節・神経・筋・血管・運動機能作用等のメカニズムを考えながら、各疾患を理解する。又、機能障害を来した患者の原因疾患の治療だけに関与するのではなく、精神作用を持った人と接する事を常に念頭に置き、医学・医療の原点・理念を学ぶ。					
授業形態					
講義	講義形式を中心にプリント配付し行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	骨の構造・発生・成長と病態生理	教科書 序章 第I編 第1章～第4章		
2	山田	関節の構造と病態整理	第I編 第5章～第7章		
3	山田	筋・神経の構造と機能	第I編 第8章～第9章		
4	山田	整形外科診療の基本	第II編 第10章～第12章		
5	山田	各種検査法	第II編 第13章		
6	山田	保存的治療と手術的治療	第III編 第14章～第15章		
7	山田	軟部組織・骨・関節の感染症	第IV編 第16章		
8	山田	関節リウマチとその類縁疾患	第IV編 第17章		
9	山田	慢性関節疾患	第IV編 第18章		
10	山田	四肢循環障害と阻血壊死性疾患	第IV編 第19章		
11	山田	先天性骨系統疾患・先天異常症候群	第IV編 第20章～第22章		
12	山田	骨腫瘍・軟部腫瘍	第IV編 第23章～第24章		
13	山田	神経疾患・筋疾患	第IV編 第25章		
14	山田	総論まとめ	総論でのポイントを復習する。		
15	山田		中間試験(総論)・小論文		
16	山田	肩関節・肘関節・手関節・手の疾患	第V編 第26章～第28章		
17	山田	頸椎疾患	第V編 第29章		
18	山田	胸郭・胸・腰椎疾患	第V編 第30章～第31章		
19	山田	股関節疾患	第V編 第32章		
20	山田	膝関節疾患	第V編 第33章		
21	山田	足関節・足の疾患	第V編 第34章		
22	山田	外傷総論	第VI編 第35章～第36章		
23	山田	上肢の外傷	第VI編 第37章		
24	山田	股関節の外傷	第VI編 第37章		

25	山田	膝関節の外傷	第VI編 第37章
26	山田	下腿・足部の外傷	第VI編 第37章
27	山田	脊椎・脊髄損傷	第VI編 第38章
28	山田	末梢神経損傷	第VI編 第39章
29	山田	スポーツ外傷・障害 切断・義肢・装具	第VII編 第40章～第41章 第VIII編 第42章～第43章
30	山田	各論まとめ	各論でのポイントを復習する。
成績評価の方法・基準（100%）			
筆記試験	小論文		
80	20		
筆記試験（80%）、小論文（20%） 試験は、総論と各論の2分野を2回に分けて実施する。			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習・復習に努め、講義での紹介図書・配布資料を活用し、学習を深め理解し、確実な知識を身につける。 1回の講義ついて2時間程度の予習・復習を行うこと。			
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法			
試験の結果は後日、講義の中で返却します。			
教科書			
「標準整形外科学」第12版 総編集 松野丈夫・中村利考 医学書院			
参考図書			
「イラストでわかる整形外科診療」 久保俊一・内尾祐司 編集 文光堂 資料配布			
備考：履修者への要望			
購入した教科書の内容は詳細にわたっているため、その全部を理解する必要はない。 講義をしっかりと聴いて、学生の時に知っておくべき内容のポイントをしっかりと学ぶ。			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
神経学	理学療法学専攻 作業療法学専攻	2 前期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
伊藤 宗之					
授業概要					
<p>神経内科を学ぶ基礎として総論の部が設けられている。解剖、生理、薬理、遺伝、免疫である。症候論の部では意識、高次脳、脳神経、運動、感覚、自律神経、反射を扱う。検査技術では画像、電気生理など。さて本論としての神経疾患各論では脳血管、変性疾患、脱髄、末梢神経、筋疾患、脳腫瘍、脊髄、感染疾患、先天異常、脳性麻痺、認知症と続く。具体的な病名としては脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、脳膜（脳）炎、エイズ脳症、クロイツ・ヤコブ病、パーキンソン病、ハンチントン舞踏病、脳性麻痺、アルツハイマー型-、血管性認知症、レビー小体病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー等を学ぶ。</p>					
授業到達目標					
<p>リハビリテーションの分野で研究、治療に従事するさい、必要と思われる神経科学の最近の知見は仮説の段階でも吸収する。一方、神経病学の19世紀の業績で現在では症例が多くない疾患でも、歴史的な固有名詞を冠した病名は重要である。教科書に掲載されている病名は受講中に一度は語んじて系統別に書けるようになる。難解な神経回路理論に遭遇するのは小脳理論と大脳基底核回路であろう。臆することなかれ。十分、本教科書を読みください。そのあとで、特にこの二つの話題は図書館で数種の教科書を比べてみよう。目から鱗の筈。</p>					
授業形態					
講義	教科書とプリントに沿った授業、前後に復習、確認テスト				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	伊藤	総論：神経解剖学の基礎	神経系の起原は神経管と神経堤に遡ること、神経管からは膨らみで、終脳、間脳、中脳、橋、小脳、延髄、脊髄に分かれることと12対の脳神経の位置関係を覚える。神経の要素（ニューロン）は細胞体、樹状突起、軸索突起のこと、運動系と感覚系の基本回路を学ぶ。		
2	伊藤	総論：神経生理学の基礎	神経線維の有髄/無髄、直径、伝導速度、二つの分類法（A, B, C vs I, II, III, IV）。ニューロンに起こる電位には伝導法則に従う活動電位と局所電流に終わるシナプス電位のあること。シナプス電位には興奮性と抑制性の二種があること。		
3	伊藤	総論：神経薬理学の基礎	神経連鎖の繋ぎ目のシナプスは「渡し船」の軸索突起の末端と「岸辺」の樹状突起にある受容体と末端からの化学伝達物質と受容体の組み合わせによりシナプス電位の興奮/抑制が決まる。		
4	伊藤	総論：分子遺伝学と神経免疫学の基礎	遺伝子を構成単位であるヌクレオチドの塩基、糖、りん酸の三つの要素を確認する。そのまた三つの集まりが一つのアミノ酸を決定する。塩基には4種あるので4×4×4=64の組み合わせがある。		
5	伊藤	総論：神経系の発達と加齢	人間発達学での乳幼児の反射の発達の復習。加齢による機能変化。		
6	伊藤	神経診断学：病歴 意識障害	一般的な病歴の取り方。神経系の系統的な診察。意識障害のグレード。除皮質硬直、除脳硬直、ロックドイン症候など、特殊な意識障害。		
7	伊藤	神経診断学：高次脳機能 I	言語中枢と優位脳。失行の種類と左右差。なかでも失行では観念運動失行と観念失行の区別が大事。		
8	伊藤	神経診断学：高次脳機能 II	失認の種類と左右差。なかでも失認では半側空間無視が左側性にのみ起こることが大事。		
9	伊藤	神経診断学：脳神経	視覚路の障害部位と視野欠損。動眼、滑車、外転神経の外眼筋支配と眼球回転方向。共同性眼球運動における内側縦束の役割。顔面神経障害の末梢性/中枢性の区別。下位脳幹障害の球麻痺/仮性球麻痺と構音・嚥下症状。		
10	伊藤	神経診断学：運動系	上位運動ニューロンと下位運動ニューロンは運動系のメインストリートで錐体路と呼ぶ。今回の教科書では錐体外路を小脳と大脳基底核からそれぞれ上位運動ニューロンの「諮問委員会」とみる立場をとる。それぞれが如何に大脳出力を調整しているかを学ぶ。		
11	伊藤	神経診断学：感覚系	体性感覚系の信号は、末梢の感覚器から大脳まで3個の上行ニューロンを乗り換えて伝わる。体幹/四肢の深部感覚と触覚を伝える脊髄後索系と、温痛覚を伝える外側脊髄視路の2経路がある。頭部の感覚も深部感覚と表在感覚で別経路をとる。これが感覚解離の原因となる。		
12	伊藤	神経診断学：画像診断	X線CT、MRIの基本原理と透過度と信号強度が如何に画像に反映されるかを学ぶ。脳梗塞と脳出血のそれぞれの典型例をまず掴む。		
13	伊藤	神経診断学：電気生理など	表面筋電図と針筋電図を学ぶ。正常筋電図と病的筋電図を学ぶ。脳波記録法を学ぶ。		
14	伊藤	脳血管障害：分類・脳循環	分類は臨床病型に拠って脳卒中の下に脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などを置き、脳梗塞はさらに血栓性、塞栓性、血行力学性に分ける。内頸動脈は前大脳動脈、中大脳動脈に分かれ、椎骨動脈は後大脳動脈となって脳全体の循環を分担する。特に大脳皮質での区分が大事。		
15	伊藤	脳血管障害：脳出血、くも膜下出血	脳出血の好発部位。部位別の臨床症状。くも膜下出血の好発部位と治療。		
16	伊藤	脳血管障害：脳梗塞I	脳梗塞の発生機序による分類。脳梗塞の臨床病型による分類。脳梗塞の血管別の症候。		
17	伊藤	脳血管障害：脳梗塞II	脳梗塞の画像所見。組織プラスミノーゲン活性化因子による治療。脳梗塞の臨床病型別の再発予防策。		

18	伊藤	変性疾患：大脳基底核障害Ⅰ	p.17の概略図、p.163の詳細図をゆっくり読んでくる。新線条体細胞膜にあるD1、D2レセプターの違いに従い、基底核内に直接路、間接路が生じる。パーキンソン病とパーキンソン症候群の相違。パーキンソン症候に静止振戦を伴う場合と伴わない場合。歯車様と鉛管様現象。
19	伊藤	変性疾患：大脳基底核障害Ⅱ	ハンチントン病を中心に不随意運動を示す疾患。まず、CGAトリプレット異常伸長と表現促進現象のこと。その他にアテトーゼ、ジストニア、バリズムにふれる。
20	伊藤	変性疾患：脊髄小脳変性症	非遺伝性と遺伝性とに分けて考える。萎縮が小脳皮質に限局するもの脳幹にも及ぶもの、遺伝性ものは旧来の病名と遺伝子型の対応を理解。
21	伊藤	変性疾患：運動ニューロン疾患	筋萎縮性側索硬化症を”脳脊髄性筋萎縮症”として捕らえる。症状が多岐に亘るので、症状の出ない機能（感覚、自律機能）の方を覚えるべきと言う位。
22	伊藤	脱髄疾患	中枢内の脱髄疾患、多発性硬化症とその類縁疾患には多くは自己免疫疾患であること。急性散在性脳脊髄炎では麻疹との関連に注意する。
23	伊藤	末梢神経障害	ギランバレー症候群は末梢での代表的脱髄性疾患、古典的なシャルコー・マリー・トゥース病は遺伝性変性、糖尿病性障害は血管、栄養障害等と多岐の原因を学ぶ。
24	伊藤	筋疾患・神経筋結合部疾患	進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー、重症筋無力症を扱い、進行性筋ジストロフィーではデュシェンヌ型、肢帯型、顔面肩甲上腕型、先天性、遠位型について学ぶ。それぞれ遺伝形式が異なるので注意する。
25	伊藤	脳腫瘍・脊髄疾患	脳腫瘍では病名に”芽”の付くものは悪性度高い。変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の好発部位を学ぶ。脊髄病変の高位診断のさい、頭髄と腰髄では神経根の椎管内の走行方向の勾配の差に留意。
26	伊藤	感染性疾患	脳の伝染病を髄膜炎、脳炎、神経梅毒に分けて学ぶ。プリオン、ウイルス、真菌、細菌、原虫を区別する。急性、亜急性、慢性的経過を区別する。
27	伊藤	先天異常・脳性麻痺・代謝疾患	先天異常は単遺伝子疾患、染色体異常、多因子遺伝疾患、環境/外因によるものに分ける。脳性麻痺には痙直型、アテトーゼ型の2大分類に加え、固縮型、失調型、振戦型、無緊張型がある。代謝疾患で神経学的に重要なのは糖尿病、甲状腺疾患、膠原病、神経ペーチェット病。
28	伊藤	外傷・自律神経疾患・機能的疾患	頭部外傷は頭蓋損傷、局所脳損傷、びまん性脳損傷に分類される。びまん性脳損傷は新しい概念で重要。自律神経疾患として独立する疾患は純粋自律神経不全症くらいか。症状名としては古くから知られた、緊張性瞳孔、ホルネル症候群、起立性低血圧、アディー症候群など。
29	伊藤	認知症疾患：総論	顕微鏡でみたアルツハイマー型認知症の脳の構造変化と生化学機序を学ぶ、認知症の症状を中核症状と周辺症状に分けて学ぶ、診断基準について学ぶ
30	伊藤	認知症疾患：各論	血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症がアルハイマー病と並んでメージャー。その他、認知症を現れる疾患に進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、ハンチントン病、特発性正常圧水頭症。
成績評価の方法・基準（100%）			
筆記試験	確認小テスト		
90	10		
筆記試験（90%）、確認小テスト（10%）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
シラバスは2回/週ごとに、教科書の約20ページの範囲に相当。毎週、最低1時間は教科書を読んで来る。			
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法			
授業後の確認小テストは次週、授業開始前に点数を掲示する。			
教科書			
「神経内科学テキスト」 編集：江藤文夫/飯島節（南江堂）			
参考図書			
「リハビリテーションのための神経内科学」 安藤 一也・杉村 公也（医歯薬出版） 「標準神経病学」 水野 三邦 監修（医学書院）			
備考：履修者への要望			
居眠りは船を漕ぐ程度にすること、うつ伏せは厳禁			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神医学	理学療法専攻 作業療法専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
高田 知二 ・ KANG MICHAEL ・ 水野 峻太郎 ・ 百々 昌紀 ・ 早稲田 紘士					
授業概要					
こころと身体の結びつき、これが医療において強調されるようになるに伴い、全人的医療、心身相関、bio-psycho-socialといった言葉をよく耳にするようになった。しかし、その意味するところを理解し、実践することは簡単ではない。授業では、精神医学の理解を通して、こういったことを考えてみたい。というも、精神疾患について学ぶ中で心身を病んだ患者の心を理解していくことが、理学療法や作業療法を学び、実践していくための礎となると考えるからである。					
授業到達目標					
精神症状を理解し、そこから各種精神疾患について説明することができる。そういった精神疾患を病む患者の心を踏まえ、理学療法や作業療法の実践のあり方を論じることができる。					
授業形態					
講義	授業では、多くの症例を紹介したい。理解度を確認するために適宜質問を行うので、積極的に発言してほしい。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田	精神医学概論 「精神医学とは」について	精神医学の定義、精神障害の概念と歴史を学ぶ 教科書 第1章 (P. 2～)		
2	高田	精神障害概論 「精神障害の成因と分類」・「ライフサイクルにおける精神医学」について	精神障害の成因と分類を学ぶ ライフサイクル毎の精神障害の特徴を知る 教科書 第2章 (P. 11～) 第18章 (P. 213～)		
3	水野	統合失調症 「統合失調症およびその関連障害」について	統合失調症の疫学・症状・病型などを学ぶ 教科書 第9章 (P. 125～)		
4	水野	気分障害 「気分(感情)障害」について	うつ病、躁うつ病を詳細に知る 教科書 第10章 (P. 147～)		
5	高田	精神障害総論：精神症状 「精神機能の障害と精神症状」について	感情・記憶などの精神機能の障害とその症状 教科書 第3章 (P.16～)		
6	高田	精神障害総論：診断と評価「精神障害の診断と評価」について	精神障害の診断方法と評価法を学ぶ 教科書 第4章 (P. 46～)		
7	マイケル	脳器質性精神障害	認知症、アルツハイマー、パーキンソンなどに代表される 脳器質性疾患について学ぶ 教科書 第5章 (P. 68～)		
8	マイケル	てんかん	てんかんの定義・予後・治療法などを知る 教科書 第8章 (P. 114～)		
9	百々	症状性・精神作用物質誘発性精神障害	二次的な精神障害を詳しく知る 種々の薬物やアルコールによる精神障害の詳細 教科書 第6章 (P. 94～) 第7章 (P. 100～)		
10	百々	神経症性精神障害	不安や恐怖・ストレスなどの神経症性障害について学ぶ 教科書 第11章 (P. 162～)		
11	早稲田	生理的・身体的要因に関連した障害、パーソナリティ障害	摂食障害、睡眠障害などについて詳しく知る 成人のパーソナリティ障害の定義と概要を知る 教科書 第12章 (P. 174～)、第13章 (P. 179～)		
12	早稲田	精神遅滞、心理的発達の障害	いわゆる知的障害や発達障害について学ぶ 教科書 第14章 (P. 186～)、第15章 (P. 196～)		
13	高田	コンサルテーション・リエゾン精神医学、心身医学	コンサルテーション・リエゾン精神医学の定義とそれが必要になる場合を知る 心身医学の定義と診断について学ぶ 教科書 第16章 (P. 205～)、第17章 (P. 210～)		
14	高田	精神障害の治療	精神障害の治療方法とリハビリについて学ぶ 教科書 第19章 (P. 229～)		
15	高田	精神保健、福祉、メンタルヘルス	精神障害者に対する医療の歴史、福祉の現状と課題 社会生活におけるメンタルヘルスの現状と問題点を知る 教科書 第20章 (P. 252～)、第21章 (P.271～)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
90	10				
筆記試験 (90%)、参加貢献度 (10%) で、評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
予習では、講義する教科書の該当章を予め読んでおく。復習では、講義で強調された内容を確認し、講義内容をまとめる。1回の講義には、最低2時間の予習・復習が必要である。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
試験は返却するので、間違った問題は必ず復習をすること。					
教科書					
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」上野武治 編 (医学書院)					
参考図書					
必要なものは講義の中で紹介することにする。					
備考：履修者への要望					
分からないことは、遠慮なく、何でも質問をするようにして下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児科学	理学療法専攻 作業療法専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
杉山 成司					
授業概要					
先天異常や発達障害、運動機能障害を持つ子どもを支援するには、理学療法や作業療法は不可欠な医療であり、それはまた大きな威力を発揮する。その場合、患児、患者一人ひとりに見合った適切かつ細やかなケアが求められる。本講義では、出生前期から新生児、乳幼児、学童、思春期へとつながる小児医学一般について習得し、疾病の背景や家族を含めた援助について理解を深める。					
授業到達目標					
①小児疾患の特徴を説明できる。 ②出生前から思春期に至る成長、発達を理解する。 ③各発達段階での代表的疾患について説明できる。 ④小児予防医学、保健医学の重要性を説明できる。 ⑤家族を含めた疾病を有する子どもへの支援について議論できる。					
授業形態					
講義	スライド、プリントを使用した講義が中心				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/> 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
<input type="radio"/> 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
<input type="radio"/> 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉山	小児科学序論	小児および小児疾患の特徴、小児の診療法		
2	杉山	成長と発達、小児保健	成長・発達とその障害、我が国の小児統計資料		
3	杉山	先天異常、遺伝病	出生前医学、先天異常、遺伝カウンセリング		
4	杉山	新生児・未熟児	低出生体重児、脳性麻痺		
5	杉山	小児栄養、水・電解質	小児の栄養とその障害、水・電解質異常		
6	杉山	小児感染症（1）	小児の細菌性感染症		
7	杉山	小児感染症（2）	小児のウイルス性感染症、予防接種		
8	杉山	免疫・アレルギー疾患	自己免疫疾患、喘息、アトピー性皮膚炎		
9	杉山	循環器・呼吸器疾患	先天性心疾患、上・下気道感染症		
10	杉山	消化器系疾患	下痢・嘔吐を来す疾患、肝・胆道系疾患		
11	杉山	内分泌・代謝疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、糖尿病		
12	杉山	血液疾患	貧血、血小板減少症、白血病		
13	杉山	腎・泌尿器系疾患	腎炎、ネフローゼ、尿路感染症		
14	杉山	神経・筋疾患	中枢・末梢神経疾患、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー症		
15	杉山	小児事故・虐待	小児の事故、乳幼児突然死、被虐待児		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト				
80	20				
期末試験（80%）、小テスト（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
日常的に子どもに関係する報道は多く、関心を持つよう意識的に心掛け、現場での診療に役立たせる。講義については、予習・復習を毎回1時間ほど行う。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回、授業のはじめに復習を行う。また、小テストについてはテスト後に解説する。					
教科書					
「標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 小児科学」富田 豊編（医学書院）					
参考図書					
図書館内の多数の小児関連蔵書					
備考：履修者への要望					
不明な点は労を惜しまず他の医学書なども参考にして理解に務める。自己学習能力を高めることは将来大きな力となる。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療安全学・救急医学	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
石川 清					
授業概要					
<p>【医療安全学】 すべての医療施設に求められる最も重要なテーマは『患者安全と医療の質向上』である。医療人として患者安全の重要性を理解するとともに、それを守るための対処法について学ぶ。医療の現場で最も起こりやすい医療事故に対する『国際患者安全目標』について学ぶ。さらには、患者安全を守るために医療施設で取られている具体的な対応策についても学ぶ。</p> <p>【救急医学】 わが国の救急医療体制を知り、救急医療の諸問題について学ぶ。医療人として必要な応急処置法や心肺蘇生法についての知識・技術を学ぶ。災害医療については、大規模災害時に医療人として適切に行動できるように災害医療の知識について学ぶ。</p>					
授業到達目標					
<p>【医療安全学】 ①患者安全の重要性を説明できる。 ②国際患者安全目標について説明できる。 ③医療現場で実際にとられている患者安全対策について説明できる。</p> <p>【救急医学】 ①わが国の救急医療体制について説明できる。 ②救急医療における諸問題を説明できる。 ③医療人として必要な応急処置法、心肺蘇生法を実施できる。 ④大規模災害時に医療人として適切に行動できる。</p>					
授業形態					
講義	スライドとプリントを用いた講義、心肺蘇生法の講習				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石川	はじめに	医療安全学・救急医学の概要について学ぶ。医療人としての心構え、医療人に求められる資質について学ぶ。		
2	石川	患者安全と医療の質向上	医療施設に求められる最も重要なテーマである『患者安全と医療の質向上』について学習する。『患者安全と医療の質向上』を図るためにはどうすればよいのかなどについて学習する。		
3	石川	国際患者安全目標	医療の現場で最も起こりやすい医療事故（患者誤認、転倒転落、コミュニケーションエラーなど）に対する国際患者安全目標について学習する。		
4	石川	医療における有害事象	インシデントとアクシデント、医療事故、医療過誤などについて学習する。		
5	石川	救急医療	医療人として最低限必要な、救急医療における諸問題、わが国の救急医療体制などについて学習する。		
6	石川	応急処置法 (心肺蘇生法を含む)	医療人として必要な応急処置法、心肺蘇生法 BLS (Basic Life Support) について学ぶ。		
7	石川	災害医療	救急医療と災害医療の違いを学ぶ。大規模災害時に医療人として適切に行動できるように災害医療の知識について学ぶ。		
8	石川	講義まとめと試験	これまでの講義内容のまとめを説明し、試験を実施する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	レポート			
60	20	20			
筆記試験(60),小テスト(20),レポート(20)合わせて60に達しない場合は再試験・再レポートを行う。授業態度良はプラス10、不良はマイナス10とする。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1回の講義について2時間程度の予習・復習を行うこと。重要テーマについてはレポートの提出を行うこと。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
提出したレポートについては授業の中で返却する。					
教科書					
特になし					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
医療人としての道を選んだ初心を忘れずに、医療人として必要な医療安全学・救急医学についての知識を習得してください。社会人、組織人、医療人としての自覚をもって行動してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション概論	理学療法専攻 作業療法専攻	1 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
リハビリテーションの概念・理念・定義を理解した上で、日本における医学的リハビリテーションの展開を理学療法士、作業療法士の視点から学ぶ。基本的な内容としては、リハビリテーションの概念、健康の概念、障害の概念、人間の発達、リハビリテーション過程、リハビリテーションチーム、ADL、QOL、障がい者スポーツなどについて学習する。					
授業到達目標					
リハビリテーションについて、その理念、歴史、内容について理解し、説明することができる。 リハビリテーションの対象となる障害について、ICFの概念に基づいて理解し、説明することができる。 これから学ぶ理学療法学および作業療法学がリハビリテーションの中でどのような位置付けになっているかを理解し、それぞれの役割を説明することができる。					
授業形態					
講義	基本的に教科書を中心とした講義形式である。また、テーマによってグループに分かれて、図書室などを利用したアクティブ・ラーニングを展開する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	リハビリテーションと健康の概念 障がい者スポーツの世界	リハビリテーションの概念・理念・定義、健康と障害の概念を学ぶ 障がい者スポーツについて学ぶ		
2	鳥居				
3	鳥居	障害の理解	先に学習したICFの概念に基づいて、具体的な事例から障害の概念を考える		
4	鳥居				
5	鳥居	障害の心理的、社会的視点	障害の心理的、社会的側面を学ぶ		
6	鳥居				
7	鳥居	リハビリテーション過程と諸段階	リハビリテーションの過程と諸段階を学ぶ		
8	鳥居				
9	鳥居	リハビリテーションチーム	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチについて学ぶ		
10	鳥居				
11	鳥居	ADL、QOL、義肢装具	ADL、QOL、義肢装具について学ぶ		
12	鳥居				
13	鳥居	地域、高齢者とリハビリテーション	地域リハビリテーションおよび高齢者・健康対策を学ぶ		
14	鳥居				
15	鳥居	医療制度、関係法規	医療福祉制度、関係法規		
成績評価の方法・基準（100％）					
筆記試験	レポート				
90	10				
筆記試験（90％）、レポート課題（10％）で評価を行います。（課題レポートが提出され、それに合格しない場合には科目試験は受験できません。また、欠席や受講態度が悪い場合には、科目試験結果から減点します。受講態度、取り組みの姿勢、挨拶、返事、発言内容などについては、厳しく評価する予定です。不十分な者は、科目試験を受ける前に落第点になってしまう可能性も有りますので、しっかりと取り組みをしましょう。） 障がい者スポーツセンター関係のボランティア参加を義務付けます（年間1回程度）。詳細は講義にて説明します。リハビリテーションの延長としての障がい者スポーツにも関わる経験をしていただきます。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
リハビリテーションに関する関係書籍や、専門職種についての文献は多数有ります。教科書にとどまらず、関係成書を積極的に読んでください。また、課題レポートはそれらを参考に調べてもらいます。その際に図書室など積極的に利用するようにして下さい。（1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポート返却時にコメントする。					
教科書					
「リハビリテーション概論」 上好昭孝・田島文博 編著 永井書店					
参考図書					
関係成書					
備考：履修者への要望					
これから理学療法士、作業療法士を目指す者としての心構えをしっかりとった受講態度を求めます。また、社会人、医療人を目指す者として、相応しい取り組みを求めます。受講態度、取り組みの姿勢、挨拶、返事、発言内容などについては、厳しく評価する予定です。不十分な者は、科目試験を受ける前に落第点になってしまう可能性も有りますので、しっかりと取り組みをしましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション倫理	理学療法専攻 作業療法専攻	1・3 後期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
【1年次】 リハビリテーションを実施する上で様々な倫理的側面について考える必要がある。近年のリハビリテーションを取り巻く制度的変化は、施設内に留まらず、在宅におけるリハビリテーションの展開が多く望まれてきている。この在宅におけるリハビリテーションにおいては、自立した生活が困難な状況下で生活の質を考慮する必要性から、従事する医療職種に対して、改めて「命」の尊厳に関わる教育が必要である。また、リハビリテーションの最大のテーマである「障害」について、その解釈の変化や社会制度の変化について倫理的側面から考え、障害者を取り巻く環境や、リハビリテーション医療についての問題点を理解することを目的とする。また、間接的家族参加型授業を展開しています。毎回の課題を調べた上で、家庭でのディスカッションをした上で、多角的な視点で自身の考え方をまとめられることを目指すのも、本科目の目的と位置づけている。					
【3年次】 理学療法士や作業療法士は、リハビリテーションを実施する中で様々な倫理的側面について考える必要がある。単に施設内でのリハビリテーションの担い手として収まるのではなく、全人的な視点で対象者を見つめることができる能力を身につけた医療人をめざしたい。そこで、これまで学習した理学療法、作業療法の知識や、臨床実習での体験の上に、医療や福祉における様々な倫理的問題を検討し、それをどの様に解釈するか、また、その問題解決のために、医療や福祉はどうあるべきかを考えることがこの講義の目的となる。					
授業到達目標					
【1年次】人間の生命と死について考え、医学的背景から検討し医療人としての基礎的な知識と倫理観を身につける。 【3年次】リハビリテーションを取り巻く医療や福祉の中での倫理的な問題点を具体的に検証し、それに対する自分の見解を確立し実際の医療現場での態度を身につける。					
授業形態					
講義	講義を含めたグループワーク形式のアクティブ・ラーニングを実施する また、間接的家族参加型授業として、家庭での課題作成を実施する(1年次)				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	講義で学ぶこと	医療人として倫理的感性を再認識死、生命の尊厳について考える		
2	鳥居	命の連鎖・命の意味	命は個人のものであるが、同時に連鎖して過去から未来につながっているモノであることを学ぶ		
3	鳥居	死の定義	生物学的な死、医学的な死、哲学的な死を考える		
4	鳥居	死の原因	死の原因について考える		
5	鳥居	医療における「死」の問題	事例から医療における死の問題について考える		
6	鳥居	受容	死の受容、障害の受容、悲嘆のプロセスについて学ぶ		
7	鳥居	医療人としてどうあるべきか	理学療法士、作業療法士として命や死に対してどのような態度であるべきかを考える		
8	鳥居	臨床倫理	臨床実習で体験したことを整理して倫理的問題について考える		
9	鳥居	臨床倫理	臨床実習で体験したことを整理して倫理的問題についてディスカッションする		
10	鳥居	医療倫理規定	医療関係の倫理規定について学ぶ		
11	鳥居	関係法規	医療関係法規について学ぶ		
12	鳥居	社会問題と医療倫理	社会における医療倫理問題事例について考える		
13	鳥居	社会問題と医療倫理	社会における医療倫理問題事例について考える		
14	鳥居	のぞましいセラピスト像	理学療法士、作業療法士として命や死に対してどのような態度であるべきかを考える		
15	鳥居	まとめ	卒業後に医療人としての目標を整理する		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	課題レポート				
50	50				
1年次、3年次を全て網羅した上で、評価判定を行う。平成30年度3年生は、最終判定は3年次最終の課題レポートにて100%評価する。平成30年度1年生は、毎回の課題レポートが全て満了し合格した上で、確認テスト(50%)を実施する。このテストで合格していることが、次の3年次の受講の条件となる。1年次、3年次ともに受講態度によって最終評価から減点することがある。真摯な受講態度、積極的な受講態度を求める。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
毎回の課題は、専門書のみならず、多くの情報媒体を利用して知識を深める必要がある。また、新聞報道など、医療倫理的な最新情報も積極的に取り入れる必要がある。1年次は、間接的家族参加型授業であり、毎回の課題は基本的に家族とのディスカッションを義務とする。(1時間程度)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
課題レポートの返却時にコメントする					
教科書					
講義において指示します					
参考図書					
医療、福祉、哲学、倫理学関係成書					
備考：履修者への要望					
大変難しいテーマを考えることが多い。その為、積極的な調査活動が必要になる。積極的な取り組みを期待する。また、医療人としての在り方を議論する講義でもあり、真摯でかつ積極的な受講態度を求める。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
社会福祉学	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
伊藤 正明					
授業概要					
社会福祉の理念(目標)は、だれもが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができる社会を作ることである。それには、福祉の専門職だけでなく、保健・医療等の専門職、ボランティア等がチームで問題解決にあたることが求められる。地域で暮らす人々の生活課題とその解決のためのネットワークの形成を取り上げ、社会福祉についての概念・歴史・制度・課題について学び理解する。					
授業到達目標					
①学習者は社会福祉のイメージを具体的に持ち、今日的な社会問題に関心を示すことができる。 ②社会福祉の基本的な仕組みについて説明できる。 ③社会福祉を歴史的に捉えて学ぶ意義を述べることができる。 ④社会福祉実践をしている職種とその役割を区別できる。 ⑤社会福祉専門職との連携(チームアプローチ)について説明できる。 ⑥対人援助者としての基本的な援助技術の技能を理解し、習得することができる。					
授業形態					
講義	講義形式を中心にしながら、内容によってはDVDの視聴、グループワーク、演習形式を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	伊藤	社会福祉って何?	オリエンテーション、社会福祉の考え方		
2	伊藤	社会福祉の基本的動向	社会福祉を取り巻く環境を「生活者」としての視点から見る		
3	伊藤	社会福祉援助技術演習	基本的コミュニケーションとして「話すこと」と「聴くこと」について演習		
4	伊藤	児童福祉	児童福祉の基本理念とその変遷、児童の定義、児童福祉関連法の概要、児童虐待に関する対策		
5	伊藤	児童家庭福祉	母子保健施策の動向と施策についてひとり親(母子・父子)に関する現状と具体的な福祉策について		
6	伊藤	低所得者福祉	所得保障と生活保護		
7	伊藤	社会福祉の仕組み	社会福祉を支える行政、社会福祉サービスの利用の仕組み		
8	伊藤	高齢者福祉	高齢者福祉の動向と介護保険制度について概観する		
9	伊藤	社会保障	年金制度、医療保険の仕組み		
10	伊藤	障害者福祉(1)	障害とは何か? 障害者の歴史、障害者福祉の動向、障害者関連各法の概要について		
11	伊藤	障害者福祉(2)	身体障害、知的障害、精神障害それぞれの福祉策の概要について		
12	伊藤	利用者保護制度	利用者保護の背景、成年後見制度、日常生活自立支援事業など		
13	伊藤	地域福祉	地域福祉の意義、地域福祉活動の内容		
14	伊藤	ボランティア活動	社会福祉の担い手、ボランティアの意義と歴史的背景、ボランティア活動の本質、NPO法など		
15	伊藤	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史を概観する		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	レポート	その他			
70	20	10			
講義終了時に「ふりかえりシート」を作成し提出することで講義内容の理解度の確認をする。 授業態度と「ふりかえりシート」の内容(20%)および課題への取組み状況(その他10%)、客観テスト(70%)で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
指定図書を各回ごとに熟読すること。各講義の配布レジュメを振り返り、適宜実施する「振り返り問題」を解答できるように準備する。また、新聞等で現在の社会の動向を把握し、社会問題としてどのような問題が注目されているのかを理解する(例:高齢者の介護問題、認知症高齢者世帯の生活問題、障害者の置かれている現状からノーマライゼーションについて考えるなど)。 社会福祉施設・団体に関するボランティア活動や行事等に参加すること(3時間程度)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
試験の返却方法は、講義の中で指示します。					
教科書					
最新版 : 2017年3月30日発刊 新・プリマーズ「社会福祉」 第5版 石田慎二/山縣文治 編著					
参考図書					
授業中に随時紹介する。					
備考:履修者への要望					
社会福祉を学ぶ前段階として、社会の動向、とりわけ社会福祉と社会保障に関する記事については関心を持って読んでおく。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
障害支援とアシスタンスドッグ	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
有馬 もと					
授業概要					
<p>身体障害者補助犬（アシスタンスドッグ）は、盲導犬、聴導犬、介助犬の3種類の補助動作を行う犬たちを示す。国際的には、動物介在療法でのセラピー犬や、糖尿病などの発作を予知するアラート犬などを含む。盲導犬は視覚障害者の歩行支援、聴導犬は聴覚障害者に生活に必要な音を報え、24時間体制での安全確保をもたらす。介助犬は脊髄損傷、筋ジストロフィー、脳性麻痺などによる障害に対し、落下物の拾い上げやドアの開閉、電話を取ってくる、スイッチを押すなどを補助動作を行う。セラピー犬は病院や特別養護老人ホームなどへ訪問し、医療やリハビリテーション効果を期待される。療法士は動機づけ、動作の指導、作業内容の選択、環境改善などに介入する。海外では療法士が訓練に関わり、医療的な効果をあげる事例もある。（福）日本聴導犬協会の候補犬との実践的な授業と共に、犬の行動学を学びながら、障害者のニーズとの適合概念を教授する。</p>					
授業到達目標					
<p>ペットおよび補助犬に関する法律、行動学、健康管理等の基本的知識を学び、特に補助犬訓練者の役割り、および、特に障害者の自立とエンパワーメント向上への適応方法について口頭発表およびレポートにまとめることができる。</p>					
授業形態					
講義	パワーポイントを用いた座学、デモンストレーションを通じた体験、実際に訓練を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	有馬	障がいを知る	DVDによる「聴導犬ユーザーまたは介助犬ユーザー体験談」		
2	有馬	デモンストレーション	聴導犬・介助犬の役割		
3	有馬	補助犬法概論	歴史、特徴、国際比較		
4	有馬	補助犬学総論	人畜共通感染症管理と抑制行動		
5	有馬	介助犬	目的と訓練計画。介助犬訓練の体験授業		
6	有馬	聴導犬	目的と訓練計画。聴導犬訓練の体験授業		
7	有馬	動物介在療法	歴史と、現状。セラピー犬の体験授業		
8	有馬	その他の補助犬と活用例/試験	補助犬の種類（ソーシャル犬や糖尿病犬など）と、医療現場などへの海外での活用例		
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
50	20				
レポート（50%）、発表（30%）、授業への参加貢献度（20%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1限目に、質問をいたしますので、配布パワーポイントに目を通しておいてください。（1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
授業中の参加意欲、発言を含め、最後の授業中に課題レポートで採点します。レポートは持ち帰り、採点し、コメントを付けて返却します。					
教科書					
なし					
参考図書					
<p>「アシスタンスドッグ」有馬もと著 大月書店刊。「マンガで知る聴導犬」有馬もと著 明石書店刊など 「三田評論」有馬もと鼎談 鼎談「動物と暮らす」2011年 「手話通訳問題研究」133号 有馬もと 福祉最前線「もっとも周知されない聴導犬普及は当事者（聴導犬ユーザー）の結集力で」2015年</p>					
備考：履修者への要望					
当科目は、日本聴導犬協会の聴導犬・介助犬訓練士認定単位の一部として認められる。詳細については担当教員に相談のこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
障がい者スポーツ演習	理学療法専攻 作業療法専攻	2 通年	選択	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓					
授業概要					
障がい者スポーツの歴史、社会的背景またその内容についての概要を理解する。障がい者が社会参加できる手段としての障がい者スポーツの理解を深め、理学療法士、作業療法士の知識の上に、どのような関わりができるかを知ることが目標となる。また、障がい者スポーツ現場に参加し、多くの障がい者スポーツの愛好者と交流するとともに、障がい者スポーツにおける様々な工夫を体験し、理学療法士、作業療法士の視点から理解を深める。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツの概要を理解することができる。 障がい者スポーツの成り立ちや社会的背景を理解し、その問題点を検討することができる。 障がい者スポーツの具体的な内容について理解し実践することができる。 					
授業形態					
演習	講義、実技形式				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	障がい者スポーツ総論	障がい者スポーツの意義と基本理念 ：教科書 第Ⅱ編		
2	鳥居	障がい者スポーツ総論	ボランティア論 ：教科書 第Ⅰ編		
3	鳥居	障害の理解	障害の理解 ：教科書 第Ⅱ編		
4	鳥居	障がい者スポーツ科学 (心理・発達)	スポーツ心理学 ：教科書 第Ⅴ編		
5	鳥居	障がい者スポーツ科学 (トレーニング)	トレーニング概論 ：教科書 第Ⅴ編		
6	鳥居	障がい者スポーツ科学 (栄養) 障がい者スポーツ協会資格制度	スポーツと栄養 ：教科書 第Ⅴ編 資格認定制度について ：教科書 第Ⅲ編		
7	鳥居	障がい者スポーツイベント	全国障がい者スポーツ大会の概要、パラリンピックなど障がい者スポーツ競技大会について学ぶ ：教科書 第Ⅳ編		
8	鳥居	スポーツ傷害の予防	スポーツ傷害の発生メカニズムについて学習する 配付資料によって進める		
9	鳥居	テーピングの基本 (実技)	テーピングの基本について学ぶ		
10	鳥居	テーピングの基本 (実技)	テーピングの基本について学ぶ		
11	加藤	障害に応じたスポーツの工夫	フライングディスクの指導法 ：テキスト第Ⅲ編、第Ⅳ編		
12	加藤	障害に応じたスポーツの工夫	フライングディスクの指導法 ：テキスト第Ⅲ編、第Ⅳ編		
13	鳥居	障害に応じたスポーツの工夫	名古屋市障害者スポーツセンターが主催する スポーツイベントへの参加活動		
14	鳥居	障害に応じたスポーツの工夫	名古屋市障害者スポーツセンターが主催する スポーツイベントへの参加活動		
15	鳥居	障害に応じたスポーツの工夫	名古屋市障害者スポーツセンターが主催する スポーツイベントへの参加活動		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
50	50				
筆記試験 (50%)、スポーツイベント活動報告書 (50%)。 尚、受講態度がよくない者は、減点の対象とします。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各講義内容について、テキストを十分に予習・復習しておいて下さい。(30分程度) 学内講義だけではなく、障がい者スポーツイベントへの参加を指定回数義務とします。障がい者スポーツ現場での活動に積極的に参加することで、実践的に障がい者スポーツについて学修して下さい。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題返却の際にコメントします。					
教科書					
「障害者スポーツ指導教本」日本障害者スポーツ協会編 ぎょうせい					
参考図書					
必要に応じて、随時資料を配布します。					
備考：履修者への要望					
この科目は、障がい者スポーツ指導員 (初級) 資格取得中心科目です。希望者は、日本障がい者スポーツ協会認定指導員資格 (初級) を申請取得することができます。名古屋市障害者スポーツセンター関係イベントへのボランティア参加および活動報告レポート作成が必須です。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法概論	理学療法専攻	1 前期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真弓 ・ 宮津 真寿美					
授業概要					
<p>理学療法の歴史的、法的位置づけ、実際の方法論などの概要について理解し、各技術論や実習を学ぶ上での基本的事項を理解する。理学療法士の業務は、医療、介護・福祉の中でリハビリテーションチームの一員として活躍する場が中心である。そのチームにおける各職種との関係を理解し、その上で理学療法士が果たすべき役割について学修する。また、理学療法の対象となる「障害」についてはWHOによる分類であるICFを理解する。障害を理解、体験し、考える事によって、それにどのようにアプローチするかを理解し、自らが理学療法士を目指す者としてどのような能力を身につけなければならないのかを考える。</p> <p>尚、この科目の成績不振者は、臨床実習Ⅰの参加を認めない事がある。</p>					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法および理学療法士の役割および業務内容について説明できる。 ・理学療法の対象となる「障害」について理解し、ICF分類に基づいて障害について説明できる。 ・リハビリテーションにおける理学療法の位置づけと、その概要について説明できる。 					
授業形態					
講義	教科書や補足資料、スライドを使用した講義、及び、ブレインストーミングやグループワークによるアクティブラーニングを行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	理学療法士を知る	理学療法士を理解し、どのような能力が必要であるのかを考える。ブレインストーミング。		
2	宮津		理学療法士になるために、どのような学修が必要であるのかを考える。ブレインストーミング。		
3	宮津	理学療法士の仕事を知る	医療施設の分野で働く理学療法士の特徴を学修する。グループワーク		
4	宮津		介護施設や在宅の分野で働く理学療法士の特徴を学修する。グループワーク		
5	宮津		健康や予防の分野で働く理学療法士の特徴を学修する。グループワーク		
6	宮津		教育や研究の分野で働く理学療法士の特徴を学修する。グループワーク		
7	加藤	理学療法の概要	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法の役割を学修する :テキスト 1章		
8	加藤	理学療法の背景	障害の概念・分類、理学療法士が知っておくべき各種制度を学修する :テキスト 2章		
9	加藤	理学療法の背景	理学療法の歴史、法律、職業倫理について学修する :テキスト 3章		
10	加藤	理学療法的手段	理学療法的手段である運動療法・物理療法・日常生活活動・補装具療法などの概要を学修する :テキスト 4章		
11	加藤	理学療法に必要な知識	理学療法評価や理学療法の実施に必要な知識を概観する :テキスト 5章		
12	加藤	理学療法の対象	理学療法の対象となる疾患(中枢神経系領域・運動器系領域)とその治療手段について学修する :テキスト 6,7章		
13	加藤		理学療法の対象となる疾患(内部障害系領域・がん)とその治療手段、予防領域について学修する :テキスト 8,9章		
14	加藤	病期・職域別の理学療法	急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法の概要について学修する。授業前半でのグループワークを振り返りながら学習する。 :テキスト 10~15章		
15	加藤	理学療法士の将来的展望と課題	第14回までの授業内容から日本における理学療法士の将来的展望と課題について考える。また、自身が目指す理学療法士像を考える。		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	小テスト	レポート			
60	20	20			
<p>夏季休暇前レポート(20%:宮津担当)、筆記試験(60%:加藤担当)、課題レポートおよび講義中の関係用語の小テスト(20%:加藤担当)で成績を評定します。尚、目的意識が低く、受講態度が悪い場合には評価の対象から除外します。また、無断欠席および遅刻は、通常の欠席・遅刻とは別に扱い、1回につき評価点から10点減点とします。目に余る場合には、即刻単位不認定も有り得ます。必ず、講義開始前に学校に連絡、当該科目講師にその旨が伝わるようにすること。</p>					

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>3～6回はグループワークを行います。予習課題（30分程度）や、グループによる発表準備など授業時間外に行う場合があります。授業内で説明します。7～15回目の講義に臨む前の予習として、各回の授業概要に書いてある教科書の該当章を読んでおくこと。復習は、授業内容を専門用語を用いながら、何も見なくても説明できるように行うこと。授業冒頭で、復習テストを実施するためしっかりと学習してください。また、教科書巻末にある専門用語を覚え、意味を理解できるようにします。専門用語に関する確認は、授業冒頭で小テストとして実施します。出題範囲は掲示にて提示します。予習・復習に必要な学習時間は科目開講期間中、最低限7.5時間以上必要です。</p> <p>その他、関連雑誌や新聞、インターネット等で日本における理学療法やリハビリテーションについて、興味・関心を持って積極的に調べてください。</p>
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
<p>課題に対する疑問点や不明点は随時受け付ける。</p>
教科書
<p>「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論」浅香満編 中山書店 その他、必要に応じて資料の配布予定</p>
参考図書
<p>理学療法、リハビリテーション、その他の関連分野成書全般</p>
備考：履修者への要望
<p>自分自身が理学療法士になるために何が必要であるのか？という問いかけを常に心掛けながらの受講を求めます。また「障害」体験など積極的な態度を求めます。</p>

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
理学療法研究法	理学療法専攻	2 通年	必修	2単位 (15時間)	30時間			
担当教員名								
鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓 ・ 宮津 真寿美 ・ 木村 菜穂子 ・ 松村 仁実 ・ 清島 大資 ・ 臼井 晴信 ・ 山田 南欧美 ・ 齊藤 誠								
授業概要								
医療の専門職である理学療法士は、高い問題解決能力が必要である。この科目では、理学療法における研究の意義を理解し、これまでの学習で抱いた疑問や気付いた矛盾を明らかにするための、思考過程と問題解決能力を修得する。具体的には、各教員の指導のもと、研究計画を立案し、発表を行う。								
授業到達目標								
①研究の意義が説明できる ②研究過程を説明できる ③データの解析方法が説明できる。 ④研究発表ができる。								
授業形態								
講義	1～7回は、スライドを用いた講義と、一部演習を行う。8回以降は担当教員によるゼミ形式で行う。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連								
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。							
	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。							
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。							
授 業 計 画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	宮津	研究の理解	コースオリエンテーション、および研究の意義、種類、文献検索方法について学修する。					
2	宮津	データ解析：統計学とは	統計学とは何か、統計学の意義について学修する。					
3	宮津	データ解析：データとは	データの種類、代表値、ばらつきについて学修する。					
4	宮津	データ解析：データの整理	わかりやすいデータの示し方を学修する。					
5	宮津	データ解析：差	検定の意味、種類、方法を学修する。					
6	宮津	データ解析：相関・回帰	相関分析・回帰分析を学修する。					
7	宮津	研究と倫理	研究倫理を学修する。					
8	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤	研究テーマの決定	先行研究を検索し整理し、文献レビューなど机上の検討を行う。					
9	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤							
10	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤							
11	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤					プロトコールを実践し、問題点を整理し、研究目的・方法の修正を行う。		
12	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤							
13	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤							
14	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤					具体的な研究計画を作成し、発表準備を行う。		
15	鳥居・加藤 宮津・木村 松村・清島 臼井・山田・齊藤	研究計画の公開検討	研究計画の公開検討を行う。					
成績評価の方法・基準 (100%)								
発表	その他							
70	30							
構想発表会で研究計画を発表する（70%：抄録の提出10%、発表内容20%、わかりやすさ20%、質疑応答20%）。その他の評価（30%）は、出席状況、履修態度、約束遵守などにより、減点する。								
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
本科目の第8回以降の内容は、指導教員のもと、必要があれば授業時間外の時間を使って、研究を進めることになる。								
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法								
発表点は掲示する。疑問点は随時受け付ける。								
教科書								
なし 講義形式の授業は適宜プリントを配布する。								
参考図書								
「理学療法研究法」（医学書院）その他関係成書								
備考：履修者への要望								
研究を行うのは学生自身で、教員は指導するだけである。各自の積極的な行動によって、目標が達成できる。								

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床運動学 (PT)	理学療法専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
木村 菜穂子 ・ 松村 仁実					
授業概要					
運動学の中の「姿勢、動作（歩行）」の観点から、臨床における対象者の筋骨格系、神経系の異常を捉える力を養う。まずは、正常な姿勢、動作を再確認した上で、姿勢観察・動作分析を実践して正常から逸脱した所見を抽出し、その原因を説明できるよう学修する。					
授業到達目標					
① 健常者の姿勢、動作（特に立ち上がり、歩行）を説明することができる。 ② 動作分析、歩行分析の方法を理解し実践することを通して、対象者の機能障害を捉えて説明することができる。					
授業形態					
講義	講義、実習を交えながら進める。グループ学習による実習も含む。動作分析の結果をまとめ発表を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村・松村	健常者の立ち上がり	コースオリエンテーション 健常者の立ち上がりを相分けし、動作分析の方法を学修する。		
2	木村・松村	立ち上がりの動作分析	相ごとの動作分析を実施し、同時に筋活動についても学修する。		
3	木村・松村	疾患者の立ち上がり分析	立ち上がり動作分析の実践、分析結果をまとめる		
4	木村・松村	健常者の歩行	健常者の歩行を相分けし、動作分析の方法を学修する。		
5	木村・松村	歩行分析	歩行分析の実践し、相ごとの各関節運動を理解し、筋活動を学修する。		
6	木村・松村	疾患者の歩行分析	歩行分析の実践、分析結果をまとめる		
7	木村・松村	疾患者の立ち上がり・歩行分析と機能障害の抽出	動作分析の結果のプレゼンテーション		
8	木村・松村	総括と学習到達度の確認テスト	授業内容を総括し、学習到達度の確認テストを実施する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	発表資料	発表内容		
70	10	10	10		
筆記試験 (70%)、小テスト (10%)、発表資料 (10%)、発表内容 (10%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 正常な姿勢、立ち上がり、歩行について調べ、用語の意味を理解する。(約1時間) 用語の理解などを確認するために、小テストを実施します。 (復習) 授業を振り返り、動作分析がどのように行われているのか理解する。また、実践してみる。(約1~2時間) グループごとに発表用の資料の作成をし、それに沿った発表を実施します。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストは講義の中で後日返却します。 発表資料については、講義内で内容についてのフィードバックを行います。 試験は、事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
適宜					
参考図書					
「基礎運動学」中村隆一 ほか 医歯薬出版 「臨床運動学」中村隆一 ほか 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
・運動学の単位が修得できている者の受講が望ましい。 ・正当な理由なき欠席・遅刻・早退は厳禁。証明書が必要。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
運動療法総論	理学療法専攻	1 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
松村 仁実					
授業概要					
運動療法は臨床における理学療法の中核をなすものであり、運動療法の基本を科学的根拠に基づいて理解することは、臨床的な障害別理学療法を学ぶ上で重要な要素となる。運動療法の背景理論は、解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎医学の応用であり、本講義では、運動療法の概念、基礎、基本的な運動療法を解剖学、生理学、運動学、病理学的に理解する。					
授業到達目標					
①運動療法の概念、目的を理解することができる。 ②運動療法を行うための基礎知識を理解することができる。 ③基本的な運動療法を解剖学、生理学、運動学、病理学的に理解することができる。					
授業形態					
講義	教科書、スライドを用い、グループディスカッションも行いながら講義を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2.障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3.臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村	運動療法の基礎	コースオリエンテーション 運動療法の定義、目的、歴史、機械・器具について学修する ：教科書 1章		
2	松村	運動のしくみ	運動のしくみ、力学の基礎など基礎知識を学修する ：教科書 1章		
3	松村	基本的な運動療法	運動療法を介入前の状態の把握について学修する ：教科書 2章		
4	松村	関節と運動療法	関節の構造に応じた運動について学習する。また、関節可動域制限を呈する病態を理解しそれに対する運動療法を学修する：教科書 3章		
5	松村	筋収縮と運動療法	筋収縮のメカニズムを理解し、筋の収縮様式の特徴とそれを生かした運動療法を学修する ：教科書 4章		
6	松村	持久力と運動療法	持久力増強運動に関わる運動生理学的な知識を生理し、運動処方の方法を学修する ：教科書 7章		
7	松村	協調性と運動療法	協調性運動を理解し、障害を生ずる病態とそれに対する運動療法を学修する ：教科書 5章		
8	松村	講義と試験	授業の総括と確認試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト				
85	15				
筆記試験 (85%)、小テスト (15%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 講義に臨む前に、該当する教科書をしっかり読んでください。約1時間 (復習) 授業を振り返り理解する。理解度を確認のために、授業の最後あるいは次回授業前に小テストを実施します。(約1~2時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストは講義の中で後日返却します。 試験は、事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動療法学」石川朗総編集 中山書店 適宜プリント配布					
参考図書					
「基礎運動学」中村隆一 他 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
運動学、解剖学、生理学などの科目と関連しながら理解するように努めること。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
検査測定法	理学療法学専攻	1 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
木村 菜穂子 ・ 加藤 真弓 ・ 山田 南欧美 ・ 齊藤 誠					
授業概要					
理学療法を行う上で、対象者の障害を把握することは非常に重要である。その手段の一つである検査測定についての種類・目的・方法について学ぶ。また多くの検査測定方法の中でも特に臨床において用いられることの多い形態測定・関節可動域(ROM)測定・徒手筋力検査法(MMT)の、検査測定方法、技術について学ぶ。					
授業到達目標					
①理学療法評価の意義と、検査測定法の種類、目的、方法を理解することができる。 ②形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の意義、方法を理解することができる。					
授業形態					
講義	講義・実技				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	オリエンテーション 理学療法評価とは	講義概要等のオリエンテーション 理学療法評価、検査測定の意義について		
2	木村・加藤 山田・齊藤	形態測定 ・四肢長 ・肢節長 ・四肢周径	形態測定方法を学修する 測定時のランドマークとその触察方法を確認する		
3	木村・加藤 山田・齊藤		形態測定、ランドマーク触察の反復練習		
4	木村・加藤 山田・齊藤		肩甲骨・肩関節・肘関節・前腕のROM測定		
5	木村・加藤 山田・齊藤	関節可動域 (ROM) 測定	頭頸部・体幹・手指のROM測定		
6	木村・加藤 山田・齊藤		股関節・膝関節・足関節のROM測定		
7	木村・加藤 山田・齊藤	形態測定・関節可動域測定の復習	形態測定・関節可動域測定の復習		
8	木村	徒手筋力検査法 (MMT)	徒手筋力検査法の意義、目的、原則について (講義)		
9	木村・加藤 山田・齊藤		肩甲骨・肩関節・肘関節のMMT		
10	木村・加藤 山田・齊藤		前腕・手関節・手指のMMT		
11	木村・加藤 山田・齊藤		股関節・膝関節のMMT		
12	木村・加藤 山田・齊藤		足関節・足部のMMT		
13	木村・加藤 山田・齊藤		頭頸部・体幹・顔面のMMT		
14	木村・加藤 山田・齊藤		徒手筋力検査法のまとめ (復習)		
15	木村・加藤 山田・齊藤	まとめ	形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の復習		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト				
90	10				
筆記試験 (90%)、小テスト (10%) 筆記試験は、中間試験(範囲：理学療法評価とは・形態測定・ROM測定)と最終試験(範囲：MMT)を実施します。 単位取得には、中間・最終試験で各60%以上、かつ最終(筆記試験90%+小テスト10%)の60%以上の成績が必要です。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
予習：シラバスに記載の講義内容を確認し、該当する部分の意義、それぞれの検査・測定の方法を確認し、理解できないところを明確にする。 特に、MMTでは教科書に付属しているDVDを参考にして行う(30分~1時間)。 復習：講義で確認した内容をふまえ、実技練習を行う。(約1~2時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テスト、試験は研究室にて保管しており、希望者には個別で答案の開示を行います(事前連絡が必要)。					
教科書					
「理学療法評価学テキスト」細田多徳監修 南江堂 「新・徒手筋力検査法」原著第9版、津山直一訳 共同医書出版社					
参考図書					
補足資料は講義中に配布します。					
備考：履修者への要望					
この講義で学習するのは臨床現場でも実施頻度の高い検査・測定項目であり、理学療法士にとって必須の技術です。短い時間の中で多くの内容を理解する必要がありますので、予習・復習は必須となります。講義中は自分の理解度を高めるための時間として、真摯な態度で受講していただきたいと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
検査測定法実習	理学療法学専攻	1 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
木村 菜穂子 ・ 加藤 真弓 ・ 山田 南欧美 ・ 齊藤 誠					
授業概要					
検査測定法で学習した形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査法について演習を行い、その技術を確実に実施できる能力を習得する。また、各検査結果について考察し、検査・測定結果の持つ意味を検証する。同時に、対象者への接し方、触れ方、理学療法士としての身体の使い方についても学習する。					
授業到達目標					
①理学療法評価の意義と、検査測定法の種類、目的、方法を理解することができる。 ②形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の意義、方法を理解し、手技を習得し、正確に実施することができる。					
授業形態					
実習	実技（一部講義あり）				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	形態測定・関節可動域測定 (講義)	形態測定・関節可動域測定の意義、目的、原則について学習する。		
2	木村・加藤 山田・齊藤	形態測定 ・四肢長 ・肢節長 ・四肢周径	学生同士で、測定時のランドマークを触察し、形態測定を実施する。		
3	木村・加藤 山田・齊藤		形態測定、ランドマーク触察の反復練習		
4	木村・加藤 山田・齊藤		肩甲骨・肩関節・肘関節・前腕のROM測定		
5	木村・加藤 山田・齊藤	関節可動域 (ROM) 測定	頭頸部・体幹・手指のROM測定		
6	木村・加藤 山田・齊藤		股関節・膝関節・足関節のROM測定		
7	木村・加藤 山田・齊藤	形態測定・関節可動域測定の 復習	形態測定・関節可動域測定の復習		
8	木村	徒手筋力検査法 (MMT)	徒手筋力検査法の意義、目的、原則について (講義)		
9	木村・加藤 山田・齊藤		肩甲骨・肩関節・肘関節のMMT		
10	木村・加藤 山田・齊藤		前腕・手関節・手指のMMT		
11	木村・加藤 山田・齊藤		股関節・膝関節のMMT		
12	木村・加藤 山田・齊藤		足関節・足部のMMT		
13	木村・加藤 山田・齊藤		頭頸部・体幹・顔面のMMT		
14	木村・加藤 山田・齊藤		徒手筋力検査法のまとめ (復習)		
15	木村・加藤 山田・齊藤	まとめ	形態測定・関節可動域測定・徒手筋力検査法の復習		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
90	10				
実技試験 (90%)、授業への参加貢献度 (10%) ※検査測定法実習の単位認定は、検査測定法の単位取得が必須条件となります。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
予習：シラバスに記載の講義内容を確認し、該当する部分の意義、それぞれの検査・測定の方法を確認し、理解できないところを明確にする。 特に、MMTでは教科書に付属しているDVDを参考にして行う (30分~1時間)。 復習：講義で確認した内容をふまえ、実技練習を行う。(約1~2時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
希望者に対し、実技試験のフィードバックを行います (事前連絡必要)。					
教科書					
「理学療法評価学テキスト」細田多徳監修 南江堂 「新・徒手筋力検査法」原著第9版、津山直一訳 共同医書出版社					
参考図書					
補足資料は講義中に配布します。					
備考：履修者への要望					
この講義で学習するのは臨床現場で最も実施頻度の高い検査・測定項目であり、理学療法士にとって必須の技術です。短い時間の中で、多くの内容を理解する必要があるため、予習・復習は必須となります。講義中は自分の理解度を高めるための時間として、真摯な態度で受講していただきたいと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法評価法	理学療法専攻	2 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
白井 晴信					
授業概要					
理学療法における評価は、根拠を持った治療を行い最大の効果を発揮するために極めて重要である。本講義では理学療法評価の基本的事項を学修する。臨床推論に基づいた情報収集の目的、評価項目の選定、動作分析の目的と方法、統合と解釈から問題点の抽出、記録、報告の仕方について学修する。理学療法評価法実習における演習に向けた基礎知識の整理を行う。					
授業到達目標					
①理学療法評価の目的と臨床意思決定過程について説明できる。 ②情報収集をもとに評価項目を選定することができる。 ③障害モデルに基づいた統合と解釈について理解し、問題点の抽出について説明できる。 ④記録と報告の方法と注意事項について説明できる。 ⑤理学療法における動作分析の位置づけを説明できる。					
授業形態					
講義	グループワークによるアクティブ・ラーニングにより行います。一部、教科書とスライドによる講義を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	理学療法評価概論	コースオリエンテーション 理学療法評価の概要、目的を学修する 教科書 1章Ⅰ		
2	白井	臨床推論	臨床意思決定過程（臨床推論）について学修する 教科書 1章Ⅱ		
3	白井	評価に関する基礎知識	評価に関する基礎知識を学修する		
4	白井	情報収集、障害分類	情報収集の目的と方法を説明し実践する 教科書 2章 ICFによる障害分類を理学療法評価に生かせるように演習する		
5	白井	統合と解釈、問題点の抽出	評価結果の統合と解釈の方法を学修する 統合と解釈から問題点の抽出を実践する		
6	白井	記録と情報保護	記録の目的および方法を学修する 情報保護の目的および方法を学修する		
7	白井	報告	評価結果の報告の仕方を学修し実践する		
8	白井	まとめと試験	全体のまとめをする。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト	レポート	参加貢献度		
50	10	30	10		
筆記試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（10%）、参加貢献度（10%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
グループワークによるディスカッションを行った後、スライドによる講義を行います。毎回授業の最後にレポートを書いて提出して頂きます(30分程度)。積極的に自分の意見を発言し、レポートに記載するようにしてください。毎回、前回の授業内容について小テストを行います。授業内容を復習してください(1時間程度)。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポート、小テストは返却します。筆記試験の結果は開示します。					
教科書					
「ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学」白田滋編 医歯薬出版					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
グループワークでは積極的な参加をしてください。成績評価の参加貢献度10%にはグループの他学生からの評価を含みます。講義内容やテキストの内容では疑問点を抽出し、解決するように努力してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
理学療法評価法実習	理学療法専攻	2 後期	必修	2単位 (30時間)	60時間			
担当教員名								
白井 晴信 (内部障害系疾患) ・ 松村 仁実 (神経系疾患) ・ 齊藤 誠 (運動器系疾患)								
授業概要								
<p>理学療法評価法で学んだ思考過程を模擬症例における演習と実習と症例検討を通して実践する。神経系、運動器系、内部障害系疾患の分野を中心に、対象者の疾患や病態を理解し必要な情報を収集し、それから検査測定項目を挙げるための力を養う。そして、統合と解釈にて、評価結果をまとめて問題点をICFにて抽出する方法を学修する。</p> <p>グループワークにおいて討論し、その結果を発表する形式をとる。また、動作分析、検査測定手技については実技練習を取り入れる。</p> <p>臨床実習では十分な基礎知識、応用力、コミュニケーション能力、測定技術が備わっているかどうかが問われる。そのため、本講義の試験ならびに成績評価は理学療法専攻の教員全員で行う。</p>								
授業到達目標								
<p>①臨床推論過程を理解し、対象者へのオリエンテーションと医療面談から情報収集を実践し、評価項目（特に検査測定項目）を適切に抽出できる</p> <p>②検査測定を正確な方法で実践できる</p> <p>③姿勢観察と動作分析ができ、基本的動作の指導や介助が実践できる</p> <p>④統合と解釈を実践し問題点を抽出することができる</p>								
授業形態								
実習	分野別にオムニバス形式で行う。グループワークによるアクティブ・ラーニングにて講義を進める。ただし一部、教科書やスライドによる講義を含める。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連								
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。								
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。								
○ 3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。								
授業計画								
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容					
1	白井	バイタルサインの測定、 レポートの書き方、 医療面接	バイタルサインの測定方法を身につける レポートの書き方を学修する 医療面接の方法を学修し、演習する					
2	白井							
3	白井							
4	白井	内部障害系疾患の 臨床推論と評価①	<p>1. 各疾患患者の評価に必要な情報集の内容を整理する</p> <p>2. 得られた情報から臨床推論に基づき問題点の仮説をたてる</p> <p>3. 問題点の仮説を検証する方法を考える</p> <p>4. 各疾患患者（歩行など）の動作分析をする</p>					
5	白井	内部障害系疾患の 臨床推論と評価②						
6	白井	内部障害系疾患の 臨床推論と評価②						
7	白井	内部障害系疾患の 臨床推論と評価②						
8	松村	神経系疾患の 臨床推論と評価①						
9	松村	神経系疾患の 臨床推論と評価①						
10	松村	神経系疾患の 臨床推論と評価②						
11	松村	神経系疾患の 臨床推論と評価②						
12	齊藤	運動器系疾患の 臨床推論と評価①						
13	齊藤	運動器系疾患の 臨床推論と評価①						
14	齊藤	運動器系疾患の 臨床推論と評価②						
15	齊藤	運動器系疾患の 臨床推論と評価②						
16	白井	内部障害系疾患の検査測定法 の実践				各疾患に特異的な検査測定の実践 内部疾患（運動負荷試験など）、 運動器系疾患（疼痛、整形外科テストなど）、 神経系疾患（運動麻痺、感覚、反射、反応など）を模擬症例を基に演習する		
17	白井	内部障害系疾患の検査測定法 の実践						
18	松村	神経系疾患の検査測定法の実 践						
19	松村	神経系疾患の検査測定法の実 践						
20	齊藤	運動器系疾患の検査測定法の実 践						
21	齊藤	運動器系疾患の検査測定法の実 践						

22	白井	内部疾患の統合と解釈の実践	模擬症例を基に 1. 統合と解釈の目的 2. 統合と解釈の方法 3. 各疾患の統合と解釈の実践を演習する
23	白井		
24	松村	神経系疾患の統合と解釈の実践	
25	松村		
26	齊藤	運動器系疾患の統合と解釈の実践	
27	齊藤		
28	白井・松村・齊藤	症例レポートとレジユメの書き方	
29	白井・松村・齊藤	症例レポートとレジユメの書き方	
30	白井・松村・齊藤	発表・討論	
成績評価の方法・基準 (100%)			
実技試験	その他		
90%	10%		
<p>実技試験 (90%)、その他 (レポート・グループワークへの参加) (10%)</p> <p>実技試験は、臨床実習において理学療法評価を行う上で必要な技能・態度 (接遇態度、対人技能、オリエンテーション能力、基本動作の介助手技、検査測定手技) が修得されているかを確認する。また臨床推論に必要な知識 (専門基礎科目 (解剖学、生理学、運動学)、症候学 (整形外科学、神経学、内科学)、理学療法治療学 (検査測定、ADL、物理療法学、義肢装具学などを含む) が修得されているかを確認する。レポートは、各疾患の症例レポートにて評価する。ただし、提出遅延、未提出の場合は成績評価しない。</p> <p>また、この科目試験は、臨床実習を履修するものが対象となる。したがって、本科目以外の進級に関わる必要単位を満たしていない場合は、本科目を履修することができない。</p> <p>(客観的臨床能力試験担当) 鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・清島 大資・山田 南欧美</p>			
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>基礎医学 (運動学、解剖学、生理学)、臨床医学 (症候学、理学療法治療学) の知識を予習、復習すること。</p> <p>理学療法評価法の講義と合わせ、評価の進め方について復習すること。</p> <p>検査測定手技の実技練習、基本動作介助の実技練習を自主的に進めること。</p> <p>以上の講義と予習復習の内容を一元的に管理し、思考過程を整理すること。</p> <p>上記の内容を講義、グループワークの進行に合わせて毎講義ごとに行ってください (3時間程度)</p>			
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法			
実技試験、レポートは個別にフィードバックを行う。			
教科書			
「ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学」 白田滋編 (医歯薬出版)			
参考図書			
講義の中で示します			
備考：履修者への要望			
<p>本講義は理学療法評価法で学修した内容と連動させること。また、グループワークを実施することが多い。グループにおいて自らの意見を主張し、そして相手の意見をよく聞き、自分以外の多くの考え方を役立てるように講義に臨むこと。そして、講義資料に加えて各自で予習復習をし、自身で思考過程を整理するよう努めること。</p>			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害理学療法治療学	理学療法専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真弓 ・ 松村 仁実					
授業概要					
<p>中枢神経疾患を理解する上で欠かせない脳の機能解剖を理解するとともに、各疾患(脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、パーキンソン病、運動失調症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症)の病態とその障害について学習する。中でも、理学療法士として最も多く経験する脳血管障害に伴う身体障害や高次脳機能障害を中心に学習する。中枢神経系障害理学療法治療学実習で各疾患の障害とその評価法並びに理学療法を学習するための基礎的知識を学習する位置づけとなる。</p>					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脳の機能解剖が理解でき、説明することができる。 ・中枢神経疾患(脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、パーキンソン病、運動失調症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症)の病態を理解でき、説明することができる。 ・脳血管障害の病期別リハビリテーションについて理解でき、説明することができる。 ・脳血管障害に対する理学療法の根拠となる機能回復のメカニズムと予後予測について理解し、説明することができる。また、実際に予後予測ができる。 ・高次脳機能障害の各症状(失認、失行、失語、注意障害、記憶障害、遂行機能障害など)を理解し、説明することができる。 					
授業形態					
講義	教科書や補足資料、スライドを使用した講義及びグループワークによるアクティブ・ラーニングを行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村	脳の機能解剖①神経系、大脳	コースオリエンテーション 神経系の概要、大脳の機能解剖について学修する :教科書 ①1章		
2	松村	脳の機能解剖②大脳辺縁系、基底核	大脳辺縁系、基底核の機能解剖について学修する :教科書 ①1章、②16章		
3	松村	脳の機能解剖③視床、脳幹、小脳	視床、脳幹、小脳の機能解剖について学修する :教科書 ①1章、②17、18章		
4	松村	脳の機能解剖④伝導路、脳神経	伝導路、脳神経の機能解剖について学修する :教科書 ①1章、2章		
5	松村	病態の理解、治療ガイドライン	脳血管障害の分類、病期別(急性期、回復期、維持期)の治療、脳卒中ガイドラインについて学修する :教科書 ①5、6、11、12章		
6	松村	回復過程と予後	機能回復のメカニズム、予後予測について学習する :教科書 ①4章		
7	松村	障害像①心身機能	脳卒中患者の心身機能障害について学修する :教科書 ①7、8章		
8	松村	障害像②姿勢・動作	脳卒中患者の姿勢・動作障害について学修する :教科書 ①9章		
9	加藤	高次脳機能障害(1) (概論、失語)	高次脳機能障害の概要を学修する。その後、各論として失語を学修する :教科書 ③第1章-A-1、5、6、7、第2章-A-1、4、6(p43まで)		
10	加藤	高次脳機能障害(2) (失認、失行)	失認と失行の種類と症状について学修する :教科書 ③第4章-A、B、C、 第5章-A、B、C、D、E、F、第3章-A、B		
11	加藤	高次脳機能障害(3) (注意障害、前頭葉障害)	注意障害と前頭葉障害の種類と症状について学修する :教科書 ③第6章-A-3、別途資料提示		
12	加藤	高次脳機能障害(4) (遂行機能障害、記憶障害)	前頭葉症状の一つである遂行機能障害、また記憶障害の種類と症状について学修する :教科書 ③第6章-B-1、2、4、5、C		
13	加藤	パーキンソン病の病態	パーキンソン病の病態について学修する :教科書 ②第16章、19章		
14	加藤	運動失調症の病態	運動失調症の病態について学修する :教科書 ②第17章、22章		
15	加藤	多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の病態	多発性硬化症と筋萎縮性側索硬化症の病態を学修する:教科書 ②第27章、29章		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト				
80	20				
筆記試験(80%)、小テスト(20%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>この科目の履修者は、受講前に解剖学・生理学で学習した中枢神経系の構造・機能をレポートにまとめ提出すること(別途掲示)。講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書をしっかりと学修してください。授業冒頭で復習小テストを実施しますので、次の授業までに学修をしてください。教科書は読み流すのではなく、他者に内容を説明できるように取組んでください。予習・復習で勉強したことはノートなどにまとめてください。提出を求めることがあります。(各回、1時間程度)</p>					

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法

小テストは、講義の中で後日返却します。
試験は、研究室にて内容を確認することができます。または、後日全体へのフィードバックの時間を設定します。
レポートについては、提出されたものにコメントし返却します。

教科書

- ①「神経障害理学療法学Ⅰ」（15レクチャーシリーズ）石川 朗 総編集 中山書店
- ②「神経障害理学療法学Ⅱ」（15レクチャーシリーズ）石川 朗 総編集 中山書店
- ③「高次脳機能障害」 石合 純夫 著 医歯薬出版
- ④「理学療法ハンドブック第1～4巻」 細田 多穂 他編 協同医書出版

参考図書

「標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論」 吉尾 雅春 編 医学書院
「神経局在診断」 半田 肇 監訳 文光堂
「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎 義昭 他著 南山堂

備考：履修者への要望

- ・臨床において必ず脳血管障害の患者さんを担当します。単なる机上の知識ではなく、臨床に使える知識にするため、暗記レベルでの勉強にせず、内容をよく理解することを目指しましょう。そのためには、解剖学・生理学・運動学・神経学他の知識を事前に十分整理し、すでに学習した事柄と関連付けながら授業に臨むことが大切です。
- ・グループワークを行う場合があります。授業時間やそれ以外の時間も有効に使ってください。
- ・積極的な態度で集中して受講すること。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害理学療法治療学実習	理学療法学専攻	2 後期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
松村 仁実 ・ 加藤 真弓					
授業概要					
脳の機能解剖を復習するとともに中枢性疾患の障害の特徴を理解し、理学療法士として最も多く経験する疾患の一つである脳血管障害に伴う身体障害や高次脳機能障害を中心にパーキンソン病や運動失調症などの評価や理学療法について学修する。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭部画像の読影ができ、出現する可能性のある障害を説明することができる ・ 健康成人が人間としての行為を行うメカニズムを理解し、さらに脳障害による片麻痺や高次脳機能障害、パーキンソニズム（パーキンソン病）、運動失調症などのような障害を呈するか説明することができる。 ・ 障害像を把握した上で、障害に応じた評価と基本的な理学療法を選択・実施できる。 ・ 疾患（症例）が持つ問題を理解し、理学療法プログラムを立案することができる。 					
授業形態					
実習	教科書や補足資料、スライドを使用した講義及びグループワークによるアクティブ・ラーニングを行います。また、評価と基本的な理学療法については実技を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	頭部画像の見かた	コースオリエンテーション 正常な断層像、CT及びMRIの見かたを学修する：別途資料程度		
2	加藤		CT、MRIの読影演習：別途資料提示		
3	加藤	高次脳機能障害の評価とリハビリテーション(理学療法)	高次脳機能障害の評価の考え方を学修する。また、スクリーニングを学修する ：教科書 ③第1章-A-2、3、4、別途資料提示あり		
4	加藤		失認に対する評価とリハビリテーションについて学修する。中でも、特に半側空間無視について重点的に学修する ：教科書 ③第4章、5章、テキストI-14章		
5	加藤		失行、失語に対する評価とリハビリテーションについて学修する ：教科書 ③第2章、3章		
6	加藤		注意機能障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する ：教科書 ③第3章-A		
7	加藤		記憶障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する ：教科書 ③第6章-B		
8	加藤		遂行機能障害に対する評価とリハビリテーションについて学修する ：教科書 ③第6章-C		
9	加藤	パーキンソン病の評価と理学療法	パーキンソン病の評価と理学療法について学修する ：教科書 II-20章、21章		
10	加藤	運動失調症の評価と理学療法	運動失調症の評価と理学療法について学修する ：教科書 II-23章、24章		
11	加藤	多発性硬化症の評価と理学療法	多発性硬化症の評価と理学療法について学修する ：教科書 II-27章、28章		
12	加藤	筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法	筋萎縮性側索硬化症の評価と理学療法について学修する ：教科書 II-29章、30章		
13	松村	脳損傷の理解	脳損傷の定義と病態について学習する ：教科書 I-3章、II-25、26章		
14	松村	意識障害	意識障害の理解と評価について学修する ：教科書 I-8章		
15	松村	運動麻痺の理解	運動麻痺の理解と評価について学修する ：教科書 I-2章、7章、8章、10章		
16	松村	運動麻痺の評価			
17	松村	筋緊張	筋緊張異常の理解と評価について学修する ：教科書 I-7章、8章		
18	松村	反射	反射異常（表在、深部、病的）の理解と評価について学修する ：教科書 I-8章		
19	松村	姿勢反射	姿勢反射障害、バランス障害、協調運動障害の理解と評価について学修する ：教科書 I-7章、8章、10章、14章		
20	松村	感覚	感覚障害（表在、深部、複合、異常感覚）の理解と評価について学修する ：教科書 I-2章		
21	松村	脳神経	脳神経障害の理解と評価について学修する ：教科書 I-2章		
22	松村	体力、疼痛	体力低下、痛みの理解と評価について学修する ：教科書 I-7章、10章、13章		

23	松村	姿勢動作	姿勢動作障害、ポジショニングの理解、評価と理学療法について学修する ：教科書 I-13章
24	松村	起居動作	起居動作障害の理解、評価と理学療法について学修する ：教科書 I-9章、11章
25	松村	歩行	歩行障害の理解、評価と理学療法について学修する ：教科書 I-9章、12章
26	松村	ADL	ADL障害の理解、評価と理学療法について学修する ：教科書 I-9章
27	松村	課題志向型トレーニング	課題指向型トレーニングについて学修する ：教科書 I-10章
28	松村	神経生理学的アプローチ	各種アプローチ（ブルンストローム、ボバースPNF、ルード、認知運動療法）について学修する
29	松村	事例検討①障害像の把握	事例検討 ：教科書 I-15章
30	松村	事例検討②障害像の理解	
成績評価の方法・基準（100%）			
筆記試験	小テスト		
80	20		
筆記試験（80%）、小テスト（20%）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>（予習）講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書を読む疑問点を明確にする。 その際、教科書を読み流すのではなく、他者に内容を説明できるようにしノートなどにまとめてください。（約1～2時間）</p> <p>（復習）授業を振り返り、復習したことをノートにまとめて理解する。学んだ検査法は、実技練習し体で覚えるようにしてください。 その際、検査の意義や目的を確認し、また検査結果の持つ意味を考えながら行ってください。（約1～2時間）</p> <p>学修結果を確認するために、授業冒頭で復習小テストを実施します。 予習・復習でまとめたノートは提出を求めることがあります。また、課題を出すこともあります。</p>			
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>小テストは、講義の中で後日返却します。 試験は、研究室にて内容を確認することができます。または、後日全体へのフィードバックの時間を設定します。</p>			
教科書			
<p>「15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅰ」 石川朗 中山書店 「15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ」 石川朗 中山書店 「高次脳機能障害」 石合純夫 医歯薬出版 「理学療法ハンドブック第1～4巻」 細田多穂 協同医書出版</p>			
参考図書			
<p>「標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論」 吉尾雅春 医学書院 「神経局在診断」 半田肇 文光堂 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭 南山堂</p>			
備考：履修者への要望			
<p>解剖学、生理学、運動学、神経学ほかの知識を事前に十分整理し、すでに学習した事柄と関連付けるように授業に臨む。 グループワークを行うこともあります。授業時間やそれ以外の時間でも有効に使うこと。 実技の際は動きやすい服装で臨むこと。 本実習は、中枢神経系障害理学療法学治療学に合格することが評価の条件である。</p>			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
整形外科系理学療法治療学	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
齊藤 誠					
授業概要					
<p>理学療法士を志す学生にとって、整形外科系疾患に対するリハビリテーションは比較的イメージが付きやすい領域であるように思います。実際に臨床現場において整形外科系疾患を抱える患者を対象とする機会は非常に多いと考えられます。</p> <p>整形外科系疾患は同一病名であっても発症からの期間や重症度などによって病態が異なり、病期に応じた適切な理学療法を施行することが求められます。本講義では整形外科系疾患の病態と、その理学療法について学習します。</p>					
授業到達目標					
整形外科系疾患の病態理解を深め、適切な理学療法評価・治療を説明できる。					
授業形態					
講義	スライドを使用した講義形式で進めます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	齊藤	整形外科系障害総論	理学療法士が対象とする基本的な整形外科系疾患について説明し、運動器理学療法の概要について理解する。		
2	齊藤	組織再生・修復 総論	組織再生および修復過程（炎症反応）について説明し、組織再生および修復の機序、組織再生過程における理学療法評価および注意点（リスク管理）を理解する。 (教科書 第1章)		
3	齊藤	骨折と脱臼 総論	骨折、脱臼の病態、分類について説明する。また骨折、脱臼の治療、理学療法について説明し、保存的治療、観血的治療および付随する合併症、理学療法評価、治療について理解する。 (教科書 第3-7章（主として第3章）)		
4	齊藤	変形性股関節症 変形性膝関節症	変形性関節症の病態、治療について説明し、分類、整形外科の治療、用いられる理学療法評価、治療について理解する。 (教科書 第8章)		
5	齊藤	人工股関節置換術 人工膝関節置換術	人工関節の構造、適応、リスクについて説明し、各人工関節術後のリスク管理、評価方法について理解する。 (教科書 第10章)		
6	齊藤	関節リウマチ 総論	関節リウマチの病態、治療について説明し、各病期に対する理学療法の選択について理解する。また薬物療法、手術療法の進歩に伴うリハビリテーションの変化についても説明する。 (教科書 12章)		
7	齊藤	末梢神経障害 総論	末梢神経障害について説明し、病態、原因、臨床症状について理解する。 (教科書 第14章)		
8	齊藤	脊髄損傷 総論	脊髄損傷について説明し、病態、原因、臨床症状を理解する。 (理学療法ハンドブック第3巻)		
9	齊藤	頭部疾患 総論	頭部の機能解剖について解説する。 頸椎症、頸椎症性脊髄症、椎間板ヘルニア、頸椎後縦靭帯骨化症について説明し、病態、症状を理解する。 (教科書 第16章)		
10	齊藤	腰部疾患 総論	骨盤、腰椎の機能解剖、運動学（腰部負荷）について解説する。 腰部疾患の病態生理について解説し、理学療法治療、評価、ADL指導について理解する。 (教科書 第18章)		
11	齊藤	脊椎の手術 総論	脊椎手術の基本的な手技について解説する。 手術に応じた理学療法の適応について説明し、リスク管理、選択すべき理学療法評価・治療について理解する。 (教科書 第20章)		
12	齊藤	肩関節周囲炎 総論	肩関節の機能解剖、運動学、肩関節周囲炎の病態生理について解説し、関節可動域制限、疼痛が生じる要因を関節運動学に関連させて理解する。 (教科書 第22章)		
13	齊藤	肩の外傷 総論	腱板損傷、肩関節脱臼の病態、症状について説明し、理学療法評価・治療について理解する。 またその他の外傷による肩関節障害についても概要を解説する。 (教科書 第24章)		
14	齊藤	膝靭帯損傷と半月板損傷	靭帯と半月板の機能解剖について解説する。 膝関節損傷の病態とメカニズム、標準的治療について解説する。 (教科書 第26章)		

15	齊藤	捻挫と肉離れ	アキレス腱損傷、足関節捻挫、肉離れの病態について説明し、疾患に付随する機能障害、必要な評価・治療について理解する。 (教科書 第29章)
16	齊藤	まとめと試験	講義全体の総括を行い、定着度確認のためのテストを行う。
成績評価の方法・基準 (100%)			
筆記試験	小テスト		
80	20		
筆記試験 (80%)、小テスト (20%)			
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
講義の復習及び小テストに対する勉強：1～2時間 (復習)			
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法			
テスト結果や小テスト、講義内容に関する質問は随時受け付ける。小テストは次回の講義時に返却する。			
教科書			
「理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I・II」 石川朗 編集 中山書店 「理学療法ハンドブック」 細田多穂 協同医書出版 「図解 四肢と脊柱の診かた」 野島元雄 監訳 医歯薬出版			
参考図書			
「標準整形外科 第12版」 松野丈夫・中村利孝 医学書 PTジャーナル、理学療法などに掲載された各疾患の総論を中心とした文献を必要に応じて紹介、配布します。			
備考：履修者への要望			
整形外科系疾患に限らず、病態理解が不十分であっては適切な理学療法を選択することはできません。なぜその理学療法を選択するのか、病態生理をもとに理解を深めてください。			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
整形外科系理学療法治療学実習	理学療法専攻	2 後期	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
齊藤 誠 ・ 鳥居 昭久					
授業概要					
本講義は模擬症例を使用したCase based Learning (CBL)を行います。講義時間においては、模擬症例に対して必要な理学療法評価を抽出すること、評価の実施(実技練習)、疾患に応じた理学療法治療の実施(実技と講義)と模擬症例検討を行います。模擬症例検討によって抽出された問題点と目標設定、適切な理学療法治療の選択に関してはレポート課題によって学びます。					
授業到達目標					
整形外科系疾患の病態理解を深め、適切な理学療法評価・治療を説明し、実施できる。 模擬症例検討を通して、疾患特性と理学療法評価に基づいた目標設定、理学療法治療の選択ができる。					
授業形態					
実習	主としてアクティブラーニング方式で進めます。グループで実技を行いながらグループディスカッションも実施します。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	齊藤	組織再生・修復 評価と治療	炎症についての基本的な評価・治療を理解し、実施する。 炎症の評価に用いる各測定項目の意義を理解し、評価に関する実技練習を行う。 (教科書 第2章)		
2	齊藤	組織再生・修復 模擬症例検討	急性炎症を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
3	齊藤	変形性股関節症、変形性膝関節症 評価・治療	変形性関節症に対する保存療法の目的を理解する。術前、術後の理学療法評価・治療に関して解説および実技練習を行う。 (教科書 第9章)		
4	齊藤	変形性股関節症、変形性膝関節症 模擬症例検討	変形性関節症を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
5	齊藤	人工股関節置換術、人工膝関節置換術 評価・治療・ADL指導	人工関節全置換術後の脱臼部位などのリスク管理について説明し、理学療法評価・治療を行う際の注意点を理解する。変形性関節症に対する理学療法評価・治療の実技練習を行う。 (教科書 第10、11章)		
6	齊藤	人工股関節置換術、人工膝関節置換術 模擬症例検討	人工関節全置換術後の模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
7	齊藤	高齢者に多い骨折 上肢・脊椎・下肢骨折 総論	高齢者に多い骨折の疾患特性(発生機序、骨折分類など)について理解する。 特に橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折について取り扱う。 (教科書 第5～7章)		
8	齊藤	橈骨遠位端骨折・上腕骨近位端骨折・大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折に関する評価と治療	大腿骨橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折に対する理学療法評価・治療について理解し、実技練習を行う。 (教科書 第5～7章)		
9	齊藤	高齢者の四大骨折 模擬症例検討	大腿骨橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
10	齊藤	関節リウマチ 評価・治療	関節リウマチの疾患特性を説明し、関節保護の重要性および方法を理解する。関節リウマチに対する理学療法(運動療法、ADL指導、物理療法)について解説し、実技練習を行う。 (教科書 第13章)		
11	齊藤	関節リウマチ 評価・治療	関節保護を考慮した評価方法、治療方法を解説し、実技練習を行う。特に実技練習ではADL指導や移乗などの介助についてを関節保護を考慮した方法を学ぶ。 (教科書 第13章)		
12	齊藤	関節リウマチ 模擬症例検討	関節リウマチを有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
13	齊藤	頸部・腰部疾患 評価	頸椎症・頸椎椎間板ヘルニアなどの頸部疾患、脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアなどの腰部疾患に対する理学療法評価について理解し、実技練習を行う。 (教科書 第19、21章)		
14	齊藤	頸部・腰部疾患 治療	頸椎症・頸椎椎間板ヘルニアなどの頸部疾患、脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアなどの腰部疾患に対する理学療法治療について理解し、実技練習を行う。 (教科書 第19、21章)		
15	齊藤	頸部・腰部疾患 模擬症例検討	頸椎症・頸椎椎間板ヘルニアなどの頸部疾患、脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアなどの腰部疾患を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。		
16	齊藤	脊椎手術 評価・治療	手術に応じた理学療法法の適応について説明し、リスク管理、選択すべき理学療法評価・治療について理解する。また、体幹装具を着用した患者に対する注意点を実技を交えて学ぶ。 (教科書 第21章)		

17	齊藤	脊椎手術 模擬症例検討	脊椎手術後の模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。
18	齊藤	筋骨格系疼痛 評価と治療	肩、腰部を中心とした筋骨格系疼痛に対する評価、理学療法を解説する。
19	齊藤	脊髄損傷 評価・治療	脊髄損傷（特に頸髄損傷）に対する理学療法評価・治療を解説し、実技練習を行う。 （理学療法ハンドブック第3巻）
20	齊藤	脊髄損傷 評価・治療	脊髄損傷（特に胸髄・腰髄損傷）に対する理学療法評価・治療を解説し、実技練習を行う。 （理学療法ハンドブック第3巻）
21	齊藤	脊髄損傷 模擬症例検討	脊髄損傷を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。
22	齊藤	末梢神経損傷 評価・治療	末梢神経損傷に対する理学療法評価・治療について解説し、理学療法評価、機能障害予防、治療を目的とした実技練習を行う。 （教科書 第15章）
23	齊藤	末梢神経損傷 模擬症例検討	末梢神経損傷を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。 （教科書 第15章）
24	鳥居	スポーツ障害 概論	スポーツ障害、アスレティックリハビリテーションについて説明し、概論を理解する。
25	齊藤	膝関節損傷と半月板損傷 評価	膝関節損傷の病態とメカニズムについて解説し、必要な理学療法評価・治療、リスク管理について解説し、整形外科的疾患テストを中心とした実技練習を行う。 （教科書 第27-28章）
26	齊藤	膝関節損傷と半月板損傷 治療	膝関節損傷に対する理学療法評価・治療、リスク管理について解説し、状態に応じた理学療法評価・治療の実技練習を行う。 （教科書 第27-28章）
27	齊藤	膝関節損傷と半月板損傷 模擬症例検討	前十字靭帯損傷を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。
28	齊藤	肩関節疾患に関する評価と治療	肩関節周囲炎および腱板損傷に対する理学療法評価・治療について解説し、整形外科的疾患テストを中心とした実技練習を行う。
29	齊藤	肩関節疾患に関する評価と治療	肩関節周囲炎および腱板損傷に対する理学療法評価・治療について解説し、理学療法治療を中心とした実技練習を行う。
30	齊藤	肩関節疾患 模擬症例検討	肩関節周囲炎・腱板損傷を有する模擬症例の症例検討を通して、実施すべき理学療法評価・治療について調べる。肩関節周囲炎および腱板損傷
31	齊藤	まとめと試験	講義全体の総括を行い、定着確認のためのテストを行う。
成績評価の方法・基準（100%）			
筆記試験	ポートフォリオ		
70	30		
<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験（70%）、各講義後に課したレポートをまとめたポートフォリオ（30%） 整形外科系理学療法治療学単位取得が必須条件とします。 年度内名古屋市障がい者スポーツセンターイベントへのボランティア参加を指定回数義務とします。 			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>教科書や文献を読み解く力や臨床推論能力、文章力を向上させることを目的として模擬症例検討を行った結果についてのレポート課題を課します。講義中の模擬症例検討や実技はグループで進めていきますが、最終的なレポート作成は個人で行います。文献の収集や読解、レポートの作成として各講義後に3時間程度の復習時間が必要となると思います。また、GoogleのClass roomを利用して事前に模擬症例は提示するため、必要な理学療法評価を考えるための予習が1時間程度必要と考えます。</p>			
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法			
レポートに関してはGoogleのClass roomを利用してフィードバックを行います。試験に関しては試験問題を返却します。			
教科書			
「理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ」 石川朗 編集 中山書店 「理学療法ハンドブック」 細田多穂 協同医書出版 「図解 四肢と脊柱の診かた」 野島元雄 監訳 医歯薬出版			
参考図書			
「標準整形外科 第12版」 松野丈夫・中村利孝 医学書 PTジャーナル、理学療法などに掲載された各疾患の総論を中心とした文献を必要に応じて紹介、配布します。			
備考：履修者への要望			
レポート課題が多く苦勞するかもしれませんが、適宜フィードバックを行いながら進めていきます。講義中に臨床推論が進むようにグループワークには積極的に取り組むようにしてください。			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害理学療法治療学	理学療法専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
臼井 晴信 ・ 宮津 真寿美					
授業概要					
理学療法の対象となる多くの患者が内部疾患による障害を抱えています。そのため、理学療法士は必ず内部障害を理解する必要があります。内部疾患に対する評価、理学療法及びリスク管理の概要を学びます。各臓器の解剖学、生理学、運動学を復習し、各疾患の病態を学修します。その上で理学療法評価及び治療の目的と方法、効果を講義します。					
授業到達目標					
①心臓、血管の機能・構造を説明でき、循環器疾患に対する理学療法評価及び治療の内容を説明できる。 ②糖代謝が説明でき、糖尿病に対する理学療法評価および治療内容を説明できる。 ③呼吸器系の機能・構造を説明でき、呼吸器疾患に対する理学療法評価及び治療の内容を説明できる。 ④がんに対する理学療法評価及び治療の内容を説明できる。					
授業形態					
講義	教科書とスライドによる講義を行う。一部グループワークによるアクティブラーニングを行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	臼井	内部障害概論と臓器連関	コースオリエンテーション 内部障害の概論と各臓器の関連を学修する 教科書 1章 解剖学の教科書も参照		
2	宮津	骨格筋とエネルギー代謝	骨格筋活動とエネルギー代謝について学修する 教科書 4章		
3	臼井	循環器の基礎	循環器の理学療法の理解に必要な解剖学、生理学を学修する 教科書 4章		
4	臼井	循環器疾患の病態	虚血性心疾患、心不全の病態について学修する 動脈、静脈疾患の病態について学修する 教科書 3章		
5	臼井	呼吸器の基礎	呼吸器の理学療法の理解に必要な解剖学、生理学を学修する 教科書 3章		
6	臼井	呼吸器疾患の病態	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎及びその他呼吸器疾患の病態を学修する 教科書 2章		
7	宮津	糖尿病に対する理学療法の基礎	糖尿病の治療や評価を学修する 教科書 4章		
8	宮津・臼井	まとめと試験	内部障害系理学療法について系統的にまとめる		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	レポート			
70	20	10			
筆記試験 (70%)、レポート (20%)、小テスト (10%) 循環器疾患、代謝性疾患、呼吸器疾患の各単元終了後に小テストを行います。 講義の中にグループワークや考察課題を取り入れ、レポートを提出して頂きます。 筆記試験は後期末に内部疾患系理学療法治療学実習と合わせて行います。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
教科書や資料を事前に予習し、疑問点を抽出して講義に望んでください(1時間程度)。抽出した疑問点を講義や自主学修で解決してください。解決できなかった疑問点は必ず質問してください。講義で示した重要な点や小テストをもとに復習をしてください (1時間程度)。グループワークには積極的に参加し、自分の意見をアウトプットできるように努めてください。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストおよび試験は実施後、結果を開示します。内容の詳細について、希望者に対して個別にフィードバックをします。レポートは返却します。					
教科書					
「ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法第2版」 高橋哲也編 医歯薬出版					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
解剖学、生理学、運動学の内容を整理しておいてください。 疑問を持ち、疑問を積極的に解決する姿勢を大切に、内容を理解するように努めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害理学療法治療学実習	理学療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
白井 晴信 ・ 宮津 真寿美					
授業概要					
内部疾患による障害が、身体機能や活動能力に及ぼす影響を学修します。詳細な各疾患の病態を理解し、疾患により生じる病態と障害を適切に評価する方法と解釈を講義と実践を通して学修します。適切に評価を実施したうえで、結果をもとに根拠を持った理学療法プログラムを提示し実践する力を養います。					
授業到達目標					
①エネルギー代謝と運動生理学の観点から運動負荷試験の結果を解釈し、結果を理学療法に応用できる。 ②運動耐容能の評価を適切に実施し、内部疾患障害の理学療法に応用できる。 ③糖尿病の病態と生じる障害を理解し、状況に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。 ④循環器疾患の病態と生じる障害を理解し、状態に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。 ⑤心電図の測定をし、不整脈の判読と重症度を説明しリスク管理に応用できる。 ⑥呼吸器に対する評価を適切に実施し結果を説明できる。 ⑦呼吸器疾患の病態と生じる障害を理解し、状態に合わせた理学療法評価と治療を説明できる。 ⑧運動負荷試験の目的と禁忌、中止基準を説明し、運動処方に応用できる。					
授業形態					
実習	教科書とスライドによる講義およびグループワークと実習（データ測定、実技演習）を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	心肺運動負荷試験	呼気ガス分析装置を用いて心肺運動負荷試験を実践する。運動負荷試験の理論および実際を学修する。		
2	白井	運動処方	運動耐容能の向上を目的とした運動処方を実践する。運動療法の理論および実際を学修する。		
3	白井	循環器疾患に対する評価と治療	心臓リハビリテーションの概要と運動療法の効果について学修する。教科書 4章		
4	白井	循環器疾患に対する理学療法評価	循環器疾患に対する理学療法評価について学修する。教科書 3章		
5	白井	心電図	心電図及び不整脈について学修する。運動中に出現する不整脈に対する対応を学修する。教科書 3章		
6	白井	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する理学療法について学修する。適切なリスク管理をした上での運動処方を学修する。教科書 3章		
7	白井	呼吸器リハビリテーション	呼吸器リハビリテーションの概要及び呼吸機能評価の方法と指標を学修する。教科書 3章		
8	白井	呼吸器疾患に対する理学療法評価	呼吸器疾患に対する理学療法評価について学修する。教科書 2章		
9	白井	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患に対する理学療法を学修する。排痰法、人工呼吸器、在宅酸素療法の基礎を学修する。包括的呼吸リハビリテーションを学修する。教科書 2章		
10	白井	フィジカルアセスメント	バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントの技能・態度を身につける。教科書 2章・3章		
11	白井	運動療法に関する統合と解釈	運動耐容能の向上を目的とした運動療法の実習を行う。実習で得られたデータについて統合と解釈を行う。		
12	白井	発表とディスカッション	実習で得られたデータをポスター形式で発表する。客観的データを用いて科学的な議論を実践する。		
13	宮津	糖尿病に対する理学療法の基礎	糖尿病の治療や評価を学修する。教科書 4章		
14	宮津	糖尿病に対する理学療法への応用	糖尿病の運動療法を学修する。糖尿病理学療法の知識を確認する教科書 4章		
15	白井	予防理学療法 ガンに対する理学療法	生活習慣病の発生機序と予防、及びがんに対するリハビリテーションについて学修する。教科書 6章		
成績評価の方法・基準（100％）					
筆記試験	小テスト	レポート			
70	20	10			
筆記試験（70％）、レポート（20％）、小テスト（10％） 循環器疾患の理学療法、呼吸器疾患の理学療法、代謝性疾患の理学療法の各単元終了後に小テストを行います。実技演習やデータ測定、考察課題に対してレポートを書いていただきます。レポートの提出、内容も評価対象になります。レポート点には発表による点数を含みます。筆記試験は内部疾患系理学療法治療学の講義内容も含みます。					

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
教科書や資料を事前に予習し、疑問点を抽出して講義に臨んでください(2時間程度)。抽出した疑問点を講義や自主学修で解決してください。解決できなかった疑問点は必ず質問してください。講義で示した重要な点や小テストをもとに復習をしてください(1時間程度)。データ測定や実技演習・ポスター発表の実習も行います。実習やグループワークには積極的に参加し、生理学的根拠を基に自分の考えを考察してください。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
小テストおよび試験は実施後、結果を開示します。内容の詳細について、希望者に対して個別にフィードバックをします。レポートは返却します。
教科書
「ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版」高橋哲也編 医歯薬出版
参考図書
特になし
備考：履修者への要望
グループワークや実習を行います。積極的な参加をしてください。常に疑問を持ち、積極的に解決する姿勢を大切にしてください。自分の意見を積極的に発信し、他人の意見を引き出すよう努めてください。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児疾患系障害理学療法治療学	理学療法専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
嶋本 尚恵					
授業概要					
小児期の理学療法介入に必要な正常発達・各疾患（ダウン症候群・発達障害）の基礎知識、治療展開を説明します。イメージしやすいよう、写真や動画を提示していきます。また小児期特有の考え方や対応についても提示していきます。					
授業到達目標					
①胎児・新生児・乳幼児期の正常発達（反射を含む）を理解し説明することができる。 ②各疾患（ダウン症候群・発達障害）の概要を理解し、適切な評価の選択、問題点の抽出を行い、治療計画をたてることことができる。 ③正常発達や障害を有する子どもの特徴、理学療法について具体的なイメージを持つことができる。					
授業形態					
講義	教科書とスライドによる講義・理解度確認のための小テスト実施				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	嶋本	小児理学療法概論	小児理学療法の最近の傾向・特徴について 〔教科書① 第14章(13章) 〕		
2	嶋本	正常発達①	胎児期・新生児期の発達 〔教科書①第1・2章 ②A・B〕		
3	嶋本	正常発達②	背臥位・腹臥位の発達（微細運動・知覚機能含む） 〔教科書①第1・2章 ②A・B〕		
4	嶋本	正常発達③	背臥位・腹臥位・座位の発達（微細運動・知覚機能含む） 〔教科書①第1・2章 ②A・B〕		
5	嶋本	正常発達④	立位・歩行の発達・6歳頃までの発達について 〔教科書①第1・2章 ②A・B〕		
6	嶋本	ダウン症候群	ダウン症候群の概論・治療について 〔教科書①第11章〕		
7	嶋本	発達障害・知的障害	発達障害・知的障害の理学療法について 〔教科書①第13章〕		
8	嶋本	まとめ・試験	正常発達・各疾患の総まとめ		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト				
80	20				
筆記試験（80%） 小テスト（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
〔予習〕 講義前に教科書に目を通してください。初回講義時に新生児・乳幼児期にみられる原始反射・反応の小テストを行いますので1年次の人間発達学の講義資料を復習し検査方法、発生・消失時期などを確認しておいてください。約30分～1時間 〔復習〕 各講義時に前回の講義内容の小テストを行いますので復習をしておいてください。約30～1時間					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
小テストの答え合わせ、解説を講義の中で行います。 試験の返却方法は講義の中で指示します。					
教科書					
①「イラストでわかる 小児理学療法」上杉雅之監修 医歯薬出版 ②「正常発達 脳性まひの治療アイデア 第2版」 Jung Sun Hong著 紀伊 克昌監訳 三輪書店 (1年次の人間発達学の講義資料を持参してください)					
参考図書					
講義時に示します					
備考：履修者への要望					
講義前に1年次の人間発達学の講義資料を復習し持参してください。 初回講義時に新生児・乳幼児期にみられる反射・反応の小テストを行いますので1年次の人間発達学の講義資料を復習し検査方法、発生・消失時期などを確認しておいてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
小児疾患系障害理学療法治療学実習	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
多田 智美					
授業概要					
小児科領域の理学療法を展開できるようになるために、基礎となる正常発達の理解を深めるとともに、小児科特有の疾患や障害の特徴と、評価・治療の展開について理解する。定型発達児と障がい児の姿勢や動作の確認を行い治療展開に応用できるようにする。					
授業到達目標					
①小児科領域疾患の概要を理解し説明ができるようになること ②小児科1領域疾患に起因する障害に対して、それぞれの症状にフィットした治療選択をするための問題点の抽出、及び評価ができるようになること					
授業形態					
実習	教科書とスライドを中心とした講義, 及び学生の発表を中心に、実習を実施する				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/> 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
<input type="radio"/> 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
<input type="radio"/> 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	多田	小児理学療法概論	小児理学療法概論		
2	多田	正常運動発達①	正常運動発達の復讐① (教科書第1, 2章)		
3	多田	正常運動発達②	正常運動発達の復讐② (教科書第1, 2章)		
4	多田	正常運動発達③	正常運動の動的姿勢観察法		
5	多田	疾患①	脳性まひの概論 (教科書第3章)		
6	多田	疾患②	脳性まひ痙直型の評価と治療① (教科書第4, 5, 6章)		
7	多田	疾患③	脳性まひアテトーゼ型の評価と治療 (教科書第7章)		
8	多田	評価学①	脳性まひの評価 (静的姿勢観察法)		
9	多田	疾患④	重症心身障害の評価と治療 (教科書第8章)		
10	多田	疾患⑤	新生児理学療法の評価と治療 (教科書第12章)		
11	多田	疾患⑥	筋ジストロフィー症の評価と治療 (教科書第10章)		
12	多田	評価学②	脳性まひの評価 (動的姿勢観察法)		
13	多田	疾患⑦	二分脊椎症の評価と治療 (教科書第9章)		
14	多田	補装具・機器	小児領域で使用される機器		
15	多田	まとめ	脳性麻痺・筋ジストロフィー症・二分脊椎・ハイリスク症例の評価・治療介入の確認 (教科書第14章)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	提出物				
90	10				
筆記試験 (90%)、提出物等 (10%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義に臨む前に、必ず教科書に目を通す。学生輪講としてグループでの発表を行いますのでその際にはスライド作成などをグループで行う。予習は通常30分程度、輪講輪番時には2, 3時間かける必要がある。復習は、講義のノートの作成や自主学習で自ら収集した資料は教科書とともに振り返り丁寧に保管しておくこと (1時間程度)。また、正常発達部分で学んだ反射の内容、出現時期、消失時期、統合時期などを再確認して、授業に臨んで下さい。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
授業中における学生輪講の際に、必要な内容については助言を行います。					
教科書					
「イラストでわかる 小児理学療法」上杉雅之監修 医歯薬出版					
参考図書					
講義時に示します					
備考：履修者への要望					
授業には積極的に自身の意見を発信して下さい。また、他人の意見を聞き、その意見に対して自身の意見を発信し、知識を定着させて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
老年期障害理学療法学	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
木村 菜穂子					
授業概要					
理学療法の対象者の多くを高齢者が占める現在、その人たちが持つ問題を理解することは重要である。 本講義では、加齢に伴って起こる高齢者の生理機能・運動機能・精神機能の変化と、高齢者に多くみられる疾患・病態について学習する。					
授業到達目標					
①高齢期に起こる生理機能・運動機能・精神機能の変化を理解し、説明することができる。 ②高齢期に多くみられる疾患・病態について理解し、説明することができる。 ③高齢期の患者に対する理学療法において、問題となるリスク等を考えることができる。					
授業形態					
講義	講義形式で行います。一部、グループワークを行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2.障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3.臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	老化と老年病	老化とは何か、高齢期に頻繁にみられる特性について学習する。		
2	木村	高齢者の身体機能の特性	高齢期にみられる運動機能の変化について学習する。		
3	木村		高齢期にみられる感覚機能の変化について学習する。		
4	木村		高齢期に多くみられる症候群について学習する。		
5	木村	高齢者の精神機能の特性	高齢期にみられる精神機能の変化について学習する。		
6	木村		認知症と高齢期にみられる認知症以外の精神障害について、その特徴やリスクを学習する。		
7	木村	高齢期の理学療法	高齢期に起こる身体的、精神的変化を元に、高齢者に対する理学療法の方法とリスクについて学習する。		
8	木村	講義と試験	講義全体のまとめと試験を実施する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度	提出物			
90	10				
筆記試験 (90%)、授業への参加貢献度・提出物等 (10%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
予習：シラバスに書かれている授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通してください(約30分～1時間)。 復習：毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、不足部分を追記するなど整理し、見直してください。 その上で理解が不十分な部分に関しては、次回の講義までに解決するように努力してください(約30分～1時間)。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
希望される方には、試験答案の開示を行います(要事前連絡)。					
教科書					
「シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト」細田多穂監修 南江堂					
参考図書					
「シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト」細田多穂監修 南江堂 「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学第2版」大内尉義編集 医学書院 「理学療法MOOK10 高齢者の理学療法」黒川幸雄他編集 三輪書店 その他、配布資料(ノート代わり)に必要な内容は補足します。					
備考：履修者への要望					
講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでいただきたいと思います。懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度(私語、グループワークへ等への非協力)は、厳禁です。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活活動学	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真弓					
授業概要					
日常生活活動（以下、ADL）は、理学療法対象者のQOL向上に深く関わる理学療法重要な概念である。この科目では、ADLの概念・範囲・意義を学ぶとともに、セルフケアを構成する主な動作・機能を学ぶ。またその動作を評価する手段を学ぶ。					
授業到達目標					
①ADLの概念が説明できる。 ②ADLの範囲(セルフケア、生活関連動作、QOL)が説明できる。 ③セルフケアを構成する主な動作を説明できる。 ④ADLの評価方法を説明できる。 ⑤基本的な動作の介助や指導ができる。					
授業形態					
講義	教科書を使用した講義を中心に行う。一部グループディスカッションによるアクティブ・ラーニングを行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/> 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
<input type="radio"/> 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
<input type="radio"/> 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	ADLの定義と範囲	コースオリエンテーション。 ADLの概要を学修する。 :テキスト 第1章		
2	加藤	ADL評価	ADL評価の役割と範囲について学修する。代表的な評価法であるBIとFIMについて詳しく学修する。「できるADL」と「しているADL」について学修する。 :テキスト 第2章		
3	加藤				
4	加藤	ADLの基盤となる心身機能	ADLの基盤となる心身機能について考え、理学療法を展開する上での基礎的事項を学修する。		
5	加藤	ADLの運動学的分析	起居動作を運動学的に分析し、介助法や訓練法の基礎的知識を学修する。		
6	加藤	ADL支援機器	セルフケアを助ける、自助具、日常生活用具について、グループワークにて学習しまとめ、発表する。		
7	加藤		歩行補助具、車椅子について、グループワークにて学習しまとめ、発表する。		
8	加藤	まとめと試験			
成績評価の方法・基準（100％）					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
80	10	10			
筆記試験（80％）、振り返りシート（10％）、授業への参加貢献度（10％）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書をしっかりと学修してください。 また、毎回の講義後、振り返りシートを配布します。その日に学んだこと、十分に理解しきれなかったこと、それに対して自己学修した内容を記載してください。（各回、1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
振り返りシートについては、各自のシートに必要に応じコメントします。試験については、個別もしくは全体にフィードバックします。					
教科書					
「PT・OTビジュアルテキスト ADL」柴 喜崇 編集 羊土社 その他、適宜資料を配布					
参考図書					
「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見隆正 編集 医学書院 「姿勢と動作」齋藤宏 他著 メヂカルフレンド社					
備考：履修者への要望					
グループワークの際は、個々が責任を持ち、他と協力して課題遂行することを望む。また、提示されたことだけを行うのではなく、自ら疑問を持ち解決しようとする姿勢で取り組んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活活動学実習	理学療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真弓					
授業概要					
ADL評価の代表的な評価法であるBIとFIMの具体的な採点方法を学修します。また、移動補助具の基本的な使用方法、起居動作の基本的介助のポイントを学修します。その上で、各疾患・障害(脳卒中片麻痺、脊髄損傷、パーキンソン病、人工股関節置換術後、関節リウマチ、切断)に応じたADL練習・指導、介助法の実践を学修します。					
授業到達目標					
①BI、FIMを使用してADL評価が行える。 ②移動補助具の基本的な使用方法を理解し説明できる。また、対象者に適切な補助具を選択し、実際に動作指導が行える。 ③各疾患の病態を踏まえた上で、各疾患による障害のADLの特徴を説明できる。 ④各障害のADL指導を実際に行える。 ・各動作の手順を説明し、必要な介助方法を示すことができる。 ・各障害に必要な管理方法・環境整備について説明できる。					
授業形態					
実習	グループディスカッションを交え、実技を中心に行います。一部、教科書を使用した講義を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	ADL評価	コースオリエンテーション BIとFIMの採点法を学修する :テキスト 第2章、別途資料		
2	加藤		BIとFIMの採点法を学修する :テキスト 第2章、別途資料		
3	加藤	基本的な介助・誘導法	寝返り、起き上がり、立ち上がりの基本的な介助・誘導方法を学修する		
4	加藤		杖、松葉杖、車椅子の処方方法を確認するとともに、歩行と移乗の基本的な介助・誘導方法を学修する:別途資料		
5	加藤	片麻痺のADL障害とADL練習法、介助法	片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-①		
6	加藤		片麻痺患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-①		
7	加藤	関節リウマチのADL障害とADL練習法、介助法	関節リウマチの障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-⑤		
8	加藤		関節リウマチの障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-⑤		
9	加藤	人工関節置換術後のADL障害とADL練習法、介助法	人工関節術後患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第4章-⑨		
10	加藤		人工関節術後患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第4章-⑨		
11	加藤	神経筋疾患のADL障害とADL練習法、介助法	神経筋疾患の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第4章-①②		
12	加藤		神経筋疾患の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第4章-①②		
13	加藤	脊髄損傷のADL障害とADL練習法、介助法	脊髄損傷患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-②③		
14	加藤		脊髄損傷患者の障害の特徴を理解した上で、ADL障害とADL練習法、介助法を学修する :テキスト 第3章-②③		
15	加藤	介助・誘導法のまとめ	授業で扱った疾患・障害を具体的に想定した介助・誘導方法を学修する		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	実技試験	小テスト	参加貢献度		
60	20	10	10		
筆記試験・実技試験 (80%)、授業への参加態貢献度 (10%)、小テスト (10%) ※筆記試験、実技試験で各6割を得点し、総合点で6割の者を合格とする。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義に臨む前に、講義計画に記載された該当する教科書をしっかりと学修するとともに、各疾患の病態・障害について知識を整理してください。3回目以降の授業冒頭に前回授業範囲の小テストを実施しますので、復習もしっかりと行ってください。動作誘導・介助法については、復習時間を十分にとり、様々な人と練習を重ねてください。(各回、1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストについては、次回の授業内にて全体にフィードバックします。 筆記試験については、個別もしくは全体に対し行います。実技試験については、試験終了後直ちに行います。					
教科書					
「PT・OTビジュアルテキスト ADL」 柴 喜崇 編集 羊土社					
参考図書					
「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」 鶴見隆正 編集 医学書院 「姿勢と動作」 齋藤宏 他著 メヂカルフレンド社					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習、グループワークが中心である。個々が責任を持ち、他と協力して課題遂行することを望みます。また、提示されたことだけを行うのではなく、自ら疑問を持ち解決しようとする姿勢で受講してください。 ・オリエンテーション、対人スキル、人への接触の仕方など、実際の臨床的なことを考えて実技に取り組んでください。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山田 南欧美					
授業概要					
義肢装具は、障害児・者が障害を克服し、充実した日常生活を送るために必要不可欠な手段であり、リハビリテーションと密接している。義肢装具の変遷や現況、また義肢装具の構造や機能、評価方法を学修することで、適切な義肢装具を処方するための知識を習得する。また、切断患者のリハビリテーションや装具を使用したリハビリテーションの実際について学修することで、リハビリテーションにおける義肢装具の役割や使用方法について理解する。					
授業到達目標					
①切断術について理解し、切断者に対するリハビリテーションについて説明することができる。 ②義足の構造や部品について理解し、大腿義足・下腿義足・その他の義足について説明することができる。 ③体幹装具、各種下肢装具の意義・目的を理解し、それらの適応疾患や種類について説明することができる。					
授業形態					
講義	教科書やスライドを用いた講義を中心とする。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	運動学・材料学 切断の一般原則	本講義に必要な運動学の知識確認、および義肢装具に使用される材料、および切断の一般原則について学修する。(pp. 21-63)		
2	山田	切断の機能的特徴・リハビリ テーション 義手の分類・構成要素	上肢・下肢切断の機能的特徴、切断者に対するリハビリテーション、および義手の分類・構成要素について学修する。(pp. 64-99)		
3	山田	義足の構造と部品 大腿義足	義足の構造と部品および大腿義足の分類、ペンチアライメント・スタティックアライメントについて学修する。(pp. 120-139)		
4	山田	下腿義足 その他の義足	下腿義足の適合およびペンチアライメント・スタティックアライメント、その他の義足の種類や適合について学修する。(pp. 150-162、170-180)		
5	山田	装具総論 上肢装具の基礎	装具の分類・基本構造および上肢装具の基礎と適合について学修する。(pp. 181-200)		
6	山田	下肢装具の基礎	下肢装具の意義・目的および分類、各部名称を説明する。また、代表的な下肢装具を学修する。(pp. 214-236)		
7	山田	体幹装具の基礎	体幹装具の意義・目的および適応疾患、種類について学修する。(pp. 240-251)		
8	山田	まとめと試験			
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト				
70	30				
筆記試験の得点率が6割未満であった者には、追加課題を課します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各講義前に必ず教科書の講義範囲を読んでください(必要な時間:約15分)。また、各講義後には講義中に学んだこと、重要なキーワードをまとめるようにしてください(必要な時間:約30分)。第2回以降の講義始めには小テストで前講義範囲の習熟度を確認します。講義中のノートや講義時間外にまとめたレポート、その他自主学修で自ら収集した資料を合わせて、ポートフォリオを作成してください。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題 (筆記試験、小テスト、ポートフォリオ等) についての質問は随時受け付けます。					
教科書					
「義肢装具のチェックポイント 第8版」 日本整形外科学会 監修 医学書院					
参考図書					
「装具治療マニュアル」加倉井周一 他 編 医歯薬出版 「義肢装具学」川村次郎 他 編 医学書院					
備考：履修者への要望					
本講義では初めて学ぶ用語が多く、覚えなければならぬことが多いため、各用語の意味をその都度理解するように心掛けてください。不明な点があった場合は、すぐに質問をすること。事前にテキストを読んできたことを前提に講義を行います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具学実習	理学療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山田 南欧美 ・ 西井 千博					
授業概要					
本講義は、臨床において適切に義肢装具を処方・調整する能力を養うことを目的とする。義肢装具学で学修したことを基に、疾患別適応や異常歩行の原因を学習することで、より実践的な場面で必要な知識や考え方を習得する。さらに、グループワークを通して、実際の異常歩行や疾患を想定しながら適切な義肢装具について互いに議論することで、適切な処方や調整に必要な思考過程を学修する。					
授業到達目標					
①義足の適合および異常歩行について理解し、異常歩行の原因究明およびその対処法の提案を行うことができる。 ②各種装具の疾患別適応および適合と評価について理解し、処方および調整とチェックを行うことができる。 ③対象者の症状や動作から、適切な義肢装具を処方し、適合性を評価することができる。					
授業形態					
実習	教科書やスライドを用いた講義、およびグループワークでのアクティブ・ラーニングにて実施する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/> 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
<input type="radio"/> 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
<input type="radio"/> 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	義肢装具学の復習 上肢装具	義肢装具学の内容を復習し、義肢装具学実習の学修につなげる。また、上肢装具の種類、適応について確認する。		
2	山田	脳性麻痺、二分脊椎、ポリオと装具	脳性麻痺、二分脊椎、ポリオに適応する装具について学修する。(pp. 271-274、292-297)		
3	山田	脊髄損傷、脊椎疾患と装具	脊髄損傷、脊椎疾患に適応する装具について学修する。(pp. 275-291)		
4	山田	骨関節疾患、関節リウマチと装具	骨関節疾患、関節リウマチに適応する装具について学修する。(pp. 298-312)		
5	山田	座位保持装置、歩行補助具、車椅子、義肢装具作成にかかわる制度	座位保持装置、歩行補助具、車椅子の構造、義肢装具作成にかかわる制度について学修する。(pp. 314-379)		
6	山田	下肢装具総論 下肢装具の処方	下肢装具の処方と適合チェックについての一般的事項および疾患特異的な事項について学修する。(pp. 250-262)		
7	山田	脳血管障害片麻痺と装具	脳血管障害片麻痺に適応する装具について学修する。(pp. 256-270)		
8	山田	下肢装具のフィット、下肢装具装着時歩行	下肢装具のフィット、異常歩行について学修する。(pp. 224-230)		
9	山田	下肢装具装着時歩行の評価	グループワークにて、課題に挙げる疾患に対しての装具処方を検討する。また、異常歩行の評価を行う。		
10	山田	切断者に対するリハビリテーション	切断者に対するリハビリテーションについて、実技も交えながら学修する。(pp. 75-88)		
11	山田	義足のフィット	義足のフィットについて学修する。(pp. 133-148)		
12	山田	義足の異常歩行	義足の異常歩行について学修する。(pp. 157-180)		
13	山田	義足歩行の評価	グループワークにて、課題に挙げる義足歩行の問題点抽出、および評価を行う。		
14	西井	義足を構成する部品と義足歩行体験	義足を構成する各部品について画像と実物を紹介し、模擬義足を用い義足歩行を体験する。		
15	西井	プラスチック短下肢装具の種類と機能	プラスチック短下肢装具の画像と実物を紹介し、種類や機能および特徴を説明する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	提出課題	参加貢献度			
70	20	10			
筆記試験の得点率が6割未満であった者には、追加課題を出します。参加貢献度では、授業中のグループワークや実習への取り組み姿勢を評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
本講義は義肢装具学で学修した知識を基に進めます。各講義の範囲は義肢装具学と重なる部分もありますので、講義前に義肢装具学の内容を復習した上で授業に臨んでください(必要な時間：約15分)。各講義後には講義中に学んだこと、重要なキーワードをまとめるようにしてください。講義中のノートや講義時間外にまとめたレポート、その他自主学修で自ら収集した資料を合わせて、ポートフォリオを作成してください(必要な時間：約30分)。なお、提出課題として、ポートフォリオの一部を提出していただきます。具体的な提出内容については、授業内で提示します。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題 (筆記試験、提出課題、ポートフォリオ等) についての質問は随時受け付けます。					
教科書					
「義肢装具のチェックポイント 第8版」 日本整形外科学会 監修 医学書院					
参考図書					
「装具治療マニュアル」加倉井周一 他 編 医歯薬出版 「義肢装具学」川村次郎 他 編 医学書院					
備考：履修者への要望					
本講義の内容は、身に付けた知識を自分なりに解釈し、応用し、アウトプットすることで習得されます。講義中の議論やグループワークに積極的に参加し、自分の中で考えたことをしっかりと他者に伝えるように心掛けてください。また、可能な限り実物を紹介して講義を進めます。3階の義肢装具等の陳列棚に保管してあるので、必要に応じて確認して理解を深めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
物理療法学	理学療法学専攻	2 前期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
白井 晴信					
授業概要					
物理療法は、温熱や電気など物理的手段を用いて実際に対象者を治療する方法です。理学療法の中でも根拠が確立されつつある分野です。生理学的メカニズムを基に作用機序と適応、禁忌を学び、根拠を持った物理療法プログラムの立て方を学修します。物理療法機器の使用法についても実習します。基礎的な事項を臨床にいかん反映させるのがイメージできるように講義を行います。					
授業到達目標					
①理学療法における物理療法の位置づけを説明できる。 ②各物理療法の実施方法と生体への効果を説明できる。 ③各物理療法の適応と禁忌を説明できる。 ④生理学的根拠をもって物理療法を選択できる。					
授業形態					
講義	教科書とスライドによる講義を行います。実際に物理療法機器を使った実習と一部グループワークを行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	物理療法概論	コースオリエンテーション 物理療法の概要を学修する。理学療法における物理療法の位置づけを学修する (教科書 1章)		
2	白井	物理療法機器	物理療法で用いる機器について学修する 物理療法の種類を学修する		
3	白井	疼痛のメカニズム	疼痛の種類と発生機序について学修する		
4	白井	寒冷療法の実習	寒冷療法を実演し、方法を身につける 寒冷療法による生体の変化について考察する		
5	白井	寒冷療法	寒冷が生体に及ぼす生理学的変化について学修する 寒冷療法の実際を学修する (教科書 3章)		
6	白井	温熱療法の実習	温熱療法を実演し、方法を身につける 温熱による生体の変化について考察する		
7	白井	温熱療法	熱に関する物理学、生理学を学修する(教科書 2章) 温熱が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 2章)		
8	白井	極超短波療法の実習 超音波療法の実習	極超短波療法、超音波療法を実演し方法を身につける (教科書 2章)		
9	白井	極超短波療法 超音波療法	極超短波療法、超音波療法が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 2章)		
10	白井	電気刺激療法の実習	電気刺激療法を実演し、方法を身につける (教科書 5章)		
11	白井	電気刺激療法	電気刺激療法が生体に及ぼす生理学的変化について学修する (教科書 5章)		
12	白井	水治療法、光線療法、牽引療法	水治療法について学修する(教科書 4章) 光線療法について学修する(教科書 6章) 牽引療法について学修する(教科書 8章)		
13	白井	ケーススタディ	グループワークによる症例検討を行う		
14	白井	ケーススタディ発表	グループワークによる症例検討の発表・ディスカッションを行う		
15	白井	最新の物理療法	臨床で行われている最新の物理療法を学修する		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	小テスト	レポート			
70	10	20			
筆記試験(70%)、レポート(20%)、小テスト(10%)で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各講義の初めに前回講義の内容および生理学的内容の復習事項について的小テストを行います。生理学の復習をして臨んでください(1時間程度)。講義の中では物理療法機器などを使った演習を行います。演習を行った際はレポートの提出を求めます(1時間程度)。積極的に自分の意見を書くようにしてください。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
小テスト、レポートは返却します。筆記試験は結果を開示します。					
教科書					
「標準理学療法学 専門分野 物理療法学」第4版 網本和 編 医学書院					
参考図書					
「EBM物理療法」原著第4版					
備考：履修者への要望					
学修内容が多く多岐にわたります。解剖学、生理学、運動学の知識を整理して学修してください。質問はいつでも受けつけます。疑問を持って講義に参加してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
物理療法学実習	理学療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
白井 晴信 ・ 清島 大資					
授業概要					
温熱療法、寒冷療法、超音波療法、電気刺激療法などを実際に体験し、生体に与える影響をデータから考察する。また、データをまとめレポート作成する。 最終日には、グループごとにプレゼンテーションを行う。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 物理療法の各治療法を基本に則って安全かつ効果的に実施でき、機器の操作・保守・管理ができる 物理療法施行によって発生した生体反応を説明できる。 実習結果からデータを加工・考察し、レポート作成することができる。 					
授業形態					
実習	物理療法機器を使いデータ測定および考察を行う				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井・清島	オリエンテーション、実習準備	物理療法機器説明、注意事項、実習のための機器操作、手順を予習。		
2	白井・清島	実習1日目	寒冷療法の実習 寒冷療法による生理学的効果を検証する		
3	白井・清島				
4	白井・清島	実習2日目	温熱療法の実習 温熱療法による生理学的効果を検証する		
5	白井・清島				
6	白井・清島	実習3日目	超音波療法の実習 超音波療法による生理学的効果を検証する		
7	白井・清島				
8	白井・清島	実習4日目	電気刺激療法の実習 電気刺激による生理学的効果を検証する		
9	白井・清島				
10	白井・清島	実習5日目	表在温熱療法と深部温熱療法の実習 表在温熱と深部温熱が及ぼす生理学的効果の違いを検証する		
11	白井・清島				
12	白井・清島	発表準備	発表に向けて聞き手に伝わりやすいように、スライド・発表原稿を作成する。		
13	白井・清島				
14	白井・清島	発表	実習結果の発表と討論を行う。		
15	白井・清島				
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表	参加貢献度			
50	30	20			
レポート (50%)、発表 (30%)、授業への参加貢献度・学習意欲 (20%) を総合して判定する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各実習項目の目的、機器の操作方法を予習しておく。(1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
レポートは返却します。					
教科書					
「標準理学療法学 物理療法学 第3版」網本 和 編 医学書院					
参考図書					
「理学療法ハンドブック 改定4版 第2巻・治療アプローチ」 細田 多穂 著・編、柳澤 健 編 協同医書出版社					
備考：履修者への要望					
物理療法の実践を体感してください。実習からデータをとり、レポート・発表でアウトプットすることで考察能力を高めてください。互いに議論し考察を深めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅰ (神経生理学のアプローチ)	理学療法専攻	3 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓 ・ 高松 泰行					
授業概要					
<p>学内での講義、実習や自習、臨床実習で身につけた学術や知見をさらに発展させて、神経生理学的理論を基に活用されている理学療法について共に考える。特に、理学療法における系統的治療技術について、その概要を理解することができることを目的に実技を交えて講義を進める。また、ここ数十年で脳科学が発展しており、その知見を基にリハビリテーションが展開されていることから、脳科学に基づく理学療法についても学修する。</p>					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法において臨床上よく使われ、系統的にまとめられている治療技術(主としてPNF)についてその基本的概念を理解することができる。 ・専門書の記述内容や説明を批判的に読み、理解できる。それらのことを他者に説明でき、説得できる。理解できず、他者を説得できない場合は、その解決方法を提案できる。 ・脳科学に基づく理学療法及びリハビリテーションについて理解し、説明できる。 					
授業形態					
演習	1～4回は実技を行います。5～8回はスライドを使用した講義を行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	固有受容性神経筋促通法 (PNF)	PNFの概要 (名称、理論、目的など) を学ぶ		
2	鳥居		PNFの基本技術について学ぶ		
3	鳥居		PNFの臨床応用		
4	鳥居		PNFの臨床応用、まとめ		
5	高松	脳科学と理学療法	脳血管障害者に対する理学療法の脳科学的根拠を学修する		
6	高松		脳血管障害者に対する理学療法の脳科学的根拠を学修する		
7	加藤		5回目、6回目の講義を踏まえ、グループディスカッションにて脳血管障害に対する適切な理学療法及びリハビリテーションについて考え、レポートにまとめる。ニューロリハビリテーションについて学修する。		
8	加藤		ニューロリハビリテーションについて学修する。後半の時間で、筆記試験(ミニテスト)を実施する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
20	20	60			
授業への参加貢献度(60%)、レポート(20%)、筆記試験(20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1、2年次や臨床実習時に学んだ理学療法の知識・技術について受講前にまとめる(開講前に掲示連絡します)。理学療法技術に関する関係成書・ジャーナルを読み、今後の臨床に繋がるよう学習を行う。(1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
筆記試験については、随時個別対応します。レポートについてはコメントを記入し返却します。					
教科書					
「理学療法ハンドブック第1～4巻」 細田多穂 他編 協同医書出版					
参考図書					
適宜					
備考：履修者への要望					
<p>臨床に向かっの知識、技術のまとめに繋がるような受講態度を望みます。</p> <p>**注意** この講義は、本年度開講の「理学療法特論Ⅰ～Ⅴ」の中からいずれか2科目を受講し、合格することにより2単位認定を行うこととする。</p>					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅱ (関節運動学的アプローチ)	理学療法専攻	3 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
齊藤 誠 ・ 鈴木 惇也					
授業概要					
運動器疾患に対する理学療法は様々な手技がありますが、いきなり治療を行うことはできません。まずは評価を行い、問題点を明確にした上で、行う治療が適しているのかを判断しなければなりません。本講義では運動学的視点に基づく関節運動と整形外科的疾患テストなどの評価から臨床推論を行う過程を学ぶことで、臨床現場につながるような講義を目指していきます。					
授業到達目標					
関節運動学に基づいた基本的な関節の動かし方を身につける。 異常な関節運動、可動域制限、整形外科的疾患テストから問題点を抽出する過程を学び、臨床推論能力を高める。					
授業形態					
演習	実技とグループワークを中心に進めていきます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	齊藤	関節運動学的アプローチ 概論	運動学の復習、関節運動学的アプローチの概念について学習する。		
2	齊藤	関節運動学的アプローチの実際	大関節に関する関節運動学と動かし方を解説し、実際に実技を行う。		
3	齊藤	模擬症例検討、グループワーク	模擬症例を用いて症例検討を行う。得られた関節可動域、整形外科的疾患テストなどの評価結果と解剖学、運動学などの知識から臨床推論を行い、患者の関節運動学的な問題点を把握する。		
4	齊藤	模擬症例検討、グループワーク	模擬症例を用いて症例検討を行う。得られた関節可動域、整形外科的疾患テストなどの評価結果と解剖学、運動学などの知識から臨床推論を行い、患者の関節運動学的な問題点を把握する。		
5	鈴木	腰痛症について	腰痛症に対する理学療法評価、治療について解説する		
6	鈴木	腰痛症について	腰痛症に対する理学療法評価、治療について解説する		
7	齊藤	模擬症例検討、グループワーク	模擬症例を用いて症例検討を行う。得られた関節可動域、整形外科的疾患テストなどの評価結果と解剖学、運動学などの知識から臨床推論を行い、患者の関節運動学的な問題点を把握する。		
8	齊藤	発表とまとめ	模擬症例検討を行った結果、抽出された問題点について発表する。 また、全体を総括しまとめを行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
参加貢献度	発表	レポート			
20	30	50			
講義・グループワークへの取り組み (20%)、発表 (30%)、レポート (50%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
運動学 (筋の作用、関節構造)、整形外科的疾患テストについて復習 (1時間程度) をしてくると講義内容が理解しやすくなると思います。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
レポートに関してはGoogleのClass roomを利用してフィードバックを行います。発表に関しては発表後にフィードバックを行います。					
教科書					
「理学療法ハンドブック 第2巻」 細田多穂 編 協同医書出版 「図解 四肢と脊椎の診かた」 野島元雄 監訳 医歯薬出版					
参考図書					
特になし グループワーク時には適宜、紹介、配布します。					
備考：履修者への要望					
実技、グループワークが主体となりますので、受け身の姿勢では身につけません。積極的な参加を期待します。 **注意** この講義は、本年度開講の「理学療法特論Ⅰ～Ⅴ」の中からいずれか2科目を受講し、合格することにより2単位認定を行うこととする。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅲ (筋生理学的アプローチ)	理学療法学専攻	3 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
宮津 真寿美 ・ 川村 皓生 ・ 清島 大資					
授業概要					
理学療法士は、対象者の筋機能を評価し、筋機能の向上を目指す。本科目では、筋機能について再学修するとともに、高齢者に対する理学療法を行う上で重要となるサルコペニア、フレイルの概念を学ぶ。また、筋徒手療法の臨床応用と問題点について学ぶ。					
授業到達目標					
①筋の構造や機能を理解した上で、筋肥大や筋萎縮などの筋機能が説明できる。 ②サルコペニア、フレイルの概念について説明できる。 ③筋徒手療法の臨床応用と問題点が説明できる。					
授業形態					
演習	補足資料、スライドを使用した講義を中心に、一部ゼミ形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	筋肉の構造、機能	筋肉の構造、機能について、再学修する。質疑応答を含めたゼミ形式		
2	宮津	筋機能の基礎：筋肥大	筋肥大のメカニズムを学修する。		
3	宮津	筋機能の基礎：筋萎縮	筋萎縮のメカニズムを学修する。		
4	川村	サルコペニアについて	サルコペニアの概念、病態、関連因子や介入方法などについて学術的背景を中心とした講義を行う。		
5	川村	フレイルについて	近年注目されているフレイルの概念や病態の捉え方、理学療法士としての関わり方などについて学ぶ。		
6	清島	筋徒手療法①	徒手療法にはどのようなものがあり、筋徒手療法とはどんなものなのかを学修する。		
7	清島	筋徒手療法②	筋徒手療法の治療刺激・治療対象・治療目的・治療目標を学修する。		
8	清島	筋徒手療法③	筋徒手療法の治療対象から臨床像を解釈し、出現因子の推測し、基本的治療手順を学修する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	口頭試問				
60	40				
口頭試問 (40%) (20% : 宮津担当、20% : 清島担当)、レポート60% (各教員20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
様々な成書があります。積極的な自己学習によりこの科目の理解につながると考えます。 各教員からの課題レポート作成：約2~3時間					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
レポートや課題は、返却する。					
教科書					
なし。資料を配布したり、他の科目で使用した教科書の持参を指示をすることがある。					
参考図書					
筋機能改善の理学療法とそのメカニズム (ナップ) 葛谷雅文、雨海照祥編；フレイル—超高齢社会における最重要課題と予防戦略：医歯薬出版、2014。 島田裕之編；サルコペニアと運動—エビデンスと実践：医歯薬出版、2014。					
備考：履修者への要望					
臨床実習後、改めて理学療法を学修する機会とし、臨床につながる知識・技術のまとめになるような積極的な受講態度を望みます。 **注意** この講義は、本年度開講の「理学療法特論Ⅰ～Ⅴ」の中からいずれか2科目を受講し、合格することにより2単位認定を行うこととする。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅳ (スポーツ障害理学療法)	理学療法専攻	3 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
スポーツ外傷・障害に対する理学療法は、単に日常生活レベルに戻すことだけではなく、競技復帰に向けて心身共にそのスポーツに適応出来る状態まで戻す必要がある。また、再発予防の為に内容を積極的に取り入れる必要がある。この講義では、スポーツ障害の特徴とアスレティックリハビリテーション、アダプテーションの概念を理解し実践できる内容を展開します。					
授業到達目標					
①スポーツ外傷・障害について説明できる。 ②アスレティックリハビリテーションについて説明できる。 ③アスレティックリハビリテーションを指導できる。 ④基本的なテーピングを実施できる。					
授業形態					
演習	講義形式での知識提供に加えて、グループによって実技実習形式の演習を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	スポーツ外傷・障害概論	スポーツ外傷・障害の概要を学ぶ		
2	鳥居	スポーツ外傷・障害各論	競技特性・部位別のスポーツ外傷・障害を学ぶ		
3	鳥居	アスレティックリハビリテーション技術	動作分析、動作指導、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションについて学ぶ		
4	鳥居	アスレティックリハビリテーション技術	動作分析、動作指導、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーションについて学ぶ		
5	鳥居	アスレティックリハビリテーション技術	テーピングの基本技術と効果について学ぶ		
6	鳥居	アスレティックリハビリテーション技術	テーピングの応用技術と効果について学ぶ		
7	鳥居	まとめ	アスレティックリハビリテーション技術の確認		
8	鳥居	まとめ・試験	まとめをして試験を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	実技試験				
50	50				
筆記試験 (50%) テーピング (指定部位) 技術 (30%) および動作指導実技 (20%) (欠席および受講態度不良の場合には、最終評価から減点します)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
テーピングを含めた実技は講義時間外で自己研鑽が重要になってきます。時間を作って練習すること。(1~3時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
講義の際にコメントします					
教科書					
「理学療法ハンドブック」細田多徳他 協同医書					
参考図書					
講義にて案内します					
備考：履修者への要望					
理学療法技術は受け身の受講態度では身に付きません。日頃からの練習が重要になります。卒業し臨床に赴くための準備期でもあり、積極的な自己研鑽を望みます。 **注意** この講義は、本年度開講の「理学療法特論Ⅰ～Ⅴ」の中からいずれか2科目を受講し、合格することにより2単位認定を行うこととする。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
理学療法特論Ⅴ (吸引・喀痰法)	理学療法専攻	3 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
白井 晴信 ・ 長井 多美子					
授業概要					
呼吸循環障害をもった患者に対する理学療法を行う上で必要な知識及び技術を学修する。また理学療法士は吸引を行うことがある。吸引を行うにあたり呼吸器の基礎、適切なアセスメント能力、体位ドレナージや呼吸介助法の併用、人工呼吸器の知識が求められる。本講義では、呼吸器・循環器に関する基礎を習得した上で、吸引およびフィジカルアセスメントを含む呼吸理学療法技術及びリスク管理を理学療法士、看護師の指導のもとに学修する。					
授業到達目標					
呼吸器・循環器の基礎知識、理学療法評価のもとに吸引を含む呼吸器に対する理学療法の方法、リスク管理について理解して説明することができる。					
授業形態					
演習	講義及び実技形式				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	呼吸器の基礎	理学療法の臨床推論に必要な呼吸器の解剖学、生理学を学修する		
2	白井	循環器の基礎	理学療法の臨床推論に必要な循環器の解剖学、生理学を学修する		
3	白井	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの演習を行い、方法を身につける 結果の解釈を行い、理学療法評価として応用する		
4	白井	呼吸介助法	呼吸介助法の演習を行い、方法を身につける		
5	長井	リスク管理	看護師の視点から、内部障害患者への関わり方について学修する 多職種での連携について考察する		
6	長井	吸引	喀痰吸引の実際を演習し、方法を身につける 吸引のメカニズムを学修する		
7	白井	人工呼吸器の理解	人工呼吸器の知識を学修する		
8	白井	まとめと試験	まとめと試験を行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	小テスト				
60	40				
レポート (60%)、小テスト (40%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
内部疾患系障害理学療法治療学の講義内容と臨床実習での体験をもとに内部障害患者の理学療法について予習をしてきてください(1時間程度)。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テスト、レポートは返却します					
教科書					
なし					
参考図書					
「レクチャーシリーズ理学療法テキスト 呼吸」中山書店					
備考：履修者への要望					
積極的に実習へ参加してください。呼吸理学療法技術実習のためバスタオルを持参してください。 **注意** この講義は、本年度開講の「理学療法特論Ⅰ～Ⅴ」の中からいずれか2科目を受講し、合格することにより2単位認定を行うこととする。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生活環境論	理学療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
木村 菜穂子					
授業概要					
<p>高齢者や障害者が、自立した生活や社会参加を図っていくためには、身体障害に対するアプローチだけではなく、その生活環境へのアプローチも不可欠となってきた。</p> <p>この授業では、そういった分野にPTがリハビリテーション専門家として関わっていくために必要な、生活環境に関する基本的な概略を踏まえた上で、街づくりの視点からの生活環境整備、住宅改修を考えたときの評価方法や具体的なアプローチ方法を学ぶ。また、これらの整備の前提となる社会福祉制度・社会保障制度を学ぶ。</p>					
授業到達目標					
<p>①生活環境の概略を理解する。 ②生活環境整備の前提となる社会福祉制度・社会保障制度を理解する。 ③住宅改修を行うために必要な評価を考慮することができる。 ④利用者が持つ障害の特性を踏まえた住宅改修プランを考慮することができる。 ⑤街づくりの視点に立った生活環境整備と現状の問題点を考えることができる。</p>					
授業形態					
講義	講義形式を中心とし、一部、グループワークを実施します。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	生活環境の概念	生活環境とは何か、高齢者・障害者にとって生活環境がどのような意味を持つのかを学習する。		
2	木村		生活環境の整備が、どのような視点で行われるのかを学習する。		
3	木村	狭義の生活環境 (住宅改修)	生活環境(住宅)改善計画を立てる上で、必要な視点と計画立案までの流れを学習する。		
4	木村		生活環境(住宅)の改善について、具体的な基準を学習する。		
5	木村	広義の生活環境 (まちづくり)	高齢者・障害者の住みよいまちを作るには、どのような視点や問題点があるかを学習する。		
6	木村		高齢者・障害者をとりまく生活環境(まちづくり)の整備について、具体的な基準を学習する。		
7	木村	ケアプランの作成	これまでに学んだことをふまえ、提示された症例のケアプランを作成する(グループワーク)。		
8	木村	講義と試験	ケアプラン作成のまとめと試験を行う。		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
筆記試験(80%)、レポート課題(20%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>予習: シラバスに書かれている授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通してください(約30分~1時間)。 復習: 毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、不足部分を追記するなど整理し、見直してください。 その上で理解が不十分な部分に関しては、次回の講義までに解決するように努力してください(約30分~1時間)。</p>					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
希望される方には、試験答案の開示を行います(要事前連絡)。レポートはコメントを付して返却します。					
教科書					
『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』奈良勲監修 医学書院					
参考図書					
『生活環境論』千住秀明監修 神稜文庫 その他、配布資料(ノート代わり)に必要な内容は補足します。					
備考: 履修者への要望					
講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでいただきたいと思います。懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度(私語、グループワーク等への非協力)は、厳禁です。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域理学療法学	理学療法学専攻	2 後期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
木村 菜穂子					
授業概要					
医療技術の進歩により、様々な障害を持ちながら生活をしている人は年々増加している。介護保険の導入以降、障害を持ちながらも地域で生活することが望まれるようになってはいるが、その人たちを取り巻く状況も変化してきており、その生活を支える立場として、リハビリテーション、特にPTやOTにかかる期待は大きい。このことをふまえて、地域リハビリテーション・地域理学療法とは何か、その中で求められるPTの役割は何か、ということについて、講義を通して考え、理解する。					
授業到達目標					
①地域リハビリテーション、地域理学療法についての概念を理解する。 ②障害を持つ人や高齢者を取り巻く社会資源や制度について理解し、説明することができる。 ③介護保険の基本的な制度について理解し、説明することができる。 ④在宅生活を支える他職種やそのチームアプローチについて理解する。 ⑤地域リハビリテーションの中での理学療法士の役割に付いて考え、説明することができる。					
授業形態					
講義 講義中心に行う。一部グループワークを実施する。					
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。 2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	地域リハビリテーションとは	講義導入（オリエンテーション） 地域リハビリテーションとは何かについて様々な視点から考えるため、グループワークを実施。		
2	木村		地域リハビリテーションとは何か、についてグループワーク発表を行う。地域リハビリテーションの概念について学習する。		
3	木村		世界と日本における地域リハビリテーションについて学習する。		
4	木村		地域リハビリテーションの背景について学習する。		
5	木村	介護保険制度	介護保険制度の導入の背景と目的について学習する。		
6	木村		介護保険制度の基本的な仕組みについて学習する。		
7	木村		介護保険制度導入時からこれまでに行われた改訂について、社会的背景をふまえて変更点を学習する。		
8	木村		介護保険制度改訂のポイントと、今後の社会情勢変化を見据えた制度変化の動向を学習する。		
9	木村	障害者福祉制度	これまでの障害者福祉施策の変化とリハビリテーションが関与する内容を学習する。		
10	木村	関連機関との地域連携	地域リハビリテーションにおける主な関連機関と支援体制について学習する。		
11	木村	各時期の理学療法	急性期・回復期における理学療法の目的や対象者、基本的内容について学習する。		
12	木村		維持期（主に療養型病院・老人保健施設）における理学療法の目的や対象者、基本的内容について学習する。		
13	木村		介護保険分野（訪問リハ・通所リハ等）における理学療法の目的や対象者、基本的内容について学習する。		
14	木村		介護予防について、介護保険分野での事業や今後理学療法士が関与すると考えられる部分について学習する。		
15	木村	地域リハビリテーションに必要な知識	地域リハビリテーションを実施する際に知っておくべき知識（権利擁護対策・身体拘束問題等）について学習する。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト	参加貢献度	参加貢献度	提出物	
90		10			
筆記試験（90%）、小テスト・授業への参加貢献度（提出物、グループワークへの参加度等を含む）（10%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
予習：シラバスに書かれている授業内容を確認し、教科書の当該部分に目を通してください（約30分～1時間）。 復習：毎回、ノート代わりに配布する資料に講義中の学習内容を書き込むため、不足部分を追記するなど整理し、見直してください。 その上で理解が不十分な部分に関しては、次回の講義までに解決するように努力してください（約30分～1時間）。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
希望される方には、試験答案の開示を行います（要事前連絡）。					
教科書					
「シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト」 細田多穂監修 南江堂					
参考図書					
「シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト」 細田多穂監修 南江堂 「理学療法MOOK10 高齢者の理学療法」 黒川幸雄他編集 三輪書店 「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学 第3版」 大内耐義編集 医学書院 その他、配布資料（ノート代わり）で必要な内容は補足します。					
備考：履修者への要望					
講義中心となりますが、理解を深めるように努め、積極的な態度で講義に臨んでいただきたいと思います。懸命に学びたいと考えている周囲の人の妨げになるような態度（私語、グループワーク等への非協力）は、厳禁です。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域理学療法実習	理学療法専攻	1～2 通年	必修	1単位 (45時間)	45時間
担当教員名					
加藤 真弓 ・ 鳥居 昭久 ・ 臼井 晴信 ・ 木村 菜穂子 ・ 齊藤 誠 ・ 田原 靖子					
授業概要					
介護予防事業・保育園事業への参加を行う。 この経験を通して、地域リハビリテーション・地域理学療法の実態を理解し、その中で求められる理学療法士の役割について学習する。					
授業到達目標					
<p>【介護予防領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の身体的側面や心理的側面を理解することができ、介護予防の必要性を理解し説明できる。 基本的な接遇やコミュニケーション能力を高める。 サポートスタッフの一員として構成員と協力し、状況に応じたサポートができる。 身体機能測定(体力測定)・認知機能測定の方法を理解し、安全面に配慮し正確に測定することができる。 地域包括ケアを理解し、介護予防や地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解し説明できる。 <p>【保育園事業／運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就学児の発達の理解を深め、的確に運動場面やレクリエーションの指導ができ、コミュニケーション能力を高める。 未就学児の発達を踏まえた体力測定を、安全面に配慮し、的確に実施できる。 					
授業形態					
実習	ガイダンス等は、パワーポイントや資料を用いて行います。実習では主にグループ単位で活動に取り組みます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤 臼井 木村 齊藤	4月12～3月1日 地域リハビリテーションにお ける理学療法士の役割(介護予 防、地域包括ケア)	①ガイダンス(1回) ②地域包括ケア、介護予防とは(講義)(2回) ③体力テスト、運動方法、サポート方法、指導法などについて(実習)(3回) ④実習 期間：6月14日～3月1日 実習場所：本学、清須市内公共施設他 *現場実習は全ての期間を通し、一人10回程度出席する。 *参加高齢者の体力測定、運動のサポート、リスク管理等を行う。 ウェルフェア、愛知県風船バレー大会の参加を含む。		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17	鳥居 田原	4月12～3月1日 発達領域における理学療法士 の可能性	①オリエンテーション ②未就学児の発達とは ③体操、運動遊び、体力測定、指導方法などについて ④現場実習 実習場所：本学グラウンド他 *運動教室、体力測定 *サツマイモの苗植えやサツマイモ掘りも園児と行ないます。		
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
40	60				
【介護予防領域】					
・実習貢献度(60%) ・提出物(レポート、報告書)(40%)					
交流実習	レポート				
50	50				
【保育園事業／運動遊び】					
・園児と交流実習(50%) ・レポート(50%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【介護予防領域】					
・高齢者の身体的特性、心理的特性について文献調査しレポートにする(掲示連絡します)。体力測定、運動指導については事前に十分な練習をしてください。運動指導をする立場として相応しい姿を考え、普段から実践する(まずは、自身の姿勢や機敏な動き、コミュニケーション等)。(30分程度)					
【保育園事業／運動遊び】					
・子どもの動きをつかむ為、子ども番組や外で出会った子ども達の観察をして下さい。また、5歳児が理解できる言葉使いが必要になります。改めて、自身の言葉使いや行動が子ども達の手本になるかどうかを見直して下さい。また、小学校に入学する直前の子ども達に必要な事を調べて下さい。(1時間程度)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
【介護予防領域】レポート等は、後日返却します。					
【保育園事業／運動遊び】レポート等は、後日返却します。					

教科書
特になし
参考図書
[介護予防領域] 「理学療法MOOK11 健康増進と介護予防」 鶴見正隆 他編 三輪書店
備考：履修者への要望
<p>[介護予防領域]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生スタッフとして運営に関わっていることを自覚し、参加高齢者が安全に、安心して運動ができるように対象者に対する目配り・気配りを怠らず積極的に行動すること。 ・指示待ちで何もしないのではなく、自ら考え行動を起こすこと。 ・人と人との触れ合いを大切に、積極的に交流を図ること。 ・リスク管理面から、報告・連絡・相談を怠らないこと。 <p>[保育園事業／運動遊び]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生スタッフとして教室の運営に関わっていることを自覚し、対象者に対する目配り・気配りを怠らず積極的に行動すること。 ・理学療法士はすべての年代の方を対象とします。未就学児対しても積極的に交流を図ること。

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法概論	作業療法学専攻	1 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山下 英美 ・ 高田 政夫 ・ 横山 剛					
授業概要					
本講義では、作業療法全体について、様々な角度から学習し、作業療法の基本的知識を習得する。この学習の後、それぞれの障害別の専門領域につなげることができるようにする。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法について、定義・原理・歴史・領域が説明できる。 ・ 作業療法の過程が説明できる。 ・ 分野別の作業療法の概要を説明することができる。 ・ 作業療法士の資格制度・求められる資質と適性・役割を理解することができる。 					
授業形態					
講義	講義、グループワーク				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	作業療法とは	作業療法全般について学習する。 第1章-I		
2	山下	作業療法の原理・歴史	作業療法の原理と歴史について学習する。 第1章-II・III		
3	山下	作業療法の領域	作業療法の領域について学習する。 第1章-IV		
4	山下	作業療法の理論 世界の作業療法	作業療法の理論と世界の作業療法について学習する。 第1章-V・VI		
5	横山	作業療法の教育体系 求められる資質・適性	作業療法士の教育体系・資格制度、医療倫理と求められる資質・適性について学習する。 第2章-I・II		
6	山下	チームアプローチ EBM	多職種連携によるチームアプローチ、EBMと作業療法について学習する。 第2章-III・IV		
7	山下	作業療法の過程①	作業療法の過程について、作業療法の目的及び評価と問題点の抽出について学習する。 第3章-I・II		
8	山下	作業療法の過程②	作業療法の過程について、治療・指導・援助計画の立案・フォローアップ、及び作業療法士の思考過程と態度、作業療法の現場について学習する。 第3章-III・IV・V		
9	山下	作業療法の実際 身体機能分野の作業療法	身体機能分野の作業療法の実践課程を学習する。 第4章-I		
10	高田	作業療法の実際 発達過程分野の作業療法	発達過程分野の作業療法の実践課程を学習する。 第4章-III		
11	横山	作業療法の実際 精神機能分野の作業療法	精神機能分野の作業療法の実践課程を学習する。 第4章-II		
12	山下	作業療法の実際 高齢期分野の作業療法	高齢期分野の作業療法の実践課程を学習する。 第4章-IV		
13	山下	医療福祉制度	医療福祉制度について学習する。 第5章-I		
14	山下	管理・運営 記録・報告	作業療法部門の管理・運営、作業療法の記録と報告について学習する。 第5章-II・III		
15	高田	まとめ 試験	講義全体のまとめと試験を実施 第5章-IV		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
80	20				
授業への参加貢献度、課題への取り組み (20%)、筆記試験 (80%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 教科書の該当箇所を読み、疑問点を明らかにした上で授業に臨んでください。約1時間 (復習) 授業の内容を復習し、キーワードを元に理解を深めてください。約1時間					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
筆記試験については、希望者に開示します。					
教科書					
作業療法学概論 二木淑子, 能登真一 医学書院					
参考図書					
なし					
備考: 履修者への要望					
作業療法とは何か、その内容を自分の言葉で表現できるようになりましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法研究法	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝・求野 弥生					
授業概要					
作業療法士にとって、臨床活動は研究の場であるともいえる。作業療法士にとってなぜ研究が必要なのか、どのようにして進めていけばよいかについて学習する。また、卒業論文を指導し、研究の一連の流れを体験する。					
授業到達目標					
①疑問を解決するのにふさわしい文献を集め、その内容を適切にまとめることができる。 ②興味を持った文献について、他者にわかりやすく紹介することができるようになる。 ③卒業研究計画書を作成し、かつその計画書に沿った研究論文を作成する準備ができる。					
授業形態					
講義	グループワークによるアクティブラーニングにて講義を進める。ただし、一部資料やスライドによる講義形式をとる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心をもつる。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田	オリエンテーション	授業の内容および進行について説明する。		
2	高田 求野	文献検索と文献レビュー	図書室の利用、JdreamIIIの利用法を学習する。		
3	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員研究紹介と統計①	高田・山下・加藤・横山・草川・清水の研究紹介と研究手法および検定方法を学習する。		
4	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員研究紹介と統計②			
5	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員研究紹介と統計③			
6	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員研究紹介と統計④			
7	高田	論文書式の説明と計画書の作成	卒業論文の書式の説明を聞き、計画書を作成する。		
8	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員訪問	高田・山下・加藤・横山・草川・清水 研究室へ訪問し指導を受ける。		
9	高田	論文を探して読む。	論文検索をして、興味ある論文を入手でき、論文ノートに記載する。		
10	高田				
11	高田	倫理審査について	倫理審査について説明する。		
12	高田				
13	高田	ワード・エクセル・パワーポイントの使い方	研究に必要なソフトについてコンピュータを利用する。		
14	高田				
15	高田・山下・加藤 横山・草川・清水	教員と研究打ち合わせ	決定した指導教員との打ち合わせをする。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
課題	参加貢献度				
80	20				
授業への参加態度 (20%)、提出物2部 (研究計画・論文写し) (80%) 評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 研究とは何かを日頃から考えておいてください。約30分 (復習) 論文検索や研究計画書の作成は、授業時間外でも意欲的に進めてください。約1時間					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
研究計画書は、指導教員からフィードバックを受け、研究論文作成につなげていきます。					
教科書					
「作業療法士のための研究法入門」 鎌倉 矩子 他 著 三輪書店 「4Steps エクセル統計」 柳井 久江 オーエムエス出版					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
臨床を行う作業療法士にとって研究活動の基盤となる科目です。3年次に余裕を持って卒業研究に取り組むことができるよう2年次に進めておいて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床運動学 (OT)	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
様々な疾患によって引き起こされる機能障害により、人の動作には変化が生じる。その変化とは、疾患ごとにどのような特徴があるのか、またなぜ生じるのかを運動学的に分析する手法を学習する。同時に、それらの動作の変化に対してどのような作業療法的アプローチが可能かを、体験学習を通じて検討する。					
授業到達目標					
①疾患や加齢により生じる動作方法の変化について、なぜそのような動作になるのか、基礎運動学で学習した知識を基に理解することができる。 ②①を他者に説明することができる。 ③動作をモトスコピーを用いて記録し、層ごとの特徴を簡潔な文章で記述できる。 ④多様な動作分析の視点を挙げるることができる。					
授業形態					
講義	教科書と資料による講義を中心とするが、毎回演習を組みこんで体験的に理解する機会を設ける。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	基礎運動学の復習 動作分析の手法	基礎運動学で学んだ概念の復習とその臨床への応用を学ぶ。また、動作分析の基礎をモトスコピーの実践を通して学ぶ。(第1章A~C、第2章I~II)		
2	加藤	動作分析の視点 移乗介助の基礎	OTに必要な動作分析の視点を学ぶ。また、第1回目で復習した運動学的知識を応用し、移乗介助のポイントを学ぶ。(第1章D)		
3	加藤	片麻痺の動作特性と活動支援 ①静止姿勢保持、起居動作	片麻痺患者の動作特性(静止姿勢保持、起居動作)について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。(第3章I)		
4	加藤	片麻痺の動作特性と活動支援 ②歩行、段差昇降	片麻痺患者の動作特性(歩行、段差昇降)について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。(第3章I)		
5	加藤	パーキンソニズム、高齢者の 動作特性と活動支援	パーキンソニズム患者および高齢者の動作特性(静止姿勢保持、起居動作)について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。(第3章VI、X)		
6	加藤	小脳性失調、脊髄損傷の動作 特性と活動支援	小脳性失調および脊髄損傷患者の動作特性(静止姿勢保持、起居動作)について、その特徴と活動支援時のポイントを学ぶ。(第3章II~IV)		
7	加藤	運動学的知識の移動動作支援 技術への応用	第2回で学んだ移乗介助のポイントを活かし、種々の模擬患者に対して移乗介助の体験を行う。またその場面を観察し、モトスコピーを用いて動作分析を行う。(第2章III)		
8	加藤	講義のまとめと試験	授業の総括および筆記試験を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
毎回のレポート提出(20%)、筆記試験(80%)で評価します。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提示される次回の予習プリントを、教科書を熟読した上で自習学習する。(各回30分) ・授業当日観察した動作を、モトスコピーを用いて分析する。予習したことと当日の授業で学んだことを踏まえ、分析結果を考察する。(授業内) 一連のレポートは、次回の授業で提出する。授業を欠席した場合、該当回分の課題レポートは後日提出する。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。 ・筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。 					
教科書					
「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋 正明 他 医学書院					
参考図書					
「基礎運動学」中村隆一他 医歯薬出版 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭 南山堂					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回実技を取り入れます。動きやすい服装で臨んで下さい。 ・動画の撮影できる機器(デジタルビデオカメラやスマートフォン)を持っている学生は、持参して下さい。 ・臨床における対象者の動作観察の視点を養い、動作変更の理由を考えるために必要な知識を身につけます。 ・受け身的ではなく、自身の身体を教材に積極的に様々なことを考え、学び取って下さい。 ・身体障害作業療法学系の講義と関連付けて行うため、関連科目を含めた予習、復習を行うことを求めます。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
基礎作業学	作業療法学専攻	1 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
作業療法の治療的要素である作業についての基礎的な知識を得る。基礎作業学の概略、治療的技術としての作業活動とその遂行に及ぼす要因、作業活動を行う主体である人、作業活動が人に与える要因についての理論、具体的な作業分析について修得する。その知識を基礎作業学実習で具体的に実習し、応用させる。					
授業到達目標					
①作業療法における作業の範囲と分類が説明できる。 ②作業遂行に影響を与える種々の要因を挙げ、説明することができる。 ③作業遂行に関する理論の概要を説明できる。 ④授業内で取り上げる作業分析の意図を理解し、課題を仕上げることができる。					
授業形態					
講義	教科書を元に講義形式で行う。一部、理解を深めるために演習を取り入れる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	基礎作業学と作業	基礎作業学の概要を学ぶ。また、作業の範囲と分類を学ぶ。(第1章)		
2	加藤	作業遂行の構成要素	作業遂行を構成する5つの要素と環境の関わりを学ぶ。(第2章)		
3	加藤	作業遂行に影響を与える要因	作業遂行に影響を与える要因を多視点から学ぶ(第3章I～V)		
4	加藤	作業遂行に関する理論	作業遂行に関する代表的な理論を学ぶ。(第3章VI)		
5	加藤	作業の治療的応用のための基本理論	作業を治療的に応用させるための基本的理論を学ぶ。(第4章)		
6	加藤	作業を実践するための分析方法とその例	作業を実践するための分析方法を、障害領域別に学ぶ。(第5章)		
7	加藤				
8	加藤	まとめと試験	まとめと筆記試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
レポート(20%)、筆記試験(80%)で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時提示されるレポート課題を提出する。授業時間内で仕上げられなかった場合は自宅に持ち帰り仕上げる。 ・ 教科書の該当ページを熟読する。(各30分間) 					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。 ・ 筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。 					
教科書					
「作業療法学全書 第2巻 基礎作業学」日本作業療法士協会監修 協同医書出版					
参考図書					
必要に応じて、授業内に紹介する。					
備考：履修者への要望					
作業療法の構成要素である作業に関する講義です。これから作業療法学を学ぶにあたっての基盤となる知識ですので、十分理解するように努めて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
基礎作業学実習	作業療法学専攻	1 通年	必修	2単位 (30時間)	60時間
担当教員名					
横山 剛 ・ 森下 章生 ・ 後藤 潤子					
授業概要					
基礎作業学で学んだ内容をもとに、実際に作業を行い、その内容を分析する。作業の体験と分析により、作業療法における作業の位置づけを理解する。 (木工) 各自オリジナル本立てを作製する。この作業を通して作業療法でのアクティビティの使用法のバリエーションを増やす。 (革細工) 革細工 (陶芸) 電動ろくろ・手びねり・タタラづくりの技法を学び、作品を作製する					
授業到達目標					
(木工) 木工の基本的な知識・技術を習得する。作業のレディネスの必要性について説明できる。 (革細工) 革細工の基礎的な技法を学び、材料の選定から小物の制作まで出来るように習得する。 (陶芸) 陶芸の基本的な知識・技術を習得する。作品を作る楽しさ、使う楽しさを知る。					
授業形態					
実習	(木工) 初回のみ講義、その他は実習 (革細工) 実習 (陶芸) 講義を交えながら実習				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	<木工> 道具、材料の特性について学ぶ	講義：木材の特性、木材を扱う道具、組み立ての工程、治療としての応用について講義する。		
2		用途に合わせた本立ての製図	実習（製図）：用途に応じた本立てを設計する。三面図、木取り図を作成する。		
3		三面図、木取り図作成			
4		木取り	実習（木取り）：木取り図をもとに板に木取りする。		
5		切断	実習（切断）：縦挽き・横挽きに気をつけ、本立てになるパーツを丁寧に切断する。		
6					
7		かんながけ	実習（かんながけ）：木目に注意して、かんながけをする。またかんなの適切な使用方法を学ぶ。		
8					
9					
10		やすりがけ	実習（やすりがけ）：再度各部パーツの木取りをし、丁寧に鱧がけを行う。紙やすりの使用方法を学ぶ。		
11					
12					
13					
14		組み立て	実習（組み立て）：必ず駆り組み立てをすること。釘うちの箇所を定め、きりもみしてから釘打ちを行う。適正な釘の選別方法、かなづちの使用方法を学ぶ。		
15					
16					
17					
18		塗装	実習（塗装）：塗装の際の注意点と方法を学ぶ。		
19	森下	革素材の基礎を学ぶ	素材の特性、可塑性などの特性を知る		
20		スタンピング、拭き染め	コインケースの制作		
21		金具付け・かがり・仕上げ			
22		カービング、アンティーク染め	キーケースの制作		
23		仕上げ			
24		まとめ、技法の応用	小物の制作		

25	後藤	電動ろくろ	電動ろくろを使って器を作る
26		タタラづくり	タタラづくりの技法を使って器を作る
27		手びねり	手びねりの技法を使って器を作る
28		土・釉薬	土や釉薬の性質について学ぶ
29		窯、焼成	窯や焼成について学ぶ
30		まとめ	これまでの実技の復習
成績評価の方法・基準 (100%)			
筆記試験	レポート		
80	20		
(木工) 作品の完成、完成度、レポート (革細工) 制作物の完成度・授業態度・出席・試験の総合点 (陶芸) 作品の完成度、授業態度、試験の総合点			
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間			
(木工) 予習：木工で作製するものの図面をおこしてください。次回授業時までに作業工程を確認してください。(1回講義につき30分程度) (革細工) 予習：特にありません。復習：教科書を読み返し、道具や技法、材料の名前を再確認してください。 (陶芸) 事前に何をやるか指定した場合は、そのデザインを考えておいてください(1時間程度)			
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法			
(木工) 木工に関してはレポート課題、筆記試験で成績を判定します。すべて採点后に返却いたします。 (革細工) ペーパーテスト実施します。(採点時に間違ったか所を指摘し返却します。) (陶芸) テストやレポートは後日返却します。			
教科書			
(木工) 授業中にプリントを配布する (革細工) 「はじめての革モノづくり」 森下雅代著 美術出版社 (陶芸) 授業で資料を配布します			
参考図書			
授業の中で紹介する			
備考：履修者への要望			
(木工) 作業をすることの意味や治療として用いることの意味を説明できるセラピストになってください。 (革細工) 綿100%の布 (10cm角程度) 20枚、新聞紙の用意 (陶芸) 土に触れる楽しさや、難しさを感じながら技法を学んでください			

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法評価法	作業療法専攻	1 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
授業概要					
作業療法は対象者の問題点を抽出し、目標を立て、解決していく方法を立案する一連のプロセスである。そのため、評価の方法、各種測定法、対象の問題点の抽出・目標設定ができなければならない。その評価の結果を用いて作業療法のプログラム立案を行なえるようにする。この授業ではこれらの作業療法評価の基礎的な事項を学ぶ。その後、実習・各専門分野にてそれらの評価方法が実践できるようにする。					
授業到達目標					
①作業療法における評価の意味、目的を説明することができる。 ②作業療法の評価項目を説明できる。 ③面接、観察の評価の方法					
授業形態					
講義	教科書とスライドによる講義を主に行うが、評価の演習も実施する。グループでの学習、コメントシートを利用する。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	オリエンテーション 作業療法評価の過程	授業の進め方、評価基準に関するオリエンテーション 評価の意味、作業療法評価の過程について 教科書p3-8		
2	清水	作業療法で実施する各種評価	事例の情報をもとに、作業療法実践における各種評価について理解を深める 教科書p274-313, p515-518, p598		
3	清水	作業を評価するということ	作業療法が評価する作業について理解し、作業を評価する視点を深める		
4	清水	根拠に基づく評価	作業療法における理論について理解を深め、実践の根拠を理解する 参考図書p83-87		
5	清水	面接の評価	面接の目的や方法について理解し、面接の演習を通して面接に必要な技能について理解する 教科書p36-46 参考図書p83-87		
6	清水	観察の評価	観察の目的や方法について理解し、観察の演習を通して観察に必要な技能について理解する 教科書p46-52 参考図書p83-87		
7	清水	評価結果の解釈	事例の情報をもとに、評価結果を解釈する際の論理的な思考について学ぶ 教科書p19-22		
8	清水	講義のまとめと試験	まとめ・試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
70	30				
再試験の場合も、同様に評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
学習した内容の共有や議論を行うため、事前に教科書の該当箇所を理解する 1時間程度 講義の中で取り組んだ課題について復習しながら、自分が理解したことをまとめる 1時間程度					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
予習した内容や課題に関しては講義の中で返却します。試験結果は、研究室で内容を確認できます。					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3班」 能登真一、山口昇 他 編 医学書院					
参考図書					
「作業療法学全書」第2巻 「基礎作業学」 澤田雄二編 協同医学出版社 その他、授業中に適宜資料を配布します					
備考：履修者への要望					
作業療法士は常に自己研鑽が必要である。この広義の中で、知識を与えられるだけでなく、自ら学ぶ姿勢が身につけられるよう取り組んで欲しい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法評価法実習	作業療法専攻	1 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
横山 剛 ・ 山下 英美					
授業概要					
この授業は、作業療法評価として必要な情報にはどんなものがあるか、また評価はどのように進めていくのかなどについて、面接を中心に実施し、部分的に実際に他者を評価し、スーパーバイズを受けながら探索していく実習主体の授業である。 カール・ロジャースのカウンセリング技法から共感的理解、自己一致、無条件の肯定的関心について学んでいく。					
授業到達目標					
①作業療法評価として必要な評価項目が挙げられる。 ②ICFの枠組みを用いて、対象者の現状を説明できる。 ③得られた情報について作業療法的視点を交えて解釈し、それを説明できる。					
授業形態					
実習	実習（一部講義）				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山・山下	作業療法の評価プロセス	評価プロセスを確認する		
2	横山・山下	作業療法の評価とは？	評価の意味を確認する		
3	横山・山下	面接について	良い聞き手とは？		
4	横山・山下	面接について	面接評価法の概略、他者理解の必要性の確認		
5	横山・山下	面接について	共感的理解について		
6	横山・山下	面接について	共感的理解について		
7	横山・山下	面接について	自己一致について		
8	横山・山下	面接について	自己一致について		
9	横山・山下	面接について	無条件の肯定的関心について		
10	横山・山下	面接について	無条件の肯定的関心について		
11	横山・山下	面接実習	クラスメイトと面接実習		
12	横山・山下	面接実習	クラスメイトと面接実習		
13	横山・山下	面接実習	クラスメイトと面接実習		
14	横山・山下	面接実習	クラスメイトと面接実習		
15	横山・山下	面接実習	クラスメイトと面接実習		
成績評価の方法・基準（100％）					
課題	レポート				
30	70				
レポート（70％）、課題（30％）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・配布プリントを事前に学習し、質問事項をまとめる。 ・普段生活している中でのご自身の他者とのやり取りをまとめてみる。（1回講義につき30分程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
実習においては、担当教員のスーパーバイズを毎回授業時もしくは次回授業時までを受けていただきます。					
教科書					
授業中にプリントを配布する。					
参考図書					
適宜紹介する。					
備考：履修者への要望					
この授業は、知識を暗記するための授業ではなく、作業療法の評価とはどんなものであるのかを自ら疑問を持ち探求していく授業である。つまり、主体的な実習参加が求められる。この授業で疑問や感想を多く持つことで、作業療法専門科目の授業をより意欲的に受けられるようになって欲しいと願う。自身の確かな学習の感覚を養って欲しいと思う。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業評価学	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
身体障害領域において主に対象とする心身機能/身体構造 (ICF) の分類・障害の種類・障害の神経学的解釈の仕方・代表的な評価方法を学ぶ。					
授業到達目標					
①身体障害領域における評価の意義を説明できる。 ②各心身機能/身体構造の分類・障害の種類を挙げ、説明することができる。 ③各心身機能/身体構造に対する代表的な評価方法を挙げることができる。 ④各心身機能/身体構造を作業療法士が評価することの意義を説明することができる。					
授業形態					
講義	講義形式で行います。随時評価実技の演習を取り入れます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション 上肢操作性の評価	主な対象疾患、病期、作業療法評価の意義と視点など、身体障害領域作業療法の概要を学ぶ。また、上肢操作性に関する評価の視点、代表的な評価法について学ぶ。		
2	加藤	生理機能の評価 骨・関節・筋の評価	生理機能および骨・関節・筋の機能と構造に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
3	加藤	知覚機能の評価①	体性感覚に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
4	加藤	知覚機能の評価②	特殊知覚に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
5	加藤	運動機能の評価①	筋緊張・反射機能・片麻痺機能に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
6	加藤	運動機能の評価②	協調性・バランス・不随意運動に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
7	加藤	発話・構音機能の評価 精神機能の評価	発話・構音機能および精神機能に関する基礎知識とその障害の種類や評価法について学ぶ。また、それらをOTが評価することの意義を学ぶ。		
8	加藤	講義のまとめと試験	授業の総括および筆記試験を行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	レポート	ポートフォリオ		
70	10	10	10		
レポート (10%)、小テスト (筆記) (10%)、ポートフォリオ (10%)、最終回の筆記試験 (70%) で評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> 各単元の終わりに配布されたレポート課題 (次回の予習と当日の復習) を自宅で回答してする。レポートは次回の授業中に回収する。(各回50分) このレポート課題をもとに、毎回小テストを行う。 授業での配布資料やレポートを整理し、ポートフォリオを作成する。(各回10分) 					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。 筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。 					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎テル子 他 編 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭 他 著 南山堂					
参考図書					
随時紹介します。					
備考：履修者への要望					
1年次に学んだ「OT概論」「基礎作業学」「OT評価法」「解剖学」「運動学」「生理学」「人体触察法実習」「心の理解」「リハビリテーション概論」「日常生活作業学Ⅰ」などの基礎科目と密接に関わってきます。どのテキストを調べれば必要な知識が得られるか、などといった情報の整理を随時しておいてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神障害作業評価学	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
横山 剛					
授業概要					
講義内容を理解し、ワークを行いながら臨床のイメージを構築する。 教科書の丸暗記ではなく、実践向けの授業枠組みとする。					
授業到達目標					
精神障害領域における作業療法評価の意義について説明でき。 作業療法評価計画を立案し、計画の重要性について説明できる。					
授業形態					
講義	教科書や配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	精神障害作業療法の概要1	精神医療の歴史		
2	横山	精神障害作業療法の概要2	映画を鑑賞し精神科臨床のイメージを作る1		
3	横山	精神障害作業療法の概要3	映画を鑑賞し精神科臨床のイメージを作る2		
4	横山	作業療法の実際1	精神の障害とは？ 障害の捉え方		
5	横山	作業療法の実際2	生活の考え方（自立と自律）、生きにくさ		
6	横山	作業療法の実際3	障害者援助の考え方。関わり方の工夫		
7	横山	作業療法の実際4	評価方法1		
8	横山	作業療法の実際5	評価方法2		
9	横山	作業療法の実際6	評価方法3		
10	横山	症例の評価計画を立案する1	回復状態の考え方		
11	横山	症例の評価計画を立案する2	目的に見合った評価項目の選択		
12	横山	症例の評価計画を立案する3	評価方法の選択		
13	横山	症例の評価計画を立案する4	評価実施上の留意点		
14	横山	症例の評価計画を立案する5	評価順序の組み立て		
15	横山	症例の評価計画を立案する6	まとめ		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート				
70	30				
筆記試験（70%）、課題（質問表30%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
配布プリントや教科書などを事前に読み込み、必ず疑問を持てくること。（1回の講義につき1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
質問表を毎回授業時に記載していただきます。その質問に対して授業内でフィードバックいたします。					
教科書					
「精神障害と作業療法」山根 寛 著 三輪書店 その他配布プリント					
参考図書					
授業内で紹介する					
備考：履修者への要望					
精神という目には見えないものを取り扱う領域であるので、自身の他者への影響を考慮して行動すること。毎回質問表を使用するので、身の確かな学習の感覚を養って欲しい。質問がない、質問できない、ということがないように、質の高い質問ができるようになって欲しい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業評価学	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
高田 政夫					
授業概要					
発達障害領域における作業評価では、成長と成熟とからなる発達過程を学ぶことにより、子どもの発達の滞りについて、感覚運動的側面、知覚・認知的側面から知ることをめざします。本講義では、運動機能、感覚機能、心理・社会機能それぞれの発達段階の変化について学びます。また、運動機能、感覚機能、心理・社会機能の相互の関係性について学びます。更に、作業療法士が発達障害領域で用いる評価法について学習します。					
授業到達目標					
①運動機能、感覚機能、心理・社会機能それぞれについての発達の流れを理解し、説明することができる。 ②運動機能、感覚機能、心理・社会機能の発達が相互に及ぼす影響について理解し、説明することができる。 ③作業療法士が発達障害領域で用いる評価法について説明することができる。					
授業形態					
講義	スライドを用いた講義を中心とする。 初回授業時に授業内容の細目について記入した授業ノート配布する。この授業ノートに従い進めます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田	発達障害作業評価学とは	本講義の概要について理解し発達障害領域の作業療法評価について基本的事項を学ぶ		
2	高田	粗大運動機能の発達	誕生からおよそ1歳までの間に獲得される粗大運動機能について学ぶ		
3	高田	感覚機能の発達	感覚統合理論に基づき感覚機能がどのように発達していくのかについて学ぶ		
4	高田	口腔機能の発達	口腔機能がどのように獲得され、発達していくのかについて学ぶ		
5	高田	上肢機能の発達	上肢機能がどのように獲得され、発達していくのかについて学ぶ		
6	高田	ADL・コミュニケーションの発達	ADLやコミュニケーション能力がどのように発達していくのかについて学ぶ		
7	高田	心理・社会機能の発達	心理・社会機能がどのように獲得され、発達していくのかについて学ぶ		
8	高田	発達障害領域の作業評価	運動機能、感覚機能、心理・社会機能の相互関係についてそれぞれの発達を復習しながら学ぶ		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テスト	ポートフォリオ	参加貢献度		
70	10	10	10		
筆記試験 (70%)、小テスト (10%)、ポートフォリオ (10%)、参加貢献度 (10%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
既に学んだ人間発達学の内容をよく復習して下さい。 (予習) 教科書を読み、内容を理解し、ノートにまとめましょう。(約30分～1時間) (復習) 他の回で学んだ内容との関連性などを考察しながら学習をして下さい。(約30分～1時間) 毎回授業の初めには、前回授業に関する小テストを実施します。 試験終了後すべての学習成果ファイルを提出してもらいます。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
解答例の提示、個別面談					
教科書					
「イラストでわかる発達障害の作業療法」 上杉雅之監 辛島千恵子編 医歯薬出版					
参考図書					
必要に応じて参考書を提示します。					
備考：履修者への要望					
講義内容を理解するには、小さなお子さんのイメージを持つことがとても重要です。 身近に小さなお子さんがいる場合には、積極的に関わって、言動をよく観察してみてください。 並行開講中の『発達障害作業治療学実習』でお付き合いするお子さん達と楽しくかかわられていますか。余裕が持てたらしっかり成長を観察しましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業治療学理論	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
作業療法では、対象者のニーズの実現を目標として、評価、介入を実施する。本講義では、理論を基盤とした、作業療法の枠組み、焦点、プロセスなどについて学習する。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法における、理論の必要性和意義を説明できる。 ・作業療法の様々な理論について、その焦点や見方を説明できる。 ・理論と作業療法の実践とのつながりについて説明できる。 ・作業療法の独自性について、学んだ知識を用いて、自らの意見を述べるができる。 					
授業形態					
講義	講義、グループワーク				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	作業療法の理論の概観	プリントにより、作業療法の理論の構成およびその内容について学ぶ。		
2	山下	パラダイムと関連知識	教科書第2章のパラダイムの意味、実践モデルを学ぶ。		
3	山下	作業パラダイム	教科書第3章の作業療法実践の初期の展開を説明し、作業パラダイムの理解をする。		
4	山下	機械論パラダイム	教科書第4章の20世紀の中期における作業療法の実践の発展を読み、機械論パラダイムを理解する。		
5	山下	現代のパラダイム	教科書第5章の現代のパラダイムを読み、新たなパラダイムを学ぶ。		
6	山下	理論理解	グループで理論を選択して、その内容について理解し、報告を行う準備をする。		
7	山下	理論の報告	各理論をグループごとで報告する。		
8	山下	講義と試験	授業の総括と試験を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
30	50	20			
授業への参加貢献度、課題への取り組み (20%)、報告 (50%)、筆記試験 (30%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 教科書の該当箇所をよく読み理解を深めてください。 講義で課題に出された内容については、各自、調べて取組をした上で次の講義に参加して下さい。(約1時間) (復習) 授業の内容を復習し、グループ報告の後は、他のグループの報告内容の理解に勤めてください。(約1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
グループ学習の報告については講義の中でフィードバックします。筆記試験は、希望者に開示します。					
教科書					
「作業療法実践の理論第4版」 ギャーリー・キールホフナー著 山田孝他訳 医学書院					
参考図書					
適宜紹介します。					
備考：履修者への要望					
作業療法の枠組みを理論的にしっかりと学び、作業の効果的な介入計画と実施、そして説明ができる作業療法士を目指しましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業療法治療学実習	作業療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山下 英美 ・ 加藤 真夕美 ・ 草川 裕也					
授業概要					
臨床実習では評価、治療計画、治療という一連の作業療法プロセスを実施する。この授業では臨床実習に向け、生活行為向上マネジメントを学ぶことで、作業療法プロセスの理解を深める。 さらに、客観的臨床能力試験 (OSCE) の視点を導入することにより、臨床で必要とされる「知識・技能・態度」を理解し、それに対する自身の能力を知ることにより、臨床実習までに必要な学習内容を明確にし、学習計画を立て、学習し始めることがこの講義の目的である。					
授業到達目標					
①生活行為向上マネジメントの概要を理解し、模擬事例に立案できる。 ②臨床で必要とされる「知識・技能・態度」を理解し、それに対する自身の能力を知ることにより、実習までの学習計画を立て、実施し始める。					
授業形態					
実習	講義及び実技練習やグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングにて授業を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	オリエンテーション	本授業の目的・流れを説明する。 客観的臨床能力試験 (OSCE) の考え方を学習する。		
2	山下	臨床実習とは	臨床実習Ⅲ・Ⅳを体験した3年生から実習の体験談を聞く。		
3	草川・山下	生活行為向上マネジメント (概要)	生活行為向上マネジメントの概要を学習する。		
4	草川・山下	生活行為向上マネジメント (演習)	模擬事例を用いて、生活行為向上マネジメントを立案する。		
5	草川・山下	生活行為向上マネジメント (演習)	模擬事例に対して立案した、生活行為向上マネジメントを発表する。		
6	加藤・山下	療法士面接 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
7	加藤・山下	療法士面接 演習	療法士面接を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
8	加藤・山下	バイタルチェック・腱反射 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
9	加藤・山下	バイタルチェック・腱反射 演習	バイタルチェック・腱反射を学生間で行い、フィードバックを受ける		
10	加藤・山下	関節可動域測定 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
11	加藤・山下	関節可動域測定 演習	関節可動域測定を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
12	加藤・山下	徒手筋力検査 説明	目標の確認・ポイントの説明・評価項目と採点基準を理解する。		
13	加藤・山下	徒手筋力検査 演習	徒手筋力検査を学生間で行い、フィードバックを受ける。		
14	山下・加藤・草川	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。		
15	山下・加藤・草川	客観的臨床能力試験 (OSCE)	模擬患者に対して、上記の内容に関して「知識・技能・態度」の確認を行い、実習に向けての学習計画を立案する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
実技試験	参加貢献度				
90	10				
実技試験 (90%)、グループディスカッションでの取り組み (10%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 実技項目に関して、既に学習した内容を確認し、この授業に臨むようにしてください。(約1~2時間) (復習) 自身の不足点に関して、補強するようにしてください。(約1~2時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
個々の実技項目に関して、その都度フィードバックしていきます。14・15回の実技試験では、模擬患者からもフィードバックしますので、臨床で必要とされる「知識・技能・態度」について自身の不足分を補強してください。					
教科書					
必要に応じて各自で準備してください。					
参考図書					
適宜紹介します。					
備考：履修者への要望					
臨床実習へ向けての具体的な準備に役立てるための授業であることを理解し、取り組んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学 I	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
草川 裕也					
授業概要					
本講義では、身体障害領域（主に整形外科疾患）における作業療法対象疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎などを学習する。整形外科疾患の作業療法は、解剖学および運動学の基礎知識を元に展開されるものであるため、それらの復習を行いながら、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチを学ぶ。					
授業到達目標					
①各疾患の特徴・障害像を説明できる。 ②障害像を理解したうえで、必要な評価項目を列挙することができる。 ③各疾患における作業療法アプローチについて討議できる。					
授業形態					
講義	授業は、毎回、グループワークとグループ発表にて進める。ただし、一部教科書と配布資料による講義を含む。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	草川	身体障害領域における作業療法の展開	オリエンテーション 作業療法の流れを理解する ：教科書pp. 16-26		
2	草川	骨折①：疾患の特徴と障害像	骨折に関する基礎知識（病態、修復方法、治癒過程、合併症）について学習する ：教科書pp. 277-305		
3	草川	骨折②：骨折症例に対する作業療法	骨折修復後の作業療法の展開（評価とアプローチ）を学習する ：教科書pp. 277-305		
4	草川	熱傷：疾患の特徴と障害像、作業療法	熱傷に関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp. 242-254		
5	草川	関節リウマチ：疾患の特徴と障害像、作業療法	関節リウマチに関する基礎知識と症例に対する作業療法の展開について学習する ：教科書pp. 255-276		
6	草川	脊髄損傷①：疾患の特徴と障害像	脊髄損傷に関する基礎知識（病態、治療法、合併症）について学習する ：教科書pp. 172-188		
7	草川	脊髄損傷②：脊髄損傷症例に対する作業療法	脊髄損傷症例に対する作業療法の展開（評価とアプローチ）を学習する ：教科書pp. 172-188		
8	草川	まとめと学習到達度の確認テスト	まとめ（整形外科疾患症例の作業療法を行う上での注意点など）と学習到達度の確認テストを実施する		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト	グループワーク			
70	20	10			
筆記試験（70%）、グループワークでの課題（10%）、小テスト（20%） 再試験受験者は、再試験の点数で評定する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
グループワークを円滑に進めるために、各自、教科書の指定範囲を読み、授業に臨んで下さい（約1～2時間）。 講義後は、教科書を読み直すなど復習をしっかりと行って下さい（2時間程度）。 小テストは、解剖学に関する問題が中心となります。過去に学習したことをしっかりと復習しておいて下さい（約1～2時間）。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
小テスト、筆記試験ともに研究室に保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎テル子他 編 医学書院（2011年） 「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」 岩崎テル子 編集 医学書院（2016年）					
参考図書					
「作業療法全書第4巻 身体障害」 日本作業療法士協会 監修 協同医書出版 「作業療法士のためのハンドセラピー入門」 中田真由美・大山峰生 著 三輪書店 「作業療法マニュアル33 ハンドセラピー」 日本作業療法士協会学術部 企画・編集 その他、整形外科学、作業療法概論、作業療法評価学で用いた教科書を参照して下さい。					
備考：履修者への要望					
本講義では主に整形外科疾患における身体機能障害に対する評価や作業療法アプローチについて学習します。作業療法では、ここで学んだ評価や作業療法アプローチを基礎として、対象者その人の作業に着目し、環境や作業そのものにもアプローチしその人のしたい作業ができるよう支援していきます。他の講義との関連を各自で整理しながら受講して下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学Ⅱ	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
清水 一輝 ・ 水口 和代					
授業概要					
身体障害領域（主に中枢神経系・内部障害）において作業療法士が対象とする代表的な疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・作業療法アプローチの基礎などを学習する。心身機能への評価・治療にとどまらず、対象者の生活の背景を知り、過去・現在・未来の繋がりを重要視する視点を養う。					
授業到達目標					
各疾患の障害特性を説明することができる。また各疾患について、①症例の個性性に対応した評価項目選択 ②評価手段の選択 ③なぜその評価が必要なのかの理由付け ④評価手順の妥当性 ⑤該当疾患の代表的なOT介入方法を理解し説明することができる。更に⑥得られた結果の解釈を経て目標設定・プログラム立案するという作業療法の流れを理解することができる。					
授業形態					
講義	主に事例を通じたグループ学習を中心に行います				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	オリエンテーション 臨床推論について	授業の進め方、評価基準に関するオリエンテーション 評価の結果から、治療方法を導く臨床推論について		
2	清水	身体機能作業療法の治療原理	身体障害領域OTにおける作業の治療原理について学ぶ。 各自で学習をした治療原理について他者と共有し、その理解を深める。教科書p70-151		
3	清水	脳血管障害（錐体路障害）について	脳血管障害の障害特性について学ぶ。教科書p162-184		
4	清水	脳血管障害（錐体路障害）の評価の解釈	脳血管障害の評価方法とその結果の解釈について、事例を通じて学習する。教科書p162-184		
5	清水	脳血管障害（錐体路障害）の介入の考え方	脳血管障害の評価結果から介入プログラムの立案について、事例を通じて学習する。教科書p162-184		
6	清水	脳血管障害（錐体路障害）の介入についての振り返り	各自で考えた介入について共有し、介入の考え方の理解を深める。教科書p162-184		
7	清水	脳血管障害（小脳障害）について	脳血管障害の障害特性について学ぶ。教科書p162-184		
8	清水	脳血管障害（小脳障害）の評価の解釈	脳血管障害の評価方法とその結果の解釈について、事例を通じて学習する。教科書p162-184		
9	清水	脳血管障害（小脳障害）の介入の考え方	脳血管障害の評価結果から介入プログラムの立案について、事例を通じて学習する 教科書p162-184		
10	清水	脳血管障害（小脳障害）の介入についての振り返り	各自で考えた介入について共有し、介入の考え方の理解を深める。教科書p162-184		
11	清水	神経筋疾患、神経変性疾患について	神経筋疾患、神経変性疾患の障害特性について学ぶ。教科書p336-373		
12	清水	神経筋疾患、神経変性疾患の評価の解釈	神経筋疾患、神経変性疾患の評価方法とその結果の解釈について、事例を通じて学習する。教科書p336-373		
13	清水	神経筋疾患、神経変性疾患の介入の考え方	神経筋疾患、神経変性疾患の評価結果から介入プログラムの立案について、事例を通じて学習する。各自で考えた介入について共有し、介入の考え方の理解を深める。教科書p336-373		
14	清水	内部障害の介入の考え方	内部障害について作業療法の介入の基本について学ぶ。教科書p376-439		
15	清水・水口	障害当事者へのインタビュー	片麻痺当事者のゲストへのインタビュー体験する。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート				
70	30				
筆記試験（70%）、レポート（30%）で評価します。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業の学習経過をポートフォリオに収め、単元ごとに提出する（2時間程度） ポートフォリオの中身は、授業のプリント、毎回の授業内容に即した課題の回答、課題を遂行するために収集した資料、課題を遂行しながら興味が湧いてきたこと、その興味に対して調べたこと、いまだ理解しきれないこと、など					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオは講義の中で返却・フィードバックします。筆記試験は研究室に保管していますので、内容を確認することができます。					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」 岩崎テル子 編集 医学書院 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎テル子 他編集 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭 他著 南山堂					
参考図書					
「作業療法全書第4巻 身体障害」 日本作業療法士協会 監修 協同医学出版 その他「日常生活作業学Ⅱ」「高次脳障害作業治療学」「リハビリテーション関連機器」をはじめあらゆる分野の授業で用いる教科書・資料等が参考になります。					
備考：履修者への要望					
学習内容が多岐にわたります。復習を先延ばしにすることのないよう、各回の前後に予習・復習を必ず行う習慣をつけて下さい。予習・復習はテキストの該当箇所を熟読することを優先させて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
身体障害作業治療学実習	作業療法学専攻	2 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
清水 一輝 ・ 草川 裕也 ・ 加藤 真夕美					
授業概要					
身体障害領域の作業療法において主に用いられる検査測定方法について、実施方法・記録の仕方・結果の解釈の仕方を、実習を通して学習する。					
授業到達目標					
①各疾患の特性に応じた評価項目選択 ②なぜその評価が必要なのかの理由付け ③結果の予測 ④受講生(学生)を対象とした正確な評価の実施 ⑤記録 ⑥結果の解釈を行うことができる。 また、⑦評価結果がいかにOT介入に繋がるかを、模擬症例役との対話を通して理解することができる。					
授業形態					
実習	実習形式で行います。なお、第13・14回は、グループワークによるアクティブ・ラーニングを行います。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水・草川	バイタルサイン 身体計測	バイタルサイン、身体計測の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
2	清水・草川	上肢操作性	STEF・MFTの実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
3	清水・草川	関節可動域測定(上肢)	関節可動域測定(上肢)の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
4	清水・草川	関節可動域測定(下肢・体幹)	関節可動域測定(下肢・体幹)の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
5	清水・草川	筋力測定(MMT上肢/握力)	筋力測定(MMT上肢/握力)の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
6	清水・草川	筋力測定(MMT下肢・体幹)	筋力測定(MMT下肢・体幹)の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
7	清水・草川	体性知覚検査	体性知覚検査の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
8	清水・草川	まとめ	第1~7回までの内容を振り返るための中間試験とそのフィードバック。		
9	清水・草川	特殊知覚検査	特殊知覚検査の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
10	清水・草川	筋緊張検査 反射検査	筋緊張および反射検査の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
11	清水・加藤	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
12	清水・加藤	協調性検査 バランス検査	協調性およびバランス検査の実施方法、記録、結果の解釈の仕方を実習を通して学ぶ。		
13	清水・加藤	模擬症例評価①	模擬症例評価を通して、評価計画の立案の仕方学ぶ。		
14	清水・加藤	模擬症例評価②	模擬症例評価を通して、評価実施の手順や留意事項について学ぶ。		
15	清水・草川 加藤	試験とフィードバック	第1~12回までの講義内容に即した実技試験と、その結果のフィードバック。		
16	清水・草川 加藤				
成績評価の方法・基準(100%)					
実技試験	レポート	中間試験			
60	20	20			
各種実技試験の得点、中間試験、模擬症例評価に関するレポート、の3点で評価します。再試験も同様に評価します。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
毎回「身体障害作業評価学」の該当授業の資料等を熟読の上、持参してください。(1時間程度) 実技の習得は、授業時間内だけの学習では不可能です。試験日までに自習時間を確保し、受講生同士で確実に実施できるよう練習を積み重ねておいてください。(各テーマ1時間程度) 第13回には模擬症例情報を基にした評価計画レポートを、第14回には模擬症例評価結果をまとめたレポートを提出して頂きます。グループワークが基本となりますので、効率的に作業ができるよう日程調整などをして進めて下さい。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
中間試験に関しては、講義の中で結果を伝えます。試験のフィードバック方法は講義の中で指示します。試験結果は研究室に保管していますので、事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」 岩崎 テル子他 編 医学書院 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎 義昭他 著 南山堂 「新・徒手筋力検査法」 津山 直一 訳 協同医学出版					
参考図書					
随時紹介します。					
備考：履修者への要望					
実技を中心に行うため、動きやすい服装で臨んでください。 (半袖・半ズボンなど大関節が必要に応じて露出できる服装が望ましい。なお、スカートは避けてください) 評価する側のみならず「評価される側」の体験を通して、治療者が対象者に与える影響を感じ取る場でもあることを認識し、意義ある実習として下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神障害作業治療学	作業療法学専攻	2 後期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
横山 剛					
授業概要					
講義を通じて精神障害における各疾患・疾病・障害の特徴・精神科作業療法の理論を学習する。精神科作業療法の特徴や意義について学ぶ。					
授業到達目標					
①各疾患・疾病の特徴・留意点が説明できる。 ②疾患における精神科作業療法の意義について説明できる。					
授業形態					
講義	講義およびグループワーク課題レポートの作成				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	オリエンテーション 精神の病と障害	授業の概要説明、課題の説明。精神の病と障害について学ぶ。		
2	横山	統合失調症	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
3	横山	気分障害	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
4	横山	人格障害	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
5	横山	神経症圏	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
6	横山	アルコール依存症	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
7	横山	自閉症	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題に取り組む		
8	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
9	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
10	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
11	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
12	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
13	横山	発表	統合失調症、気分障害、人格障害、神経症圏、アルコール依存症、自閉症、のそれぞれのグループワーク課題の発表		
14	横山	質問表の応答	質問表の応答		
15	横山	まとめ	質問表の応答、まとめ		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	課題				
60	40				
筆記試験 (60%)、グループワーク課題 (質問表の応答含む) (40%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
グループワーク課題に取り組んでください。(1回の講義につき1~2時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
グループワークも含め、毎回質問表を使用するので、その質問に答えます。また、担当した課題の発表の際には、他の学生の質問表に応答します。					
教科書					
精神障害と作業療法 第3版 山根 寛 三輪書店					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
本講義は、作業療法の治療学における精神分野の内容です。病気にとどまらず幅広い知識が必要ですので新聞や他の本についても理解を深めて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神障害作業治療学実習	作業療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
横山 剛					
授業概要					
①精神障害に対する評価の考え方と評価方法の学習 ②評価法の実習 ③評価結果のまとめと整理 ④レポート作成と発表					
授業到達目標					
①精神障害に対する作業療法の考え方を理解し説明できる。 ②作業療法で実施される評価法のいくつかを実施できる。 ③評価結果を整理し、まとめて、発表できる。					
授業形態					
実習	講義・実技				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	評価について	評価のタイプを講義し、5W1Hの視点から、評価について学ぶ。		
2	横山	評価について			
3	横山	評価計画立案	評価を効率よく行うための方法について教授し、評価計画を立案する。		
4	横山	評価計画立案			
5	横山	評価実施	指定した評価法を実施し、結果を整理する。		
6	横山	評価実施			
7	横山	評価実施とフィードバック	必要な評価内容をリストアップし、評価計画に加えて実施する。随時フィードバックを受けながら、結果を整理する。整理したものをレポートにまとめる。		
8	横山	評価実施とフィードバック			
9	横山	評価実施とフィードバック			
10	横山	評価実施とフィードバック			
11	横山	評価実施とフィードバック			
12	横山	発表	レポートを発表する機会を持ち、他者との視点の違いを確認する。		
13	横山	発表			
14	横山	発表			
15	横山	発表			
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表				
70	30				
レポート (70%)、発表 (30%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
①心理学、臨床心理学の教科書、ノート類を一度は必ずreviewしておく。 ②臨床心理学、精神医学の講義と関連付けて履修すること。 ③毎回の実習のレポートを次回授業までにまとめてください (1回の講義につき1時間程度)。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
実習においては毎回の授業時もしくは次回授業時までにフィードバックをします。					
教科書					
授業中に配布する。また紹介もする。					
参考図書					
適宜紹介する					
備考：履修者への要望					
臨床実習前の実習なので、臨床実習を十分に想定しながら臨んでください。 スーパーバイズを受ける機会が増えるので、報告・連絡・相談を行い信頼関係構築に努めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業治療学	作業療法学専攻	2 後期	必修	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
高田 政夫					
授業概要					
発達障害の捉え方と治療的関わり方は作業療法の基礎と言っても過言ではない。発達障害児の捉え方の視点を深めると共に、発達障害を伴う疾患についてその特徴を理解し、各疾患の臨床症状について学ぶ。各疾患の症例検討を通じて、治療的関わり方の指向性について理解を深め、具体的な治療的関わり方を学習する。					
授業到達目標					
①発達障害作業療法が対象とする各疾患の特徴を理解し説明することが出来る ②発達障害作業療法が対象とする各疾患の治療的関わり方の思考的過程を説明することが出来る					
授業形態					
講義	講義とグループワークによるアクティブラーニングにて進める。 初回授業時に授業内容の細目について記入した授業ノートを配布する。この授業ノートに従い進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田	治療的関わり（子どもや両親への関わりと理解）	子どもの家庭環境や家族への治療的関わりについて学ぶ		
2	高田	姿勢と運動の発達	姿勢と運動の障害像と対比しながら人の動きについて理解を深める		
3	高田	姿勢と運動の発達	姿勢と運動の障害像と対比しながら人の動きについて分析的視点を学ぶ		
4	高田	脳性麻痺の臨床像の理解と関わり	脳性まひの臨床像と関わりについて学ぶ		
5	高田	知的障害の臨床像の理解と関わり	知的障害の臨床像の理解と関わりについて学ぶ		
6	高田	グループワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる		
7	高田	グループワーク中間報告	プロダクトの進捗状況を報告し学習内容の確認をする		
8	高田	グループワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる		
9	高田	整形外科疾患の理解と関わり	整形外科疾患の臨床像の理解と関わりについて学ぶ		
10	高田	グループワーク	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことをまとめる		
11	高田	ASD疾患の理解と関わり	ASDの臨床像の理解と治療的関わりの視点を学ぶ		
12	高田	プロダクツの報告	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する		
13	高田	プロダクツの報告	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する		
14	高田	プロダクツの報告	各疾患や類型の特徴と作業療法士の役割について学んだことを報告発表する		
15	高田	法的社会背景と施設やサービス	法的背景による施設やサービスの異なりを学習し、発達障害児へ治療的介入方法を比較し、発達障害作業療法を鳥瞰的に学ぶ。		
成績評価の方法・基準（100%）					
課題発表	レポート	ポートフォリオ	参加貢献度		
20	60	10	10		
レポート課題の内容およびグループワークの報告など、分かりやすい報告や発表の状況も評定に含める。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
すでに学んだ人間発達学や発達障害作業評価学の内容をよく復習してください。 (予習) 授業テーマについて教科書を読み、内容を理解し、ノートにまとめましょう。(約30分～1時間) (復習) グループワークの担当疾患や類型について臨床実習で取り組めるようにレポートにまとめ発表と報告をします。(約30分～1時間) グループ構成員として各自が積極的に参加し役割を担い反映したものを成果としましょう。 試験終了後すべての各自の学習成果ファイルを提出してもらう予定です。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポートコメント、個別面談					
教科書					
『標準作業療法学 発達過程作業療法学』 福田恵美子編 医学書院					
参考図書					
必要に応じて紹介する					
備考：履修者への要望					
作業療法における小児へのアートの関わりを学生個々に持つ作業療法観の中に取り入れるよう積極的に関わってもらいたい。 並行開講中の『発達障害作業治療学実習』で子ども達と楽しくかかわれていますか。お互いのかかわりの中での変化や成長を自分のものにしましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
発達障害作業治療学実習	作業療法学専攻	2 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
高田 政夫 ・ 清水 一輝 ・ 田原 靖子					
授業概要					
未就学児の発達を考慮した遊びを立案・提供し、関わり方・発達を実習を通して学習する。					
授業到達目標					
心理社会的存在である人を理解し、遊びの意味を説明できる。					
授業形態					
実習	グループ学習				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	高田・清水・田原	苗植えガイダンス	発達を踏まえたコミュニケーション		
2	高田・清水・田原	苗植えガイダンス	サツマイモ苗の植え方		
3	高田・清水・田原	サツマイモの苗植え	園児とサツマイモ苗植え		
4	高田・清水・田原	サツマイモの苗植え	園児とサツマイモ苗植え		
5	高田・清水・田原	畑の管理	畑の草取り		
6	高田・清水・田原	畑の管理	畑の草取り		
7	高田・清水・田原	製作遊び	未就学児の発達を促す“遊び”を計画・立案し、実習する。		
8	高田・清水・田原	製作遊び			
9	高田・清水・田原	製作遊び			
10	高田・清水・田原	製作遊び			
11	高田・清水・田原	イモ掘りガイダンス	サツマイモの成長を確認しイモ掘り活動の準備をする		
12	高田・清水・田原	サツマイモ掘り	園児とサツマイモ掘り		
13	高田・清水・田原	サツマイモ掘り	園児とサツマイモ掘り		
14	高田・清水・田原	食育	協力して育てたサツマイモを園児と調理し食べる		
15	高田・清水・田原	食育	協力して育てたサツマイモを園児と調理し食べる		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
50	50				
計画書・実習後レポート (50%) ・参加貢献度 (50%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 発達についての学習を進めること。(約1時間) (復習) 提示した遊びの内容をグループ内で検討し、事前の計画書の作成、実習後のレポート作成をするので、他の授業で学習した発達について復習しておくこと。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
計画書は提出後フィードバックを行います。					
教科書					
なし					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
日程の詳細については、後日連絡する。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
老年期作業療法学	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
老年期における作業療法は、近年社会的要請の高い分野である。本科目では、老年期障害の特性・評価方法・アプローチの考え方について学修する。特に認知症については、最新のトピックスも交え予防の観点からも作業療法の可能性について紹介する。また、代表的な認知機能検査に関して演習を行い、実践的なスキルを修得する。社会制度等高齢者を取り巻く状況を知り、その中での作業療法士の役割について自分の意見を持てるよう学修する。					
授業到達目標					
①老年期障害の特徴を説明できる。 ②老年期分野の作業療法の目的・流れ・評価・介入について理解し、専門用語を用いて説明できる。 ③認知症の疾患特性や評価の際の留意点・介入の考え方や方法について理解し、その意義を説明できる。 ④認知機能のスクリーニング検査を適切に実施することができる。 ⑤対象者の状態や周囲の状況に応じた評価・介入計画について、自分の意見を述べることができる。					
授業形態					
講義	認知機能検査の演習等の体験学習や、グループによる事例検討も行き、アクティブな学習を取り入れ進めていく。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	老年期障害の基礎知識 (老化とは)	老年期作業療法の対象となる人々に関して、“老化”の特徴について理解する。 教科書：第2章		
2	山下	老年期障害の基礎知識 (老年期に多い疾患)	老年期作業療法の対象となる人々に関して、老年期に多い疾患について理解する。 教科書該当ページ無し、事前配布資料を確認		
3	山下	老年期障害に対する作業療法 (老年期作業療法の目的)	老年期作業療法の目的について理解し、自身の考えを深める。 教科書：第1章1.2		
4	山下	老年期障害に対する作業療法 (老年期作業療法の流れ)	老年期作業療法の評価(面接・観察・検査測定)の視点と流れを理解する。 教科書：第1章3		
5	山下	認知症に対する作業療法 (疾患論2: 診断・分類・代表的疾患)	認知症の疾患論(診断・分類・代表的疾患)について学修する。 教科書該当ページ無し、配布資料を参照		
6	山下	認知症に対する作業療法 (疾患論3: 症状・疾患別特徴)	認知症の疾患論(症状・疾患別特徴)について学修する。 教科書該当ページ無し、配布資料を確認		
7	山下	認知症に対する作業療法 (評価法2)	認知症の評価法について、それぞれの特徴を学修する。 教科書該当ページ無し、配布資料を参照		
8	山下	認知症に対する作業療法 (評価法3: 検査演習)	代表的な認知機能検査をペアで演習し、説明の仕方、解釈の方法などについて実践をもとに学修する。 配布資料を参照 検査の際の留意点について、被験者からのコメントも踏まえてレポートを作成する。		
9	山下	認知症に対する作業療法 (アプローチの考え方)	認知症の人に対する作業療法の目的を元に、関わり方・アクティビティの用い方・いくつかの療法について理解する。配布資料を参照		
10	山下	老年期障害に対する作業療法 (アプローチの考え方 2: 身体面・ADL)	老年期障害に対する身体面・ADL面のアプローチの考え方を理解する。 教科書：第5章1.2.3		
11	山下	老年期障害に対する作業療法 (アプローチの考え方 3: 心理面・余暇活動)	老年期障害に対する心理面・余暇活動面のアプローチの考え方を理解する。 教科書：第5章4.5		
12	山下	老年期障害に対する作業療法 (アプローチの考え方 4: リスク管理)	老年期障害に対するアプローチの際のリスク管理を理解する。 教科書：第6章1.2		
13	山下	老年期障害に対する作業療法 (高齢者を取り巻く社会問題)	高齢者を取り巻く社会問題に関して、家族・他職種・地域との連携の重要性と、権利擁護について理解する。教科書：第7章、第8章、第9章		
14	山下	老年期障害に対する作業療法 (制度・施設)	老年期作業療法に関わる制度と、老年期作業療法が実施される施設について、概要を理解する。教科書：第3章		
15	山下	老年期障害に対する作業療法 (事例検討・まとめ)	老年期障害に対する作業療法の事例について今までの学修を統合し、まとめを行う。教科書該当ページ無し		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
90	10				
筆記試験(90%)・演習後のレポート(10%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 講義計画に記載された教科書の該当する箇所を読み内容を理解してください。(約1時間) (復習) 授業を振り返り、講義時に配布された資料等を用いて、講義後の復習をしっかりと行ってください。(約1時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
レポートは講義の中で全体にフィードバックします。筆記試験は希望者に開示します。特に気になる点は個別にフィードバックすることもあります。					
教科書					
「老年期の作業療法」 浅海奈津美 他著 三輪書店					
参考図書					
「標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学」 松房利憲 編 医学書院 「認知症の作業療法」エビデンスとナラティブの接点に向けて 小川敬之 竹田徳則 著 医師薬出版株式会社					
備考：履修者への要望					
社会的に要請の高まっている分野です。積極的に学習に取り組んでください。 各種制度の改正など社会状況については、マスメディアを大いに活用し情報収集を積極的に行ってください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学 I	作業療法学専攻	1 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
日常生活活動 (ADL ; Activities of Daily Living) の概念と範囲を学び、その障害と評価および支援の基本的枠組みを作業療法の視点から学ぶ。					
授業到達目標					
①ADLの概念と範囲を説明することができる。 ②ADL評価の種類と特徴を説明することができる。 ③各障害領域のADL制限・制約に対する作業療法士の基本的役割を理解し、説明することができる。					
授業形態					
講義	教科書を元に講義形式で行う。なお、随時演習を取り入れる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション ADLの概念と範囲	ADLの定義および範囲、位置づけを学ぶ。(第1章)		
2	加藤	ADLの構成要素と特徴	ADLの構成要素(工程)と特徴を学ぶ。(第2章)		
3	加藤	ADLの自立と制限・制約 ADLの評価	ADLの自立および制限・制約について学ぶ。またADLの評価法の種類を学ぶ。(第3章)		
4	加藤	ADLに対する作業療法	ADLの制限、制約に対するの作業療法介入の基礎を学ぶ。(第4章)		
5	加藤	ADLの観察と記録	ADLの観察と記録の方法を学ぶ。(第5章)		
6	加藤	領域別のADL制限・制約に対する支援①	発達障害領域、身体障害領域におけるADLの支援方法について学ぶ。(第6章Ⅰ,Ⅱ)		
7	加藤	領域別のADL制限・制約に対する支援②	精神障害領域、老年期障害領域におけるADLの支援方法について学ぶ。(第6章Ⅲ,Ⅳ)		
8	加藤	まとめと試験	まとめと筆記試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
80	20				
レポート(20%)、筆記試験(80%)で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> 各単元の終わりに配布されたレポート課題(文献レビューなど)をラーニングコモンズスペースを利用して作成する。レポートは次回の授業中に回収する。(授業時間内に完成しなかった分は自宅に持ち帰り仕上げる) 教科書の該当ページを読み込む。(各30分) 					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。 筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。 					
教科書					
「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」酒井 ひとみ、日本作業療法士協会、協同医書出版					
参考図書					
必要に応じて授業の中で紹介する。					
備考：履修者への要望					
ADLの支援は、作業療法士の根幹とも言えるほど重要な位置を占めます。これから作業療法を学ぶに当たっての基盤となる知識ですので、しっかりと理解するよう努めて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学Ⅱ	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
授業概要					
日常生活作業は、人によりそれを行うことの意味や行い方が異なります。 本講義では、日常生活作業を支援する枠組みを理解し、実際にどのように日常生活動作を捉えるのかについて学びます。					
授業到達目標					
①日常生活作業の介入の枠組みについて理解する ②各日常生活作業に様々な意味や行い方があることを理解する ③脳血管疾患患者の日常生活作業の援助方法について理解する					
授業形態					
講義	座学 グループワーク				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	オリエンテーション ADLを支援する作業療法	授業の進め方、評価基準に関するオリエンテーション 作業療法の歴史について		
2	清水	作業の支援方法	作業療法の理論の背景を理解し、日常生活作業についての理解を深める p11-15		
3	清水	介入の枠組み	作業療法で用いられる介入枠組みについて理解する 教科書 p11-15		
4	清水	日常生活作業の分析	日常生活作業を分析する視点について理解し、実際の動作を分析する 教科書p19-40		
5	清水	ADLの評価	日常生活作業はどのような評価法があるのか、自立の考え方について学ぶ 教科書p43-71		
6	清水	脳血管疾患患者のADL	脳血管障害患者の日常生活活動の援助方法について 教科書p164-186		
7	清水	講義の振り返り	第6回までの講義の内容を振り返り、学んだことの共有を行う		
8	清水	講義のまとめと試験	講義のまとめと学習到達度確認の試験を行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
70	30				
筆記試験 (70%)、レポート (30%) で評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
教科書の該当ページを読んで理解する (1時間程度) 講義で出された課題を行い、レポートにまとめる (1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
講義の課題については適宜返却しフィードバックします。ポートフォリオ形式にまとめた資料は、講義終了時に返却します。					
教科書					
「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」 著者/編集: 酒井 ひとみ 監修: 日本作業療法士協会					
参考図書					
「日常生活活動(ADL) 第2版 理学療法学テキスト第5巻」 著者: 編者橋元隆 出版: 社神隆文庫					
備考: 履修者への要望					
講義は皆さんに日常生活作業について深く考えるきっかけを与えるにすぎません。普段の生活の中で、自らの日常生活作業について考え、他者と比較し、日常生活作業の多様性を実感して下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日常生活作業学実習	作業療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
日常生活活動 (ADL ; Activities of Daily Living) が心身状態の変化あるいは環境の影響によってどのように変化するかを、実体験を通して学ぶ。また、そのような活動の制限・制約に対する支援のあり方を、作業療法士の視点から実践的に学ぶ。					
授業到達目標					
①障害に応じたADLの基礎的な介助、指導を、学生を相手に実践できる。 ②代表的なADL評価法を用いた評価を、学生を相手に実施できる。 ③模擬事例のADL制限・制約の理由について、様々な情報を統合し、検討し、その検討結果を説明することができる。					
授業形態					
実習	実習および演習を行う。演習ではPBLを用いる。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	オリエンテーション BADLの活動支援①	ADLに関連する事項の復習 (範囲、分類、評価法など) 移動動作 (起居動作・車椅子操作) に対する支援方法や技術を学ぶ。		
2					
3	加藤	BADLの活動支援②	移動動作 (歩行・移乗動作) に対する支援方法や技術を学ぶ。		
4					
5	加藤	BADLの活動支援③	身辺処理活動 (食事・排泄・更衣・入浴・整容) に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験① (寝返り、起き上がり、移乗介助)		
6					
7	加藤	IADLの活動支援①	屋内活動に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験② (寝返り、起き上がり、移乗介助)		
8					
9	加藤	IADLの活動支援②	屋外活動に対する支援方法や技術を学ぶ。 実技試験③ (車椅子移動介助)		
10					
11	加藤	ADL評価	FIM、BIを中心に、代表的なADL評価方法を学び、実践する。 実技試験④ (車椅子移乗介助)		
12					
13	加藤	PBL	模擬症例に対するADL評価および作業療法の計画立案を経験する。		
14					
15	加藤	まとめ	授業の総括および不足している知識、技術の再確認を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	実技試験				
50	50				
レポート (50%) および実技試験 (50%) で評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
・各単元ごとに提示されるレポートを作成する (授業内で作成。授業内で作成できなければ自宅に持ち帰り仕上げる) ・実技試験①②および③④のための練習 (各120分を目安)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
・レポートは、ルーブリックにて評価し、口頭およびレポート内へのコメント記載によりフィードバックする。 ・実技練習は、授業内で見回り、その都度口頭などにてフィードバックする。					
教科書					
「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」 著者/編集: 酒井 ひとみ 監修: 日本作業療法士協会					
参考図書					
必要に応じて授業内で紹介します。					
備考: 履修者への要望					
他のすべての教科で学んだ知識、あるいは生まれてから今までの経験が、何らかの形で繋がってきます。必要に応じて知識を適切に利用できるよう、他の授業の資料等を整理しておいてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
高次脳障害作業治療学	作業療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
加藤 真夕美					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間が目的的な動作を行う際に働く脳の機能（高次脳機能とその機能局在）について学ぶ。 ・高次脳機能障害の種類、責任病巣、行動上の特徴、評価法および作業療法の基本的な考え方について学ぶ。 					
授業到達目標					
①高次脳機能障害の種類と責任病巣、行動上の特徴、主な評価法について説明できる。 ②高次脳機能障害が日常生活に及ぼす影響について考察できる。 ③各障害に対する作業療法の基本的な考え方を説明できる。 ④各障害に対する作業療法の実践例について、文献検索を通して情報収集することができる。					
授業形態					
講義	主に講義形式で行います。一部、評価法の実践や文献検索などの演習を取り入れます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害と制度	高次脳機能障害の定義や種類、また障害当事者の社会生活における課題および関連する制度について学ぶ。		
2	加藤	脳の側性化と利き手 運動と高次脳機能	脳の側性化と利き手の関連性、また運動と高次脳機能の関連性について学ぶ。		
3	加藤	脳の機能解剖	脳の機能解剖と画像所見の診方について学ぶ。		
4	加藤	対象者を理解する為に 症状の捉え方	神経心理ピラミッド、神経心理循環の考え方を中心に高次脳機能障害の捉え方を学ぶ。		
5	加藤	易疲労性と意識障害	脳機能障害者における疲れやすさと意識障害について学ぶ。		
6	加藤	注意障害の作業療法	注意機能の分類、障害像と責任病巣、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
7	加藤	半側無視の作業療法	半側無視について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
8	加藤	記憶障害の作業療法	記憶機能の分類、障害像と責任病巣、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
9	加藤	失行の作業療法	失行（運動、行為の障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
10	加藤	失認の作業療法	失認（対象認知の障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
11	加藤	失語の作業療法	失語（言語に関する高次脳機能障害）について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。		
12	加藤	前頭葉症状の作業療法 (遂行機能障害と社会的行動 障害)	前頭葉の関連する症状について、障害像と発症メカニズム、評価法、介入のポイントについて学ぶ。特に前頭葉症状を遂行機能障害（動作遂行）と社会的行動障害（感情や意欲）に分けて、その概念を学ぶ。		
13	加藤				
14	加藤	文献検索	高次脳機能障害の各症状に対する作業療法の実践例を、文献検索を通して学ぶ。		
15	加藤				
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート	ポートフォリオ			
70	20	10			
筆記試験（70%）、レポート（20%）、ポートフォリオ（10%）で評価します。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の終わりに配布されたレポート課題（文献レビューなど）をラーニングコモンズスペースを利用して作成する。レポートは次回の授業中に回収する。（授業時間内に完成しなかった分は自宅に持ち帰り仕上げる） ・教科書の該当ページを読み込む。（各30分） ・授業での配布資料やレポートを整理し、ポートフォリオを作成する。（各回10分） 					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、コメントを記入するなどしてフィードバックする。 ・筆記試験は、答案を返却する。答案を取りに来た学生に対し、個別に口頭でフィードバックを行う。 					
教科書					
「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学」能登真一 編集 医学書院					
参考図書					
「高次脳機能障害の作業療法」鎌倉矩子・本田留美 著 三輪書店 「リハビリスタッフ・支援者のためのやさしくわかる高次脳機能障害」和田義明 著 秀和システム 「脳解剖から学べる高次脳機能障害リハビリテーション入門」安保雅博 監修 診断と治療社					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活のあらゆる場面において、高次脳機能は深く関わっています。今のような高次脳機能が働いているのか、もしその機能がなければどのような不都合が生じるのか、折に触れ、考える習慣をつけてみてください。決して「目に見えない障害」ではありません。 ・「身体障害作業治療学Ⅱ」や「神経学」など、脳の障害を扱う科目と内容が関連します。各科目の予習・復習も合わせて進めておいて下さい。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具作業療法学	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
草川 裕也					
授業概要					
作業療法に必要な義肢・装具の種類、構造や機能について学習する。また、切断の特徴・障害像についても学ぶ。義肢装具作業療法学実習における切断者に対する作業療法計画の立案や装具の使用についての計画立案にむけた基礎知識の整理を行う。					
授業到達目標					
①義肢・装具の種類、構造や機能について説明できる。 ②各種装具について適応を説明できる。 ③切断の特徴・障害像について説明できる。 ④切断部位に対する義肢の適応について説明できる。					
授業形態					
講義	授業は、毎回、グループワークとグループ発表にて進める。ただし、一部教科書と配布資料による講義を含む。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	草川	装具概論	オリエンテーション 装具の種類、構造や機能について学習する ：教科書①pp. 182-191		
2	草川	上肢の装具	上肢装具の種類、特徴、役割、適応疾患について学習する ：教科書①pp. 192-213		
3	草川	体幹・下肢の装具	体幹装具、下肢装具の種類、特徴、役割、適応疾患について学習する ：教科書①pp. 214-254		
4	草川	切断：疾患の特徴と障害像 義肢概論：機能・分類・制度	切断に関する基礎知識（病態、合併症）について学習する ：教科書②pp. 306-312 分類、構造や機能、役割、義肢に関する制度について学習する ：教科書①pp. 92-93、 370-380		
5	草川	義肢①：構成要素と部品	義肢の構成要素と各種部品の特徴、適応について学習する ：教科書①pp. 94-105		
6	草川	義肢②：筋電義手	筋電義手の特徴、構造、機能について学習する ：教科書①pp. 112-119		
7	草川	義手の操作	義手の操作方法について体験、学習する ：教科書①pp. 98-99、115-116		
8	草川	まとめと学習到達度の確認テスト	まとめ（本講義で学習した知識を義肢装具作業療法学実習でどう生かすかなど）と学習到達度の確認テストを実施する		
成績評価の方法・基準（100％）					
筆記試験	小テスト	グループワーク			
70	20	10			
筆記試験（70％）、グループワークでの課題（10％）、小テスト（20％） 再試験受験者は、再試験の点数で評定する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
グループワークを円滑に進めるために、事前に教科書の指定範囲を読み、講義のテーマや内容を意識して出席して下さい（約1～2時間）。 授業後は、配布されたレジュメや教科書を再度読み理解を深めて下さい（2時間程度）。 小テストは、解剖学に関する問題が中心となります。過去に学習したことをしっかり復習しておいて下さい（約1～2時間）。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
小テスト、筆記試験ともに研究室に保管していますので事前に連絡の上、内容を確認することができます。					
教科書					
①「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院（2014年） ②「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第二版」岩崎テル子編 医学書院（2011年）					
参考図書					
「手のスプリントのすべて」 第4版 矢崎潔 著 三輪書店 「装具作業療法学入門」 原和子 著 パシフィックサブライ 「義肢学」第3版 日本義肢装具学会 監修 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
実習に必要な知識となるため、授業・課題に積極的に取り組んで下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
義肢装具作業療法実習	作業療法専攻	2 後期	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
草川 裕也					
授業概要					
義肢装具作業療法で学んだ知識をもとに、作業療法において義肢・装具を使用する目的、使用する時に必要な評価、使用方法や使用上の注意点について学習する。また、義手および手の装具を使用する疾患、障害の適応を学ぶ。さらに、実際の材料と道具を使用して、簡単な上肢装具を作り、手順を理解する。					
授業到達目標					
①上肢切断の義手適応および評価、作業療法プログラムを説明できる。 ②各疾患に対して使用する装具のデザインと目的、必要な評価、装具の使用法を説明できる。 ③簡単な上肢装具作りを通して、必要な材料・道具、製作手順を説明できる。 ④装具の製作に必要な材料・道具を正しく使用できる。 ⑤対象者の障害や生活状況に配慮して、装具を製作できる。					
授業形態					
実習	第1回～第11回は、主にグループワークとグループ発表にて講義を進める（時間内において、適宜、義手や装具を使用した実習も行う）。 第12回～第15回は、実際の材料を使用して、装具製作実習を行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	草川	切断者に対する作業療法	切断者に対する作業療法の概要と義肢装着前の作業療法を学習する ：教科書②pp. 312-321		
2	草川	義手の装着訓練と適合判定	義手の装着訓練と適合判定の内容、その目的について学習する ：教科書①pp. 87-90、106-111		
3	草川	切断者に対する作業療法の計画	切断者に対する作業療法の計画立案を体験する ：配布資料		
4	草川	装具製作の手順と準備	装具製作時に必要な道具・材料と手順について学習する ：配布資料		
5	草川	末梢神経麻痺に対する装具療法	神経麻痺の特徴・障害像ならびに、使用する装具のデザイン・目的を学習する ：教科書②pp. 201-217		
6	草川	末梢神経麻痺に対する装具療法の計画	末梢神経麻痺に対する装具療法の計画立案を体験する ：教科書①pp. 210-213		
7	草川	腱損傷に対する装具療法	腱損傷の特徴・障害像ならびに、使用する装具のデザイン・目的を学習する ：配布資料		
8	草川	腱損傷に対する装具療法の計画	腱損傷に対する装具療法の計画立案を体験する ：教科書①pp. 206-208		
9	草川	小テストと解説	これまでの授業内容に関する小テストとテストの解説を行う		
10	草川	関節リウマチに対する装具療法の計画	関節リウマチに対する装具療法の計画立案を体験する ：教科書①pp. 306-312		
11	草川	骨折に対する装具療法の計画	骨折に対する装具療法の計画立案を体験する ：教科書①pp. 298-305		
12	草川	装具製作実習①： cock up splint	手関節安静用装具の製作を体験する：配布資料		
13	草川	装具製作実習①： cock up splint	手関節安静用装具の製作を体験する：配布資料		
14	草川	装具製作実習②：thumb spica	第一CM関節固定用装具の製作を体験する：配布資料		
15	草川	装具製作実習②：thumb spica	第一CM関節固定用装具の製作を体験する：配布資料		
成績評価の方法・基準（100％）					
小テスト	グループワーク	レポート			
30	50	20			
小テスト（30％）、グループワークでの課題（50％）、装具製作実習後のレポート（20％）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
義肢装具作業療法、身体障害作業治療学Ⅰ、整形外科で学習した知識を生かして取り組んで下さい。そのために、講義前に振り返りをしっかりと行って下さい。グループワークを円滑に進めるために、教科書の指定範囲を読んで、授業に臨んで下さい（約1～2時間）。授業後は、配布された資料や教科書を再度読み理解を深めて下さい（約1～2時間）。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
小テストやレポート、グループワークでの課題は後日返却します。					
教科書					
①「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院（2014年） ②「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第二版」岩崎テル子編 医学書院（2011年）					
参考図書					
「手のスプリントのすべて」 第4版 矢崎潔 著 三輪書店 「装具作業療法学入門」 原和子 著 バンフィックサブライ 「義肢学」第3版 日本義肢装具学会 監修 医歯薬出版					
備考：履修者への要望					
グループワークが中心になります。積極的にグループのメンバーと話し合い、学習を深めて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
作業科学	作業療法学専攻	3 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
授業概要					
作業科学は、作業と健康との関係や作業の性質について理解を深める学問です。作業療法士にとって、独自性を支え、効果的な実践へのアイデアを得るものとして、作業科学は発展してきました。本講義では、作業について様々な視点から理解を深めながら、研究論文の読み方と、実践へのつなげ方についても学習します。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作業科学が、どのように誕生したのかについて説明できる。 ・作業科学が、どのような疑問に答える学問であるのかについて説明できる。 ・作業の性質について、その焦点を示しながら、説明することができる。 ・作業の複雑性について、その焦点を示しながら、説明することができる。 ・学んだ作業の知識が、どのように実践のアイデアにつながるのかについて、自分の意見を述べるすることができる。 					
授業形態					
講義	グループワーク、講義				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	作業科学とは	作業科学誕生の歴史について解説し、「作業」について、作業療法においてどのような位置づけであるのかを考える機会を通して学習する 教科書 第1章		
2	清水	作業の性質	人間が健康や幸せを求め、作業を欲し、必要とする中で、どのように作業を形づくろうとするのかについて、作業の自己分析を行いながら作業の形態と意味のつながりについて学習する。：教科書 第2章		
3	清水	作業の複雑性	人間が健康や幸せを求め、作業に結びつく現象について、研究から見えてくる視点を解説する。作業と健康のつながりについて学習する 教科書 第3章		
4	清水	作業的公正	新しい概念である作業的公正について、WFOTの声明文や研究から学習する		
5	清水	社会の課題を捉える	作業的にちょうどよい社会の実現にむけて、社会の課題を捉える視点について学ぶ 第3章、第4章		
6	清水	社会の課題の共有	各自で捉えた社会の課題についてグループで共有し、作業療法士として社会に働きかける責任を考える		
7	清水	作業の知識に基づいた実践	作業の知識に基づいて地域で実践している就労支援の枠組みや社会への取り組みについて学ぶ		
8	清水	作業科学と作業療法	作業科学の知識を応用し、臨床実習で担当した事例の評価・治療内容を再検討をしながら、作業科学と作業療法の繋がりについて学ぶ		
成績評価の方法・基準（100％）					
課題	参加貢献度				
70	30				
授業への参加貢献度（30％）、発表資料作成および発表（70％）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義の前に「授業の概要」で該当する教科書を予習する。（1時間程度） 講義で課題に出された内容についての復習・学習をする。（1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
講義の中で課題について適宜フィードバックします。					
教科書					
吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版 2017					
参考図書					
作業科学、Ruth Zemke&Florence Clark 監訳 佐藤 剛、三輪書店、1999.					
備考：履修者への要望					
作業科学の文献から作業について知識を学び、作業中心の実践の根拠とアイデアを深めましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
人間作業モデル論	作業療法学専攻	3 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
作業療法の治療理論の一つである人間作業モデルについてその概略、治療的技術を説明する。加えて、人間作業モデルに用いられる評価方法について説明し、授業の中で使用することで臨床現場において応用できるようにする。					
授業到達目標					
①人間作業モデルについて説明ができる。 ②人間作業モデルの理論基盤を説明できる。 ③人間作業モデルの評価方法について説明できる。 ④人間作業モデルの評価を用いることができる。					
授業形態					
講義	教科書を元に講義形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	理論についての概要	作業療法の理論について説明する。		
2	山下	人間作業モデルの説明	人間作業モデルの説明をする。		
3	山下	人間作業モデルの説明			
4	山下	人間作業モデルの説明			
5	山下	人間作業モデルの用いられる評価方法の説明	人間作業療法の評価方法について説明する。		
6	山下	人間作業モデルの用いられる評価方法の説明			
7	山下	人間作業モデルの用いられる評価方法の説明			
8	山下	症例について	症例説明と試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
80	20				
授業への参加貢献度 (20%)、科目試験 (筆記) (80%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 教科書の該当箇所を十分読んでください。(約1時間) (復習) 教科書や配布プリントを読み、講義内容を復習してください。(約1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
筆記試験は希望者に開示します。					
教科書					
「人間作業モデル理論と応用 改訂第4版」 Gary Kielhofner 編著山田 孝 監訳 協同医書出版社					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
作業療法の治療モデルの一つである人間作業モデルに関する講義です。十分理解するように授業を受けて下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション関連機器	作業療法学専攻	2 前期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
清水 一輝					
授業概要					
<p>作業療法介入の1手段として、リハビリテーション関連機器を用いることがあります。 本講義では、事例を通してリハビリテーション関連機器を導入する際の選定のポイントや使用方法について学びます。また、ウェルフェアに参加し、実際の機器に触れ、さらに最新の機器についての情報を収集しながら、リハビリテーション関連機器についての理解を深めます。</p>					
授業到達目標					
<p>①既存のリハビリテーション関連機器・自助具について使用方法、選択方法が分かる。 ②住宅改修上の注意点を説明できる。</p>					
授業形態					
講義	座学 グループワーク ウェルフェア参加				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	清水	介入手段の一つとしての機器	作業療法とリハビリテーション関連機器		
2	清水	頸髄損傷の福祉用具	頸髄損傷の事例をもとに、どのような福祉用具が適応になるのかを学ぶ。 教科書 p107-p111		
3	清水	脳血管疾患の福祉用具	脳血管疾患の事例をもとに、どのような福祉用具が適応になるのかを学ぶ。 教科書 p111-116		
4	清水	関節リウマチの福祉用具	関節リウマチの事例をもとに、どのような福祉用具が適応になるのかを学ぶ。 教科書p116-122		
5	清水	進行性疾患の福祉用具	進行性疾患の事例をもとに、どのような福祉用具が適応になるのかを学ぶ。 教科書p122-130		
6	清水	住環境整備について	住環境の整備の基礎知識、疾患の特徴について学ぶ 教科書p153-185		
7	清水	最新の機器について	ウェルフェアで学んだことを共有し、最新の機器について理解を深める		
8	清水	講義と試験	講義のまとめと学習到達度確認の試験を行う		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	レポート				
60	40				
筆記試験60% レポート40%					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>各講義に該当する教科書を予習する (30分程度) 毎回の講義で出される課題に対して予習・レポートを作成する (2時間程度)</p>					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
レポートは講義の中で後日返却します。試験は研究室に保管していますので、内容を確認することができます。					
教科書					
「作業療法技術学2 福祉用具の使い方、住環境整備」 日本作業療法士協会/共同医書出版					
参考図書					
<p>「作業療法技術学3 日常生活活動(作業療法学全書)」 著者/編集:酒井 ひとみ 監修:日本作業療法士協会 「日常生活活動(ADL)」 第2版 理学療法学テキスト第5巻 著者:編者橋元隆 出版:杜陵文庫</p>					
備考:履修者への要望					
リハビリテーション関連機器は様々な種類があり、新製品の開発にも力がそそがれています。講義の中だけでなく、自ら積極的に調べ理解を深めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域作業療法学	作業療法学専攻	2 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
地域における作業療法士の役割は、近年益々重要度を増している。地域リハビリテーションの背景と歴史を学び、それを支える制度・支援・連携について理解する。自らの住む地域の資源を把握するとともに、事例を通して地域リハビリテーションの実際について学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムの中の作業療法の実際について学び、地域で求められる作業療法士の役割について、自らの考えを持つことを目的とする。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションの背景と歴史について説明できる。 ・介護保険制度の概要について説明できる。 ・自分の住む街の地域資源を調べ、報告することができる。 ・事例を通して、地域作業療法の実際について理解し、伝えることができる。 ・地域で求められる作業療法士の役割について、自らの考えを述べることができる。 					
授業形態					
講義	グループワークによる事例検討及び発表、地域資源に関する調査学習等のアクティブラーニングを取り入れて進めます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	地域リハビリテーション活動の歴史	地域リハビリテーション活動の歴史について学ぶ。 第I章		
2	山下	地域リハビリテーションの考え方と定義	地域リハビリテーションの考え方と定義について学ぶ。 第II章		
3	山下	地域リハビリテーションの諸サービス	地域リハビリテーションの諸サービスについて学ぶ。 第III章		
4	山下	介護保険とリハビリテーション	介護保険とリハビリテーションについて学ぶ。 第IV章		
5	山下	地域リハビリテーションのシステム	地域リハビリテーションのシステムについて学ぶ。 第V章		
6	山下	事例検討	事例検討		
7	山下	事例検討	事例検討		
8	山下	事例検討（発表）	事例検討（発表）		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
60	20	20			
筆記試験（60%）・事例発表（参加貢献度）（20%）・レポート課題（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>（予習）教科書の該当ページを読み、事前に専門用語を理解しておくようにしてください。 介護保険制度等についての報道に関心を寄せるよう心がけてください。自分の住む街の地域資源を調べ、報告していただきます。（約1時間）</p> <p>（復習）授業内容を振り返り、前回の内容と統合を図りながら理解に努めてください。（約1時間）</p>					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
事例検討に関しては、発表の場でフィードバックします。筆記試験は希望者に開示します。レポートは全体的にコメントします。					
教科書					
「地域リハビリテーション論」 大田仁史編 三輪書店					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
地域で求められる作業療法士について学び、自らの住む地域に置き換えて、自分が何ができるか一緒に考えて行きましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域作業療法学実習	作業療法学専攻	1～2 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を理解する。またそこでのレクリエーション実習の経験を通して、地域リハビリテーション・地域作業療法の実態を理解し、地域の社会資源や、そこに関わる専門職種について学び、その中で求められる作業療法士の役割について学習する。さらに、レクリエーション実習を実施することにより、計画立案・他者との協力を体験し、老年期障害を持つ対象者との適切な関わりを学ぶ。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域作業療法が実施されている施設を見学し、その目的を説明することができる。 ・対象者を評価するための視点について考え、実際のプログラムと結びつけ、評価を行うことができる。 ・老年期障害を持つ対象者に対する効果的なレクリエーションを計画し、実施することができる。 ・老年期障害を持つ対象者と、適切な関わり（コミュニケーション・リスク管理）が持てる。 					
授業形態					
実習	グループでのディスカッション、体験学習、グループ発表、レポート提出など				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	オリエンテーション 施設見学概要説明	科目全体のオリエンテーション 地域作業療法におけるレクリエーションの説明 施設見学の概要・留意点の説明		
2	山下	施設見学	グループ単位で、施設見学を実施 見学内容のまとめ		
3	山下	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
4	山下	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を立案		
5	山下	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案		
6	山下	レクリエーション計画立案	グループ単位で、レクリエーション計画を修正し、再度立案		
7	山下	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施		
8	山下	レクリエーション準備	グループ単位で、レクリエーションに必要な物品を作成し、練習を実施		
9	山下	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討		
10	山下	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、修正点を検討		
11	山下	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正		
12	山下	レクリエーション発表	グループ単位で、学生を対象として、レクリエーションを模擬的に実施し、さらに修正		
13	山下	レクリエーション実施	老年期障害を持つ対象者に対するレクリエーションを、施設にて実際の対象者に実施		
14	山下	レクリエーション実習 振り返り	レクリエーション実習について振り返る		
15	山下	清須市民げんき大学 演習 参加・振り返り	清須市民げんき大学の演習に参加し、経験を振り返る		
成績評価の方法・基準（100％）					
レポート	参加貢献度				
50	50				
授業への参加貢献度・実習態度（50％）、提出物（レクリエーション計画書・レクリエーション実施後レポート）（50％）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
（予習・復習）施設見学実習前の、実習施設に関する情報収集や、レクリエーション実習の計画立案・準備・練習は授業時間外にも積極的に行うようにしてください。（約1～2時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レクリエーション計画レポートは、提出期限を指定して、複数回提出していただき、その都度フィードバックを行います。レクリエーションの発表練習の際には、その場でフィードバックを行っていきます。					
教科書					
なし					
参考図書					
授業中に配布します					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを円滑に進めるため、各自が責任を持って積極的・協力的に行動してください。 ・見学の際、受身的な態度では何も学びとることはできません。積極的に自ら学ぼうとする態度で臨んでください。 ・実習の際は、実際に対象者と関わり触れることになるため、安全面（精神的・身体的）への配慮を怠らないでください。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
就労支援学	作業療法学専攻	3 後期	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
横山 剛					
授業概要					
心理・社会的発達について講義する。 その中で職業的発達についても触れるので、ご自身の職業的発達についてレポートする。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達について説明できる ・人にとって働くことの意味を説明できる。 ・自身の職業的発達について理解し、レポートする。 					
授業形態					
講義	講義、レポート				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	障害者の就業の現状	障害者の雇用の現状を理解できる。		
2	横山	心理社会的発達について①	乳幼児期、学童期の発達課題		
3	横山	心理社会的発達について②	青年期発達課題について①		
4	横山	職業的発達について	職業的発達 課題レポートの説明		
5	横山	心理社会的発達について③	成人期、中年期発達課題について		
6	横山	心理社会的発達について④	老年期の発達課題について		
7	横山	レポート	自身の職業的発達について		
8	横山	まとめ			
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
80	20				
レポート課題（80%）、授業への参加貢献度（20%）、					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自身のこれまでの職業的はたっつについて、発達段階ごとにレポートしてください。（1回の講義につき30～1時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
レポートされた内容や、個別の質問には随時応じる。					
教科書					
なし（講義の中でプリントを配布する）					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
人の職業はどのように決まってくるのか、また人はなぜ働くのかについて心理社会的発達から理解し、自身の職業的発達についての理解を深めてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅰ(基礎)	理学療法専攻 作業療法専攻	1 後期	必修	PT 1単位(45時間) OT 2単位(45時間)	PT 45時間 OT 90時間
担当教員名					
理学療法専攻:鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠 作業療法専攻:高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水一輝					
授業概要					
病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、理学療法・作業療法士の役割と責任を全体的に理解するため、また、2、3年次における専門的な学習を通しての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備するために行う。					
授業到達目標					
①理学療法士・作業療法士の役割や専門的な内容を体系的に理解できる。 ②症例を把握し、その問題解決のために理学療法士・作業療法士として可能なことを概念的に把握できる。 ③見学した病院・施設の目的・役割・治療方針・施設組織、および理学療法・作業療法部門の役割を把握し、その中でリハビリテーションとしての理学療法・作業療法の意義を把握できる。 ④1年次に学んだ基礎知識が実際にはどのような意味を持つのかを考え、これ以降の専門的な学習を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備できる。 ⑤先輩理学療法士・作業療法士、他の医療スタッフと交流し、将来、理学療法士・作業療法士(専門職)としての資質向上のために役立てることができる。 ⑥理学療法・作業療法の対象者やスタッフおよび診療現場全体に対して必要な配慮、心配りなどができ、医療従事者として相応しい態度を身につけられる。					
授業形態					
実習		医療、介護施設における実習			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
臨床実習Ⅰ	各専攻教員	病院・施設の見学を通じて社会や医療の中における、理学療法士・作業療法士の役割と責任を全体的に理解する	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 夏休休暇期間及び平成31年2月18日～3月8日までのうち規定期間施設において、実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)		
成績評価の方法・基準(100%)					
各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的な項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。					
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習・復習) ・臨床実習前には、1年次に学んだ「リハビリテーション、理学療法・作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。また、今までに学んだ知識の整理をすること。 ・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 ・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。 ・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
・実習中に解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめます。その内容は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。また、指導者に直接的に質問や指導を仰ぎ、解決します。デイリーノートは、実習後に学内教員に提出します。 ・実習で学んだことを「実習レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。実習指導者により認可されたレポートを、実習後に学内教員に提出します。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。					
教科書					
必要に応じ資料を配布する					
参考図書					
関係図書					
備考:履修者への要望					
・理学療法士・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むこと。 ・受け身的な態度ではなく積極的に指導者や職員に働きかけ、疑問を解決すること。 ・2年次の専門学習に繋がられるような実習をすること。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅱ (評価)	理学療法学専攻	3 前期	必修	5単位 (45時間)	225時間
担当教員名					
鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠					
授業概要					
2年次までに学んだ理学療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみにとらわれすぎることではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。					
授業到達目標					
①検査測定の知識や技術を実際の患者に実施できる。 ②医学的・社会的に必要な情報を集めることができる。 ③収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。 ④必要な事項を記録し、報告することができる。 ⑤知識・技術・人格が理学療法の三本柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる。					
授業形態					
実習	医療・介護施設にて行う				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
臨床 実習 Ⅱ	専攻 教員	理学療法評価	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・介護施設などへ赴き、規定期間実習実施 実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<ul style="list-style-type: none"> ・「リハビリテーション、理学療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにすること。 ・理学療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理し、患者の障害像把握に努め、適切な評価計画を立て、検査・測定を実施し、統合と解釈、ゴール設定ができるよう学習すること。 ・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 ・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。 ・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がられるようにすること。 					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習内容や疑問点は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。また、指導者に直接的に質問や指導を仰ぎ、解決します。 ・実習で学んだことを「症例レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジュメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。 					
教科書					
これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて					
参考図書					
標準理学療法学シリーズ 臨床実習とケーススタディ 鶴見隆正編 医学書院 他 関係成書					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。 ・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅱ (評価)	作業療法学専攻	2 後期	必修	2単位 (45時間)	90時間
担当教員名					
高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝					
授業概要					
2年次までに学んだ作業療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみにとらわれすぎではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。					
授業到達目標					
①検査測定の知識や技術を実際の患者に実施できる。 ②医学的・社会的に必要な情報を集めることができる。 ③収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。 ④必要な事項を記録し、報告することができる。 ⑤知識・技術・人格が理学療法の三本柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる。					
授業形態					
実習	医療、介護施設における実習				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
臨床 実習 Ⅱ	専攻 教員	作業療法評価	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の各専攻における実習判定委員会にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。					
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 学内で学んだ内容を整理し、実習への準備を進めてください。 (復習) 経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋げられるようにしましょう。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習内容や疑問点は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。 実習で学んだことを「症例レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。 実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジュメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。 					
教科書					
これまでで使用した教科書や授業で配布した資料すべて					
参考図書					
関係成書					
備考：履修者への要望					
<ul style="list-style-type: none"> 「リハビリテーション、作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自分の考えも踏まえ説明ができるようにしましょう。 作業療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理し、患者の障害像把握に努め、適切な評価計画を立て、検査・測定を実施し、統合と解釈、ゴール設定ができるよう学習しましょう。 医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめましょう。 実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめましょう。 作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。 実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋げてください。 					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床実習Ⅲ・Ⅳ (総合1・2)	理学療法学専攻 作業療法学専攻	3 通年	必修	PT Ⅲ6単位 (45時間) Ⅳ6単位 (45時間) OT Ⅲ7単位 (45時間) Ⅳ7単位 (45時間)	PT (各270時間) OT (各315時間)
担当教員名					
理学療法学専攻:鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠 作業療法学専攻:高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝					
授業概要					
理学療法・作業療法についての知識・技能の学習の総決算として、実習指導者の指導のもとにこれらに応用し、評価・治療計画・治療という一連の理学療法・作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、理学療法・作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。					
授業到達目標					
①医療専門職に相応しい責任ある態度・積極的な行動ができる。 ②患者のもつ問題点やその原因をつかむために、必要かつ適切な評価を行うことができる。 ③評価結果を基に具体的な治療計画を組むことができる。 ④治療計画に沿って、実習指導者の指導のもとで適切な治療訓練ができる。 ⑤理学療法士・作業療法士として必要な記録および報告ができる。					
授業形態					
実習		医療、介護施設における実習			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2.障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3.臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
臨床 実習 Ⅲ・Ⅳ	各専攻 教員	理学療法・作業療法 評価・治療等	1. 実習前ガイダンス 実習のオリエンテーション、セミナーを実施し、実習への心構え、態度、その他準備すべきことを周知する。その上で、各自必要な実習前学習を行う。 2. 医療機関・福祉施設などへ赴き、規定期間実習実施 実習目標が達成できるよう実習を行う。 3. 実習終了後、学内での実習報告会、内容検討会などを実施し、実習報告レポートを本学へ提出する。 (実習目標およびそれに関する詳細は、学修の手引き別頁の「臨床実習」を参照のこと。また、その他の詳細については、事前のガイダンスにて提示する)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的な項目についての評価を受ける。その評価内容をもとに、実習後の報告会、レポート内容などを総合的にみて、学内の専攻における実習判定会議にて、学習目標が達成できたと判断された場合に合格とする。事前、事後ガイダンス等、学内ガイダンス・報告会には必ず出席すること。正当な理由なき欠席の場合は、実習を見合わせることもあります。また、不合格となることもあります。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習・復習) ・「リハビリテーション、理学療法・作業療法」について整理するとともに、現在の社会的背景や自身の考えも踏まえ説明ができるようにすること。 ・理学療法・作業療法に必要な基礎的知識・専門知識を整理し、患者の障害像把握に努め、適切な検査・測定、評価、ゴール設定、プログラム立案・実施ができるよう学習すること。 ・医療従事者として、社会人として身につけておくべき資質について考えまとめること。 ・実習中において、解らないことや疑問に思ったことは自ら調べまとめること。 ・実習後は、経験してきた内容を振り返りまとめ、以後の学習に繋がれるようにすること。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
・日々の実習内容や疑問点は「デイリーノート」に記し、実習指導者からフィードバックをその都度受け、解決するよう努力します。また、指導者に直接的に質問や指導を仰ぎ、解決します。 ・実習で学んだことを「症例レポート」にまとめ、実習中に実習指導者からその内容について指導を受けます。 ・実習で学んだことを「実習後セミナー」で発表します。セミナー用にレジユメを作成します。発表の場で教員からのフィードバックを受けます。					
教科書					
これまでに使用した教科書や授業で配布した資料すべて					
参考図書					
理学療法学専攻:「標準理学療法学シリーズ 臨床実習とケーススタディ」 鶴見隆正編 医学書院 他 関係成書					
備考:履修者への要望					
・理学療法士・作業療法士になるための総合的な学習の場として、臨床実習があります。知識、技術、態度など多角的に能力を高められるように取り組むことが大切です。 ・実習では多くの解らないことや疑問が出ます。実習指導者や本学教員の助言を積極的に仰ぎ、自己成長に繋がってください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
卒業研究	理学療法学専攻 作業療法学専攻	2～3 通年	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
理学療法学専攻:鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠 作業療法学専攻:高田 政夫・山下 英美・加藤 真夕美・横山 剛・草川 裕也・清水 一輝					
授業概要					
この科目では、理学療法学専攻・作業療法学専攻それぞれで学習した基礎・専門的な知識のもとに、理学療法研究法もしくは作業療法研究法で学んだ研究の手法を使って進めた研究を、具体的に卒業論文としてまとめ上げることを最終目標としている。論文にまとめるためには、各自が、それぞれの研究テーマに沿って様々な調査や実験を行い、それらの結果を多くの先行文献などと比較検討しなくてはならない。それは、単に教科書を読むだけの学習にとどまらず、広く多角的な知識を得ることにつながる。このように、この科目では論文をまとめる過程を通して様々な形で学習機会を体験し、自らの研究成果を形として残すことが重要な柱となる。					
授業到達目標					
①研究計画を立案、実施し、その結果から論理的な考察を導き出すことができる。 ②自らの研究の成果として、論文をまとめることができる。					
授業形態					
演習	担当教員によるゼミ形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1.高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2.障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3.臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	(PT) 鳥居 加藤 宮津 木村 松村 清島 臼井 山田 齊藤 (OT) 高田 山下 加藤 横山 草川 清水	ガイダンス	別途連絡します		
2		研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
3		研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
4		研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
5		研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
6		研究の実施と論文作成	研究の実施と論文作成		
7		研究の実施と論文作成 研究発表<PT>	研究の実施と論文作成 ※理学療法学専攻は12月初旬に研究発表会実施		
8		研究論文作成	研究の実施と論文作成		
成績評価の方法・基準 (100%)					
論文	発表	ゼミ参加			
<PT>60 <OT>80	<PT>40	<OT>20	<OT>20		
理学療法研究法および作業療法研究法の単位が取得されていることが、本科目の評価対象者となる。 <理学療法学専攻> 研究成果を発表する(指導教員に受理を認められたことを前提とし、抄録10%、発表内容10%、わかりやすさ10%、質疑応答10%)。論文提出(指導教員に受理を認められたことを前提とし、内容50%、体裁10%)。研究を進める上で、著しい品行不良、倫理的問題があった場合には本科目の受講を取り消す場合もある。指導教員が受理を認めない抄録及び卒業論文は、評価対象にならない。また、発表を認めない。 <作業療法学専攻>卒業研究論文として提出80%、指導教員のゼミ参加20%で評価する。人を対象とした論文では、愛知医療学院短期大学の倫理委員会の承認を受け行う。また、論文提出は指導教員の受理と指導を受けることを前提とする。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習・復習) 研究は、ある特定の授業時間のみで進めるものではなく、各自の研究計画に沿って調査・実験をすすめるものです。それぞれの研究計画をしっかりと立てて遂行していきましょう。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
<理学療法学専攻> 研究実施の過程で、自ら指導教員にアポイントメントをとり、積極的にフィードバックを受けましょう。 研究成果を発表する場でも、指導教員以外の教員からのフィードバックを受け、論文作成に活かしましょう。 <作業療法学専攻> 論文作成にあたり、指導教員のゼミに参加し積極的にフィードバックを受けましょう。					
教科書					
なし					
参考図書					
各分野成書					
備考:履修者への要望					
本科目の中で、卒業論文をまとめ上げることは、本学在学中の学習において、総合的な学習成果が十分であるかどうかの指標になる大切な事項であります。それぞれが、各科目で学習した知識にとどまらず、実習や自己学習で得られた多くの知識を活かして、積極的に研究活動を進めることを望みます。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
総合演習	理学療法学専攻 作業療法学専攻	1～3 通年	必修	1単位 (30時間)	30時間
担当教員名					
鳥居 昭久・加藤 真弓・杉山 成司・石川 清・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠 山下 英美・石黒 茂・高田 政夫・横山 剛・加藤 真夕美・草川 裕也・清水 一輝					
授業概要					
本演習は各講義や実習などで学んだ知識を整理し、卒業後の診療活動における専門職として必要な総合的能力を統合させることを目的とし、本学におけるすべての講義、演習、実習の成果を総括する。 理学療法士・作業療法士国家試験に必要な事項についての対策講義と、複数の教員によるゼミナール形式で、これまでに学習した内容をより臨床に向けて整理し、一人の理学療法・作業療法の専門家として活躍できるように準備を行う。 また、医療人としての素養としての救命救急（BLS）の知識や技術も身につけるものとする。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士・作業療法士国家試験に合格できるだけの総合的な知識を身につける 理学療法士・作業療法士として臨床における問題解決能力を身につける 理学療法士・作業療法士としてだけでなく、一医療人、一社会人として医療施設、福祉施設、地域などにおいて求められる能力を身につける 					
授業形態					
演習	グループおよび個人において演習を行う				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居 加藤 杉山 石川 宮津 木村 松村 清島 臼井 山田 齊藤 山下 石黒 高田 横山 加藤 草川 清水	国家試験について	国家試験にむけての概要		
2		社会に出るにあたり	就職活動についての必要事項の確認		
3		専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達分野		
4		専門基礎分野			
5		専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進分野		
6		専門基礎分野			
7		専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念分野		
8		専門基礎分野			
9		専門分野	【PT】理学療法評価学分野 【OT】作業療法評価学分野		
10		専門分野			
11		専門分野			
12		専門分野			
13		まとめ	総まとめ		
14		まとめ			
15		まとめ			
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験					
100					
最終の筆記試験で100%評価する（受講態度などにより減点する場合もある）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
各専攻ともに、3年間の集大成として理学療法士および作業療法士国家試験に合格することは大切な学習成果である。その為の学習は本講義のみでは不十分であるため、積極的な課外学習をしておく必要がある。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
模擬試験など、各課題終了時点で掲示もしくは口頭でフィードバックを行う。					
教科書					
関係各成書全般					
参考図書					
関係各成書全般					
備考：履修者への要望					
最終的に国家試験を合格し、臨床現場へ就職していくことになるが、その為の絶対的な必須条件が国家試験合格である。その為、各自が自身の能力を客観的に自覚し、積極的な取り組みをする必要がある。この科目は、そのための集大成であるという心構えで取り組んで欲しい。 BLS（1次救命救急）講習会を受けます。（詳細は別途連絡します）					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
文学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
杉原 春仁					
授業概要					
国民文学とも言える芭蕉「おくのほそ道」を通読することによって、俳諧の風雅、わびなどの理念を明らかにし、人生の本質を探る。					
授業到達目標					
一句ごとに味読し、紀行文の鑑賞を通して作者が何を見、どんなことを語ろうとしたかを正確に受け止め、芭蕉の人生観、世界観を理解する。					
授業形態					
講義	講義中心で進行し、随時質問を受けながら行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	杉原	旅立ち	千住での名残 弟子・知人が多数見送る千住において、旅の第一句を詠む		
2	杉原	日光	東照宮 初夏の日光の大自然の中で「あらたふと」の句を得る		
3	杉原	殺生石・遊行柳	敬愛する西行法師の故事が残る柳の下を去り難い芭蕉		
4	杉原	松島	雄島・松島の月 旅の当初から気にかかった「月」を賞でる		
5	杉原	出羽三山	羽黒山・月山・湯殿山 修験道の三山を拝する		
6	杉原	象潟	松島に対する象潟の美		
7	杉原	加賀～大垣	大国加賀から終焉の地、大垣へ		
8	杉原	講義・試験	各自、文章をまとめる		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート				
50	50				
筆記試験（50%）、講義を通して注目した一句を取り上げ、鑑賞文をまとめる（50%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
作者の芭蕉について、予備学習をしておく。（1～2時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
それぞれの句について意見・感想を述べてもらい、それを基盤に詩語を検討した上で作品を鑑賞する。 鑑賞後は、句について説明を行う。					
教科書					
プリントを用意する。					
参考図書					
講義の中で適宜示します。					
備考：履修者への要望					
できるだけ多くメモを取ってもらい試験に役立ててほしいと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日本文化学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
【書道】長谷川 恵也 ・ 【華道】植田 れい子					
授業概要					
【書道】 日本・中国の文字の形の変遷を毛筆を使って体験しながら書道文化を学習する。 【華道】 生け花の道具や花材の扱い方、基本の花型を理解しながら花をいけることを学ぶ。先人達から伝統的に受け継がれた花や現代のアレンジ花も生ける。					
授業到達目標					
【書道】 漢字の成立、書体、書風の違い、毛筆の特性を理解し、作品制作において表現方法を工夫できるようにする。 【華道】 基本の花型を理解し、花材の扱い方、花材の名前を覚え、季節の花をいけることができるようにし、生活に潤いを持たせることに役立てる。					
授業形態					
演習	【書道】 書道用具（大学側で用意する）を使い、毛筆書道の実習中心の講義。 【華道】 花器などは、（大学側で用意する）を使い、花をいける実習中心の講義				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	長谷川	楷書を書く	楷書の様々な古典を書く		
2	長谷川	行書を書く	日本と中国の行書の古典を書く		
3	長谷川	仮名を書く	仮名の成立と字源、いろはを書く		
4	長谷川	現代文を書く 試験	書道史の講義と現代文を書く		
5	植田	春の花、盛花、基本花型	基本花型の盛花を、資料を参考に理解し、実際にいける。		
6	植田	初夏の花、投入花、基本花型	基本花型の投入花を実際にいける。春夏秋冬の代表的な花の名前を覚える。		
7	植田	クリスマスの花、盛花	クリスマスの花をアレンジ花のポイントの説明を聞きいける。暮らしの行事（五節句等）についても学ぶ。		
8	植田	正月の花、盛花 試験	お正月の花を盛花で実際にいける学習をする。		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	レポート	参加貢献度			
50	40	10			
【書道】 提出作品（50%）、レポート（40%）、授業への参加貢献度（10%）					
筆記試験	参加貢献度				
30	70				
【華道】 筆記試験（30%）、授業への参加貢献度（70%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【書道】 日本と中国の歴史（古代から平安まで）時代の流れを把握しておくこと。（30分～1時間） 【華道】 日本の暮らしの行事に理解を深めて、授業に出席すること。（約30分）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【書道】 課題は、講義の中で返却します。 【華道】 テスト後、返却します。					
教科書					
【書道】 「字と書の歴史」江守賢治 著（日本習字普及協会） 【華道】 資料を配布します					
参考図書					
【書道】 「マンガ書の歴史」（講談社）、「すぐわかる日本の書」可成屋 編（東京美術） 【華道】 「いけばなの要点 石田流」石田秀翠（著）社団法人石田流華道会発行					
備考：履修者への要望					
【書道】 文字の歴史と芸術書道を楽しんで下さい。日常生活の中の毛筆文字に注意して下さい。 【華道】 花は心のビタミンです。生け花は、日本の文化です。季節の花を飾って生活にうるおいを持たせましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
経営学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
坂本 桂二					
授業概要					
<p>これまでの医療機関経営は、様々な点で一般企業とは異なる経営が行われてきた。例えば、診療報酬自体を例にとってみても、その価格は国により定められており、一般企業のように市場原理による価格決定メカニズムが働いていません。しかし、今後は医療機関も、自費診療の拡大など、診療報酬体系にも変革が進展すると考えられます。また実際に医療機関間の競争も激化してきており、従来の方式の経営で、患者の訪れを待つという姿勢では経営が立ち行かなくなっています。こうした状況の下で、医療機関が生き残るためには、医療機関を一つの経営体として捉えて、民間の企業的な経営センスを導入することが極めて大事です。本講義では、経営学の全体像、基礎的な経営戦略論、組織論、マーケティング理論を医療機関との関係性の中で学んでいきます。</p>					
授業到達目標					
基礎的な経営戦略理論、マーケティング理論、組織理論の習得と、その理論を使いながら医療機関の経営の提案ができるようになることを目標とします。					
授業形態					
講義	板書とパワーポイントを使い講義を進めます。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	坂本	経営学の全体像	オリエンテーションと経営学の体系、歴史、広がりについて学ぶ		
2	坂本	企業経営の全体像	企業を取り巻く環境、株式会社とカネ、会社機関との関係、金融市場、労働市場との関わりを学ぶ		
3	坂本	経営戦略	経営のあり方、経営戦略にかかる基本的理論と実践知識について学ぶ		
4	坂本	競争戦略のマネジメント	違い（差別化）を作り上げていくプロセス、違いを作る基本戦略、多角化戦略のマネジメントについて学ぶ		
5	坂本	マーケティングの本質	マーケティングの考え方と市場のつかみ方について学ぶ		
6	坂本	サービス・マーケティング	サービスの特性、サービス・マーケティングの考え方について学ぶ		
7	坂本	マクロ組織のマネジメント	組織の概念と見方、組織構造のバリエーションと選択について学ぶ		
8	坂本	ミクロ組織のマネジメントと試験	組織のインセンティブ設計、リーダーシップ・スタイルについて学ぶ		
成績評価の方法・基準（100%）					
筆記試験	小テスト	口頭試験			
60	30	10			
筆記試験60%（全講義終了後実施）、小テスト30%（各講義終了後に習熟度テストを実施し、良い3点、普通2点、悪い1点で評価）、口頭試験10%（予習内容、前回講義に関する口頭試験を講義開始時に実施し、良い3点、普通2点、悪い1点で評価）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義テーマについて、参考図書、新聞、雑誌や経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を事前に収集し、学習しておくこと。予習時間1～2時間程度。また、毎回、講義資料を配布するので、講義後確りと復習し、理解を深めること。学修結果を確認するため、講義の初めに前回講義に関する口頭試験を実施。復習時間1時間程度。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
小テストの解答は講義の中で解説します。試験の解説は、求めに応じてメール等でフィードバックします。					
教科書					
講義用プリントを配布して進める。					
参考図書					
「1からの経営学」 加護野忠男・吉村典久編著 碩学社 「ゼミナール経営学入門」 伊丹敬之、加護野忠男著 日本経済新聞出版社 「マーケティング戦略」 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著 有斐閣アルマ 「医療経営の基本と実務」 RPMGヘルスケアジャパン（株）編著（上巻・戦略編）					
備考：履修者への要望					
「経営学」を学ぶことは、社会全体として人の生活に多大な影響を及ぼす企業、会社に関心を払ってもらうことにある。また、「経営学」が生み出してきた知識は、病院、学校、行政等の経営のあり方、運営のあり方等に広く応用ができ、組織運営、仕事等に活用されることを期待します。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
教育学概論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
石黒 茂					
授業概要					
ヒトは学ぶことによって人になる。人になるためには教育の営みが重要である。教育については誰もがそれなりの考えや意見をもっている。それは誰もが教育を受けてきたことによる。しかし、その考えや意見は自らの経験だけに基づくものであることが多い。本講義で学ぶことにより、教育について幅広い知識と視点を持ち、社会の中で自ら主体的に学び続けることの重要性を知る。					
授業到達目標					
①教育や学ぶことについての基礎的・基本的な知識や考え方について説明できる。 ②主体的・積極的に学習に参加し、幅広い視点と考え方で主体的に考えることができる。 ③現代の教育のあり方について、正しい知識と認識をもって判断できる。					
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	教育の本質と目的	学ぶことの意味、教育の概念と目的について学修する。		
2	石黒	教育の誕生	教育の誕生、教育の生物学的意味について学修する。		
3	石黒	教育の可能性	学習と脳・神経の関わりについて学修する。		
4	石黒	西洋の教育思想	ルソー、ペスタロッチ、カント、デューイの教育思想		
5	石黒	日本の教育思想	江戸時代の教育思想、明治期以降の教育思想		
6	石黒	教育方法と学習指導	教授理論の歴史、学習指導と教授理論		
7	石黒	公教育制度と現代の教育	教育制度の原理と構造、近代教育制度の確立		
8	石黒	教育法規と学習指導要領	教育基本法、学校教育法、学習指導要領		
9	石黒	日本の子どもの現状	現代の子どものめぐる諸問題とその現状		
10	石黒	現代の教育改革の動向	生涯学習社会における教育とは、教育課程改善の方向		
11	石黒	生徒指導	生徒指導の意義、原理・内容・方法		
12	石黒	キャリア教育	進路指導とキャリア教育、キャリア教育の背景と意義		
13	石黒	特別支援教育	インクルーシブ教育、ノーマライゼーション		
14	石黒	諸外国の教育、教育の今日的課題Ⅰ	フィンランド、アメリカ等の教育事情、新しい教育課題		
15	石黒	教育の今日的課題Ⅱ、まとめ	今後の教育はどうあるべきか自分が理想とする教育のあり方について考えをまとめてくる。		
16	石黒	試験			
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度			
50	30	20			
講義への参加・貢献(学習意欲・講義への参加・発表態度) (20%)、ポートフォリオ (30%)、筆記試験 (50%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。(約30分～1時間) (復習) 1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。(約30分～1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話形式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。					
教科書					
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。					
参考図書					
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は講義の中で紹介する。					
備考：履修者への要望					
急速に変化する社会の中で教育はどうあるべきか、自らどう学び続けるべきか。現在の教育、これからの教育のあり方について、いっしょに考えていきたいとします。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生涯学習概論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
石黒 茂					
授業概要					
人はなぜ生涯を通じて学び続けなければならないか。「学ぶ」とはどういうことか。キャリアを積むことの大切さはどこにあるのか。自ら学ぶ環境を整えるとともに、広く社会には学ぶための環境があることを理解し、これらを通して生涯学習の在り方を身につけるものとする。					
授業到達目標					
①生涯学習の意義や仕組みが理解できる。 ②生涯学習の課題や問題点を知り、積極的に関わる姿勢を身につける。 ③自ら学び続ける態度を身につける。					
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	生涯学習と教育基本法の理念	生涯、なぜ学ぶのか。生涯学習とその基本にある教育基本法の理念について学修する。		
2	石黒	我が国に生涯学習が生まれるまで (戦後)	戦後、我が国の生涯学習の歴史について学修する。		
3	石黒	戦前の生涯学習の歴史 (戦前)	江戸、明治から戦前までの日本人の学びについて学修する。		
4	石黒	我が国の「学習人口」の実態と課題	我が国の学習制度、仕組みについて学修する。		
5	石黒	生涯の各時期における発達課題	人生のライフステージにおける課題、人生の各時期に必要な学びについて学修する。		
6	石黒	家庭教育をめぐる諸課題	家庭の役割と変遷から見た家庭教育について学修し、望ましい家庭教育の在り方について考える。		
7	石黒	青少年の実態と教育の在り方 (1)	青少年の置かれている状況、実態を諸統計・意識調査などから学修する。		
8	石黒	青少年の実態と教育の在り方 (2)	青少年教育の実態について学修し、将来の青少年の在り方について考える。		
9	石黒	生涯学習と学校教育について (1)	自治体が実施する生涯学習と学校教育の関係について学修する。		
10	石黒	生涯学習と学校教育について (2)	生涯学習と学校教育の現状について学修する。		
11	石黒	成人期、高齢期における生涯学習	成人期、高齢期における生涯学習について学修し、生涯学習を多角的に把握する。		
12	石黒	生涯学習の方法と形態	特色のある学習方法、様々な学習方法の存在について学修する。		
13	石黒	生涯学習における社会教育施設	公民館、図書館、博物館など身近にある生涯学習施設について学修する。		
14	石黒	民間教育産業、企業における生涯学習	カルチャーセンター、民間企業の行う生涯学習について学修する。		
15	石黒	学習を終え、全体のまとめ	学習全体から学んだことを振り返り、今後、社会や職場でどのように心がけたらいいのか、学習の成果をどのように活かして行くかを考える。		
16	石黒	試験			
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度			
50	30	20			
講義への参加・貢献 (学習意欲・講義への参加・発表態度) (20%)、ポートフォリオ (30%)、筆記試験 (50%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。(約30分～1時間) (復習) 1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。(約30分～1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話方式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。					
教科書					
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。					
参考図書					
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は講義の中で紹介する。					
備考：履修者への要望					
急速に変化する社会の中で、自ら主体的にどう学び続けるべきか。生涯学習社会での学びはどうあるべきか。これからの生涯学習のあるべき姿について、いっしょに考えていきたいと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
法学入門	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
木村 良夫 ・ 笹尾 菜穂子 ・ 光飛田 透子					
授業概要					
現代社会において生起している様々な法的諸問題を取り上げ、それらの法的諸問題を考えることを通して、現代社会を生きる者としての問題解決能力の習得を目指す。					
授業到達目標					
法律問題を身近に考えることができるリーガルマインドを習得する。					
授業形態					
講義	基本事項を講義の後、ディスカッションを行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	私たちと法	教科書 第1章を解説し、現代社会における法の役割を考える。		
2	木村	裁判と法	教科書 第2章を解説し、現在の裁判が抱えている問題を指摘する。		
3	木村	被害者の救済と法 (木村)	教科書 第7章を解説し、不法行為に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
4	木村	医療と法→医療過誤	教科書 第11章-1を解説し、医療過誤に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
5	木村	生命理論の問題	教科書 第11章-2を解説し、生命倫理に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
6	木村	情報と法→マスコミと法	教科書 第9章-1を解説し、報道の自由に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
7	笹尾	労働と生活の保障	今後、働くみなさんは、労働者としてどのような権利を有しているのか、権利を保障する法の概要について講義します。また、格差社会のなかの生活の保障についても触れます。		
8	笹尾	教育の法	大学で行われている様々な研究や講義は、いかなる保障を受けているのか、「学問の自由」について講義します。また、大学以前の教育と教育基本法の問題についても触れます。		
9	笹尾	犯罪と刑罰	今後、みなさんが裁判員として刑事司法に参加して行くにあたって基本となる概念(罪刑法定主義)について講義します。		
10	笹尾	政治参加と法	国と地方公共団体(県や市町村)の政治機構や、私たちが国民・住民としていかなる権利を有するのかについて講義します。		
11	光飛田	家庭生活と法	教科書第3章に沿って、出生から死亡するまで、私たちがどのように法と関わっているのか、また、どう関わっていくべきかを考える。家庭生活を巡る法が、時代によって、どう変化して来たのかについて考える。		
12	光飛田	消費者と法	契約自由の原則とは何か。契約自由の原則があるのに、なぜ、消費者を保護する法規制が必要なのか、その背景について、教科書第6章に沿って、考える。		
13	木村	情報と法	教科書第9章-2を解説し、情報公開及び個人情報保護に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
14	木村	環境の法	教科書第8章を解説し、環境問題に関連する新聞記事について、レポートを発表する。		
15	木村	まとめ	これまでの講義を通して受講生が考えたことを発表してもらい、それについてディスカッションし、総括とする。		
16	木村	試験			
成績評価の方法・基準(100%)					
研究報告	レポート	参加貢献度			
40	30	30			
授業への参加貢献度、研究報告、レポート等 総合的に評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1回の講義に2時間程度の予習復習を行うこと。予習は、テキストの熟読した後、新聞の社会面、政治面、経済面などから、法律問題に関する記事を選び、その記事を理解できる法律及びその解釈をテキストやネットを利用して調査する。疑問点があれば、講師に質問すること。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
レポートは、授業終了後、返却する。					
教科書					
「私たちと法」(2訂版)平野武・平野鷹子(著) 法律文化社					
参考図書					
テキストに引用されている法令や判例を授業内で紹介する。					
備考:履修者への要望					
報道されるニュースを法的な問題として関心をもつよう心掛けてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
文章力を磨く	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
緑川 幸成					
授業概要					
文章表現には単に思想や感情を伝達したり、コミュニケーションをとるための社交手段ではない。表現そのものの内に民族の歴史、あるいは社会・文化の特性を有し、さらに認識構造の原型を潜ませている人間探求の拠り所である。本講義では表現を通じて自己を見つめ、通底する普遍的人間性の追求まで進んで行きたい。					
授業到達目標					
形式的主義や常套的表現に陥ることなく、自己の生の在り様や感覚の実相に迫ることが表現を学ぶことの本来の目的である。本講義では既存の思考、紋きり型の言葉遣いを相対化し、高度な次元での価値判断と言語選択能力の養成を目標とする。					
授業形態					
講義	講義形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
	3. 臨床場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	緑川	文章表現とは何か	表現と自己発見・自己改革との関係について学習する。		
2	緑川	文章表現の歴史	日本語表現の歴史の変遷とそ背景について学ぶ。		
3	緑川	文章表現の種類 (1)	文章に用いられる具体的な修辭法について学ぶ。		
4	緑川	文章表現の種類 (2)	修辭法の具体的な種類について様々な実例をもとに学ぶ。		
5	緑川	文章表現の種類 (3)	日常用いられているながら定義の曖昧な表現方法について考える。		
6	緑川	文章表現の種類 (4)	無意識に使われている表現の問題について多くの事例を見ながら学ぶ。		
7	緑川	文章表現の種類 (5)	比喩表現全体について再検討を行い、それぞれの特徴を再認識する。		
8	緑川	文章表現の種類 (6)	比喩以外の表現についてその定義と効果について学ぶ。		
9	緑川	文章表現の種類 (7)	特別な表現と考えられていないものに名称があり、独自の効果があることを学ぶ。		
10	緑川	文章表現の種類 (8)	日本に特徴的な思考と表現の関係について学ぶ。		
11	緑川	文章表現の種類 (9)	目的に応じた文章表現の形態・形式について学ぶ。		
12	緑川	文章表現の種類 (10)	テーマを明確にし、主旨を確実に伝える文章表現について理解する。		
13	緑川	表現とメディアとの関係 (1)	映像メディアと文章表現の影響関係について事例をもとに考える。		
14	緑川	表現とメディアとの関係 (2)	音楽・ネットメディアと文章表現の影響関係について様々な例に触れながら学ぶ。		
15	緑川	自己表現の必要性と目的	表現における個性とその意義について全講義を通して考える。		
16	緑川	試験	いくつかのテーマについて試験を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
50	50				
筆記試験・授業への参加貢献度 (100%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
毎回取り上げた表現方法について、授業内で示したものだけでなく他の用例も自身で調べ、また実際に用いる訓練を積み、常に表現を生きたものとして捉える努力を望む。(2時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
試験の返却方法は、講義の中で指示する。					
教科書					
「レトリック感覚」佐藤信夫 講談社学術文庫					
参考図書					
講義の中で示す。					
備考：履修者への要望					
受け身ではなく、積極的な姿勢を望む。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
植物学概論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
石黒 茂					
授業概要					
植物についての基礎的・基本的な知識と、最近の植物学の知見や技術などが日常生活にどのようにかかわっているかについて学習する。この植物学概論での学習をとおして、身近な自然に興味関心を持ち、科学的な視点をもって社会生活に主体的に参加できる態度を身に付ける。					
授業到達目標					
①植物特有な生命のシステムと、動物との共通性について理解し、身の回りの植物について関心をもつことができる。 ②現代の暮らしの中で、植物が人の生活に果たしている役割の重要性を認識することができる。 ③科学的な見方や考え方を身に付け、科学的に正しい思考や価値判断をすることができる。					
授業形態					
講義	配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	石黒	植物の形態	植物の細胞、組織、器官の特徴について学修する。		
2	石黒	植物の分類と進化	植物の進化の歴史と多様性について学修する。		
3	石黒	植物の生殖と発生	生殖方法、受粉と受精、発生の過程、世代交代について学修する。		
4	石黒	植物の遺伝	遺伝の仕組み、特に植物特有な遺伝の仕組みについて学修する。		
5	石黒	植物をつくる物質	植物をつくる物質、特に植物に特徴的な化学物質について学修する。		
6	石黒	光合成の仕組み	光合成の仕組みと環境に対する適応について学修する。		
7	石黒	炭酸同化と窒素同化	炭酸同化と窒素同化の仕組みとその重要性について学修する。		
8	石黒	植物の反応Ⅰ	植物の外界からの刺激に対する反応について学修する。		
9	石黒	植物の反応Ⅱ	植物の反応における植物ホルモンのはたらきについて学修する。		
10	石黒	植物の反応Ⅲ	植物の環境応答、特に花芽形成の仕組みについて学修する。		
11	石黒	植物の多様性	さまざまな植生を通して生物群集の植物の多様性、種多様性と生態系多様性を学修する。		
12	石黒	植物のバイオテクノロジーⅠ	DNA、遺伝子組換え植物について学修する。		
13	石黒	植物のバイオテクノロジーⅡ	植物ホルモンによる調節、特に植物ホルモンのはたらきについて学修する。		
14	石黒	現代の暮らしと植物Ⅰ	現代生活において植物はヒトとどのようにかかわっているか、植物と現代の暮らしとの関わりについて学修する。		
15	石黒	現代の暮らしと植物Ⅱ、まとめ	講義全体をとおしてのまとめを行い、植物と自分の生活との関わりについて自らの考えを明確にする。		
16	石黒	試験			
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度			
50	30	20			
講義への参加・貢献(学習意欲・講義への参加・発表態度) (20%)、ポートフォリオ(30%)、筆記試験(50%)で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。(約30分～1時間) (復習) 1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。(約30分～1時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話形式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。					
教科書					
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。					
参考図書					
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は高等学校で使っていた生物図説(図録)等、他は講義の中で紹介する。					
備考:履修者への要望					
今までに学んだ生物の知識を深め、植物に対する新たな見方・考え方を身に付け、身近な植物や新聞等の記事にも関心をもってもらいたい。そして、日常生活の中で、間違った情報に流されず、科学的に考えることができ、適切な判断ができる人になってもらいたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
哺乳類の進化概論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
伊藤 宗之					
授業概要					
哺乳類の進化は、1) 無脊椎動物の道、2) 脊椎動物の道、3) 哺乳動物の道と歩んできた。1) の出発はゾウリムシのような単細胞動物(原生動物門)で20くらい の門を過ぎると、2) の脊椎動物門から脊椎動物に入る。最初の宿場ツメウナギ(円口綱)である。魚綱、爬虫綱など6綱ほどを辿ると、3) の哺乳動物道にはいるが、 最初は単孔目のカモノハシである。本論は漸くここからであるが、哺乳綱として食肉目、奇蹄目、偶蹄目など約20種類の目を究極の霊長目を目指して学ぶ。					
授業到達目標					
哺乳類の進化はヒトは最前線を行っているのだが、今も遅れて? 脊椎動物道の中ごろを走っている両生綱のカエルなどもいる。哺乳類は脊椎動物のなかでもっとも新しく、 恐竜絶滅後、発生したようにみえるが、実は爬虫類も哺乳類も同じ時代を生きていた。むしろ恐竜より早く消え去った哺乳類の祖先の化石も存在する。ただ爬虫類、哺乳類は 魚類よりは遅い。動物界の栄枯盛衰は気候変化などのため、順応できる種類の動物が生き残って現在の姿があるのか、未知の大きな意志が働いて進化の方向の舵取りがなされ たのか。データを集めて考察す。					
授業形態					
講義	セミナー形式				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	伊藤	序章：脊椎動物まで	単細胞動物から脊索動物までの進化を学ぶ。 神経細胞の散在性、索状性を経て管状の中枢性まで。 途中、新口、旧口動脈の別れと昆虫の繁栄。		
2	伊藤	脊索動物門の進化	脊椎動物(正確には亜門)には円口類(正確には綱)、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類が現われ た。		
3	伊藤	乳腺の起源	6500万年前、恐竜が絶滅したあと、哺乳類が爆発的に種と数を増やしたが、それ以前に一度、大繁栄と 大絶滅を経験している程のくらい、地球の常連であった。		
4	伊藤	哺乳綱の位置	古代の動物分類でもクジラは魚の類に入らず、ヒトと同じ胎生とされた。近年ではリンネの分類が界、 門、綱、目、科、属、種で決まり。		
5	伊藤	海に帰ったクジラ	哺乳類は恐竜絶滅時、完成していた。しかし、今のヒトもイヌもとトラもまだ居ない。アデロはもう居 ない。絶滅を見届けたのはキモレステスという種。		
6	伊藤	適応放散と収斂進化	大陸間に見られる収斂進化 上位分類間に見られる収斂進化 大陸内に見られる適応放散		
7	伊藤	カモノハシ カンガルー ケダモノ	おそらくこの順に進化した、生存競争力もアップ。 ケダモノで胎盤を得たが、デメリットも。 先天性トキソプラズマ症。		
8	伊藤	乳汁-分類名の由来-	ホルスタインの起源と交雑の歴史 一般に交雑可能とは-地域と染色体数の制限- 牛乳が苦手な日本人		
9	伊藤	哺乳類の特徴	乳腺、乳首、胎盤、肋骨退化 リンパ節、ケモノ、耳介、ヒゲ 三耳小骨、二足歩行、言語、スマホ		
10	伊藤	閑話休題	慈尊院は女人の行けない高野山の麓にあり、空海の母親ですらここに留まらねばならない。女人の高野 山として授乳信仰の寺となる		
11	伊藤	サル目-ヒト科 ヒト科-ホモ属	哺乳類進化の終章は「サルからヒトへ」、「ヒトから現代人へ」である、サル目の階層構造を学ぶ。		
12	伊藤	猿人、原人、サビエン	サルの北限は驚くべき日本である。 猿人はアフリカに限っていた。 人類のアフリカ単一起元説。		
13	伊藤	人類と癌 人類と脳 日本のY染色体遺伝子	人類史のハブニングと癌、脳 現代人と言語 日本人の起源		
14	伊藤	原著を味わう	100年前のアウストラピテクス原人発見論文を読む		
15	伊藤	原著に挑戦する	4年前の台湾沖での数少ないアジアでの原人発見の論文を読む。		
16	伊藤	自由討論	ヒトとその他哺乳類のオーストラリア大陸/南米大陸での分布。		
成績評価の方法・基準(100%)					
筆記試験	参加貢献度				
70%	30%				
筆記試験(70%)、参加貢献度(30%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
原著論文抄読ではあらかじめ配布資料を読んでくる。(2時間程度)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
4回の授業毎にテストを計3回行う。次回、返却する。					
教科書					
なし					
参考図書					
Dart, R.A Australopithecus africanus, Nature, 1925, 195-199; Chang, C-H. The first archaic Homo from Taiwan, Nature Communications, 2015, (6) 6037-					
備考：履修者への要望					
我々は動物学者ではない。進化の中で起こったことにはどんな理由があったのか。データを集め、独自の推論を試みる。その後で専門書でさらに詳しいデータに当たって 学界の定説を鑑賞する。哺乳類に興味のある学生さんを持ってます。興味のない向きもどんな授業かを見に来て下さい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床体表解剖学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
松村 仁実					
授業概要					
理学療法士、作業療法士に必要な運動器、神経系、血管系、胸部腹部臓器などの解剖学的基礎知識の上に、検査測定や治療などに必要な触察技術を学ぶ。また、運動学的な観点を併せて、人体の機能や構造を立体的に理解し、臨床における評価治療技術に繋げられる力を身につける。					
授業到達目標					
臨床上の評価や治療に直接関わる触察技術を身につける。					
授業形態					
講義	講義および実技実習によるアクティブ・ラーニングにて進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村	概論、骨指標	体表解剖学の意義、骨指標について学ぶ		
2	松村	上肢帯、上肢	上肢帯、上肢の体表解剖、触察技術を学ぶ		
3	松村	上肢帯、上肢			
4	松村	手、手指	手、手指の体表解剖、触察技術を学ぶ		
5	松村	下肢	下肢の体表解剖、触察技術を学ぶ		
6	松村	体幹、骨盤部周囲	体幹、骨盤部周囲の体表解剖、触察技術を学ぶ		
7	松村	体表解剖と臨床評価技術	臨床における各種検査と体表解剖との関係を学ぶ		
8	松村	講義と試験	まとめ		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	実技試験				
50	50				
実技試験 (50%)、レポート (50%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業前に、臨床において触察技術の向上が治療に生かせる場面等を想定してください。(予習・復習: 1時間程度) 授業後には、内容を振り返り、臨床場面での応用と、触察技術の向上により可能になったことなどをまとめ、レポートを提出してください。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
実技試験は終了後に、フィードバックをします。					
教科書					
解剖学成書					
参考図書					
解剖学成書・検査測定関係成書					
備考: 履修者への要望					
臨床での検査測定には体表解剖学知識は必須です。確実に身につけられるように、解剖学、運動学とともに復習をしてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
病態運動・生理学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
長谷川 昇 ・ 宮津 真寿美					
授業概要					
人間の身体運動・動作を科学的にとらえるため、神経と骨格筋の情報伝達における病態生理学および薬物治療を学ぶ。					
授業到達目標					
①神経と骨格筋の情報伝達のしくみを、分子細胞生物学的に説明できる。 ②神経と骨格筋の連絡障害と、その病態生理学、薬理学が説明できる。					
授業形態					
講義	教科書や配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながらゼミ形式で講義を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	分子生物学概論	細胞、機能分子であるタンパク質、細胞内シグナル伝達		
2	宮津	神経と骨格筋の情報伝達①	分子から見た神経伝導		
3	宮津	神経と骨格筋の情報伝達②	分子から見た神経伝達		
4	宮津	神経と骨格筋の情報伝達③ 試験	分子から見た筋収縮 試験		
5	長谷川	薬の動きから見た薬物治療	薬物の作用点と体内動態		
6	長谷川	病態からみた薬物治療①	神経系疾患の病態生理学と治療薬		
7	長谷川	病態からみた薬物治療②	筋・骨格系疾患の病態生理学		
8	長谷川	授業と試験	筋・骨格系疾患の治療薬 試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート					
100					
レポート（宮津50%＋長谷川50%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【長谷川・宮津】講義範囲に関する生理学的知識について、2時間程度の予習を行うこと。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【長谷川・宮津】課題・レポートは後日返却します。					
教科書					
「トートラ人体解剖生理学」丸善					
参考図書					
講義の中で示します。					
備考：履修者への要望					
オムニバス方式で講義する。各教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床発達障害学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加賀谷 繁					
授業概要					
正常運動発達を中心に乳幼児の正常発達の理解を深める。また、正常発達過程から発達障害児の運動障害・生活障害を検討する。さらには年齢を経るに従い、日常生活活動（ADL）を狭小化させる二次障害についても学ぶ。					
授業到達目標					
今までの臨床の専門課程で修得した事項の再学習を行い理解を深める。また、臨床での症例検討を通して、実践に即した理学療法・作業療法を展開できる。					
授業形態					
講義	講義及グループワークによるアクティブ・ラーニングにて進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加賀谷	治療的関わり (人の理解について)	講義オリエンテーション。 「人の理解」を再整理し、対人援助活動としての治療的な関わりを学習する		
2	加賀谷	発達障害について	発達障害の定義を知る		
3	加賀谷	発達障害児の特徴理解	脳性麻痺児を中心にその疾患の特徴を学習する		
4	加賀谷	正常運動発達の理解	正常運動発達を通じて、姿勢や運動の成立を学する		
5	加賀谷	発達障害児の治療展開	脳性麻痺児の症例から、具体的な症状と問題点の関連性を学習する		
6	加賀谷	発達障害治療の実際①	症例提示を通じて、その実践的な関わりについてグループワークし、治療的関わりを再考する		
7	加賀谷	発達障害治療の実際②			
8	加賀谷	授業と試験			
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
80	20				
課題レポート（80%）、授業への参加貢献度（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
人間発達や発達障害に関する手持ちの書籍や資料などを学習しておいてください。また、日頃の臨床場面における症状と問題点の関連や統合と解釈について整理しておいてください。（2時間程度）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
課題レポートは、講義の中で治療に関わるための各問題点の関連性を受講生と一緒に内容確認し、指導・援助していきます					
教科書					
特になし					
参考図書					
講義の中で提示します					
備考：履修者への要望					
日頃の臨床場面での評価から治療的関わりまでの経験過程をまとめていただき、グループワークにおいてその経験値をお互いに伝え合うよう積極的に参加してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 単位時間	総時間数
運動器系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
宮津 真寿美					
授業概要					
理学療法・作業療法と関連する運動障害に伴う症状とその原因、および関連研究を学ぶ。					
授業到達目標					
運動障害の原因となる筋機能障害が説明できる。					
授業形態					
講義	スライドを用いた講義と、論文抄読によるゼミ				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	筋肥大	筋肥大について学修する。		
2	宮津		筋肥大に関する研究について学修する。		
3	宮津	筋萎縮	筋萎縮について学修する。		
4	宮津		筋萎縮の研究について学修する。		
5	宮津	筋性短縮	筋性短縮について学修する。		
6	宮津		筋性短縮の研究について学修する。		
7	宮津	筋損傷 試験	筋損傷について学修する。		
8	宮津		筋損傷の研究について学修する。 筋機能に関する研究論文を報告する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表				
50	50				
筋機能に関する研究論文の報告 (レポート50%、発表50%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
適切な研究論文を探し、論文紹介できるよう準備をするのに、約3-8時間かかる。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題は返却する。また、発表の際にフィードバックする。					
教科書					
なし。適宜資料を配布する。					
参考図書					
筋機能改善の理学療法とそのメカニズム (ナツ)					
備考：履修者への要望					
この授業では、筋機能障害の基礎を学修するとともに、研究論文を紹介することで、研究論文を読み、論文紹介する能力を向上する。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
白井 晴信					
授業概要					
<p>内部疾患は多くのリハビリテーション対象者が罹患しています。リハビリテーションにおける内部疾患の管理は、エビデンスが確立されている部分もありますが、発展途上の分野です。最新情報は常に更新され、その情報を臨床へ応用することが求められています。本講義では循環器、呼吸器疾患、糖尿病に対する疾患管理として理学療法士の役割を学びます。また、予防の視点から内部疾患に対する理学療法士の役割を学びます。そして、最新の英語論文から、内部疾患系障害リハビリテーションの最新のトピックスを紹介し、臨床活動との接点を探ります。</p>					
授業到達目標					
<p>内部疾患に対する疾患管理としての理学療法士の役割を説明できる。 予防の視点をもった内部障害の管理を説明できる。 世界の内部疾患リハビリテーションの最新のトピックスを理解し、臨床活動に役立たせることができる。</p>					
授業形態					
講義	ディスカッション形式により講義を行います。講義の中でスライドやレジュメにより情報を提供します。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。		
2	白井	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。		
3	白井	英文紹介	臨床疑問を基にした英語論文を読み理解します。		
4	白井	臨床疑問の整理	内部疾患に対する臨床疑問を整理します。 整理した疑問をもとに討論します		
5	白井	生活習慣病と予防	内部疾患を統合的に解釈します。 予防的視点を持った理学療法について討論します。		
6	白井	実験計画	臨床での疑問を解決するための実験計画を立案します。		
7	白井	実験	臨床での疑問を解決するために短大にある測定機器を用いて実験を行います。		
8	白井	発表	臨床での疑問および実験計画・結果について発表します。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
発表	レポート				
40	60				
レポート (60%)、発表 (ディスカッション、症例報告) (40%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
内部疾患に関する臨床での疑問を整理しておいてください(2時間程度)。ディスカッションにより解決の糸口を共に探りたいと思います。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
講義の中で討論しフィードバックします。					
教科書					
資料を配布します。					
参考図書					
講義中で提示します					
備考：履修者への要望					
内部疾患領域におけるリハビリテーションの新たな可能性を、独創的な視点で考えましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
スポーツ障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
鳥居 昭久					
授業概要					
スポーツ外傷や障害についての基本的知識を学び、文献抄読などを通して最新のスポーツ障害に対するリハビリテーション知識を身につける。基本的に、前半は講義、後半及び、課題として文献抄読を予定しています。また、関係学会もしくはフィールドワーク課題を実施します。					
授業到達目標					
スポーツ障害とそのリハビリテーションの実際について学び、実際に臨床やフィールド場面で実践できる。					
授業形態					
講義	講義(実技含む)				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鳥居	スポーツ障害の基礎知識	整形外科系スポーツ障害について学ぶ		
2	鳥居	スポーツ障害の基礎知識	内科・婦人科系スポーツ障害について学ぶ		
3	鳥居	スポーツ障害とリハビリテーション	メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションへの過程について学ぶ		
4	鳥居	スポーツ障害とリハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの実際と理学療法士、作業療法士の関わりについて学ぶ		
5	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野論文抄読		
6	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野論文抄読		
7	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野論文抄読		
8	鳥居	講義と試験	まとめと試験		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	発表				
50	50				
論文抄読発表 (50%)、知識試験(筆記試験) (50%) (関係学会に出席し、参加レポートを提出した場合にはそれを出席と同等と判断する場合があります)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
積極的に論文収集、読解に取り組むことを望みます (1時間程度)。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
講義の際にコメントします。					
教科書					
講義において指示します					
参考図書					
関係成書全般					
備考：履修者への要望					
関係論文を読み、実際に臨床現場やフィールド場面に応用していくことで理論が身に付くと考えます。積極的な活動を求めます。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害リハビリテーション論	リハビリテーション	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
伊藤 宗之 ・ 加藤 真弓 ・ 加藤 真夕美					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢神経疾患の病態、障害像、機能回復に関わるメカニズムを学習する。 ・ 運動障害、認知機能障害に関連する生活活動における問題点の分析と、より効率的な理学療法・作業療法を学習する。 					
授業到達目標					
<p>【伊藤宗之】 中枢神経系疾患の概念を学習し、脳局在と症状の関連性について他者に説明することができる。</p> <p>【加藤真弓】 機能回復に関わるメカニズムを学習し、それを踏まえ身体障害と身体障害に関連した生活機能障害の分析し、リハビリテーション方法を検討することができる。</p> <p>【加藤真夕美】 認知機能の障害について、それらが作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段、及び治療的介入の方法を論理的に検討することができる。</p>					
授業形態					
講義	オムニバス形式とする。第1・2回は主に講義形式、第3～8回は講義および演習形式で行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいをもつる人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	伊藤	錐体路に絡みつく大脳基底核と小脳系	運動野に発する錐体路は基底核を腹に抱え、小脳、脳幹を背中に負ぶって歩く母親のようなものである。内なる刺激、外からの補正を統合している上位ニューロンを学修する。		
2	伊藤	高次脳機能の概念。語源はパブロフ。意味は精神作用。	感覚が局所脳神経機能なら、認知が高次脳機能であろう。一次運動野、一次感覚野が無条件の世界なら、連合野が条件反射の世界と考えられたのであろう。これらのことを学修する。		
3	加藤真弓	運動障害と生活機能障害	心身機能回復のメカニズム、運動障害が生活機能障害に及ぼす影響および障害改善のための介入方法について、事例を通して検討する。		
4	加藤真弓				
5	加藤真弓				
6	加藤真夕美	認知機能障害と作業遂行能力	認知機能の障害が作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段および治療的介入の方法について、事例を通して検討する。		
7	加藤真夕美				
8	加藤真夕美				
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表	参加貢献度			
30	30	40			
レポート作成 (30%)、口述発表 (30%)、授業中の発言 (40%) で評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【伊藤・p加藤・o加藤】 対応方法に課題を抱えている臨床事例についてレポート(パワーポイントでの作成も可)にまとめて頂きます。約90分					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
【伊藤・p加藤・o加藤】 第3～8回の授業内でレポートの事例を意見交換を通して検討します。					
教科書					
随時資料を配布します。					
参考図書					
随時資料を紹介します。					
備考：履修者への要望					
臨床実践で悩んでいることや疑問に思ったことを受講生と講師で共有し、検討する機会とする予定です。日頃の疑問や実践の成果などを持ち寄り、皆でディスカッションし情報交換とともに解決の糸口を探しましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域・老年期リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
木村 菜穂子 ・ 山下 英美					
授業概要					
地域リハビリテーションという幅広い概念の中で、特に高齢者を対象としてその身体・精神面での特性を知り、包括的なリハビリテーション支援を必要とする人々への援助方法などを学修する。					
授業到達目標					
①高齢期にある人々の身体的・精神的特性を学修し、その人々に対するリハビリテーション支援の必要性と具体的な支援方法について考えることができる。 ②健康促進と予防的観点から、地域におけるリハビリテーションを運動機能面と認知機能・生活行為の面から考え、自分の考えを発表することができる。					
授業形態					
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	運動機能に関する視点から－老化とは	老化とは何か、高齢期に頻繁に見られる特性について学習する。		
2	木村	運動機能に関する視点から－運動機能・感覚機能の老化	高齢期にみられる、運動器・感覚器の変化について学習する。		
3	木村	老年期のリハビリテーション－運動器へのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、運動器へのアプローチを中心に学習する。		
4	木村	老年期のリハビリテーション－予防的観点からのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、予防的観点からのアプローチを中心に学習する。		
5	山下	認知機能と生活行為に関する視点から－認知機能の特性	高齢期にある人々の認知機能の特性について、最新の知見を学修し、リハビリテーション支援の必要性について考察する。		
6	山下	認知機能と生活行為に関する視点から－生活行為の特徴	高齢期にある人々の生活行為の特徴について、運動機能・感覚機能・認知機能の低下と関連づけて理解し、リハビリテーションの必要性について考察する。		
7	山下	地域における、認知機能に対するリハビリテーション	地域における、認知機能に対するリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。		
8	山下	地域における、生活行為向上のためのリハビリテーション	地域における、生活行為向上のためのリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
80	20				
課題 (レポート等) (80%)、授業への参加貢献度 (20%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 事前に参考図書を指定しませんが、社会情勢に関心を持ち、マスメディア等からの情報収集に努め問題意識を持って講義に臨んでください。(約1時間) (復習) 講義後は、配布資料をもとに講義内容を振り返り、課題に取り組み、学修内容を臨床での実践に活かしてください。(約1時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
講義の中で課題作成のためのフィードバックをディスカッションという形でを行います。提出されたレポートに関してはメールなどでフィードバックすることもあります。					
教科書					
随時資料を配布します					
参考図書					
講義中で提示します					
備考：履修者への要望					
ご自身の日々の実践をもとに、地域におけるリハビリテーションの可能性について、一緒に考えてみましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神機能系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
横山 剛					
授業概要					
人の一生を概観し、その年代ごとの発達課題を理解する。それを元に治療プログラムとの関連を考察していく。					
授業到達目標					
①精神障害分野のリハビリテーションにおける治療介入の意味の理解ができるようにする。 ②事例を通してそれぞれの理論の具体的な方法の理解ができるようにする。 ③精神障害におけるリハビリテーションの説明ができるようにする。					
授業形態					
講義	質問を交えての講義形式				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がいをもつ人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	横山	心理社会的発達の理解1	乳幼児期・学童期の心理社会的発達課題		
2	横山	心理社会的発達の理解2	青年期の心理社会的発達課題		
3	横山	心理社会的発達の理解3	成人期の心理社会的発達課題		
4	横山	心理社会的発達の理解4	老年期の心理社会的発達課題		
5	横山	治療的応用1	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する (レポート)		
6	横山	治療的応用2	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する (レポート)		
7	横山	治療的応用3	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する (レポート)		
8	横山	治療的応用4	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する (レポート)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
80	20				
授業への参加貢献度 (20%)、レポート報告 (80%) で評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自身が担当した患者について授業の進行に合わせて、心理社会的発達段階に従いまとめてください。(1回の講義につき30~1時間程度)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
毎回の授業の中で、質問に応じます。また途中でであってもレポートのフィードバックをします。					
教科書					
特になし					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
患者の生き生きとした生活や人生を取り扱おうとするとき、心理社会的発達理論を応用することができますので理解に努めていきましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生活環境リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山下 英美					
授業概要					
生活環境は、障害をもつクライアントの生活の再構築を左右する。本講義では、クライアントの日常生活における仕事、余暇、家事、セルフケアなどの生活作業と、個人要因、そして生活環境に焦点を当て、その範囲と概念、影響力について、理論との関連を踏まえて学習する。また、個人的意味と健康促進といった範囲へも広げ、障害のある当事者の生活における権利を守る社会構築や社会の在り方へも話題を広げて、リハビリテーションの社会的使命や将来展望について意見交換をしていきたい。					
授業到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作業に影響を与える環境要因の範囲について理論に基づき説明できる ・行いたい作業に見られる、その環境の意味について、自分の経験を振り返り、発言することができる ・環境に焦点を当てたアプローチの種類について説明できる ・環境に焦点を当てたリハビリテーション実践の論文を検索できる ・文献抄読の資料を作成できる ・生活環境としての地域社会の発展について、OT、PTの役割と未来の可能性について意見を述べることができる ・臨床の疑問とそれに対する今後の取り組みについて意見をまとめ、発表することができる 					
授業形態					
講義	講義、グループワーク、実技（文献検索等）				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山下	環境と理論	作業療法士が、環境をどのように捉えるのかについて、理論を通してその見方を学習する		
2	山下	環境の範囲	環境とは何かについて、「家族、人、文化、社会、経済、場所、空間、物」など、対象（範囲）とその概念について学習する		
3	山下	環境の影響力	作業的場所と空間の意味について、自己分析および論文に基づき学習する		
4	山下	環境に焦点を当てる（1）	環境の調整・選択・変更、作業遂行分析に焦点を当てながら、実際の作業療法の臨床場面を分析する方法を学ぶ		
5	山下	環境に焦点を当てる（2）	作業療法における「環境」に関連する具体的課題をあげ、その課題解決に必要な論文を検索する方法を学習する		
6	山下	社会構築とリハビリテーション	WFOTの取組を学ぶことを通して、作業療法士の社会的な見方について学習する		
7	山下	発表資料の作成	臨床の疑問から、文献検索、今後の提案までの流れを資料として作成する経験をする		
8	山下	発表	臨床の疑問から根拠ある実践提案までのプロセスを発表する経験をする		
成績評価の方法・基準（100%）					
発表	参加貢献度				
60	40				
授業への参加貢献度（40%）、発表（60%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 講義のテーマや内容に関する情報を主体的に調べて下さい。(約1時間) (復習) 発表に向けては講義時間外にも積極的に取り組んでください。(約1時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
講義の中でのフィードバックは、ディスカッションの形でいきます。発表内容に関しては発表の場でフィードバックをしていきます。					
教科書					
指定するものはありません。					
参考図書					
講義において適宜文献を紹介します。					
備考：履修者への要望					
生活環境の影響力について知識を深めることによって、臨床においても、環境に焦点を当てた実践や環境を変える取り組みに関心を広げ、リハビリテーション領域の社会的使命と新たな可能性を感じていただけたらと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
応用臨床心理学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山田 ゆかり					
授業概要					
病気や障がい、あるいはライフサイクルにおけるさまざまな経験によって引き起こされる心理的問題に対する臨床心理学的援助の実践について学ぶ。専門的援助においては、病気や障がいだけでなく援助を受ける人の行動やパーソナリティ全体を理解することが重要である。効果的な援助をするための知識と実践能力を高め臨床に生かしていくことを目指す。					
授業到達目標					
臨床心理学的専門援助の基本理論・技法について十分な知識を獲得し、臨床現場で経験する心理的問題についての各種事例の検討を通して心理的援助の実践能力を高め、臨床に生かせるようになる。					
授業形態					
講義	教科書・資料の輪読、グループワーク、プレゼンテーション				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
○	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	現代医療と臨床心理学	医療領域における臨床心理学の役割、チーム医療を基盤とするメンタルケアの展開について学修する ：教科書 第1章		
2	山田	臨床心理学、医療心理学の基本的問題	臨床心理学、医療心理学の基本的事項について知識を確認し、補うための学修をする ：配付資料No. 1		
3	山田	リハビリテーション領域での問題(2) 問題の基本的理解	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応について学修する ：教科書 第II章、第III章		
4	山田	リハビリテーション領域での問題(3) 問題の検討	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応と評価について、グループワークによって学修する		
5	山田	心理アセスメント	質問紙法、投影法について臨床場面での適用と分析の実践について学修する ：配付資料No. 2		
6	山田	事例検討1	それぞれが事例を1つ提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う		
7	山田	事例検討2	それぞれが事例を1つ提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う		
8	山田	講義と試験	これまでの学修を通して得たことをまとめ、総括する		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	事例報告	参加貢献度			
30	30	40			
授業中の討論などへの参加態度 (40%)、事例報告 (30%)、課題レポート (30%) で総合的に評価する。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自らの日常の臨床業務のなかで、心理臨床的援助が有効だと思われるケースについてまとめておく。また、授業で学んだことをまとめ、復習し、前述のケースにどう反映できるかについて考察する。準備学修に必要な時間は、毎回60分程度。					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
ゼミ形式の授業の中で、その都度フィードバックを行う。					
教科書					
「理学療法士 作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」武田建・中俣恵美・出田めぐみ (著) 創元社					
参考図書					
「医療心理学実践の手引き 出会いと心理臨床」 乾吉佑 (著) 金剛出版 「医療心理学の新展開 チーム医療に活かす心理学の最前線」 鈴木伸一 (編著) 北大路書房 「医療現場に生かす臨床心理学」 菅 佐和子 (編著) 朱鷺書房					
備考：履修者への要望					
患者さんや対人援助サービスの利用者と適切なコミュニケーションをとり、心理的問題への援助をするための基礎的な資質、カウンセリングの素養を身に付けることができるように、授業に臨んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療情報学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
鷺野 嘉映 ・ 斎藤 末広					
授業概要					
<p>【鷺野】リハビリテーション科学を含む医療全体における問題解決能力を養うための、情報のあり方を学習します。情報を得るだけでなく、自ら発信することは、医療の進歩にとって重要です。多くの医療情報から意味ある情報を読みとり、解析し、それらを自ら表現して発信する術を学びます。</p> <p>【斎藤】医療分野でも、プレゼンテーションが増えてきました。本講では、プレゼンテーションソフトを使って、スライド作成をできるようにします。次に、統計データを効果的に表現する方法を習得します。</p>					
授業到達目標					
<p>【鷺野】今日の医療情報の実態を理解するとともに、臨床現場を含む社会で活用できるようになる。また、医療情報を読み解くにあたり必須の統計知識を習得する。</p> <p>【斎藤】MS-PowerPoint を使い、医学研究発表のためにスライドを作成できるようにする。妥当な統計処理をしたグラフを使えるようにする。</p>					
授業形態					
講義	<p>【鷺野】各自がパソコンを利用して実践的に学ぶ。</p> <p>【斎藤】プリントを用いた講義形式、および、PCを用いた演習形式で実施します。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がいや有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	鷺野	EBM (Evidence Based Medicine) の概要	EBMの重要性について理解する。		
2	鷺野	EBM (Evidence Based Medicine) の実践	テーマを決めて情報の収集選択を行う（演習）。		
3	鷺野	統計手法：量的データ	量的データの統計手法について総合的に学ぶ。		
4	鷺野	授業（統計手法：質的データ）と試験	質的データの統計手法について総合的に学ぶ。		
5	斎藤	スライド作成	PowerPoint を利用して、医学研究発表を想定したスライドを作成する		
6	斎藤	スライド作成	PowerPoint を利用して、医学研究発表を想定したスライドを作成する		
7	斎藤	統計処理したグラフの作成	統計処理をしたグラフを作成できるようにする		
8	斎藤	統計処理したグラフの作成	統計処理をしたグラフを作成できるようにする		
成績評価の方法・基準（100%）					
小テスト	レポート				
30	70				
【鷺野】授業時における小テスト（30%）、レポート（70%）					
課題					
100					
【斎藤】授業で作成する課題で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
<p>【鷺野】1回の講義について、1時間程度本授業に関連する高校数学や研究法の教科について予習を行う。また、授業で学習した事項についての理解を深めるため、1回の講義について、1時間程度医療系の文献を検索し理解する練習を行い復習に努める。</p> <p>【斎藤】先輩の研究発表のスライドの作り方を参考にすること。目安、授業以外に3時間。</p>					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
<p>【鷺野】小テストは講義中に返却します。レポートの返却方法は、講義の中で指示します。</p> <p>【斎藤】授業中にいっしょに確認する。</p>					
教科書					
<p>【鷺野】指定しない。適宜資料を配布する。</p> <p>【斎藤】PowerPointの使い方の書籍を授業開始前に指示する</p>					
参考図書					
<p>【鷺野】「バイオサイエンスの統計学正しく活用するための実践理論」 市原清志(著) 南江堂</p> <p>【斎藤】「ビジネス教養としてのデザイン 資料作成で活きるシンプルデザインの考え方」、佐藤好彦 著、インプレス</p>					
備考：履修者への要望					
<p>【鷺野】受け身ではなく、自ら問題意識を持って学ぶ姿勢が重要です。</p> <p>【斎藤】毎時間、USBメモリを持参してください。情報機器やソフトウェアの利用に関し、困っている事、分からない事などあれば、この機会と一緒に解決しましょう。</p>					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療福祉行政学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
舟橋 啓臣 ・ 木村 菜穂子					
授業概要					
【舟橋】我が国の医療の問題点を浮き彫りにし、医療行政が現実の医療と乖離していないか、などについて学習する。 【木村】社会福祉行政（主に高齢者介護）に関して、その歴史と背景・変遷、現状を学習し、その問題点について考える。					
授業到達目標					
【舟橋】我が国における医療福祉行政は医療の実態と適切につながっているかについて、深い議論ができる。 【木村】主に高齢期の介護問題を社会全体で支えるために創設された介護保険制度に関して、理学療法士・作業療法士を取り巻く現状を、その成り立ち、従来制度との関連、介護保険関連職種との連携などを通して理解し、また自分の考えを述べるができる。					
授業形態					
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○ 1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。					
○ 2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。					
○ 3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。					
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	舟橋	医療行政の歴史・現状および問題点	社会保障制度、医療保険の種類、海外の医療制度など		
2	舟橋		日本の医療の問題点、生活習慣病、健康日本21、特定健診・産業保健・勤労者医療など		
3	舟橋		医療と法律の歴史、医師法と医師法以外の職種に対する法律、個人情報保護法、医療事故と訴訟など		
4	舟橋	まとめと試験	国際医療協力、リハビリテーションの定義・概念、関連法規、新しい技術や機器などこれまでの講義のまとめとテスト		
5	木村	福祉行政の歴史・現状および問題点	介護保険制度導入の背景		
6	木村		介護保険制度の実際とその変遷		
7	木村		介護保険制度と障害者総合支援法		
8	木村		介護保険制度の問題点と今後(まとめ)		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
50	50				
【舟橋・木村】レポート50%、授業に取り組む姿勢50%					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【舟橋】日頃からテレビや新聞による医療福祉行政についての報道に、関心を持って耳や目を傾けてほしい。(1時間程度) 【木村】介護・福祉行政に関して、身近にある事例を通して、疑問があれば明確にしておいていただきたい。(1時間程度)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【舟橋】提出レポートを採点し、内容についての感想を個人に連絡する。 【木村】講義中、様々な問題点や疑問に対し、ディスカッションすることで対応します。また、課題に対してメールなどで振り返りを行うことがあります。					
教科書					
【舟橋】プリントを毎回配布する 【木村】資料を配布します					
参考図書					
【舟橋】「現代医療概論」医歯薬出版、「日本の医療政策と地域医療システム」日本医療企画 【木村】特にありません。					
備考：履修者への要望					
【舟橋】プリントを用意し、それを見ながらの相互議論を中心とした講義形態をとる。 【木村】講義の中で、自分の考えや意見を積極的に述べていただきたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
研究法演習	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
宮津 真寿美・鳥居 昭久・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実					
授業概要					
研究とは何かを理解することを目的に、文献の抄読を行う。文献の検索、抄読、討論の過程で、現在までに何がわかっているか、何を明らかにするかを明確にし、研究方法、過程、研究に関わる諸問題について学習する。					
授業到達目標					
文献抄読を通じ、研究の概要を知る。					
授業形態					
講義	クラス分け方式にて行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津 鳥居 加藤真弓 加藤真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村	論文抄読	(宮津 真寿美) 筋機能障害に対するリハビリテーションの分野を中心に、文献抄読を行う。		
2			(鳥居 昭久) スポーツ障害・障害者スポーツの分野を中心に、文献抄読を行う。		
3			(加藤 真弓) 中枢神経障害(特に身体機能障害)に対するリハビリテーション及び介護予防を中心に文献抄読を行う。		
4			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害(特に認知機能障害)に対するリハビリテーションを中心に、文献抄読を行う。		
5			(木村 菜穂子) 高齢者、特に維持期のリハビリテーション分野を中心に、文献抄読を行う。		
6			(臼井 晴信) 循環、呼吸、代謝疾患による障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。		
7			(山下 英美) 高齢者、特に認知機能障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。		
8			(横山 剛) 精神障害者、青年期にある人の心理社会的発達などに関する文献抄読を行う。 (松村 仁実) 運動機能障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
論文紹介					
100					
論文紹介を行う(100%)。具体的には各担当教員が定める。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
各指導教員から随時行われる。					
教科書					
なし					
参考図書					
講義の中で適宜示します。					
備考：履修者への要望					
研究指導担当教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション科学研究 I	リハビリテーション科学専攻	1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名					
* 研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・鳥居 昭久・木山 喬博・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実					
授業概要					
各教員個別の指導により、研究目的や問題のたて方、研究の計画と実施の方法、論文の作成と発表のしかた、研究倫理について学び、研究の基礎的方法論を修得する。					
授業到達目標					
研究の基礎的方法論を修得する。					
授業形態					
講義	クラス分け方式にて行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
○	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
	2. 障がい有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
○	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津 鳥居 木山 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村	基礎的研究方法論	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、研究方法論を学ぶ。 研究を実践し、研究で得られた結果等について討論することで、科学的思考過程を身につける。		
2			(鳥居 昭久) 「スポーツ」というキーワードの下に、スポーツ障害、障害者スポーツと、その関連事項、基礎事項などについての視野を広げる研究を実施する。特にフィールドワークを重視し、スポーツ現場での活動を反映させた研究を進める。		
3			(木山 喬博) 評価尺度の種類と特徴や概念、および尺度別データの分析方法の違いを例示しつつ、質疑応答形式を中心に進める。		
4			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進や介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害（特に身体機能障害）の機能障害、活動制限に対するリハビリテーションの効果に関する研究の方法論を学ぶ。		
5			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害（特に認知機能障害）に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法について、事例研究などを題材にその基礎的方法論を学ぶ。		
6			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果に関する研究を中心に、研究の方法論を学ぶ。		
7			(臼井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究方法論を学び科学的根拠を持ったリハビリテーションに応用する。		
8			(山下 英美) 高齢者の認知機能障害に関して、予防的観点を含んだ調査及び介入研究の基礎的方法論を学ぶ。		
9			(横山 剛) 精神障害者および健常者の心理社会的発達に関して概観し実践研究の方法論を学ぶ。		
10			(松村 仁実) 身体機能障害に対する運動療法を中心としたリハビリテーションの効果やその評価方法に関する研究を中心に研究の方法論を学ぶ。		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
成績評価の方法・基準（100％）					
発表	抄録				
50	50				
中間研究発表会にて、抄録を提出し、発表すること。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
研究構想内容に対する中間研究発表において、内容を公開し、指導を受ける。					
教科書					
なし					
参考図書					
備考：履修者への要望					
研究指導担当教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション科学研究Ⅱ	リハビリテーション科学専攻	1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名					
*研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・鳥居 昭久・木山 喬博・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実					
授業概要					
各教員個別の指導により、研究課題（研究疑問、仮説など）、研究計画、研究方法、結果、考察を行い、その研究成果を発表会で口演し、論文を完成させる。					
授業到達目標					
基本的な研究過程を修得する。					
授業形態					
講義	クラス分け方式にて行う。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
<input type="radio"/>	1. 高い専門知識を修得し、常識人としての素養も兼ね備えた医療人として地域社会に貢献することができる。				
<input type="radio"/>	2. 障がい者を有する人に、常に慈愛の心をもって接することができる。				
<input type="radio"/>	3. 臨床の場において常に最新の知識や医療技術を求める向上心を有する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津 鳥居 木山 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村	基本的研究過程	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について討論し、論文を完成させる。		
2			(鳥居 昭久) スポーツ障害・障害者スポーツに関連する研究を実践し研究を実践し、口述発表、論文作成の過程を体験し、研究の実践を修得する。また、関係研究会、学会などに参加する。		
3			(木山 喬博) 具体的課題での標本抽出、標本データ、標本比較などに関する基礎的な考え方、および、データや研究結果の再現性の重要性などについて議論しつつ、進める。		
4			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進・介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害の（主に身体機能障害）の機能障害、活動制限に関連する研究を行い、基本的な研究過程を経験し、論文を完成させる。		
5			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害（特に認知機能障害）に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法について、一連の研究過程の経験を通して学ぶ。		
6			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果の検討方法について、基礎的な研究方法や研究過程を経験し、論文を完成させる。		
7			(臼井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究を実施し、研究仮説に対する仮説検証の結果から討論を重ね論文を完成させる。		
8			(山下 英美) 高齢者の認知機能障害に関して、予防的観点を含んだ調査及び介入効果の検討方法について、一連の研究過程を経験し、論文を完成させる。		
9			(横山 剛) 精神障害領域の作業療法の介入計画を実施し、その効果に関してを研究論文として完成させる。		
10			(松村 仁実) 身体機能改善を目的とした運動刺激や物理的刺激の効果、またその評価方法に関する研究を行い、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について議論し、論文を完成させる。		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
成績評価の方法・基準（100%）					
報告	発表				
50	50				
研究発表会で発表（50%）し、研究論文（学位授与機構に提出する学修成果報告書と同等）が提出される（50%）こと。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
研究論文内容に対する発表において研究内容を公開し、指導を受ける。					
教科書					
なし					
参考図書					
備考：履修者への要望					
研究指導教員の指示に従うこと。					